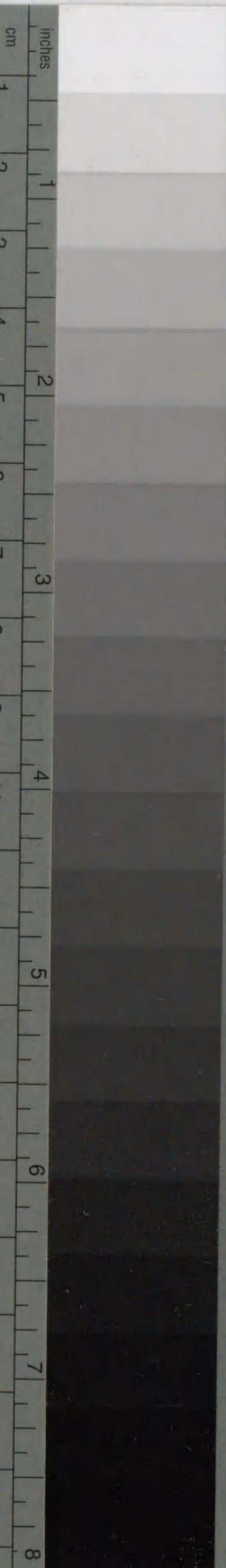


# Kodak Gray Scale



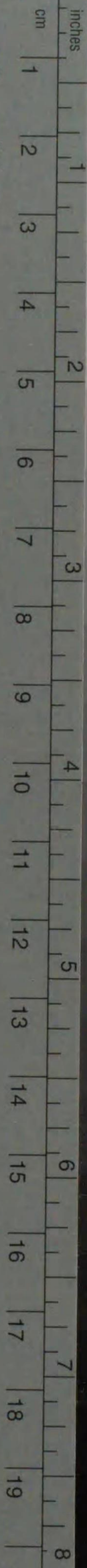
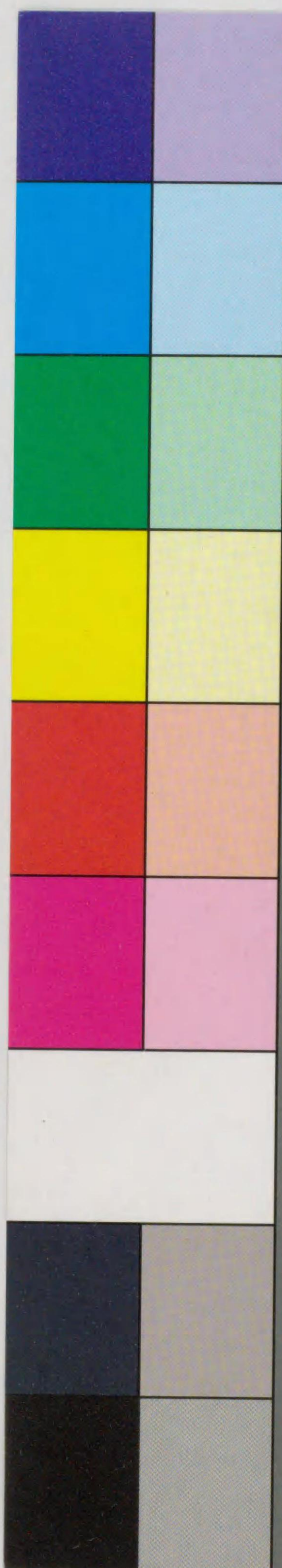
© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



# Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



© Kodak, 2007 TM: Kodak

745  
31

745-31



1200501592792



412





甲府市水道擴張誌





## 序

本市水道事業經營二十五年を迎ふるに際し一大宿題たりし其の擴張工事は昭和八年十月着工同十一年三月を以て竣成を遂ぐるに至れり。

顧みれば明治四十二年水道工事に着手し大正元年竣工同二年一月給水を始めてより防疫に消防に殖産興業に克く其の使命を全うし市勢駸々乎として發展の結果擴張の止むべからざるに至りしが拮据經營遂に完成の好成績を見るを得たるは一に累代市政に參與せる先輩諸士の熱誠なる努力と八萬市民の絶大なる援助と監督廳當局の懇切なる指導の結果にして洵に感謝に耐へざる所なり。

今や本市水道は今次の擴張に依り其の規模施設十五萬の人口に供水するに足るを以て都市計畫に依り隣接各村を抱擁して大甲府市を形成する地點迄配給するを得べく即ち大都市建設に一步を進めたるものなり。



蓋し水道事業有終の使命は都市構成の大動脈たる上水道の完備と大静脈たる下水道の完備とに依りて都市活動の原動力たるを得るにあり本市大いに鑑みる所あり目下企畫を進め近く大綱を得て其の緒に就かんとす。

茲に本事業の沿革を本市水道史の一資料たらしめんとし本誌の編纂を命し其の稿を脱するに當り所感の一端を録して卷首に辨す。

昭和十一年六月

甲府市長 齋木逸造

### 凡例

- 一、本誌は上水道擴張に際し之が事業の調査經過並に結果を概述すると共に其の一部は遡つて沿革及既設水道の全貌をも併せて輯録し全二篇六章に分類しました。
- 一、尤も既設水道に關しては既刊「甲府市水道誌」に詳叙してありますが本事業の沿革及連絡並に進展の一斑を窺知する爲に網羅したる次第であります。
- 一、資料は主として市役所保存の記録文書に據り又印刷物新聞及當時の關係者口述等をも參考にして其の經過並に顛末を瞭にし更に正鵠を期する爲に必要な記録は成可く原文の儘併掲しました。
- 一、敘述は各章を通じ繁簡精粗の別或は重複した部分もあり統制を缺くの嫌ひがありますが一部は已むを得ず其儘とし極力粉飾誇張を避け平易に敘事したのであります。
- 一、又多くの寫真圖面を按配し本文と相照し或は之を補足し其の間の事情を知るの便に供しました。
- 一、本誌背文字は齋木市長が執筆致されました。
- 一、本文校正中去る八月一日を以て隣接せる西山梨郡相川、里垣、中巨摩郡國母、貢川の四ヶ村本市に併合せられたるより概説の項に於て之を訂正しましたが、以下の記述は舊村名を以て現はし置くを妥當なりとして其の儘にしました、此の點御諒承を願ひます。
- 一、編纂に方り多大の援助を寄せられた關係各位に衷心より深謝致します、尙過去の事實にして脱漏、誤謬等免れ難



凡 例

く勞々筆硯の及ばなかつた點黜なく偏に編者の責任にして大方の御叱正を俟つ次第であります。

昭和十二年十一月

日

二

# 甲府市上水道擴張誌 目次

序 文

凡 例

寫 眞

概 説

## 第一編 上水道史

第一章 草創より敷設まで……………(六)

第一節 用水設備……………(六)

第二節 既設水道……………(一三)

第一項 敷設經過……………(一三)

第二項 施設の全貌……………(一五)

目 次

一



第三節 荒川水利沿革……………(一九)

第二章 水道經營……………(五)

第一節 經營機關……………(五)

第二節 給水狀況……………(六)

第一項 給水狀況……………(六)

第二項 區域擴張……………(六)

第三項 斷水……………(七)

第三節 經理狀況……………(七)

第一項 收入及經營費……………(七)

第二項 公債及財產……………(八)

第四節 給水條例……………(八)

第五節 水源涵養林……………(九)

第六節 震災復舊工事……………(一四)

第二編 上水道擴張 目次

第一章 當初の擴張調査……………(一五)

第一節 擴張事情……………(一五)

第二節 塔岩澤貯水池計畫……………(一五)

第三節 木賊沼補給池計畫……………(一六)

第四節 斷水緩和補給施設……………(一七)

第一項 鐵道用水補給施設……………(一七)

第二項 滓垢研究報告……………(一六)

第三項 送水唧筒補給施設……………(一四)

第二章 扇谿貯水池に依る計畫……………(一九)

第一節 基本計畫……………(一九)

第一項 水源調査……………(一九)

第二項 扇谿貯水池案……………(一九)

第三項 顧問推薦……………(一九)

第四項 擴張基本計畫……………(二〇)

第五項 地質調査……………(二四)



第六項 計畫成功祈願……………(三〇七)

第七項 擴張費造成……………(三〇八)

第二節 調査機關……………(三〇九)

第三節 實施設計……………(三一〇)

第一項 市會議決……………(三一〇)

第二項 認可稟請……………(三一〇)

第三項 實施設計書……………(三一三)

第四項 豫算及財政計畫……………(三一五)

第五項 實施準備……………(三二六)

第四節 沿岸村の反對……………(三二七)

第一項 反對運動……………(三二七)

第二項 縣の斡旋……………(三二九)

第三項 市會一部の意見……………(三三〇)

第五節 認可遅延……………(三三一)

第一項 計畫比較調査……………(三三一)

第二項 市長退職……………(三三一)

第六節 縣の調停……………(三三二)

第一項 調停の動機……………(三三三)

第二項 調停經過……………(三三四)

第三項 調停案……………(三三五)

第四項 調停と市會……………(三三六)

第五項 擴張調査費……………(三三三)

第三章 變更計畫

第一節 變更實施設計……………(三三五)

第一項 市會議決……………(三三五)

第二項 變更計畫書……………(三三六)

第二節 認可及許可……………(三三六)

第一項 認許可申請……………(三九五)

第二項 設計書一部變更……………(四〇〇)

第三項 認可及許可……………(四〇三)

第三節 資金調達……………(四一〇)

第四節 施工……………(四一六)

第一項 施工機關……………(四二六)



第二項 起工式……………(四五)

第三項 用地及補償料……………(四九)

第四項 鐵管……………(四三)

第五項 工所用諸材料……………(四四)

第六項 施工諸手續……………(四五)

第五節 施工經過……………(四七)

第六節 通水及竣工式……………(五四)

第七節 決算……………(五六)

第八節 剩餘金處分……………(五六)

第四章 荒川沿岸用水幹線改良事業……………(五七)

第一節 溜池設置計畫及豫算……………(五七)

第二節 財源……………(六〇)

第三節 施工及期間延長……………(六一)

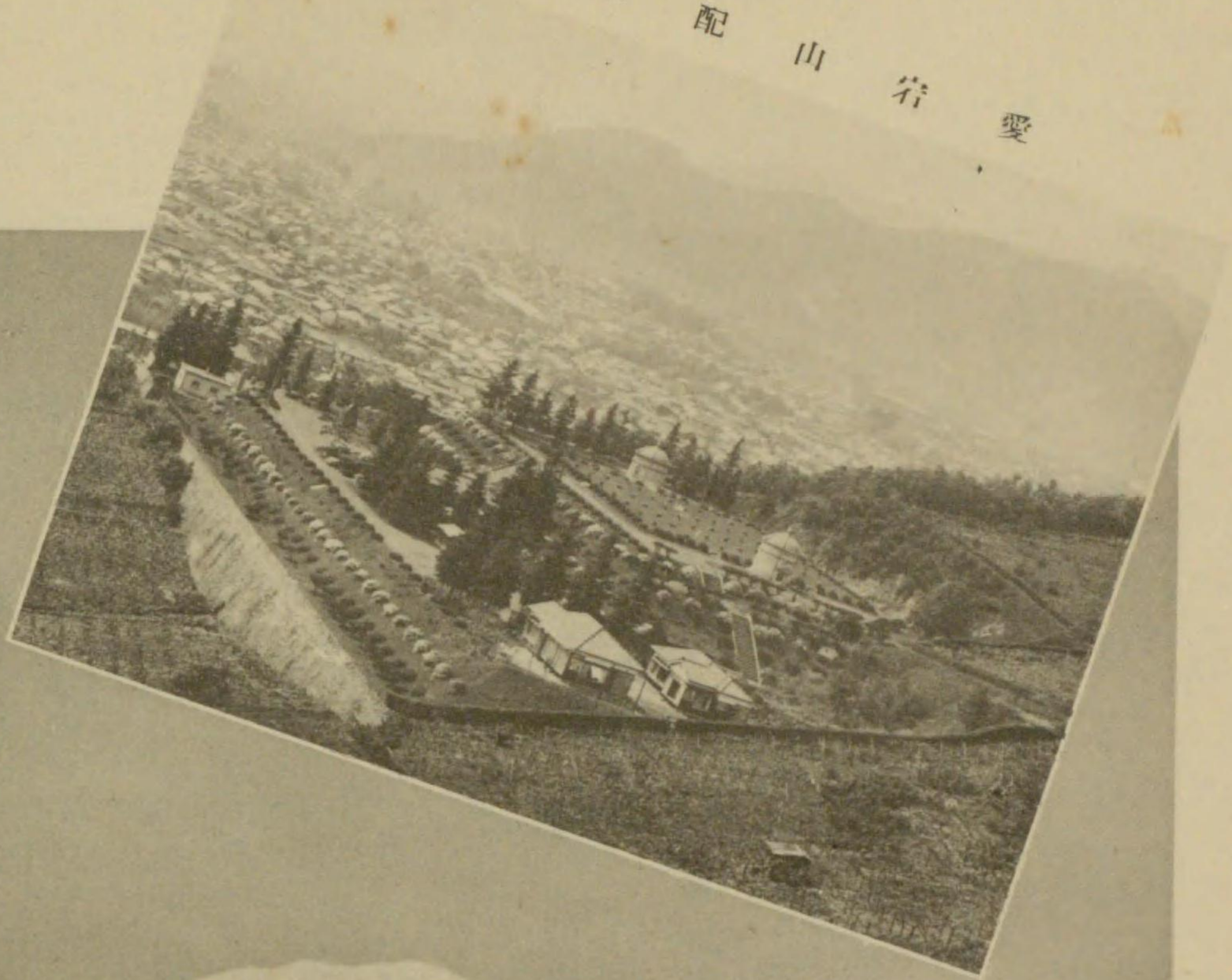
第四節 公課代償問題……………(六三)

第五節 住吉村小排水改良事業……………(六三)

一、甲府市上水道史年次一覽表……………(六三)



雙岩山配水場

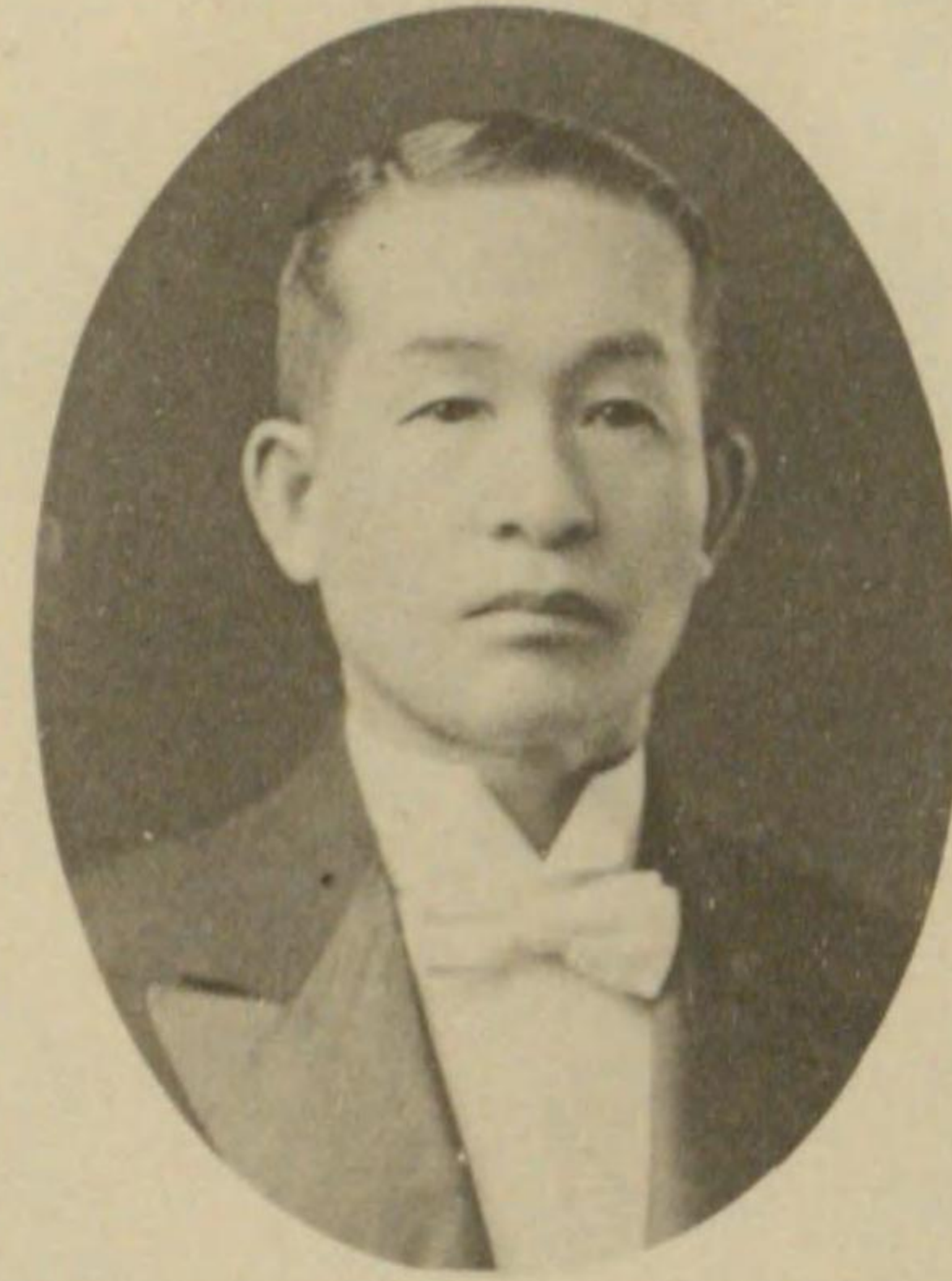


甲府市全景

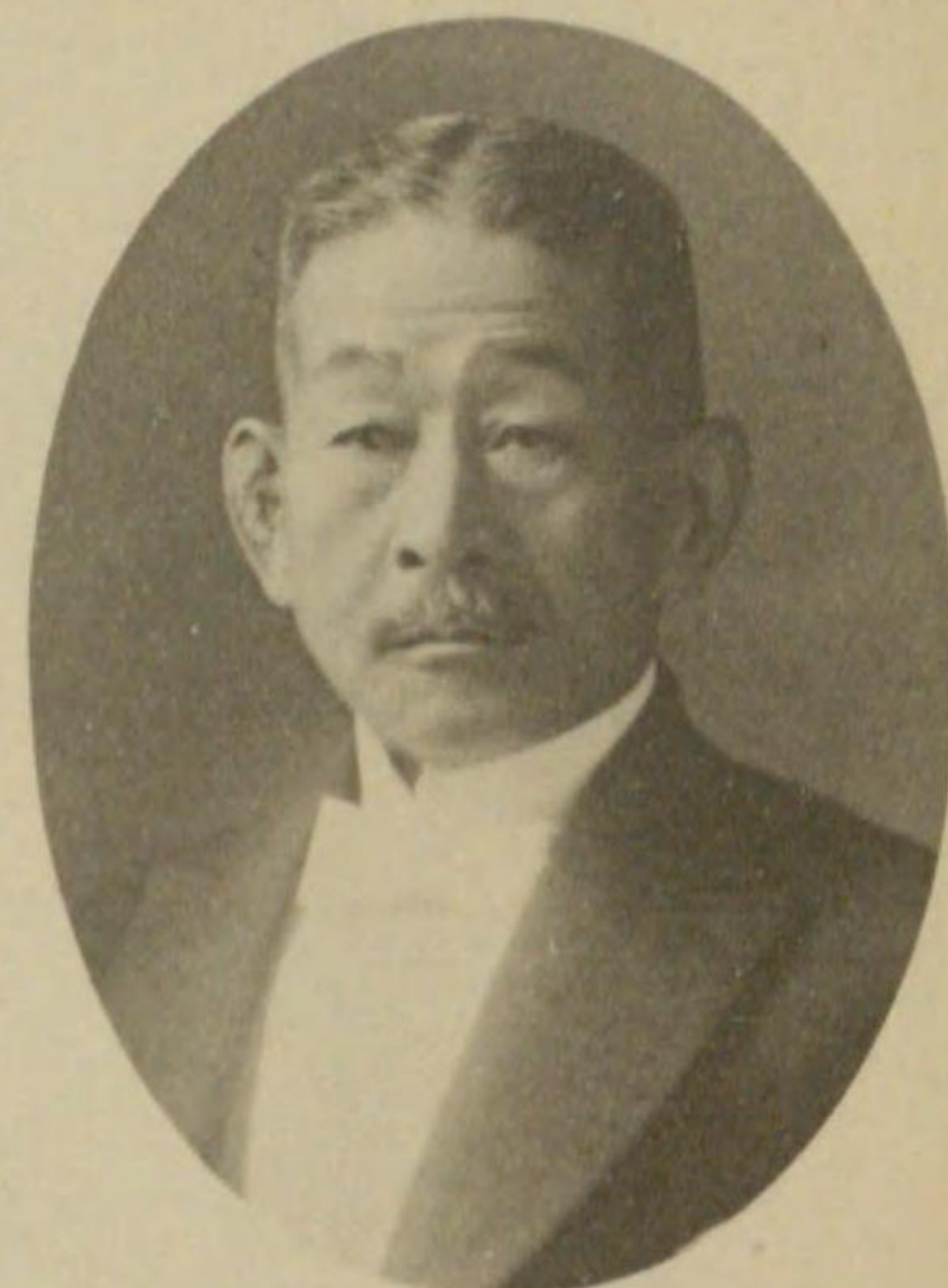




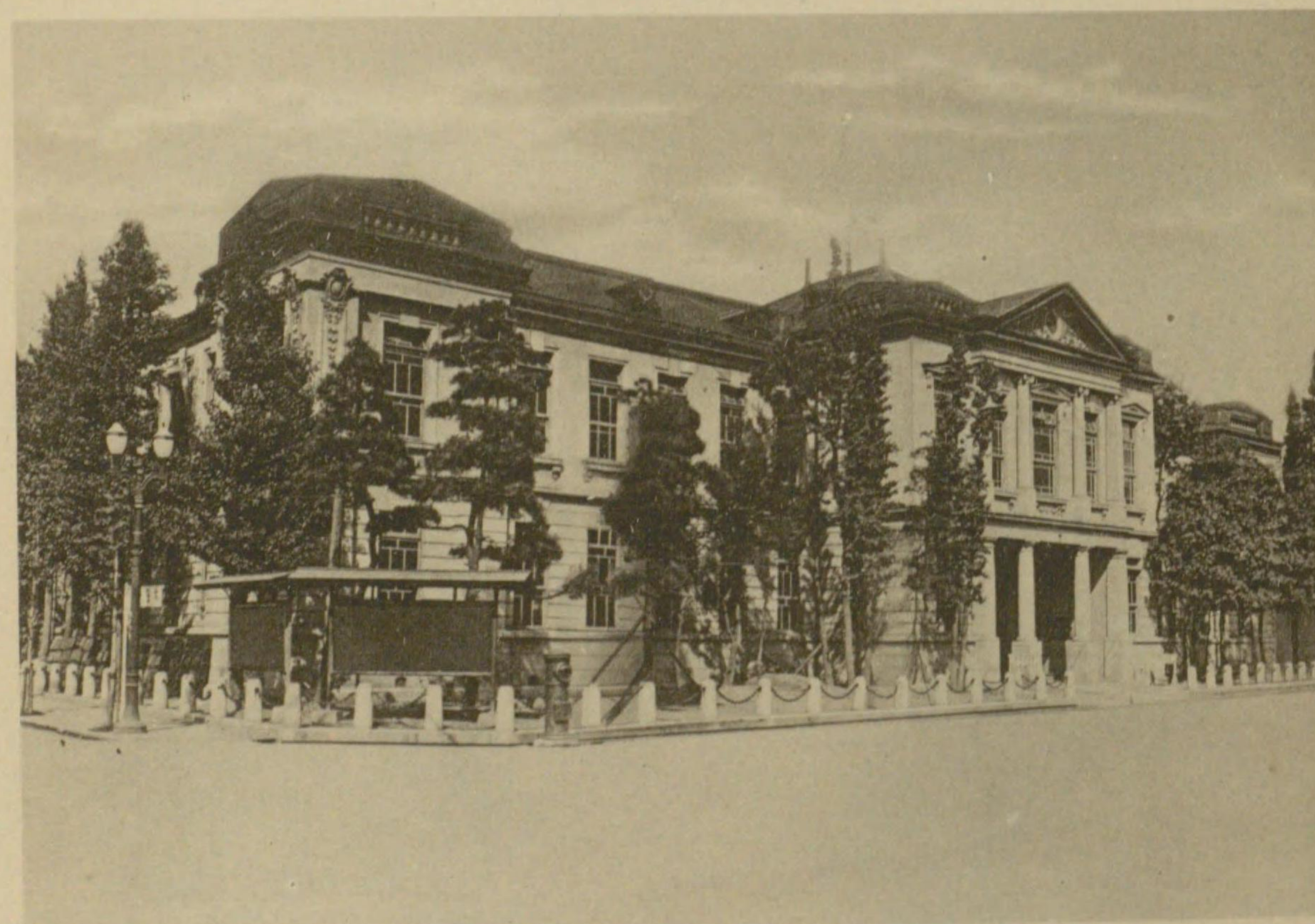
長市前  
平治鳥成



長市前  
治榮海新

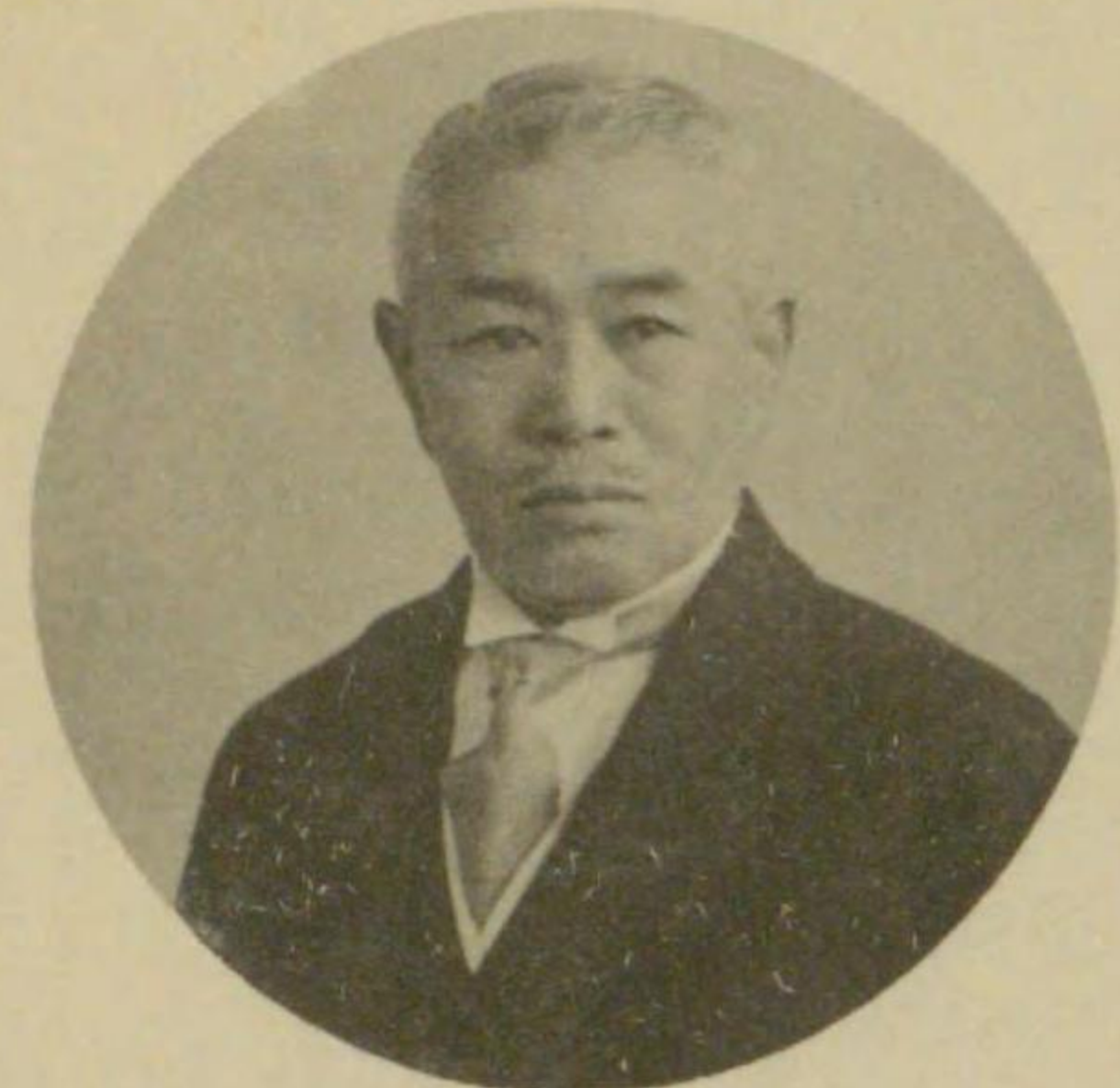


長市  
造逸木齋



景全舍廳市

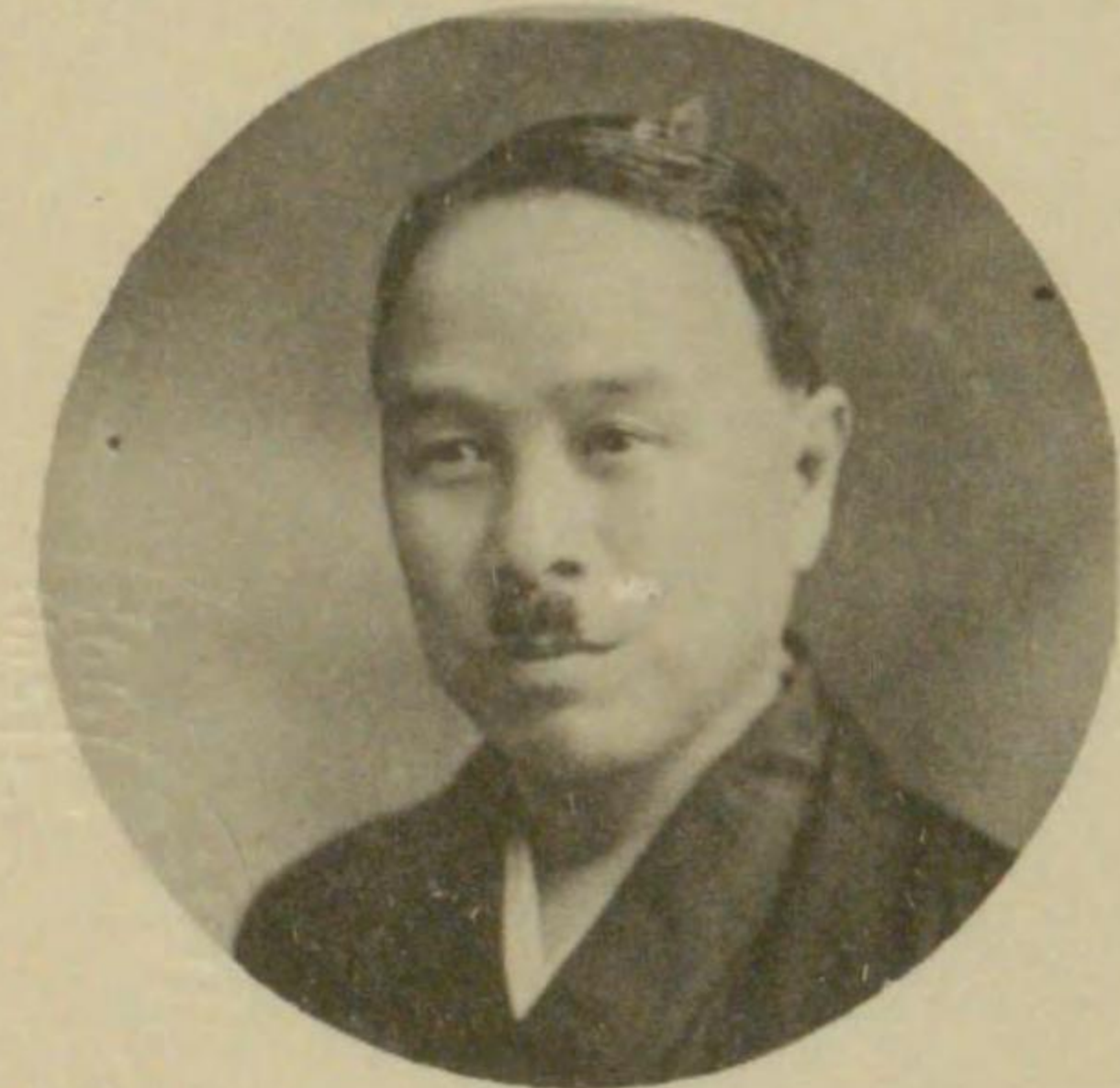




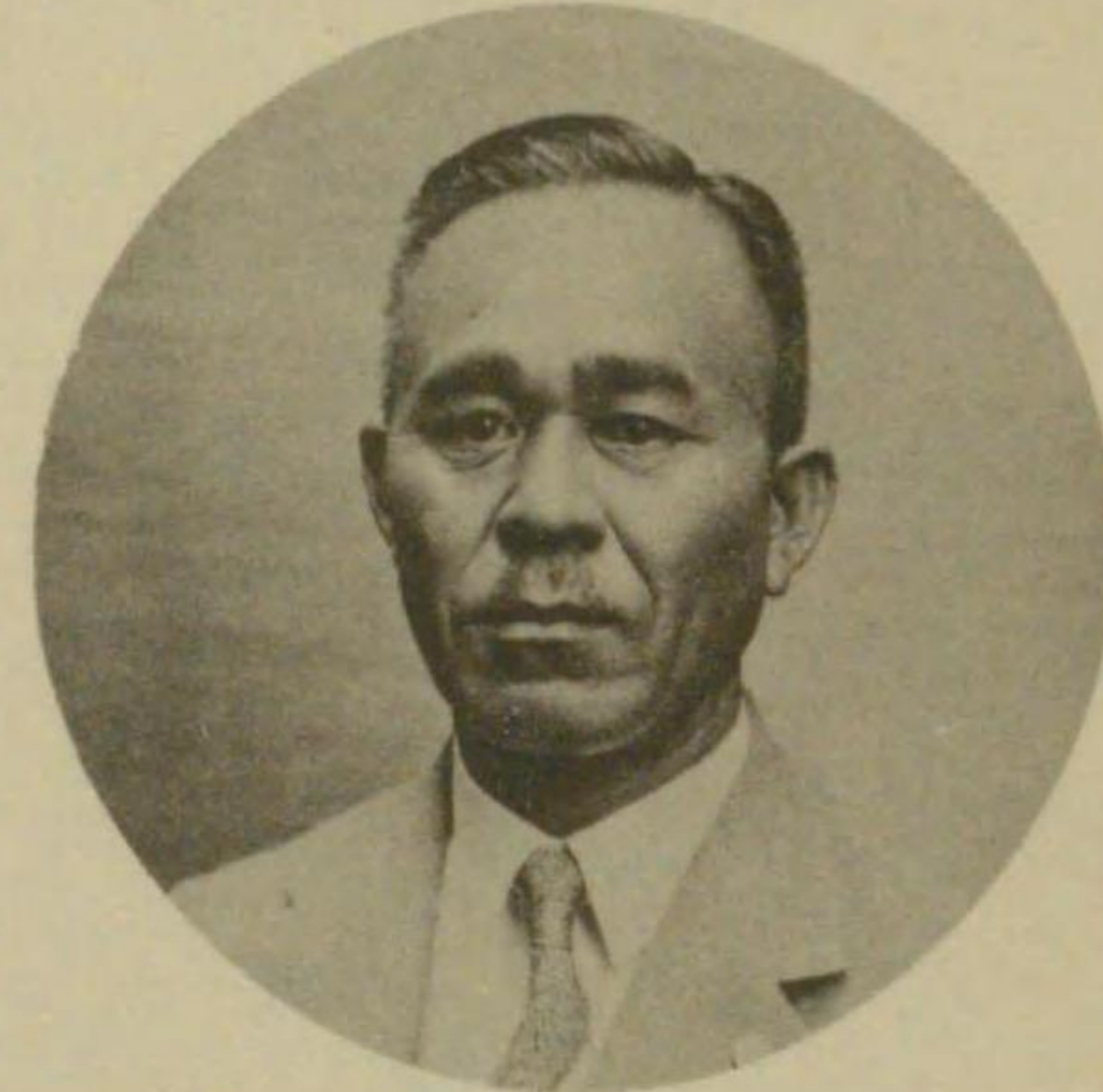
役助前  
夫 忠 原 藤



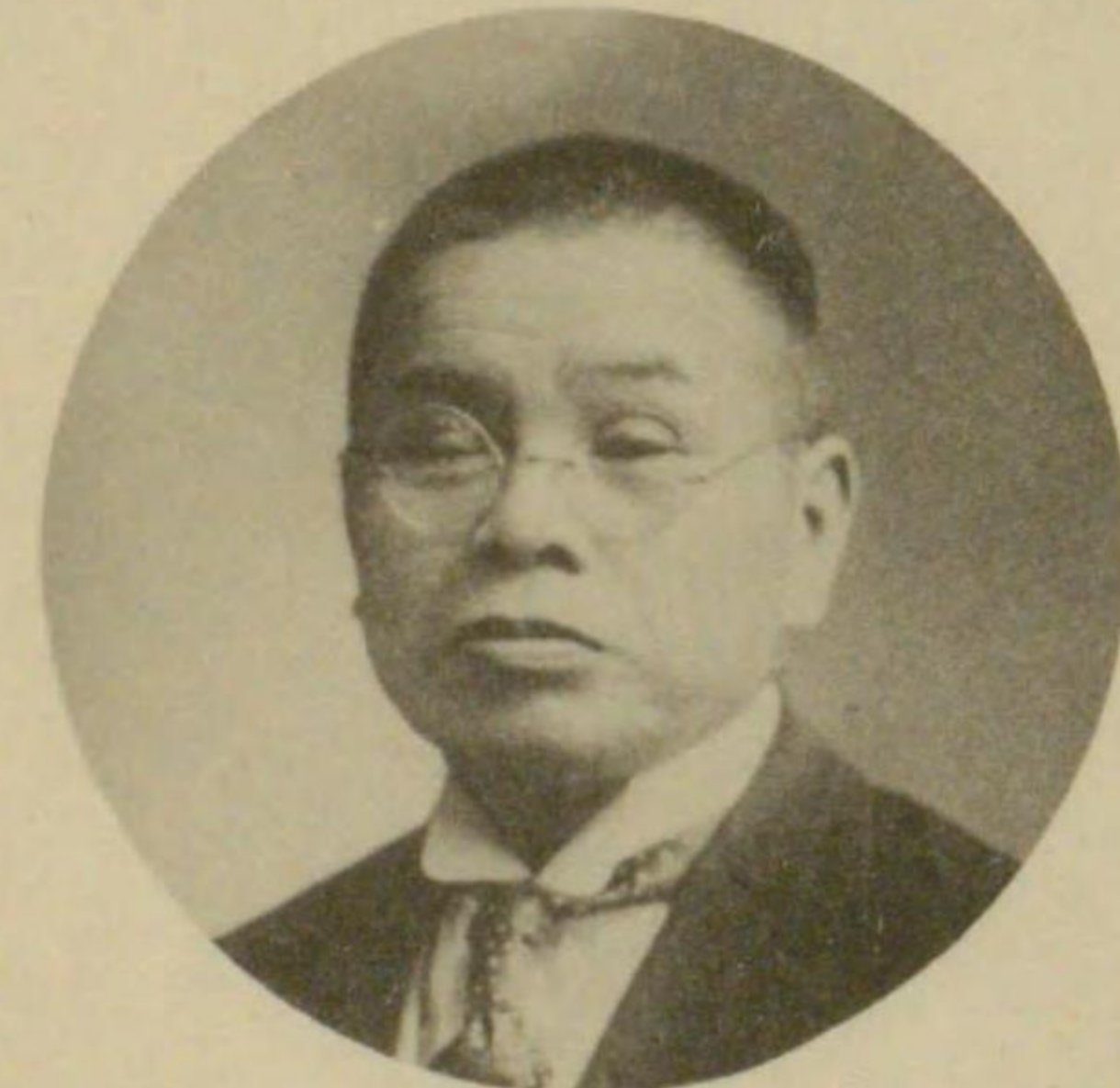
役 助  
源 泉 小



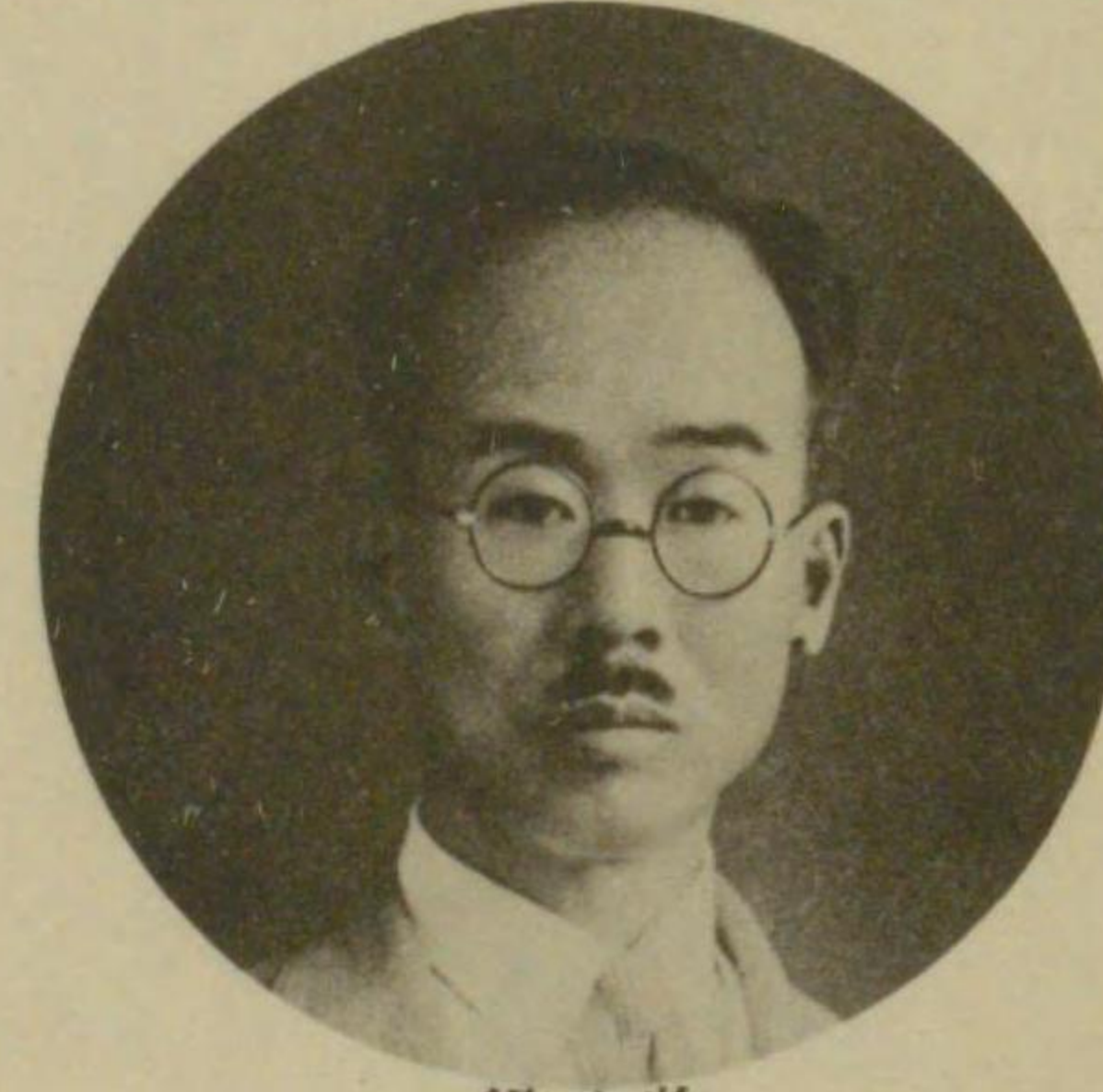
役助前  
京 佐 井 武



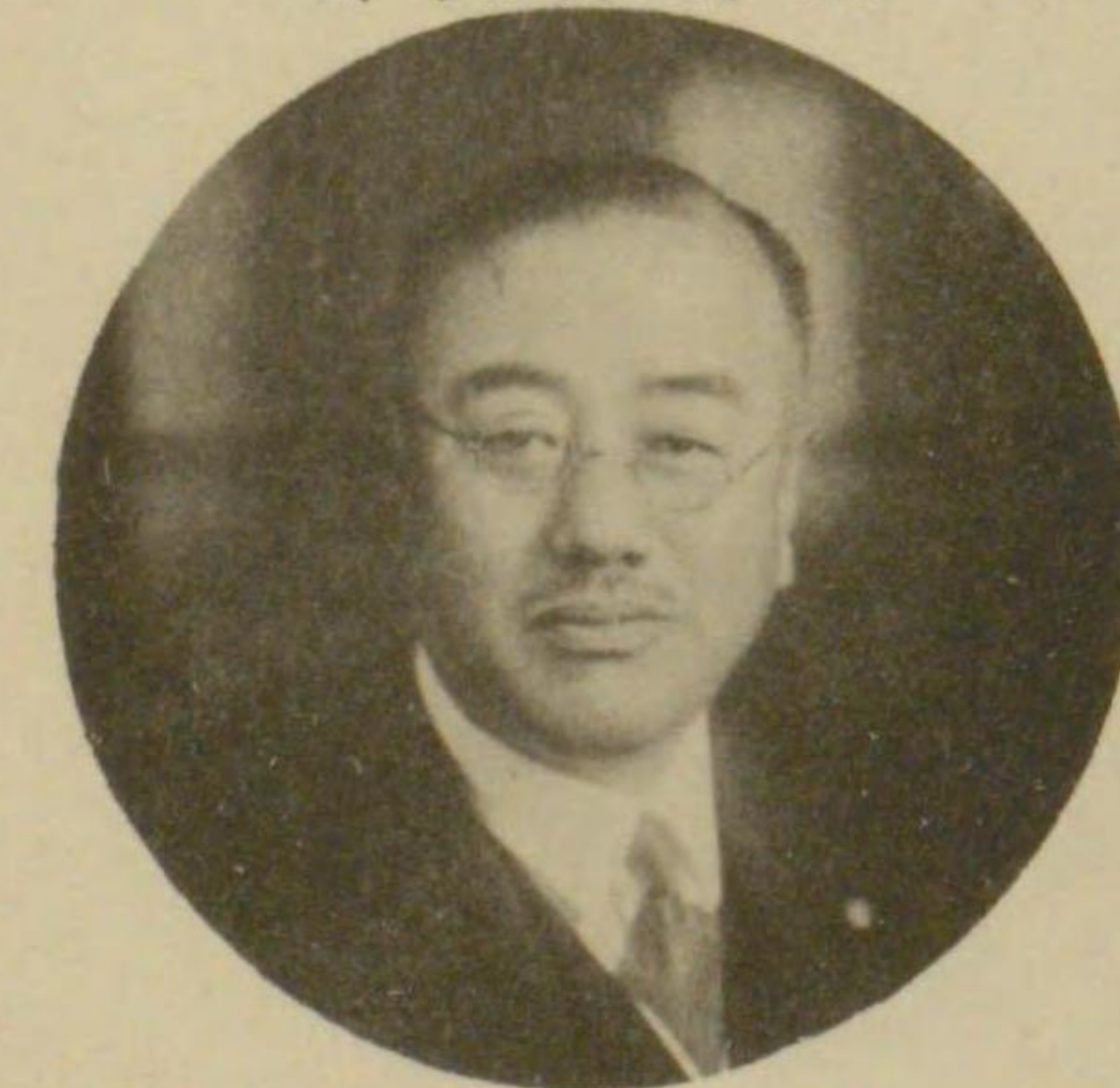
役助前  
吉 孝 田 長 故



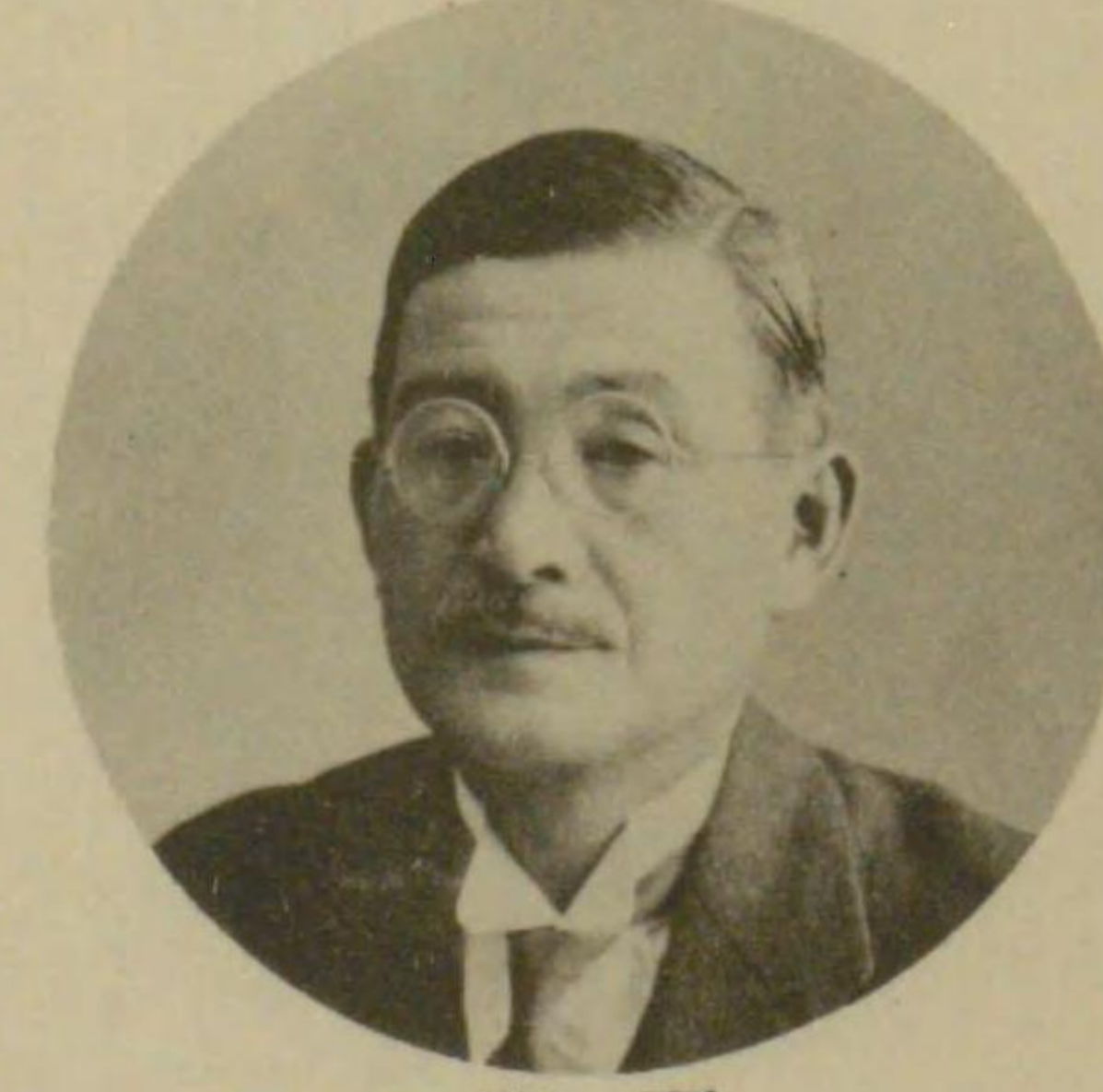
役入收前  
郎 次 芳 野 星



役入收  
俊 谷 澁

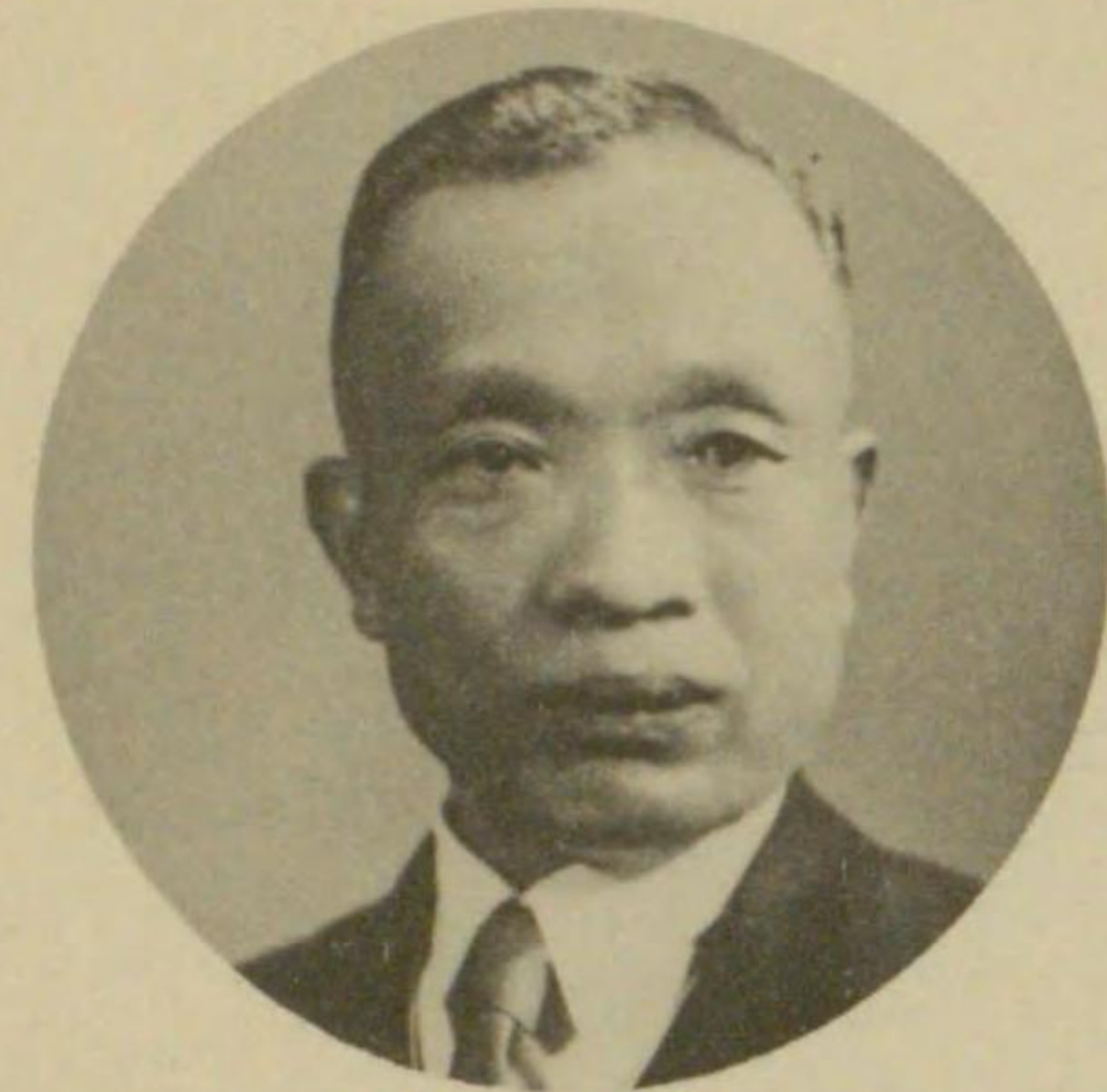


問 顧 前  
一 清 井 大



問 顧  
覺 條 大 西

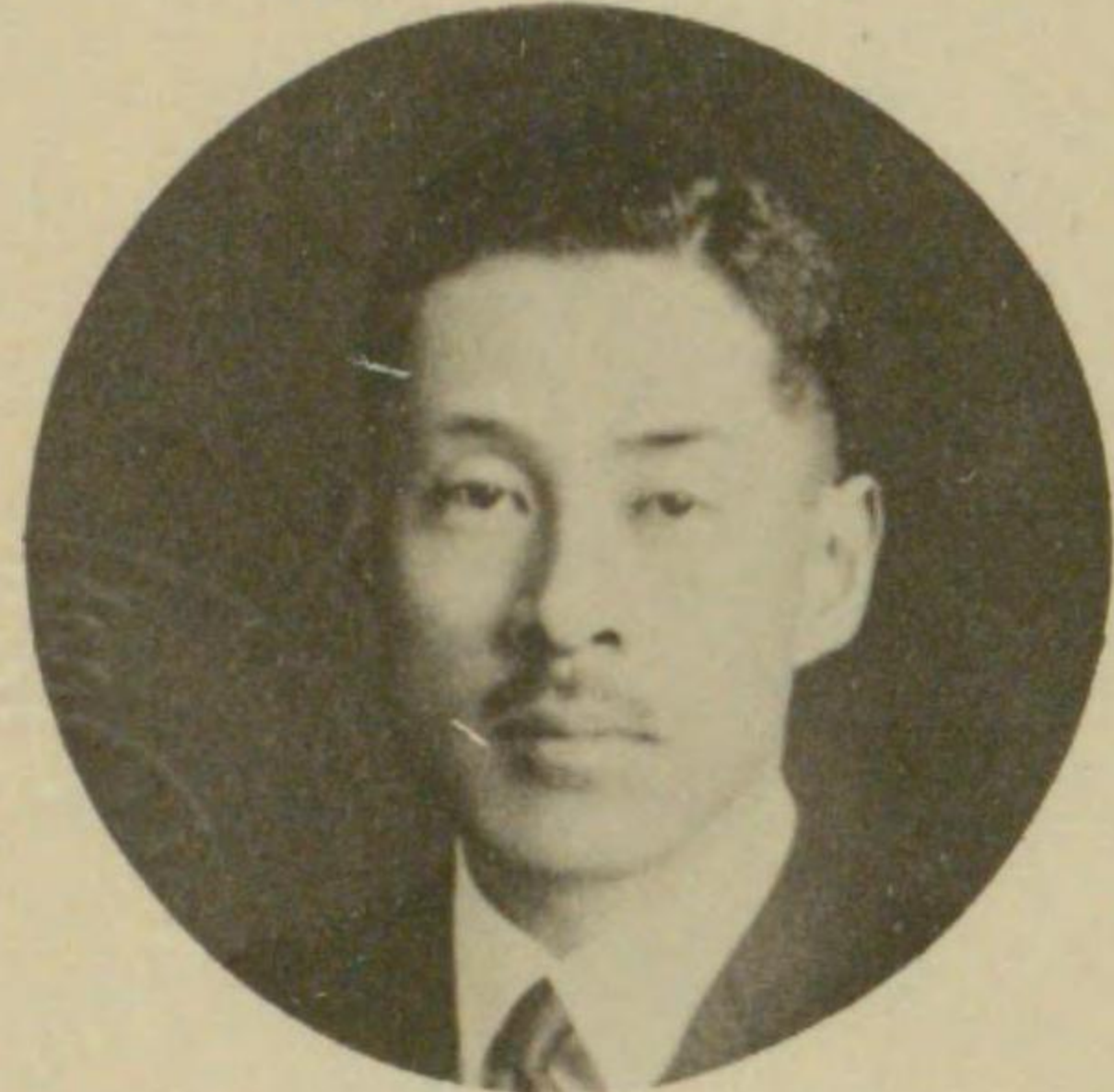




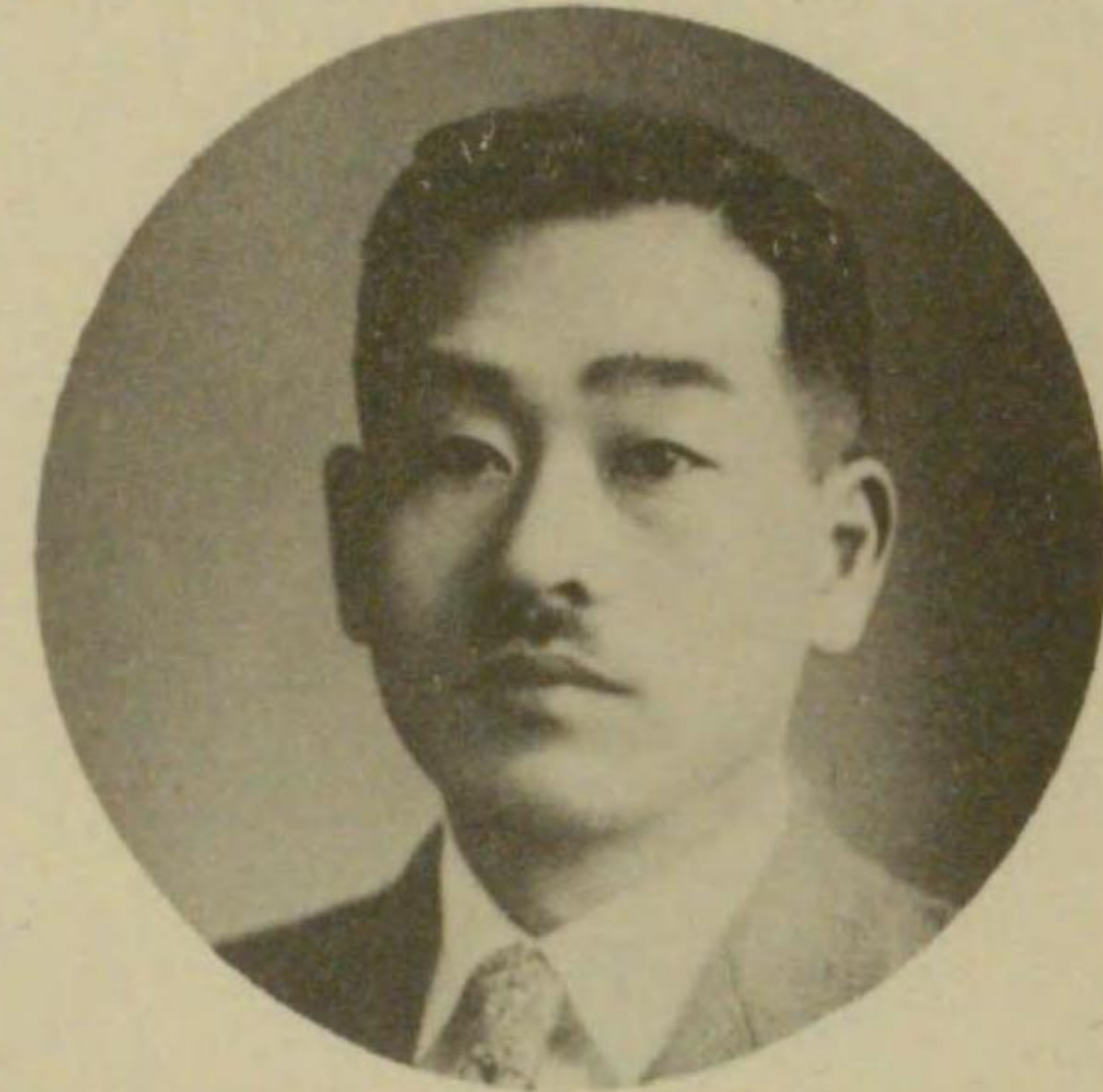
水道課長技師  
飯高 新



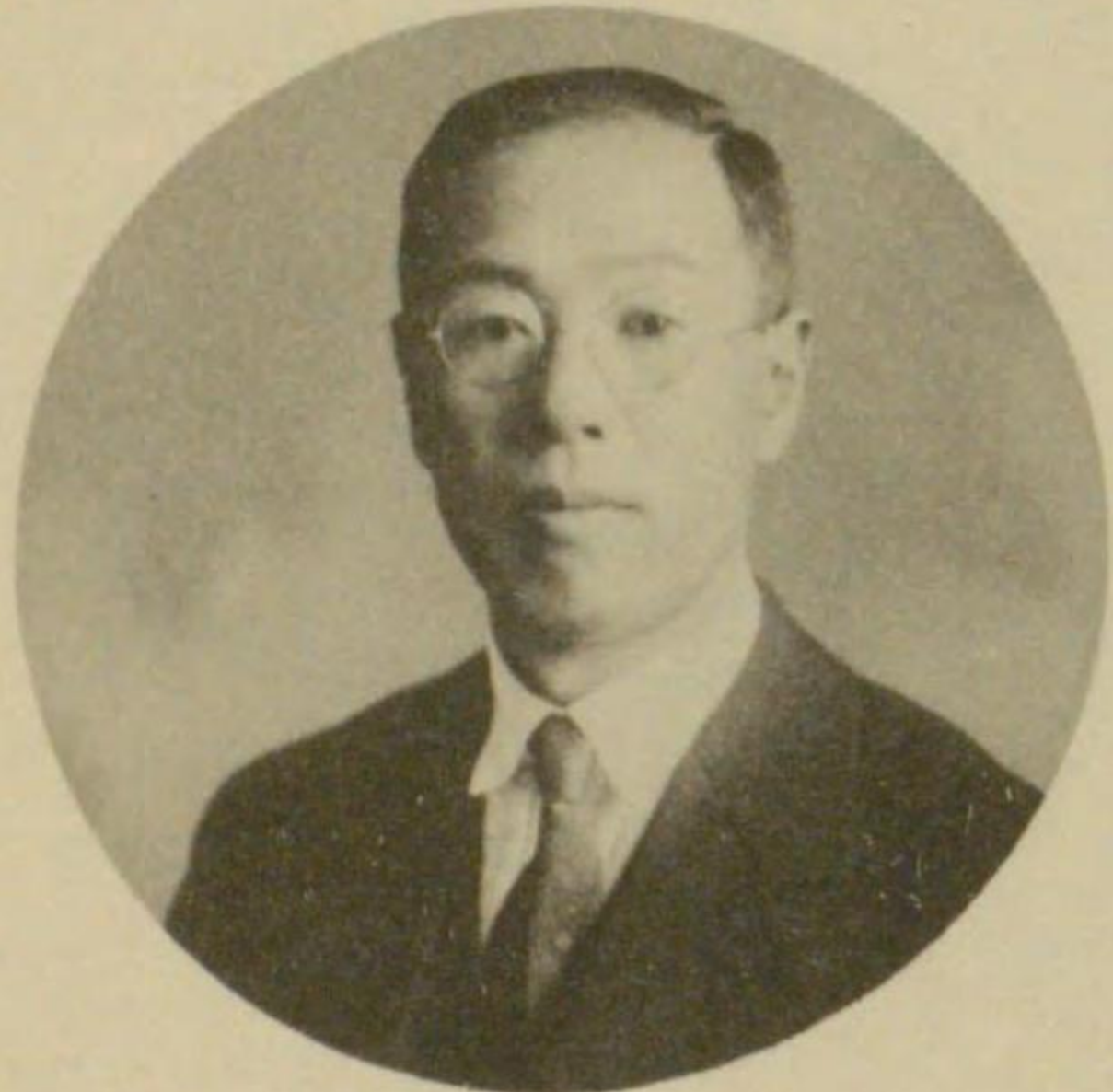
庶務課長主事  
武井 元右衛門



前水道技師  
中島 洋吉



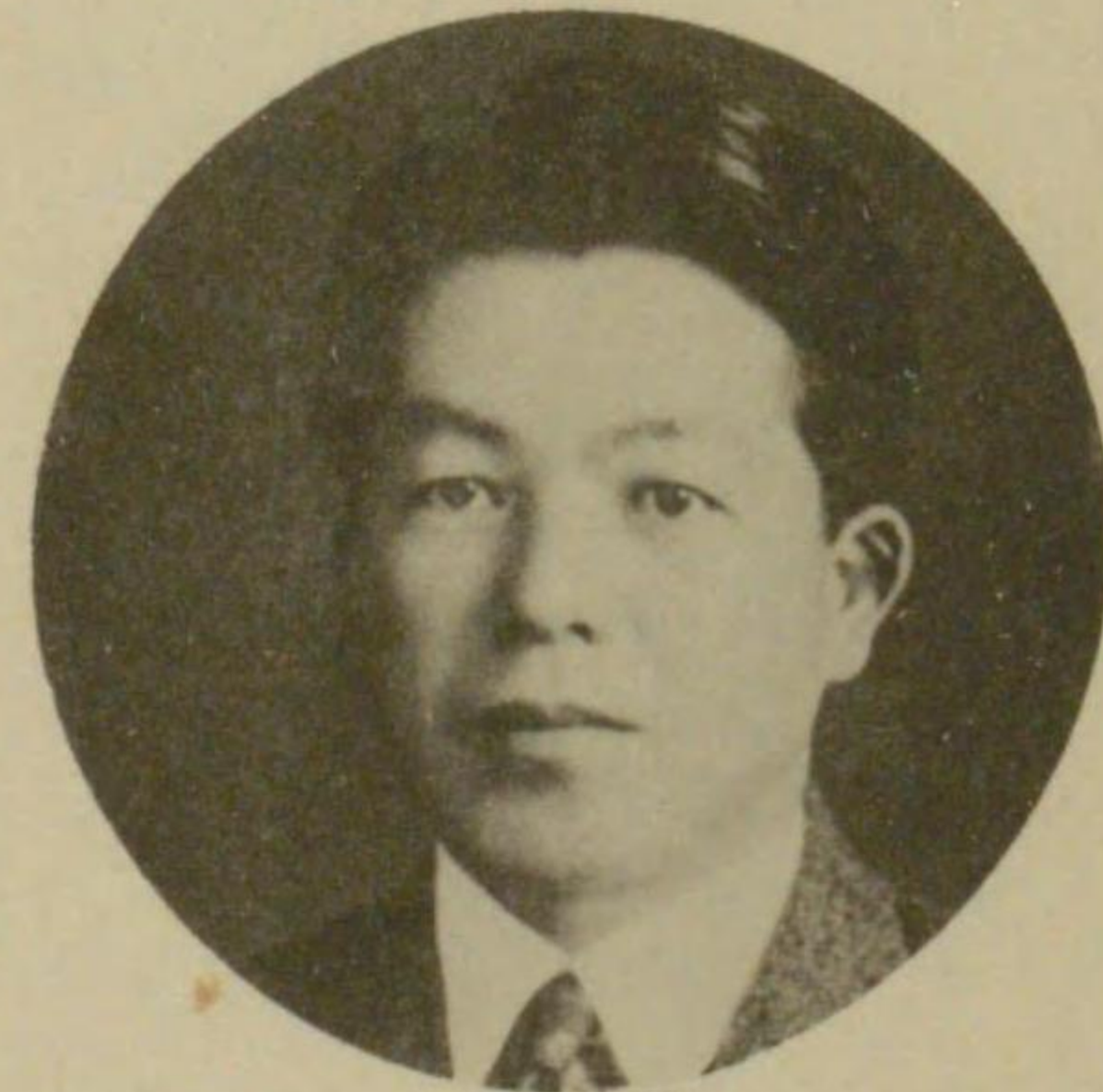
水道擴張部水道技師  
工務課長 木島 繁



囑託  
森 慶三郎

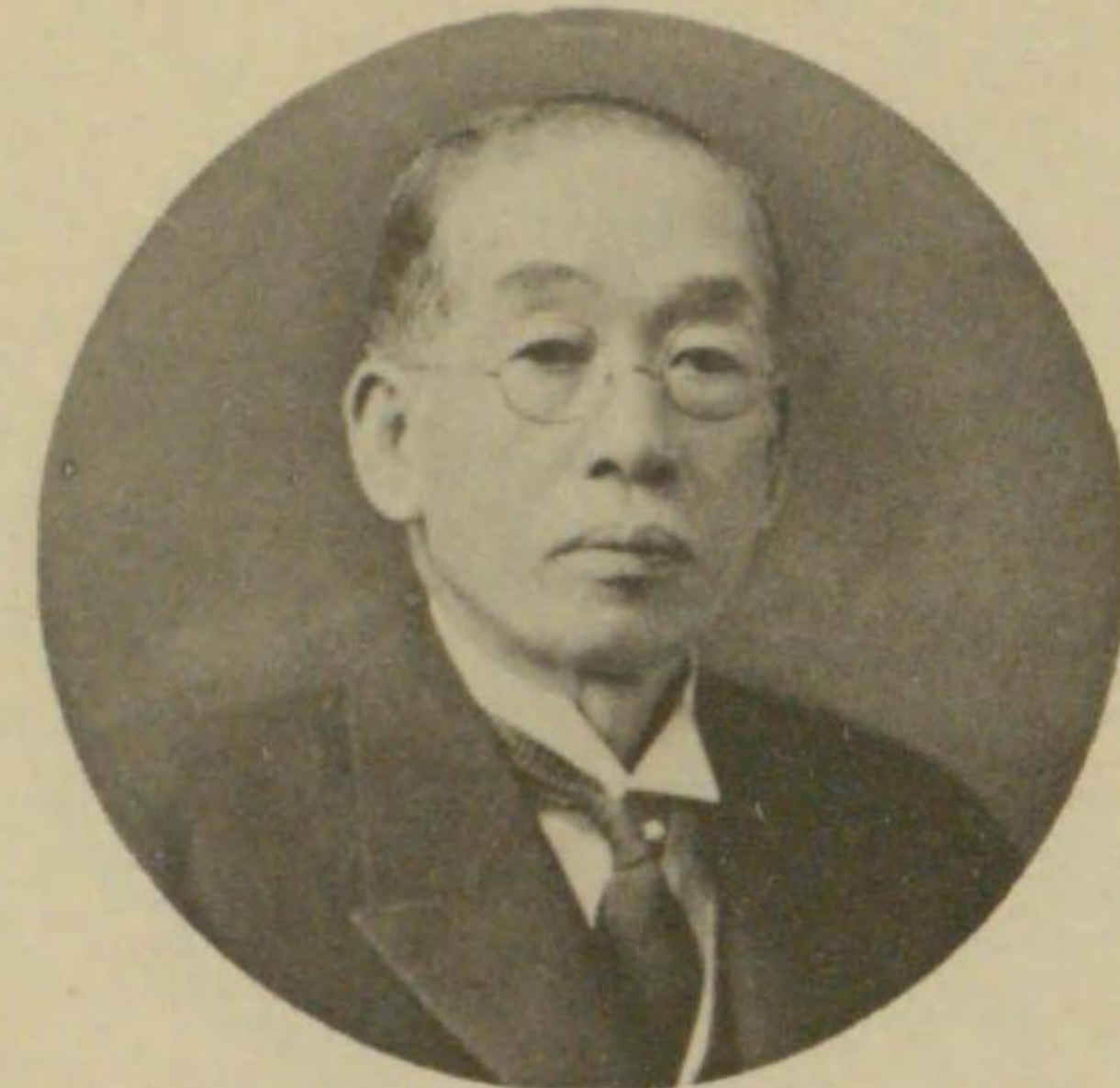


前水道技師  
平尾 昇

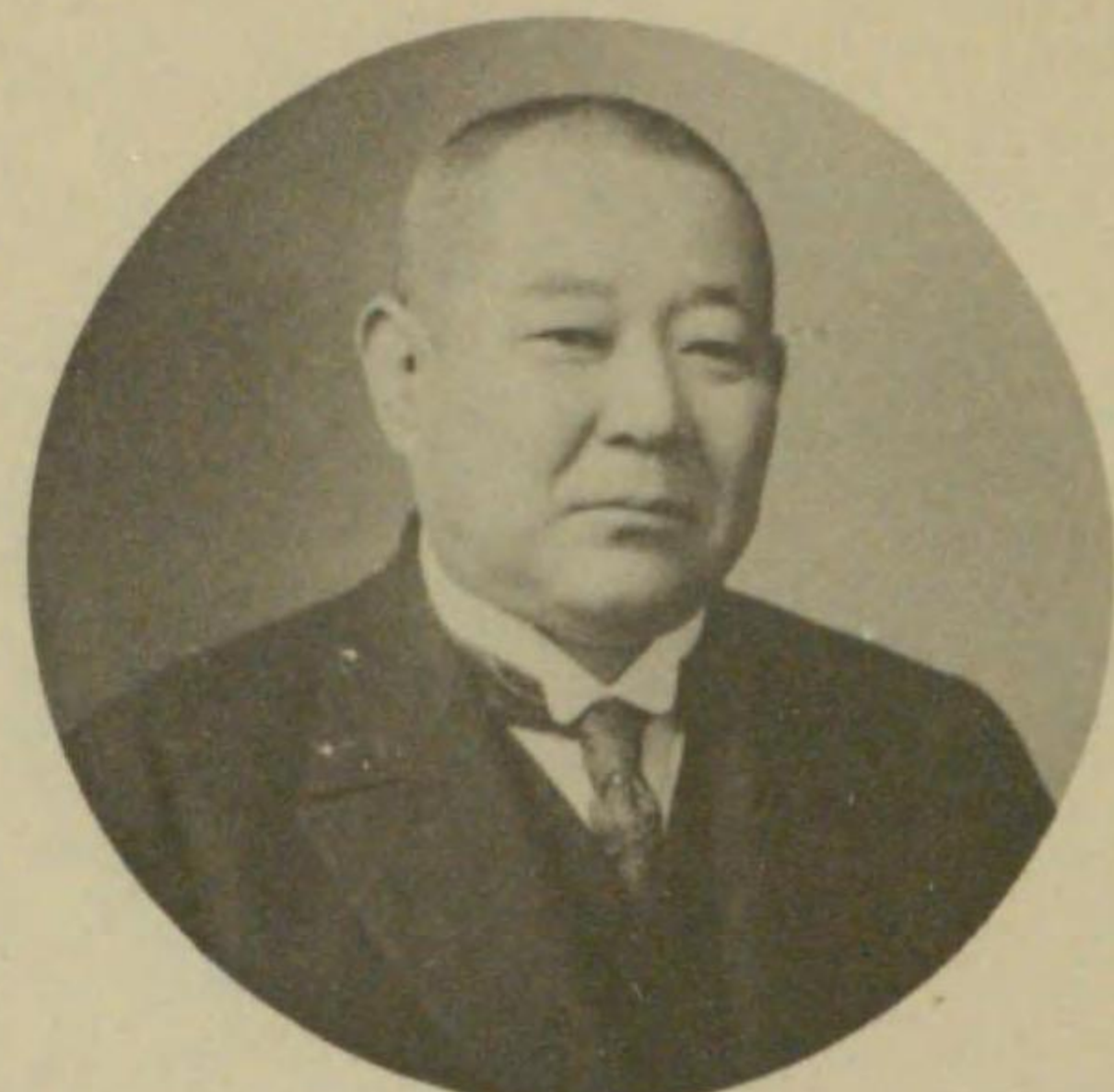


囑託  
櫻井 季男

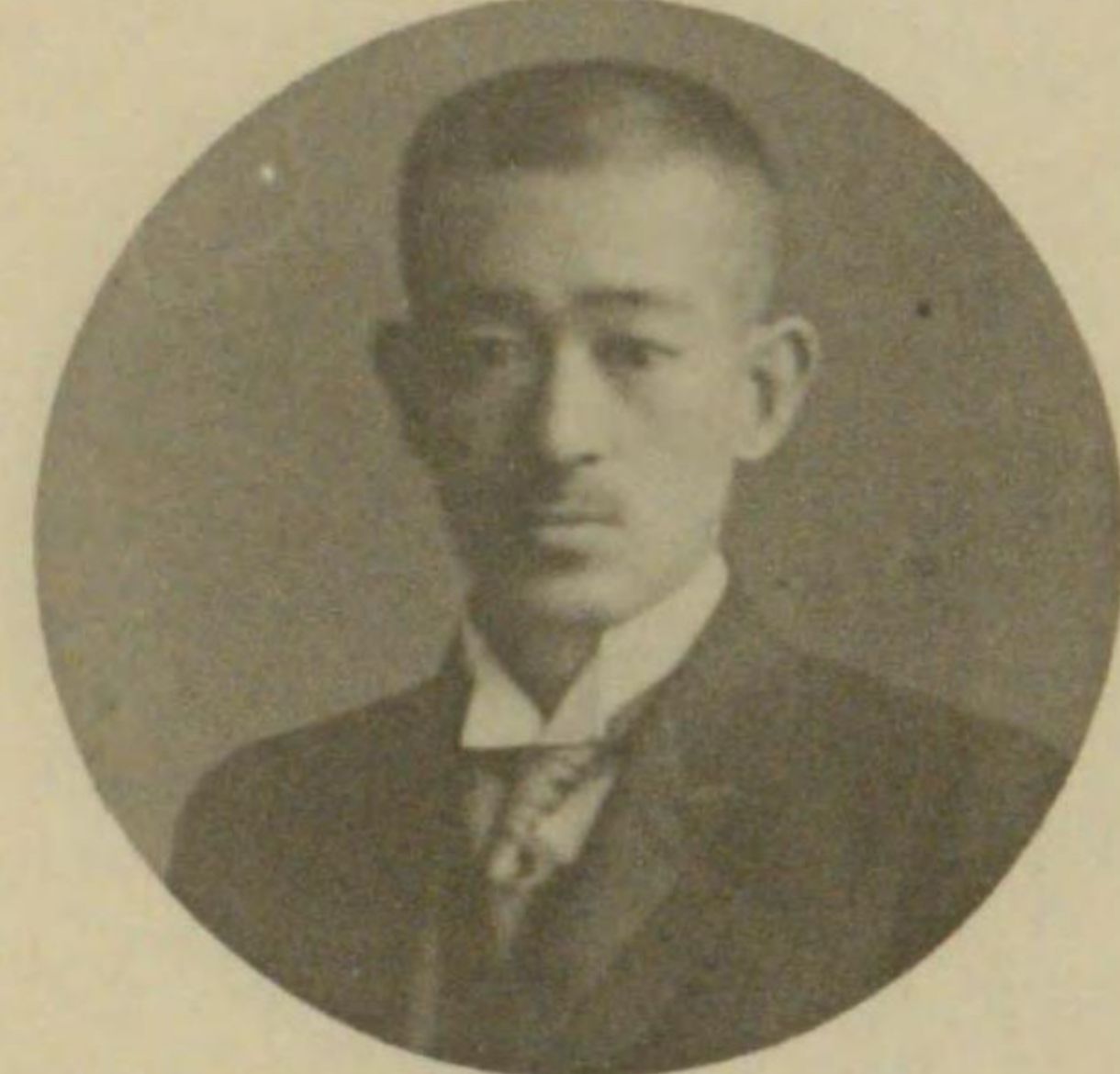




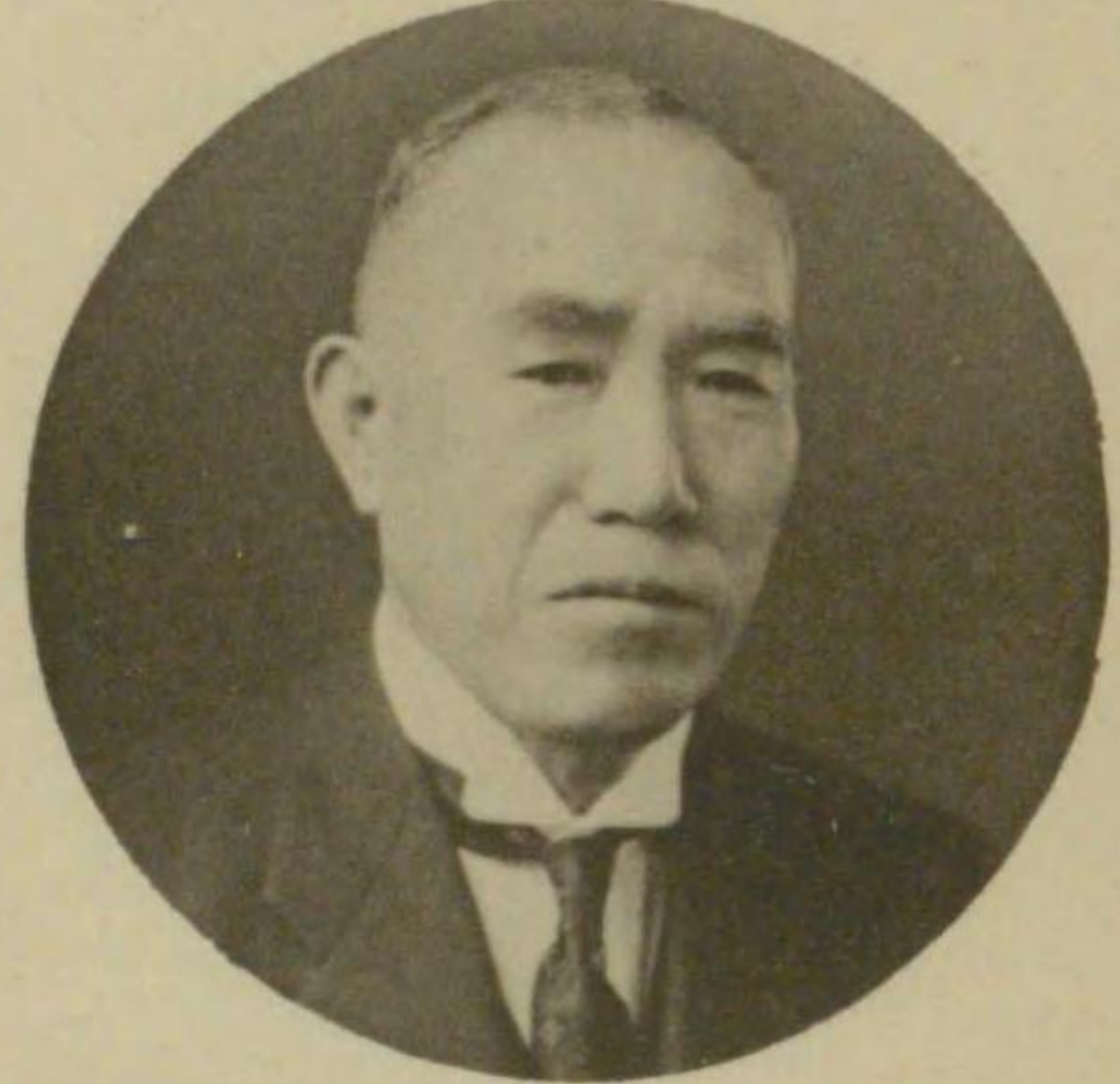
員委張擴道水時臨  
助榮島矢



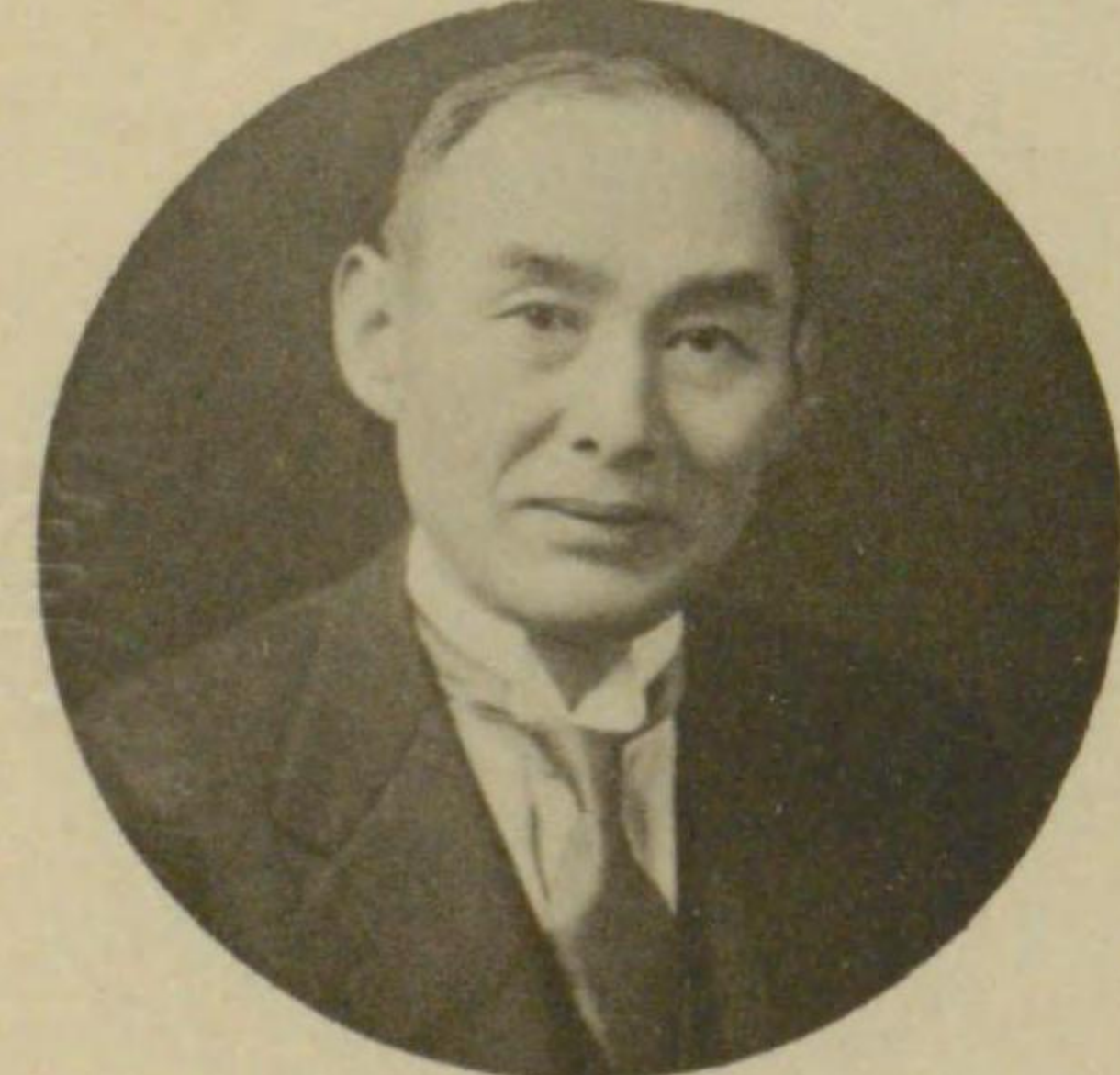
員委張擴道水時臨  
愛忠取名



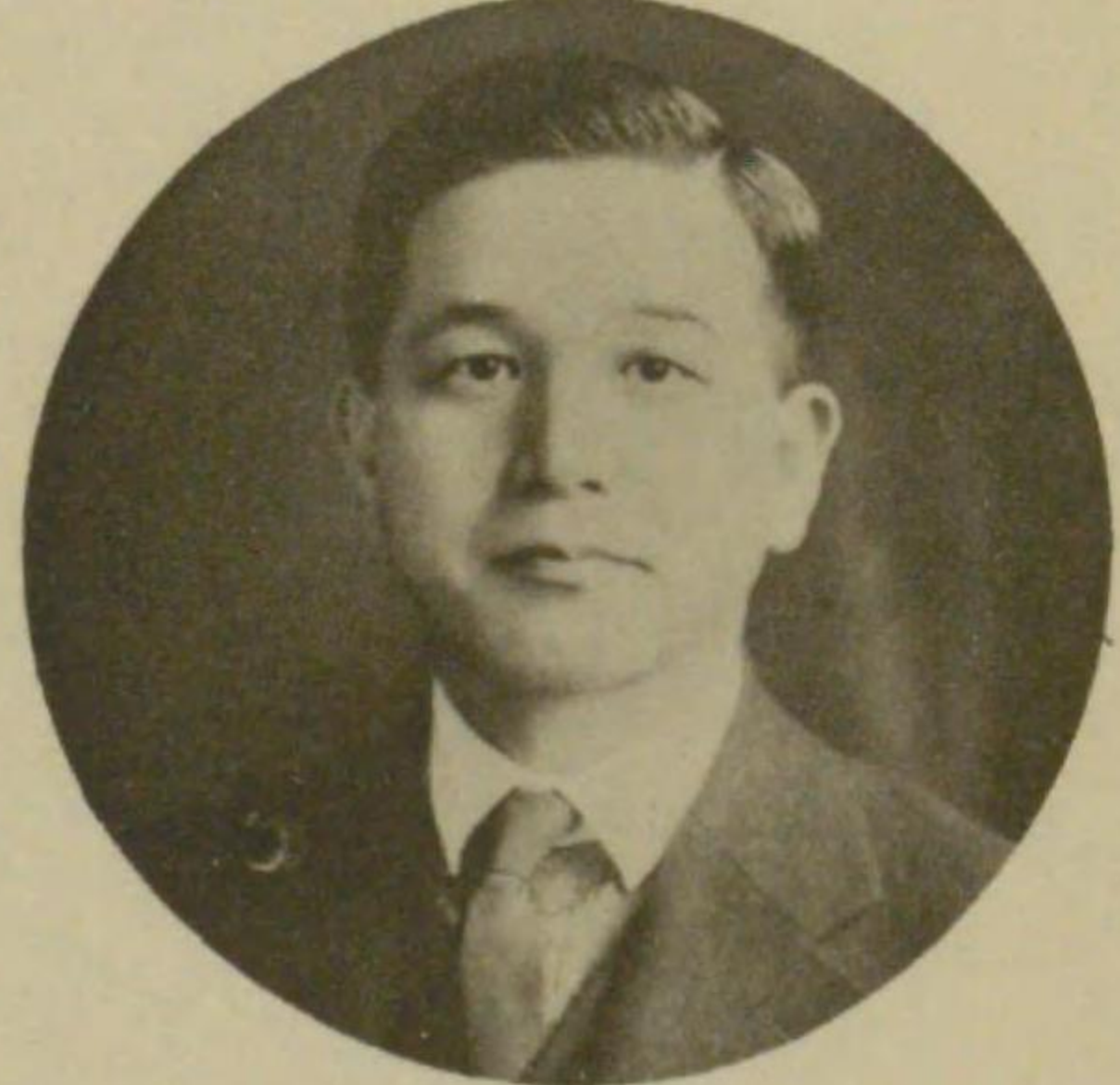
員委張擴道水時臨前  
助之謹尾若故



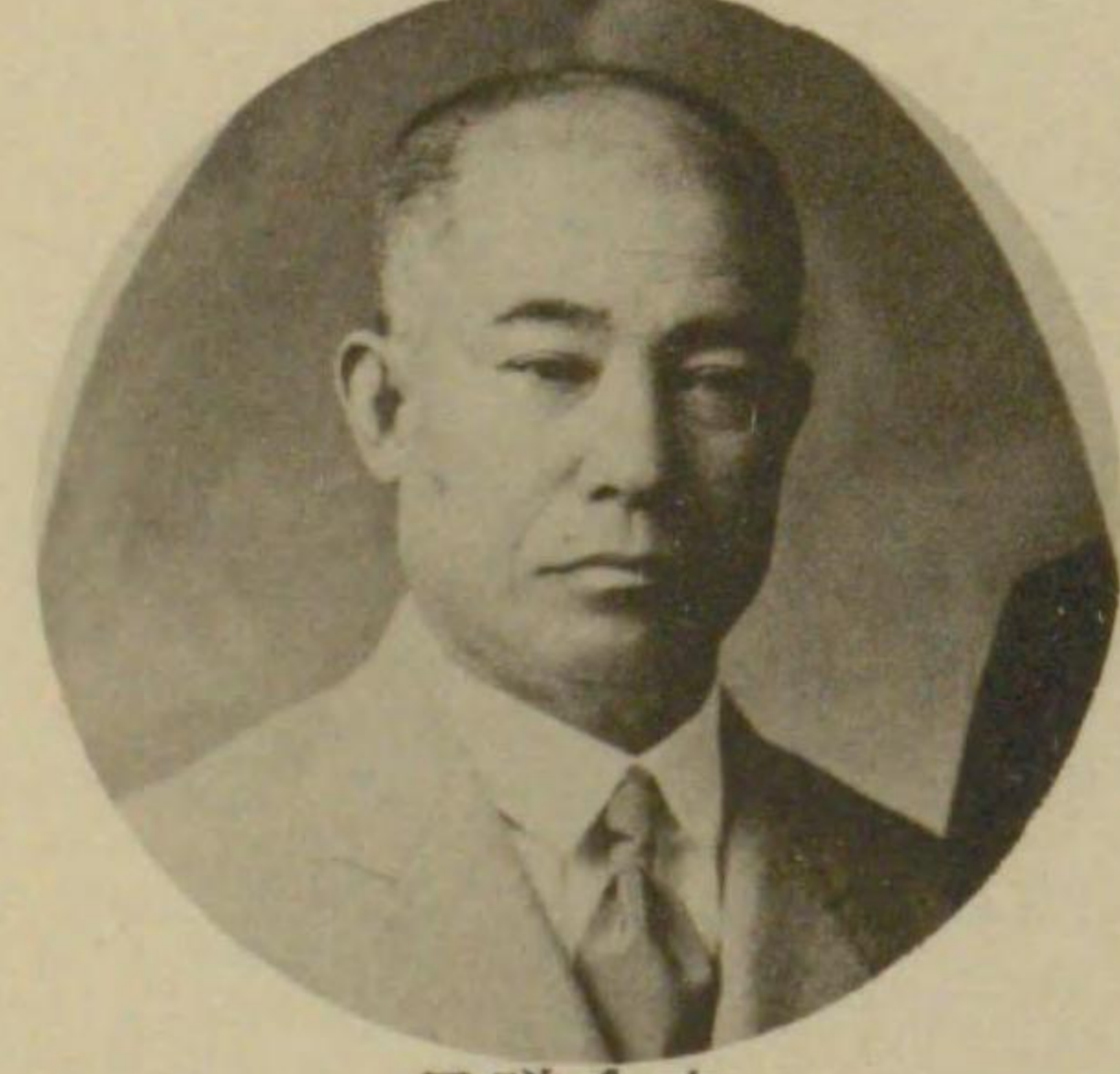
員委張擴道水時臨  
雄武田細



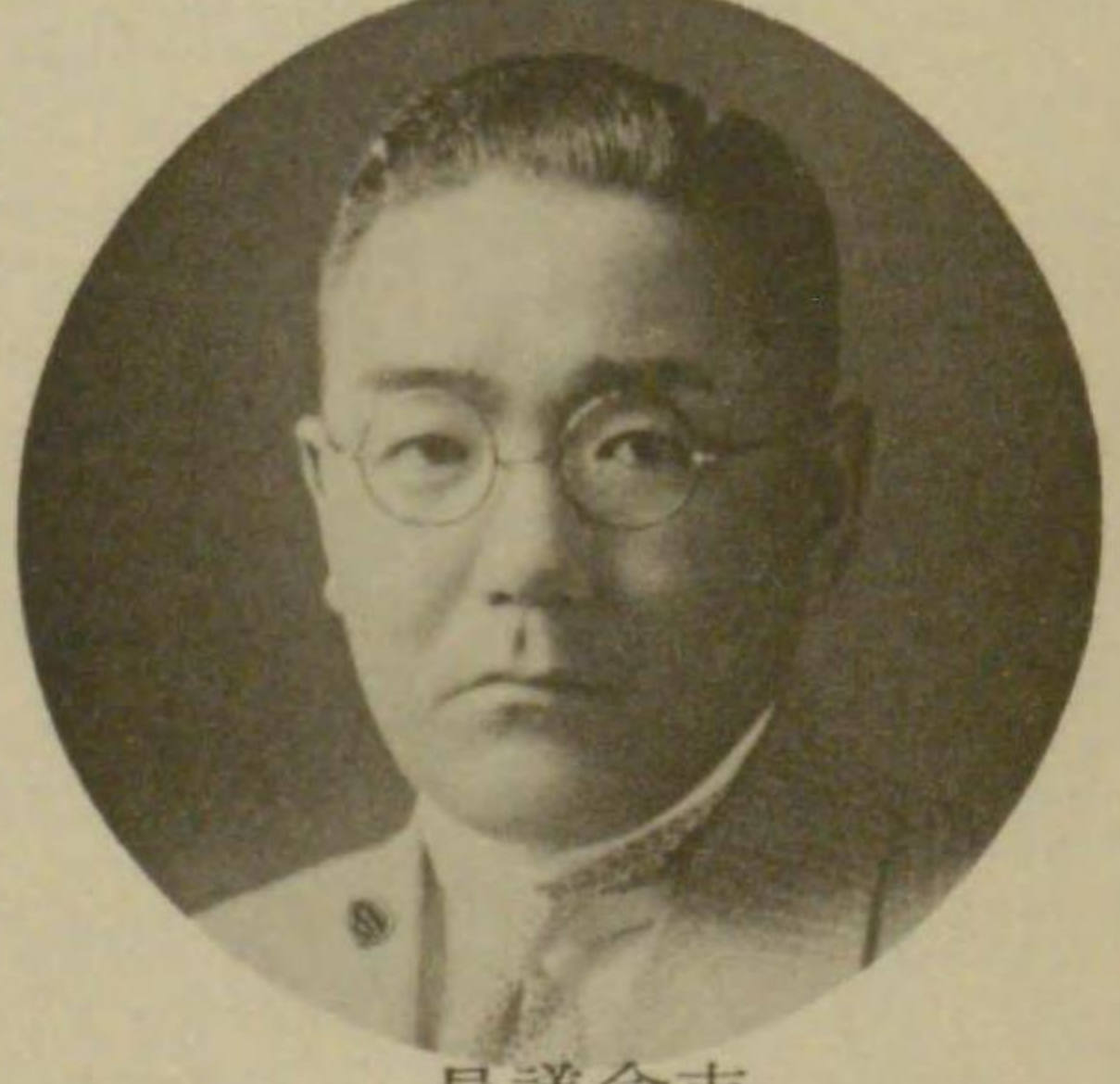
員議會市  
彌幾瀬百



員議會市  
藏義茂丸

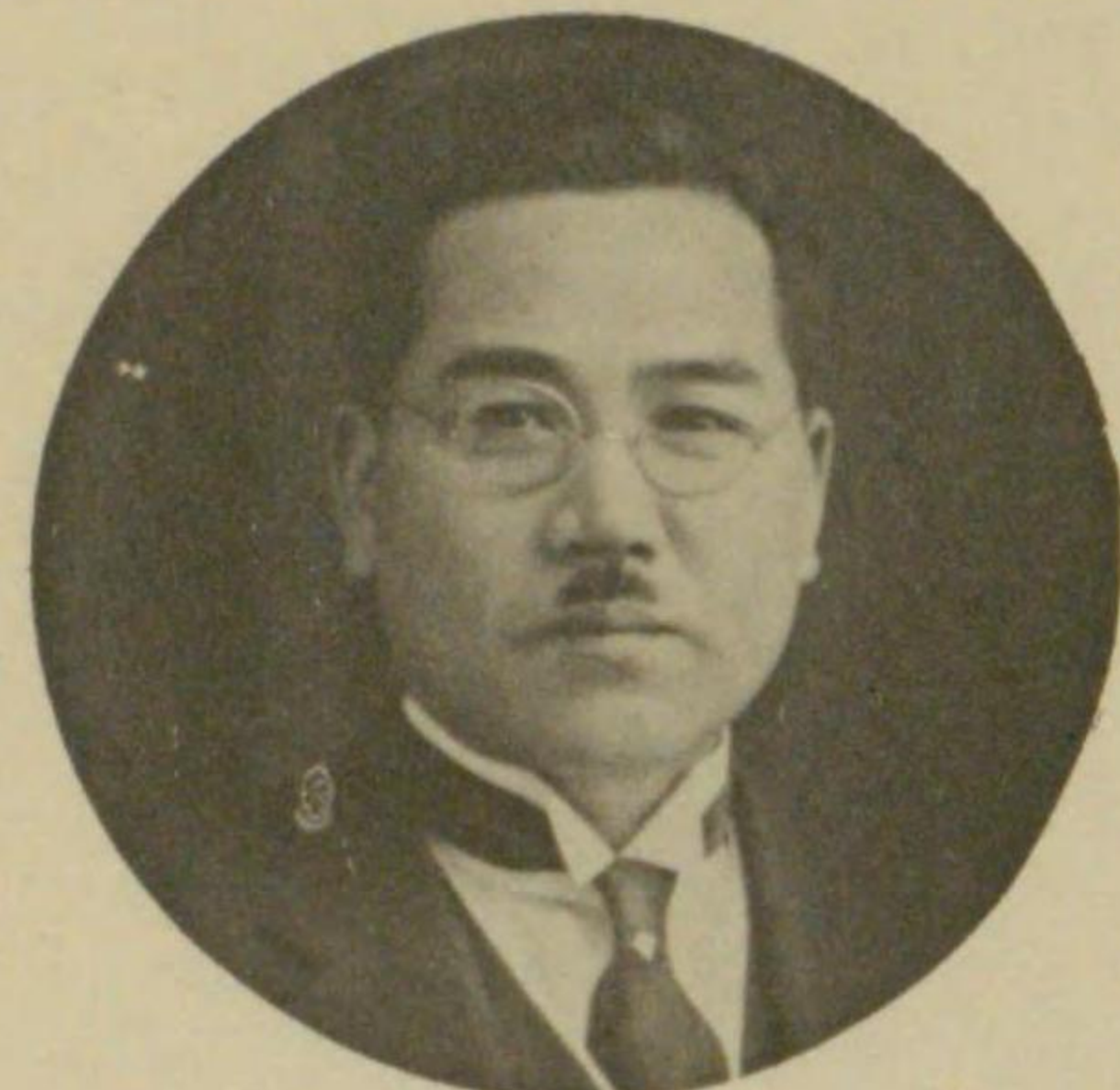


員議會市  
郎午庚野上

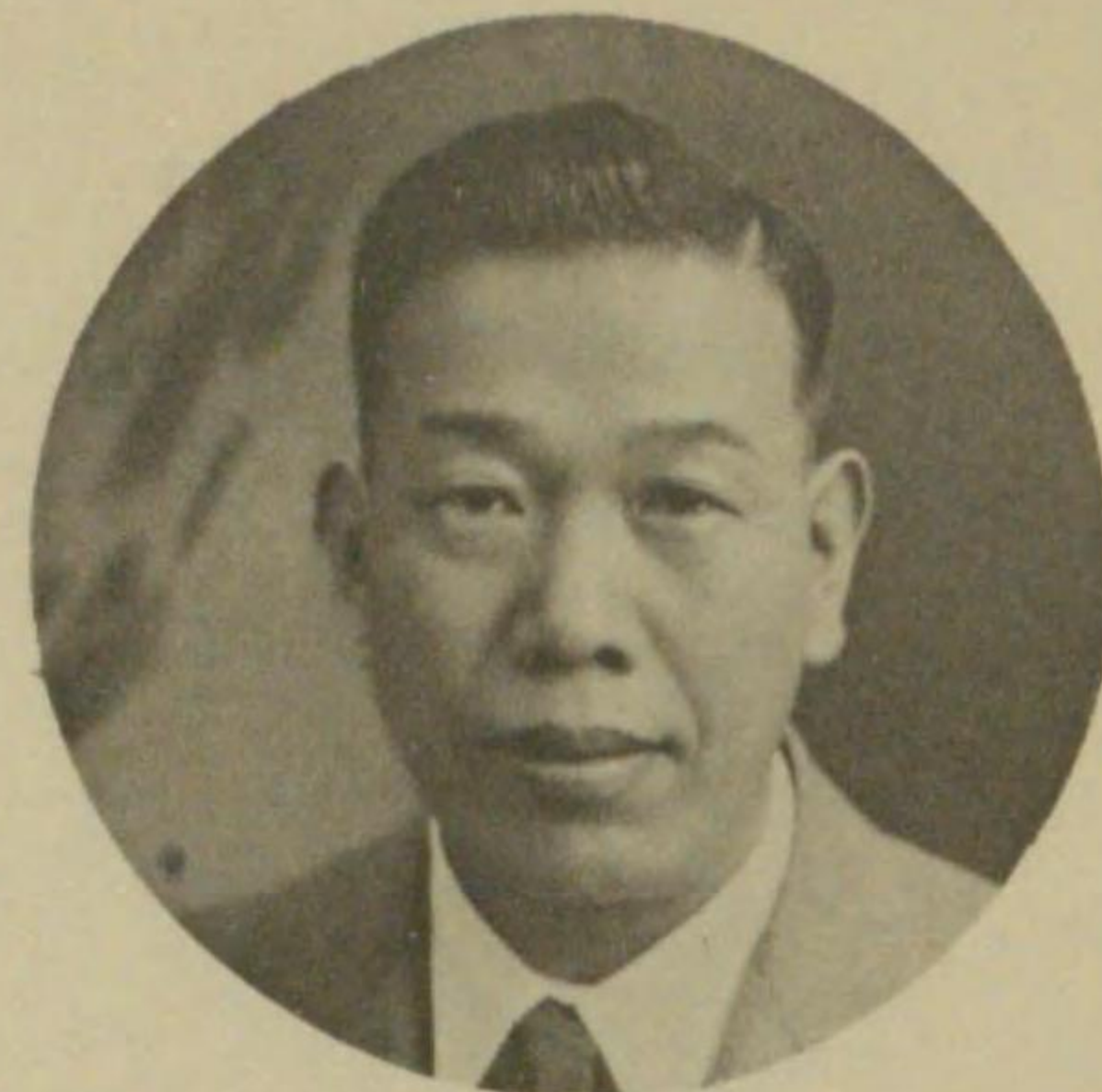


員議會市  
夫明口樋





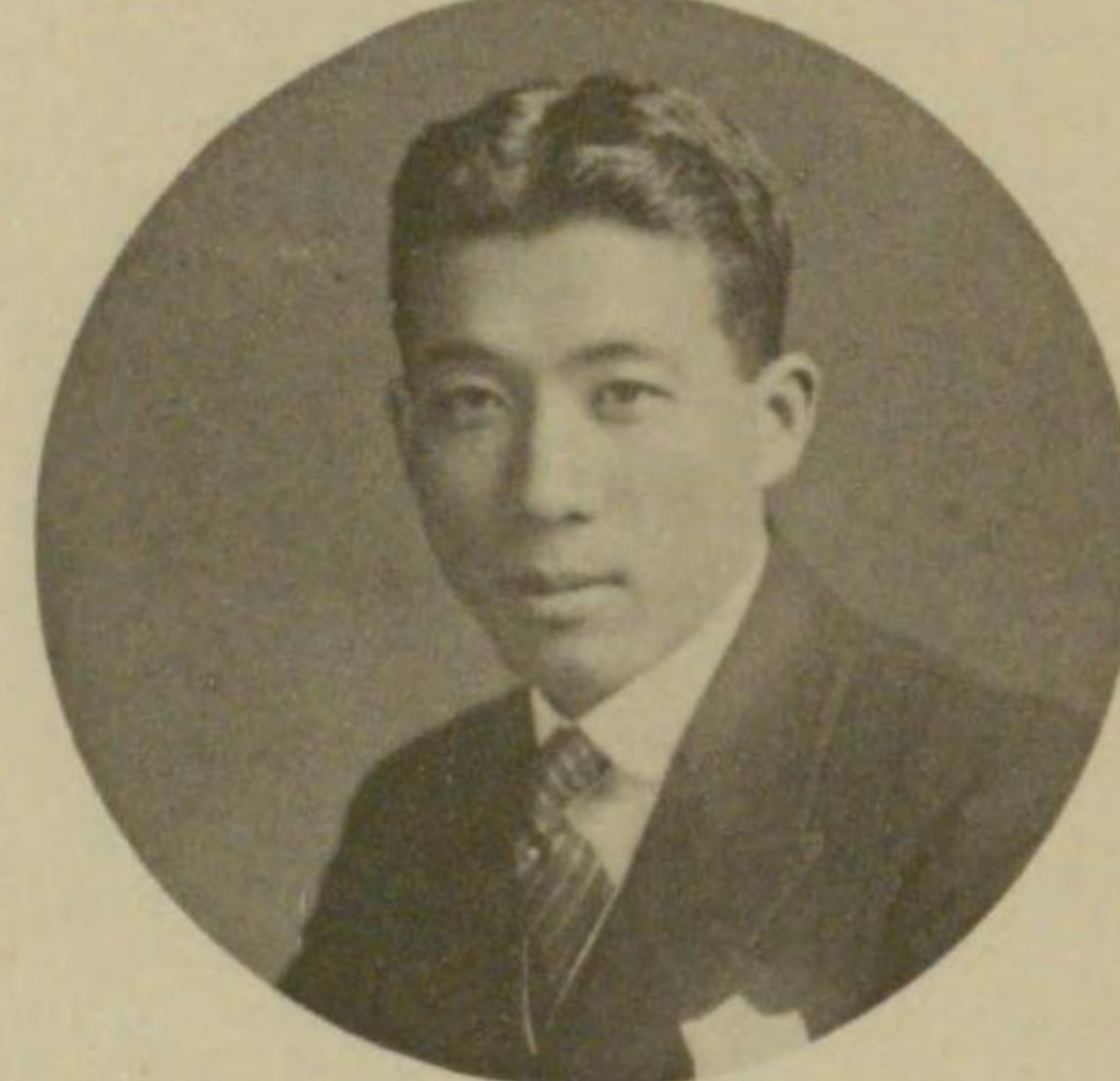
市議員  
廣瀬捨作



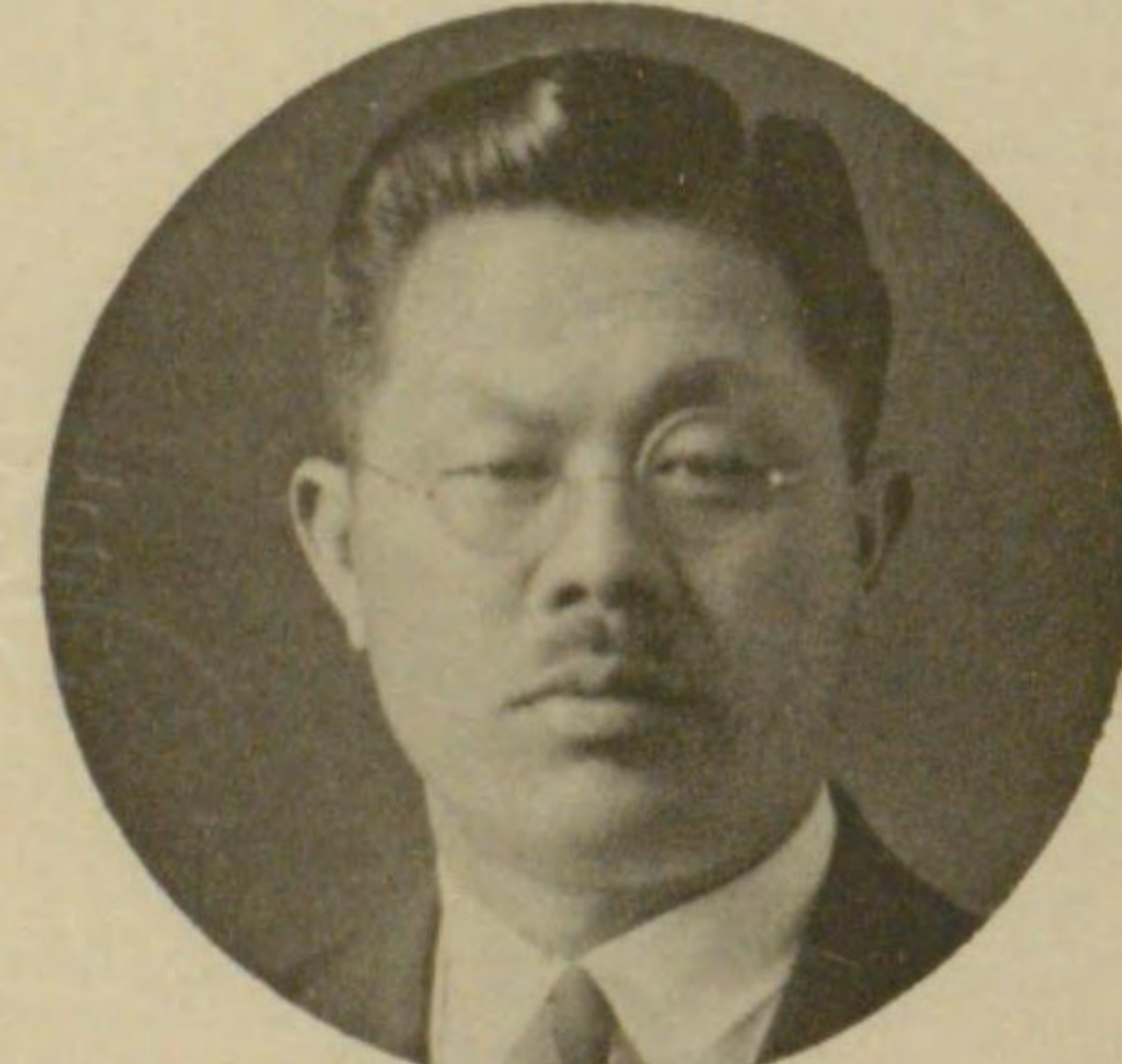
市議員  
矢崎朝芳



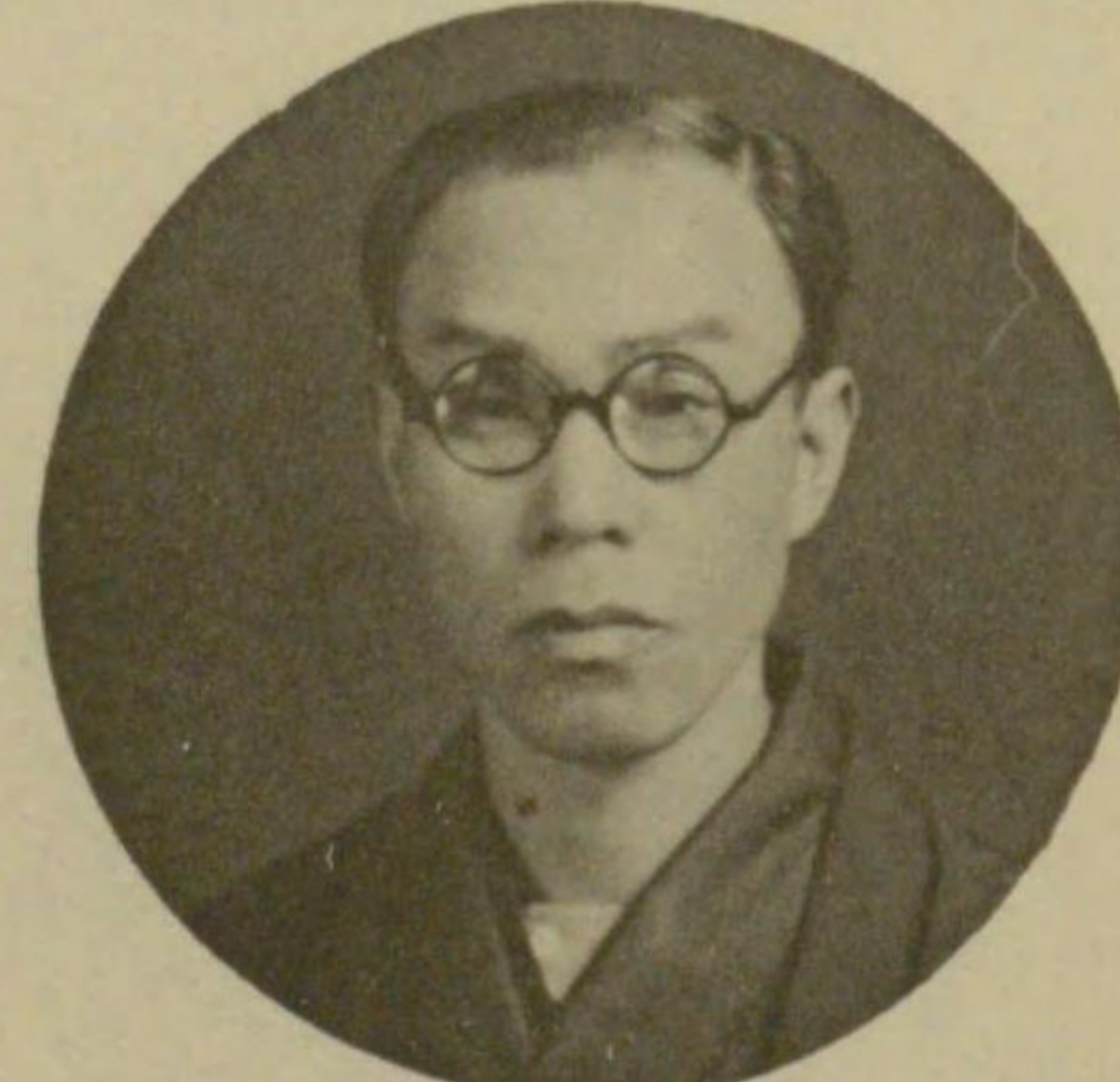
市議員  
中山清四郎



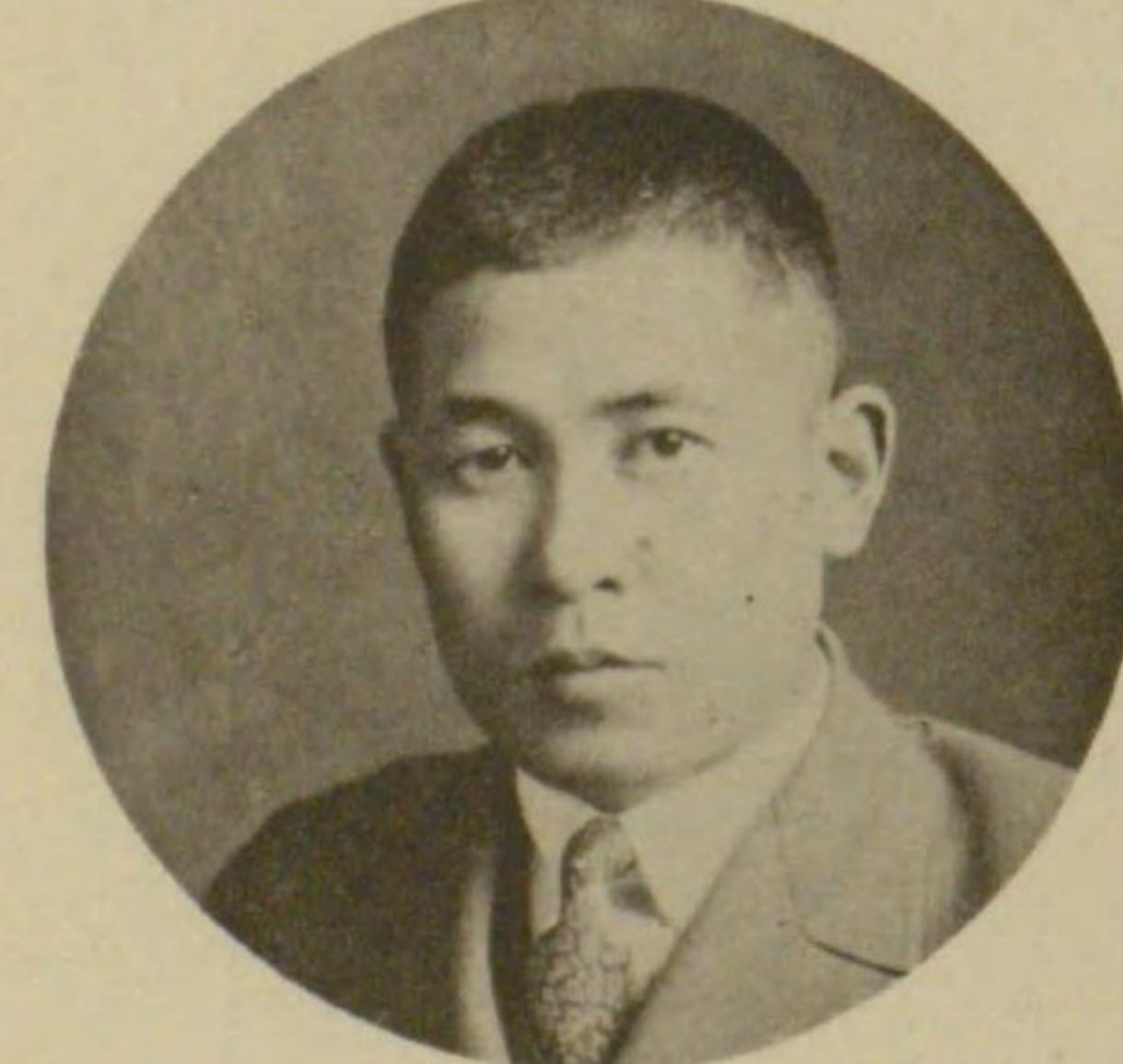
市議員  
飯島浩



市議員  
雪江明雄



市議員  
小澤平八

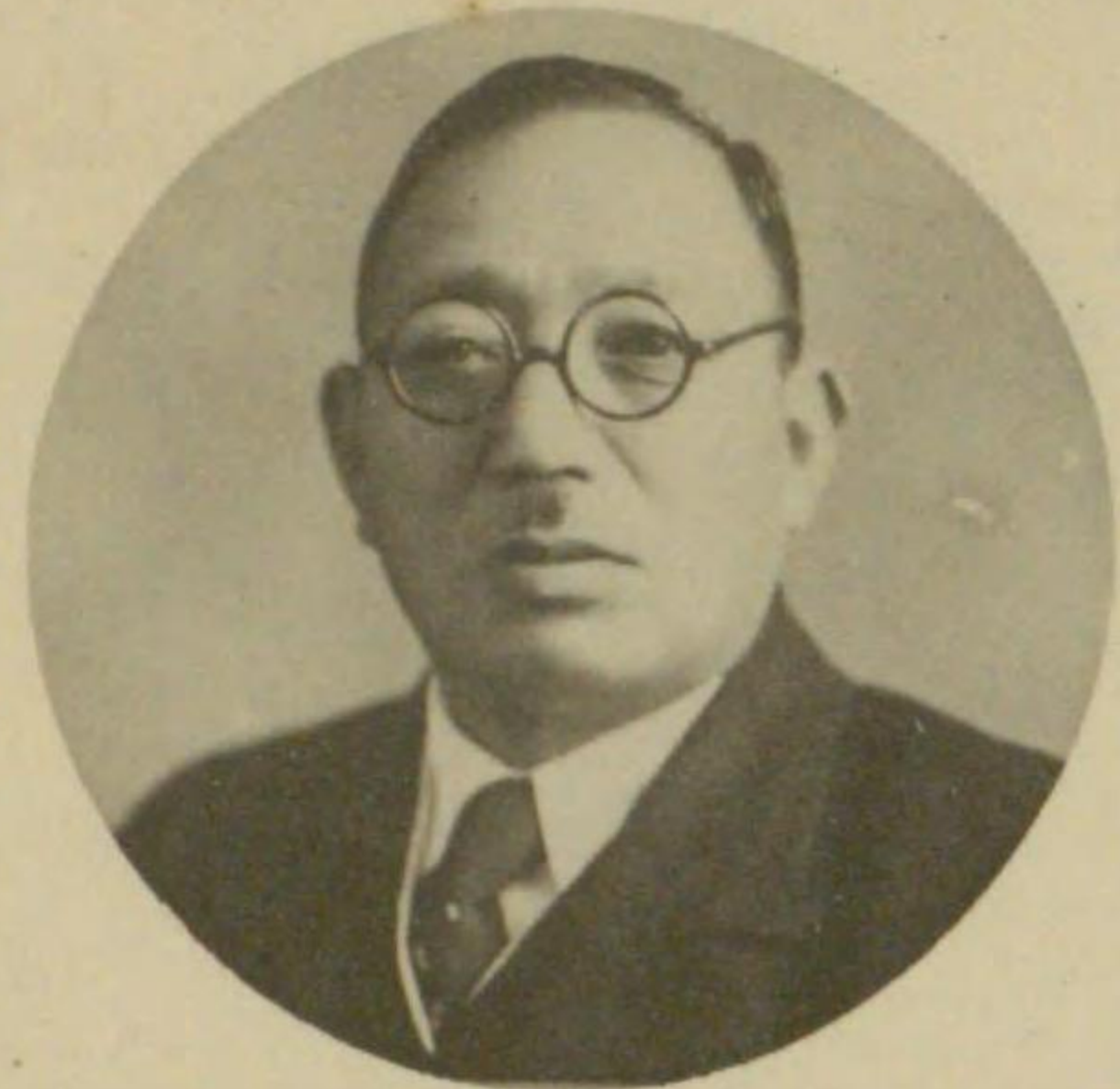


市議員  
矢崎六郎

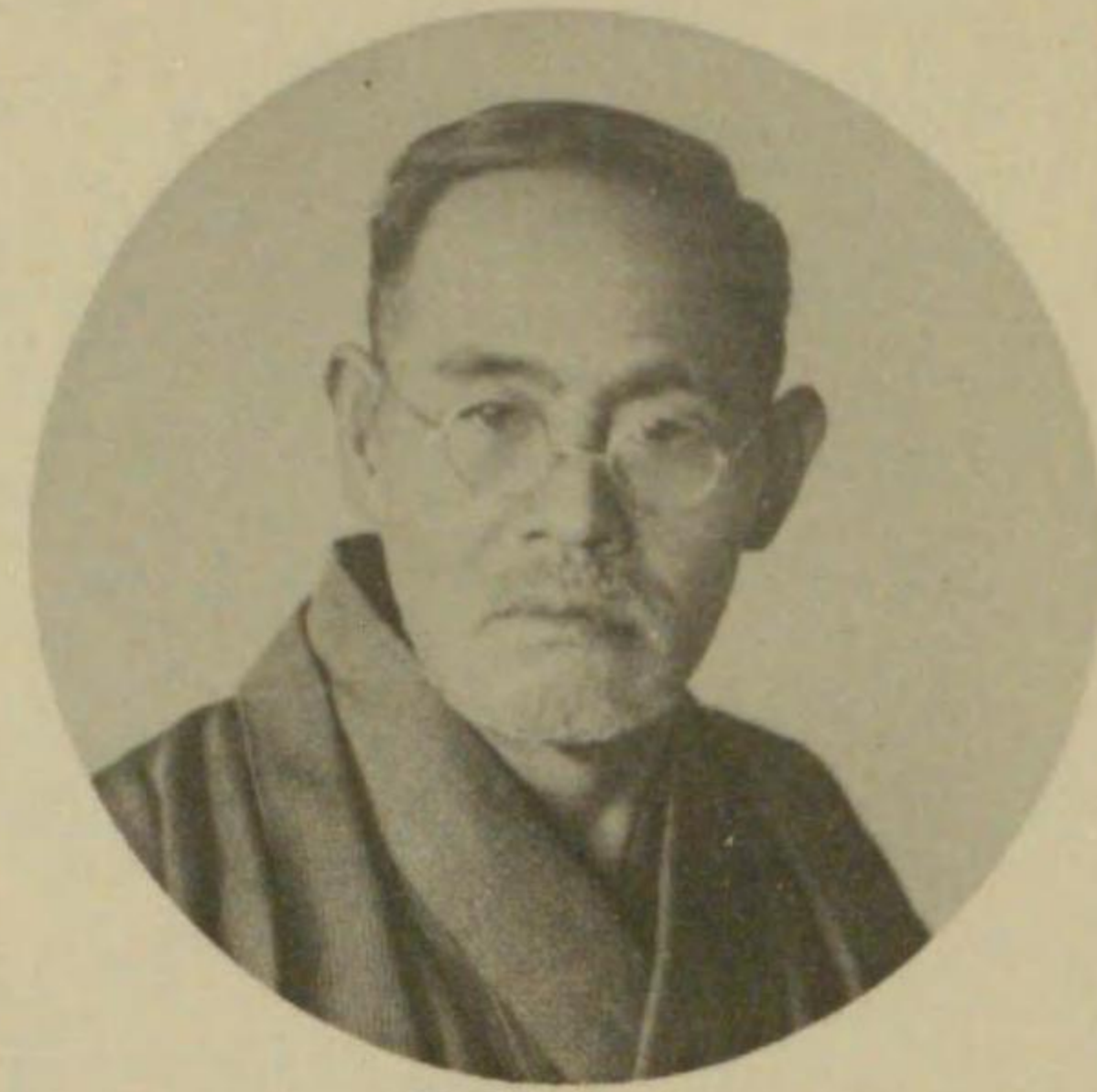


市議員  
田中恒雄

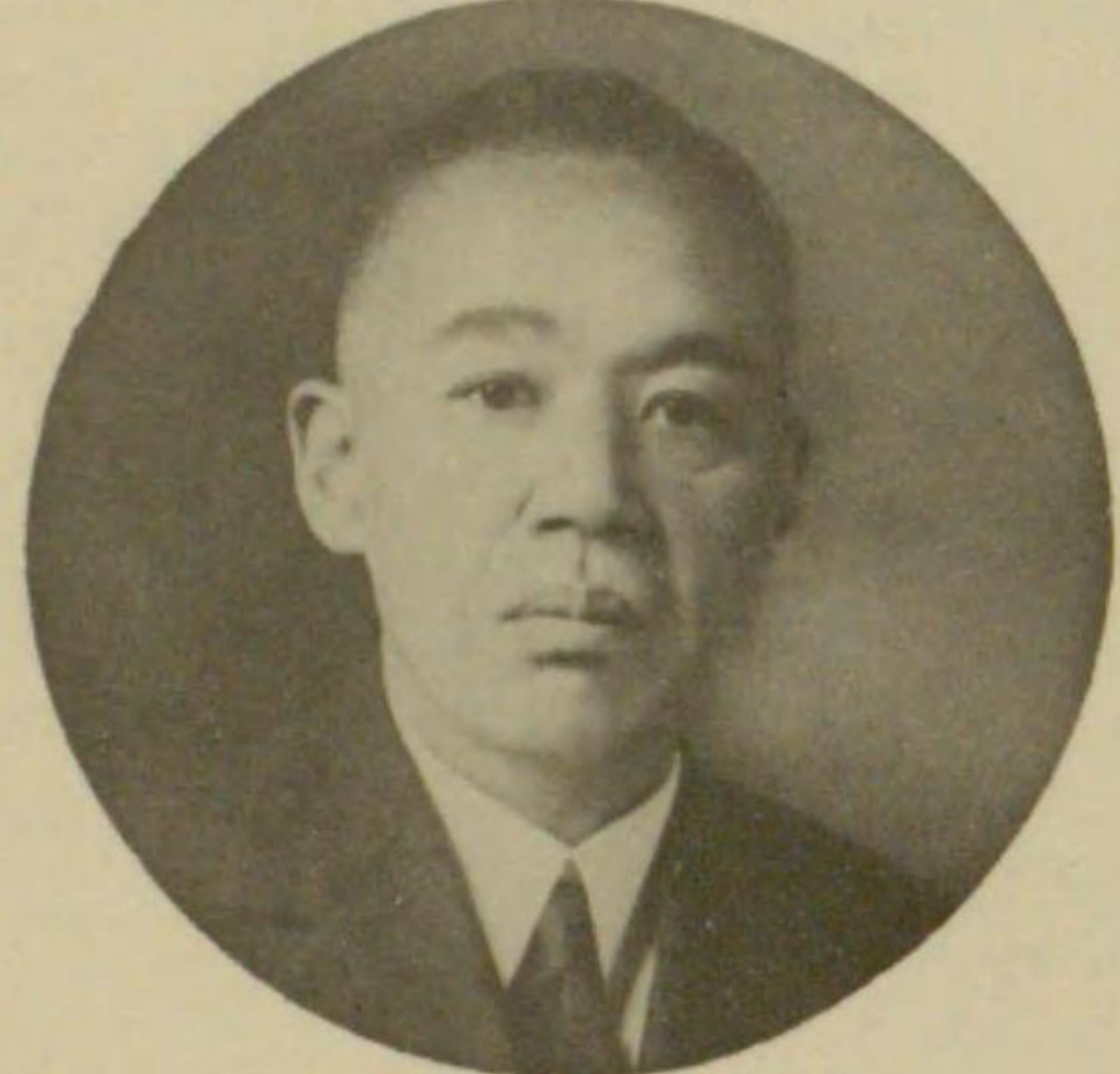




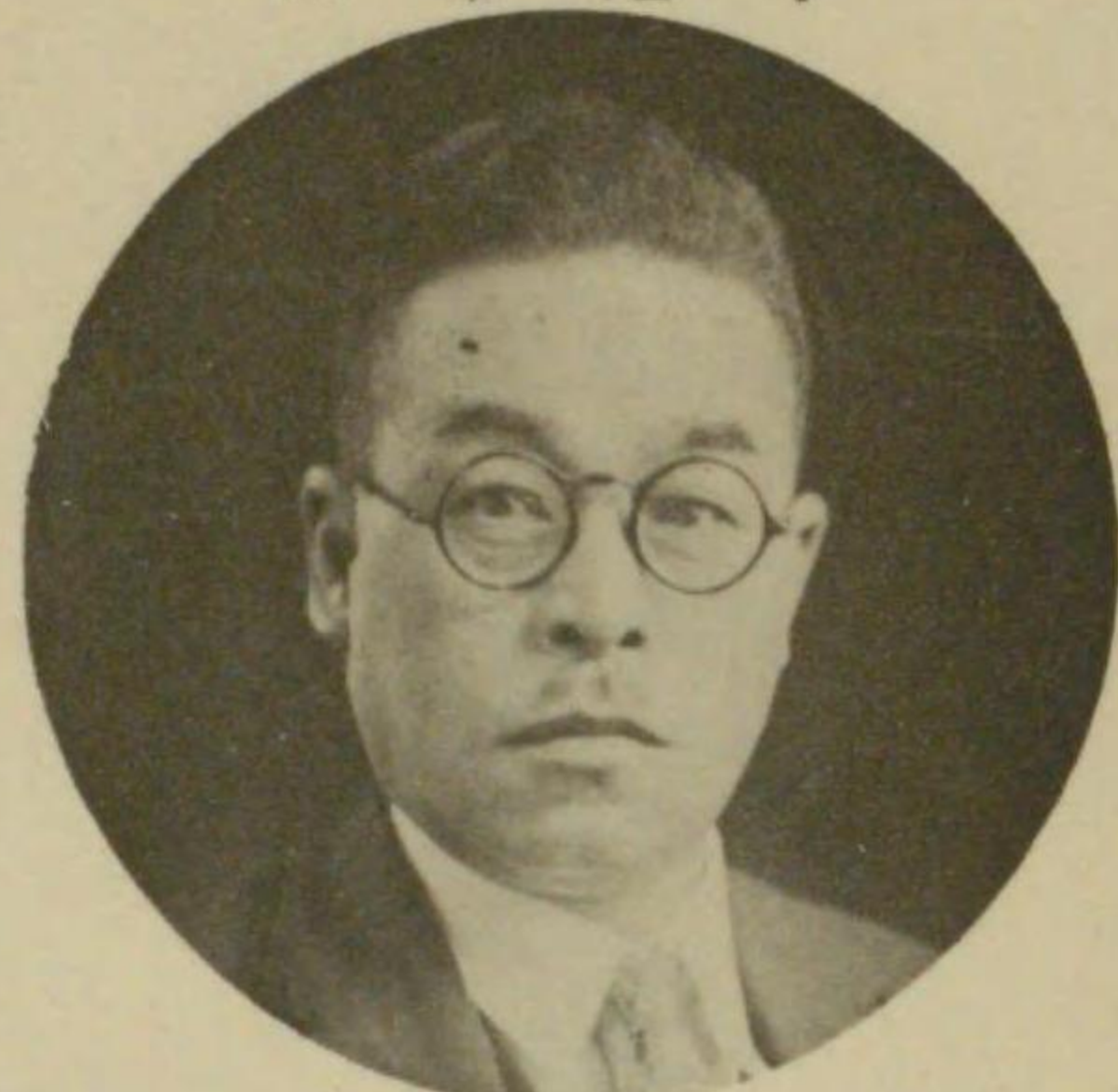
員議會市  
敏正澤深



員議會市  
祐常込中



員議會市  
雄重屋古



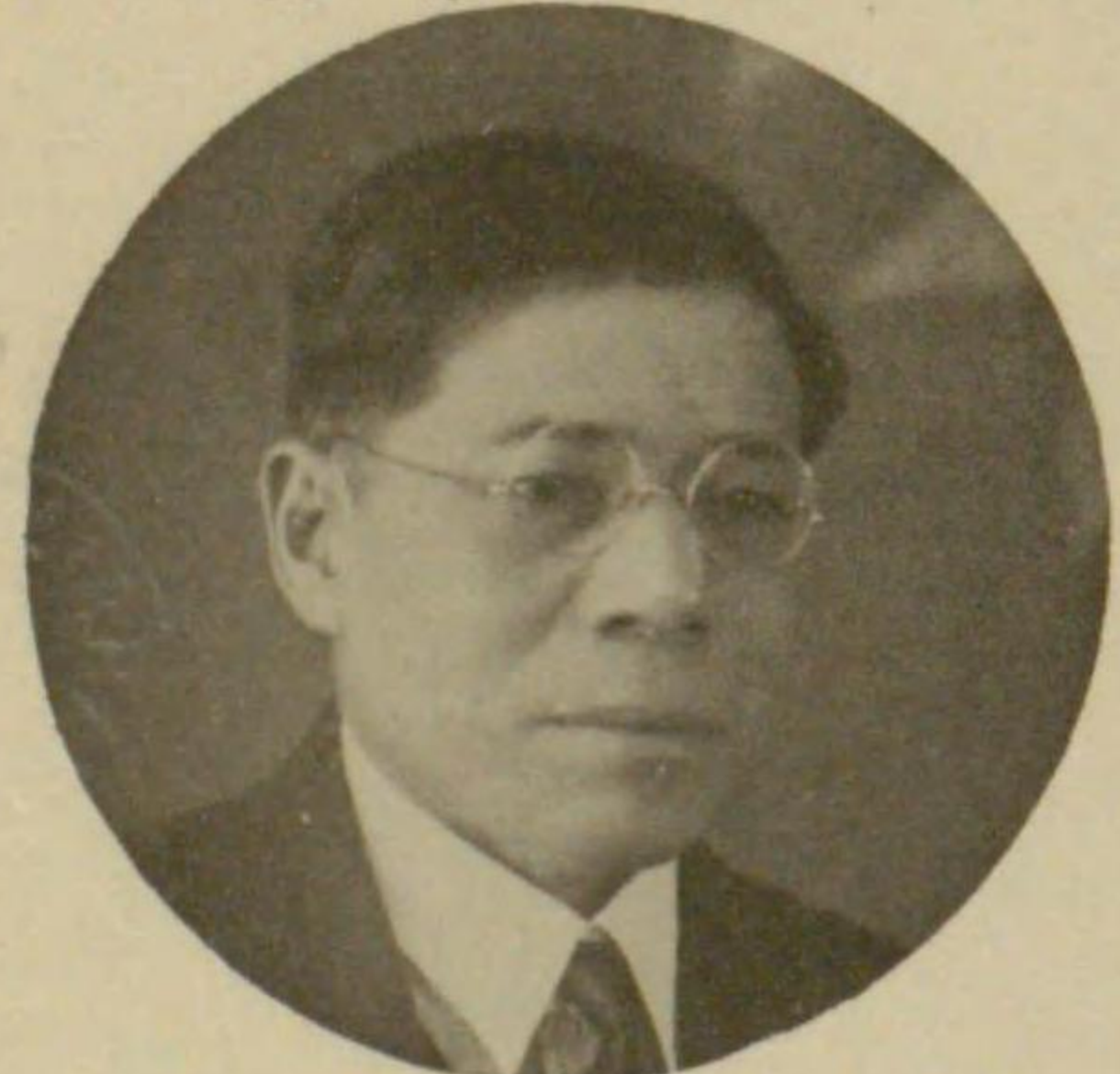
員議會市  
造知井三



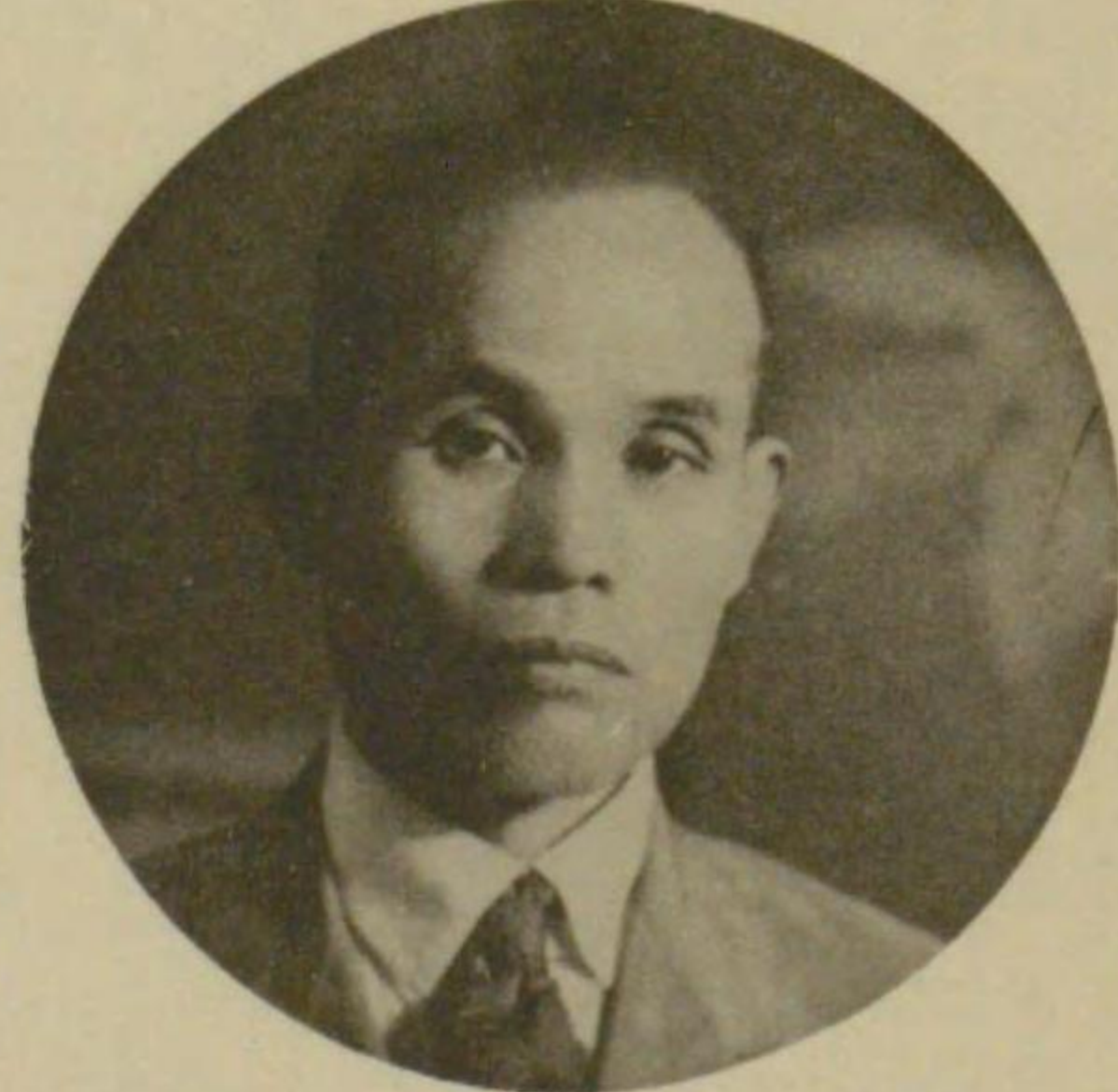
員議會市  
吉米田福



員議會市  
孝義田角

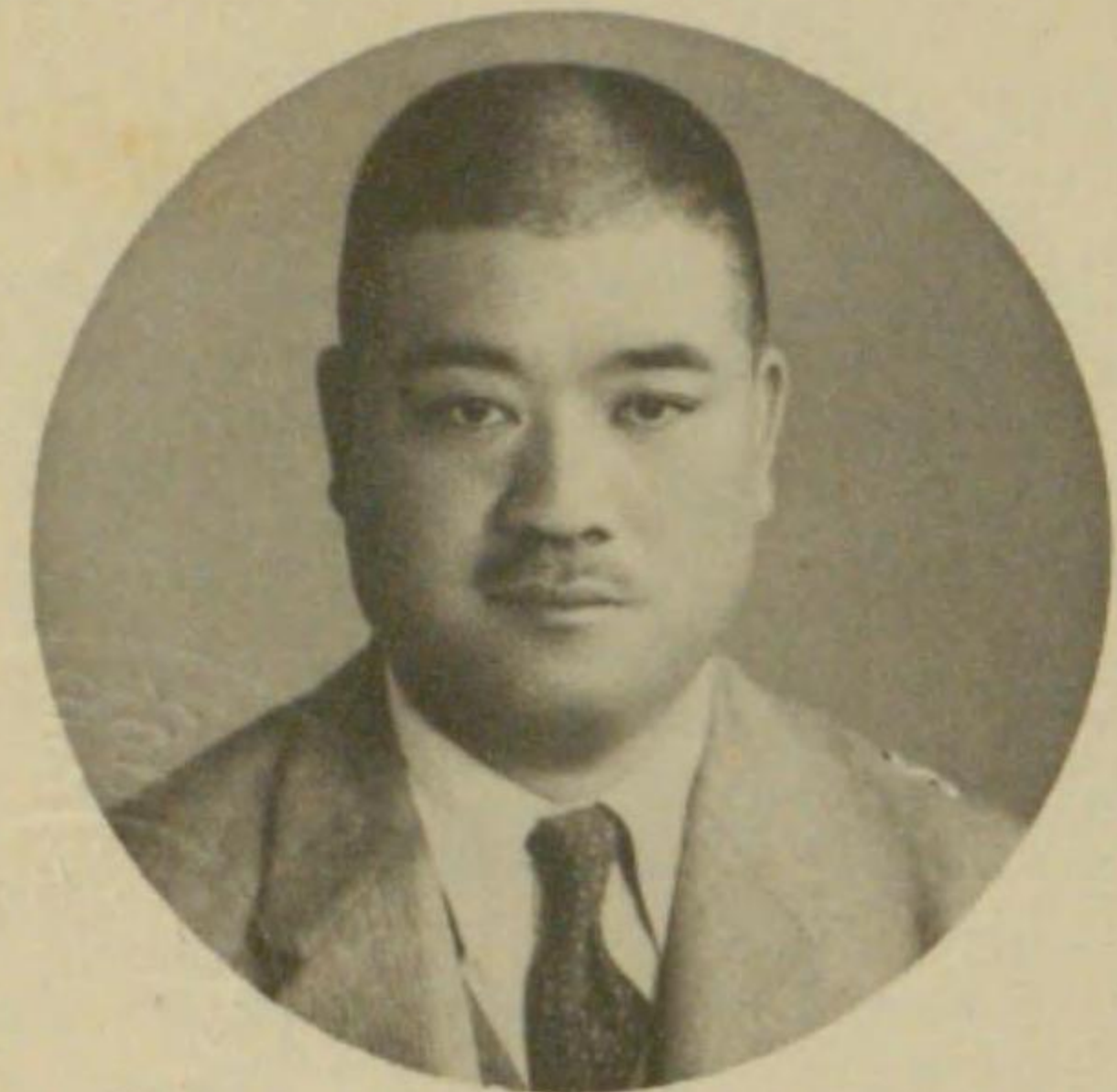


員議會市  
郎次浪出平



員議會市  
宮齋澤七

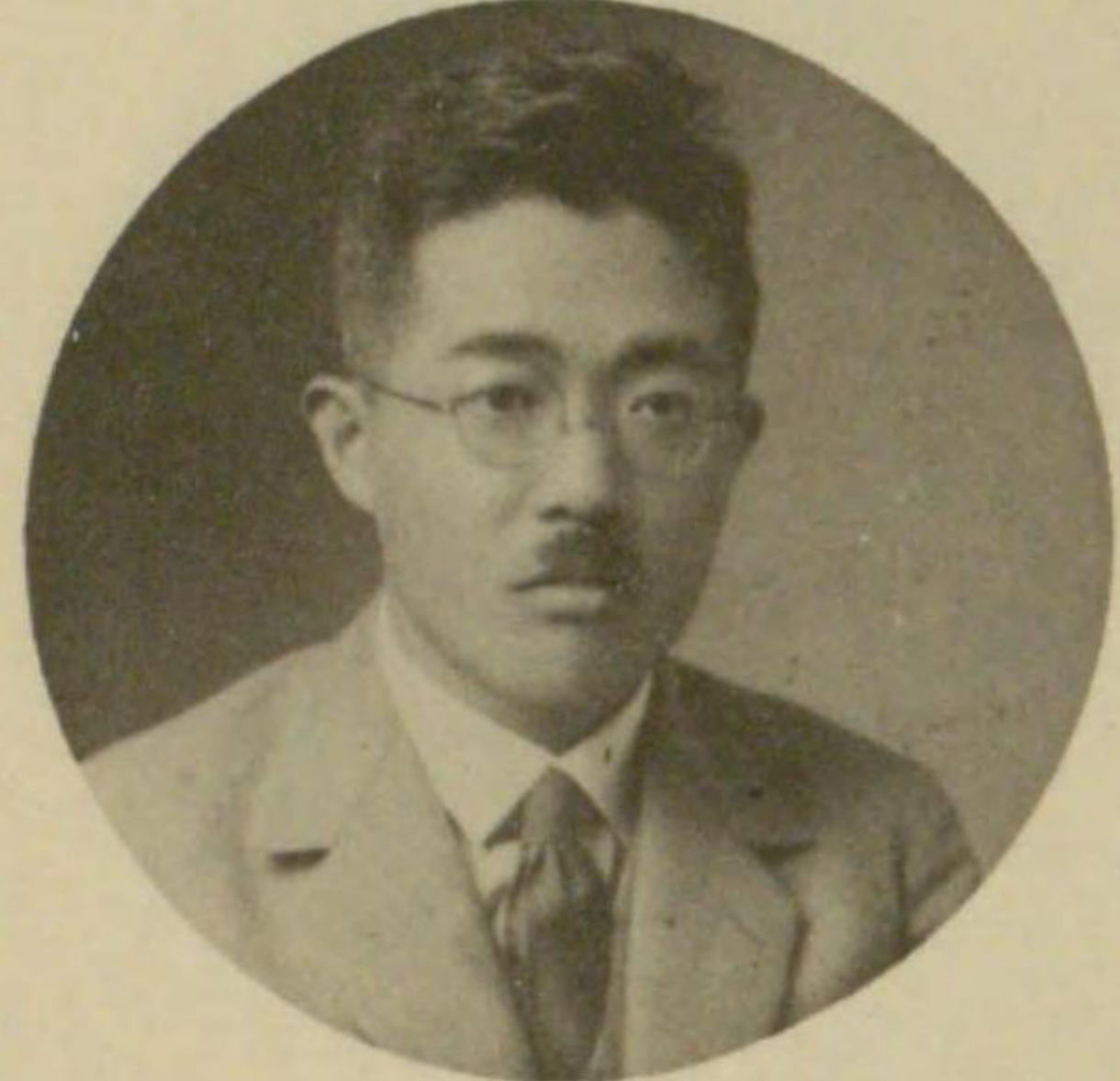




員議會市  
清 山 秋



員議會市  
誠 田 沖



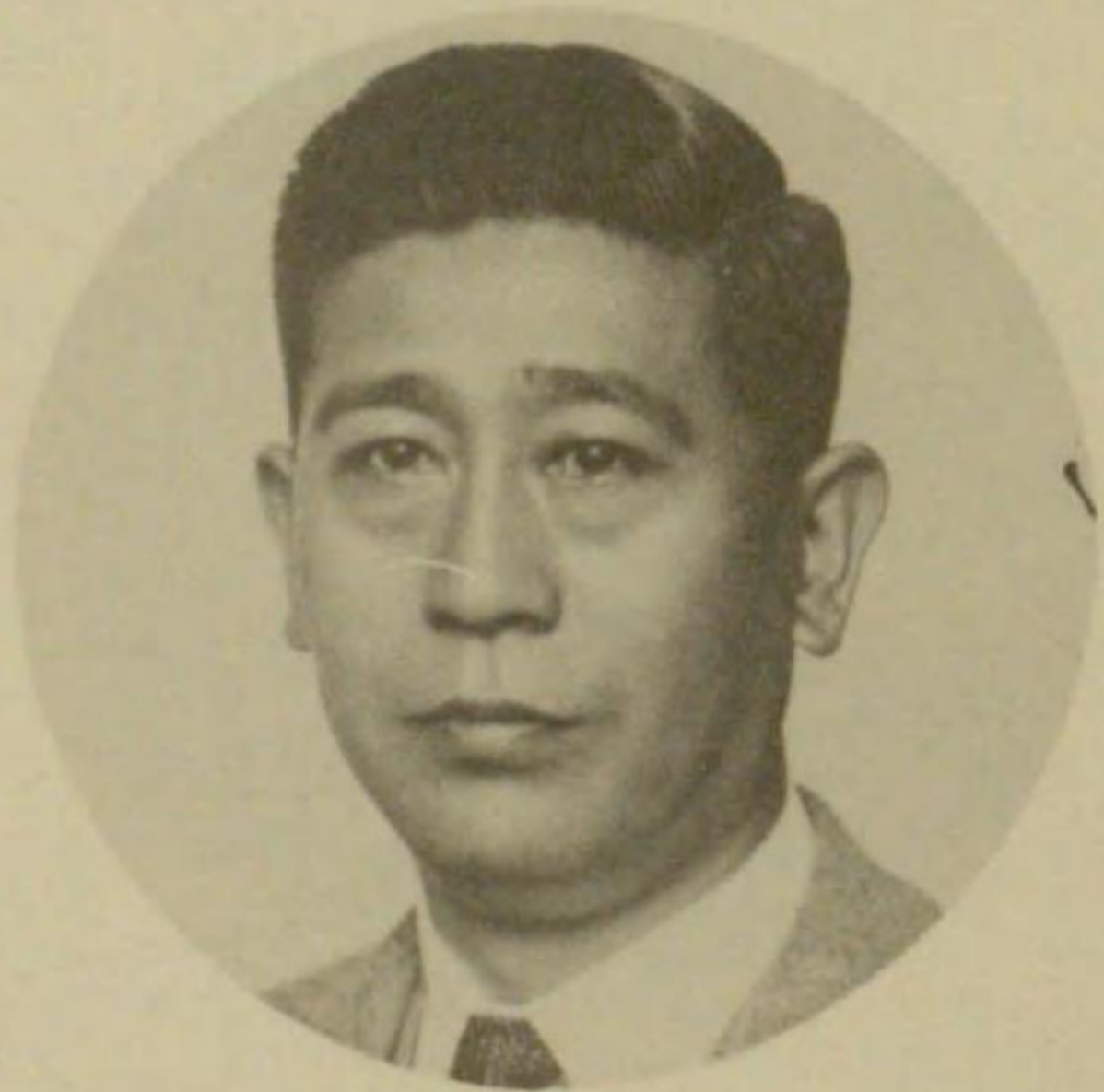
員議會市  
親 義 泉 小



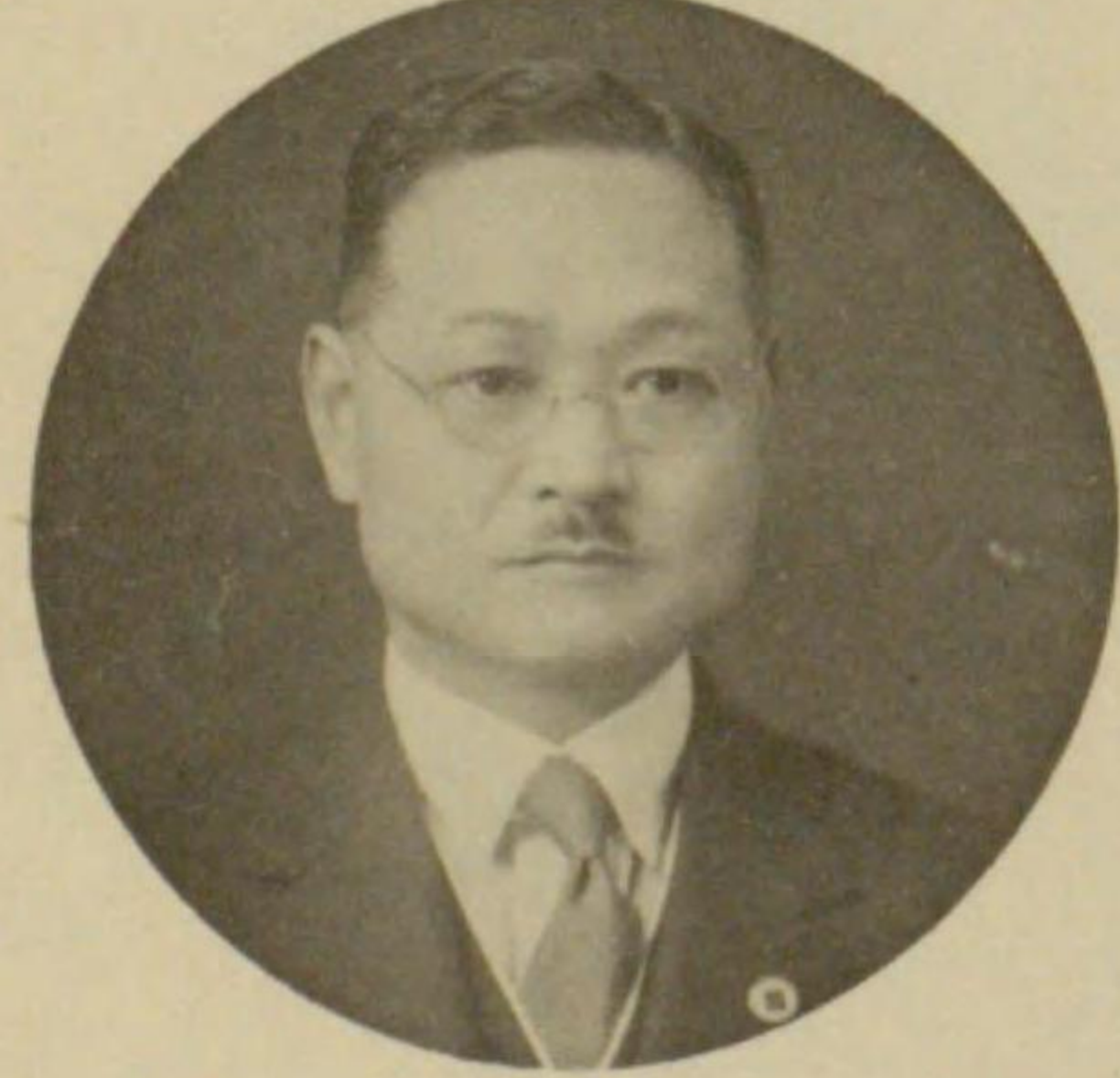
員議會市  
松 西 中



員議會市  
門衛右幸 山 秋



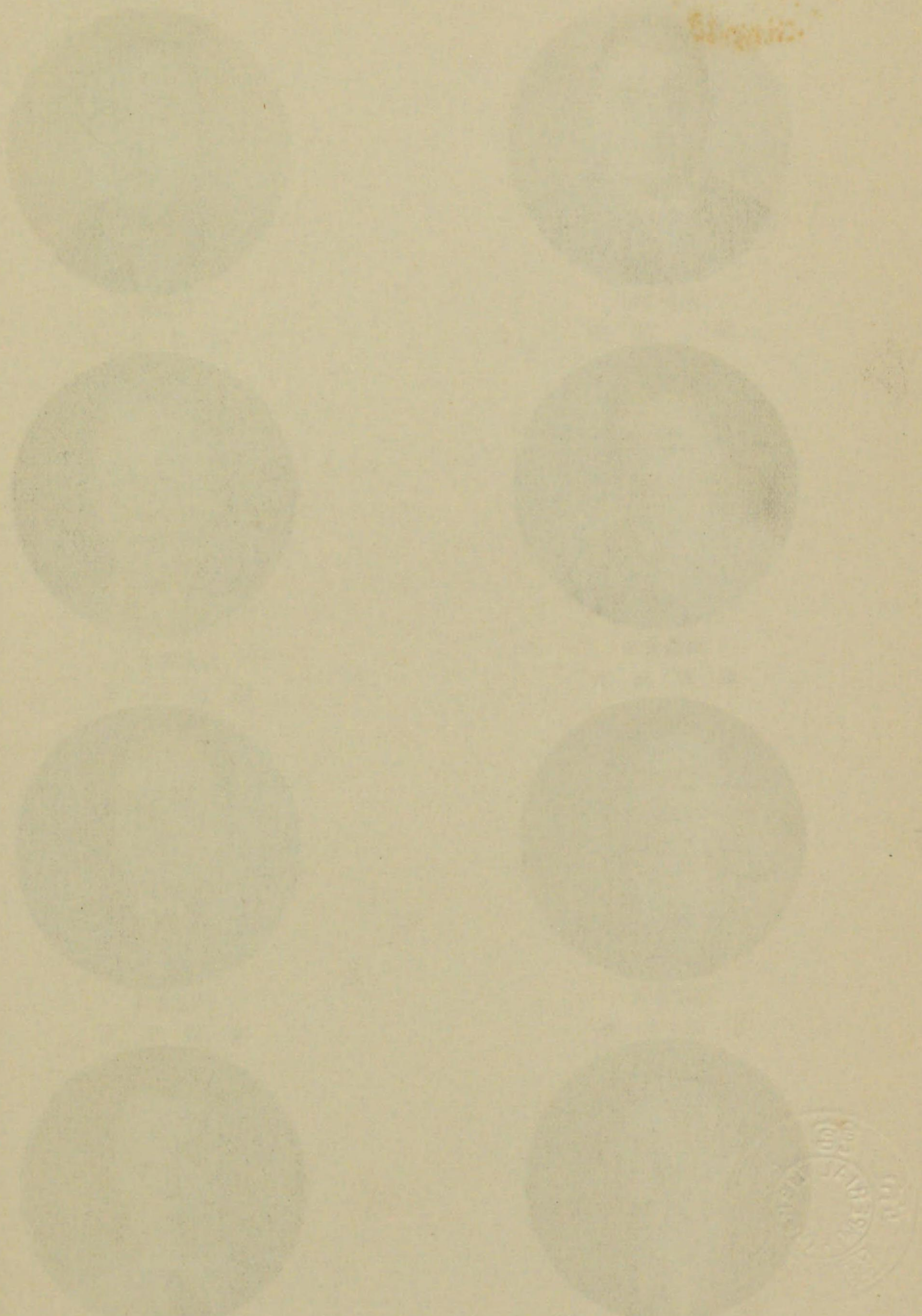
員議會市  
男 七 田 寺



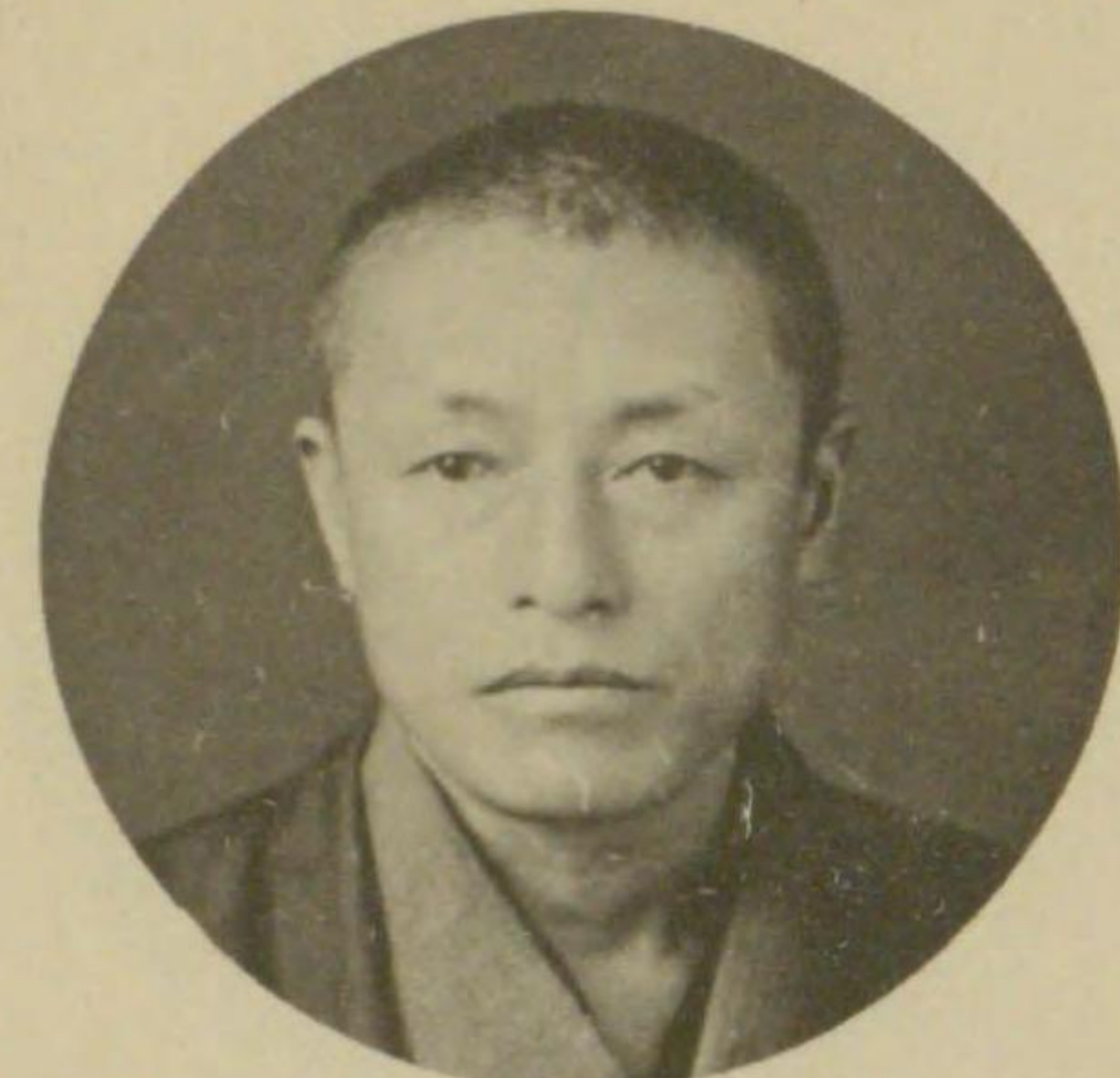
員議會市  
輔 資 藤 佐



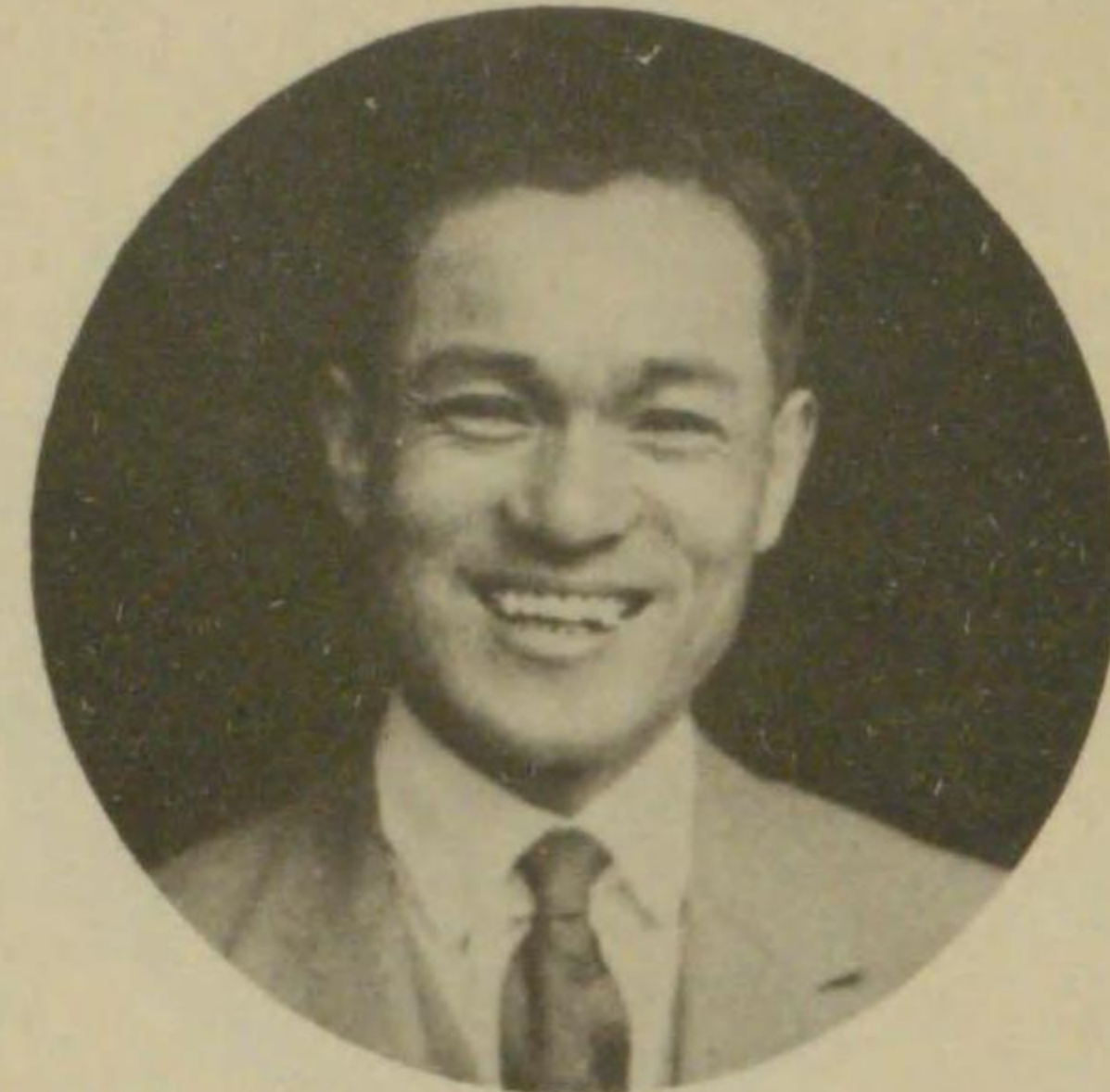
員議會市  
郎 次 半 島 新



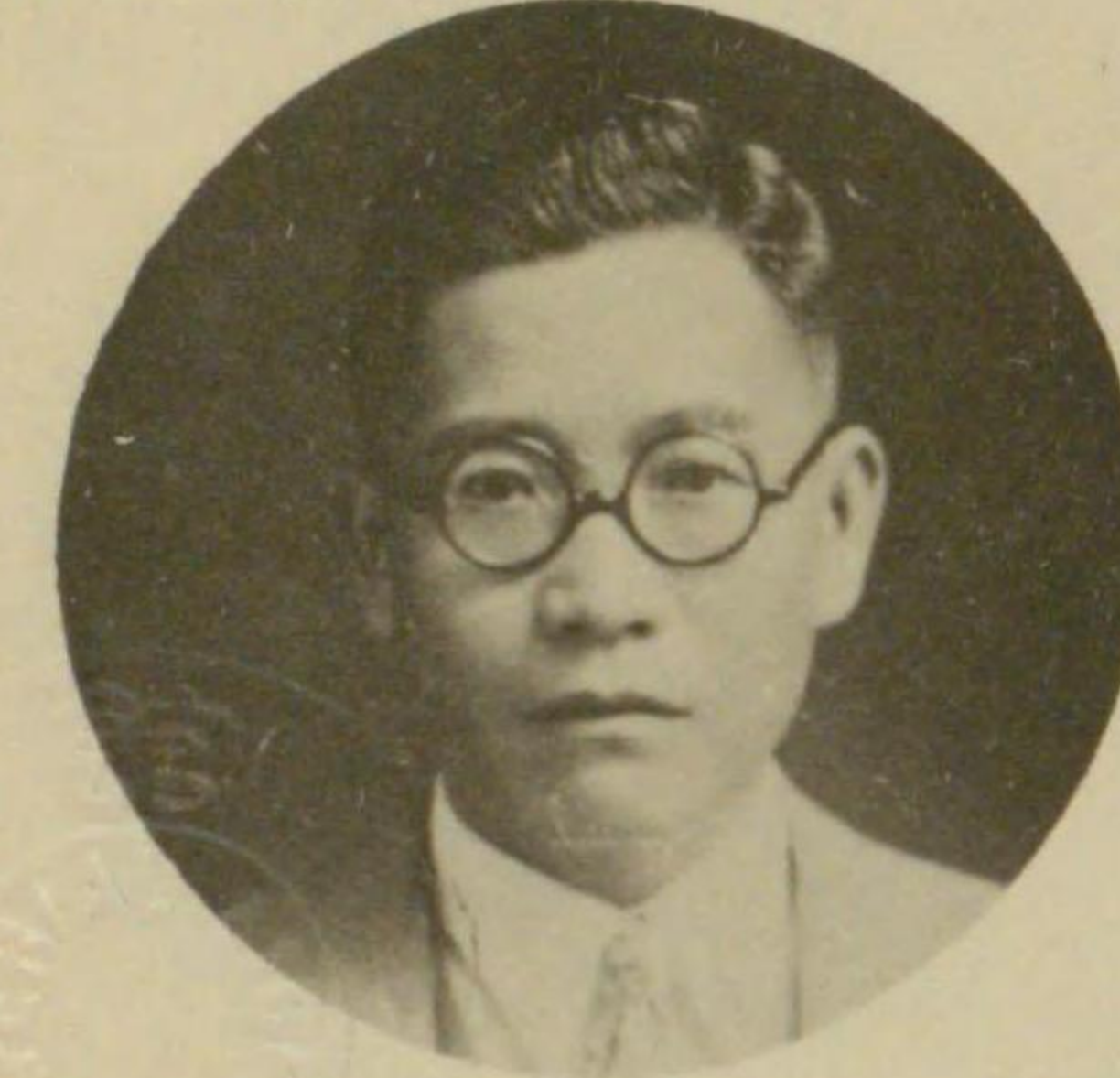




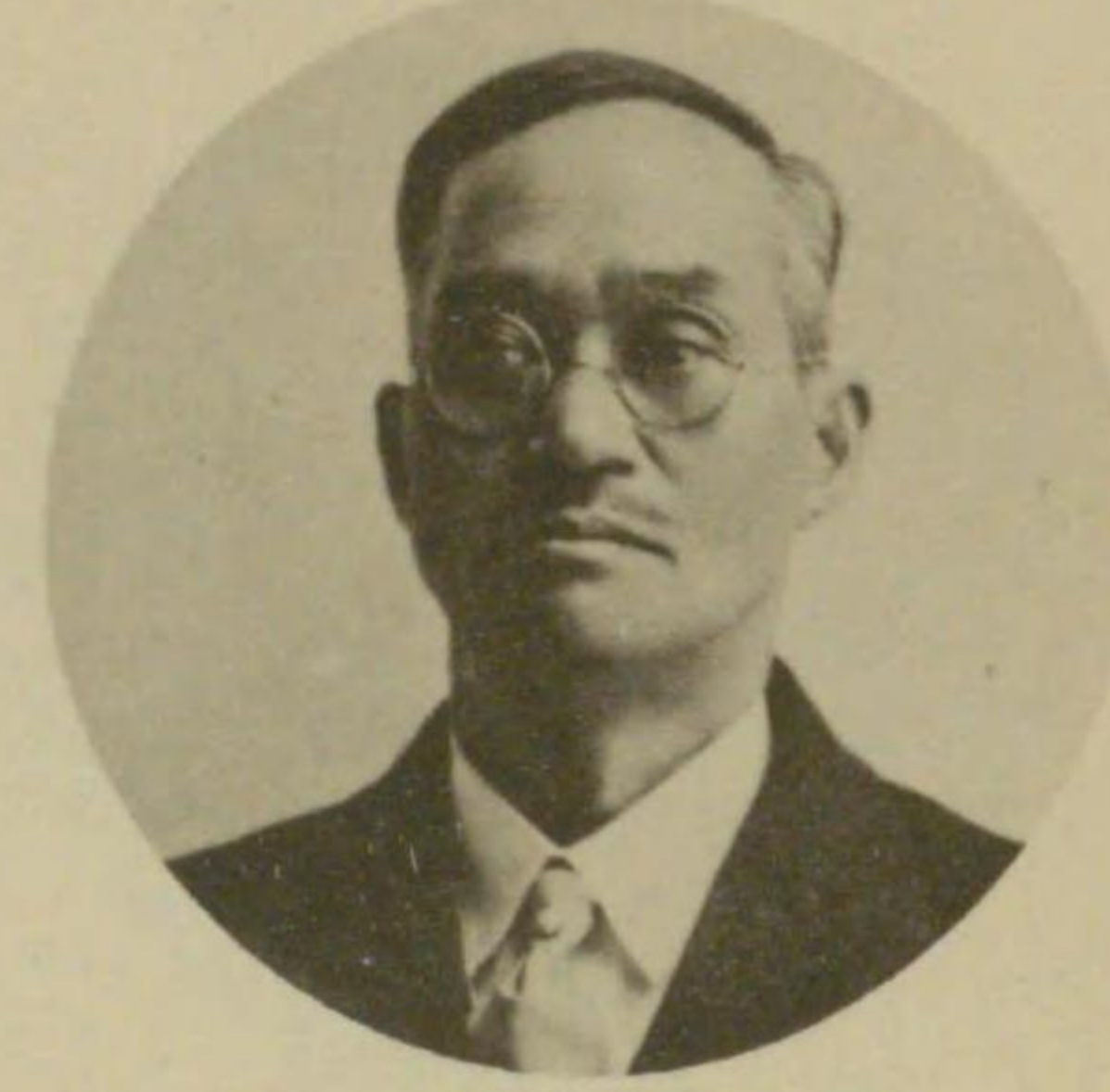
員議會市  
治萬九村田



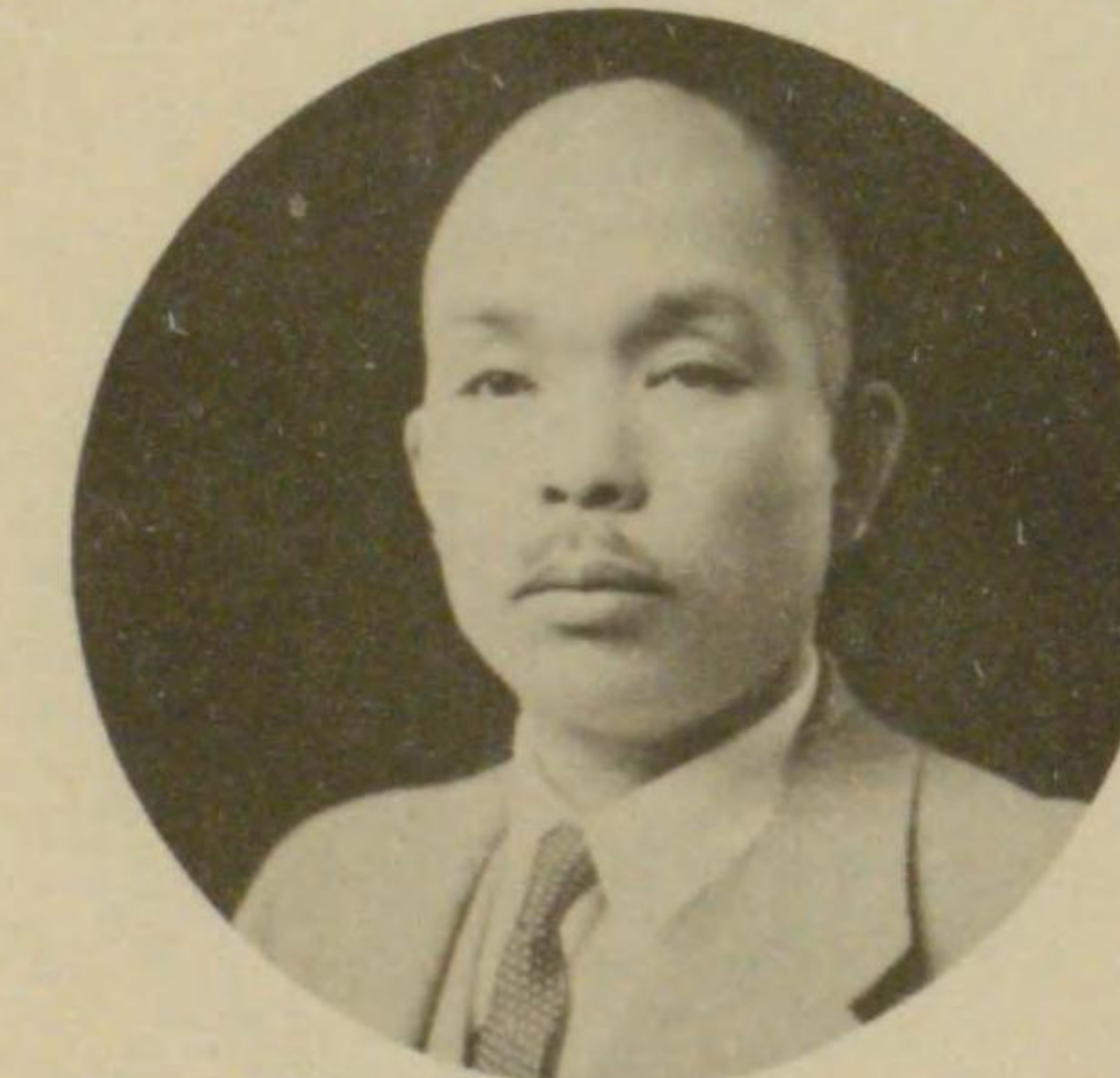
員議會市  
策耕野有



員議會市  
豐宮雨



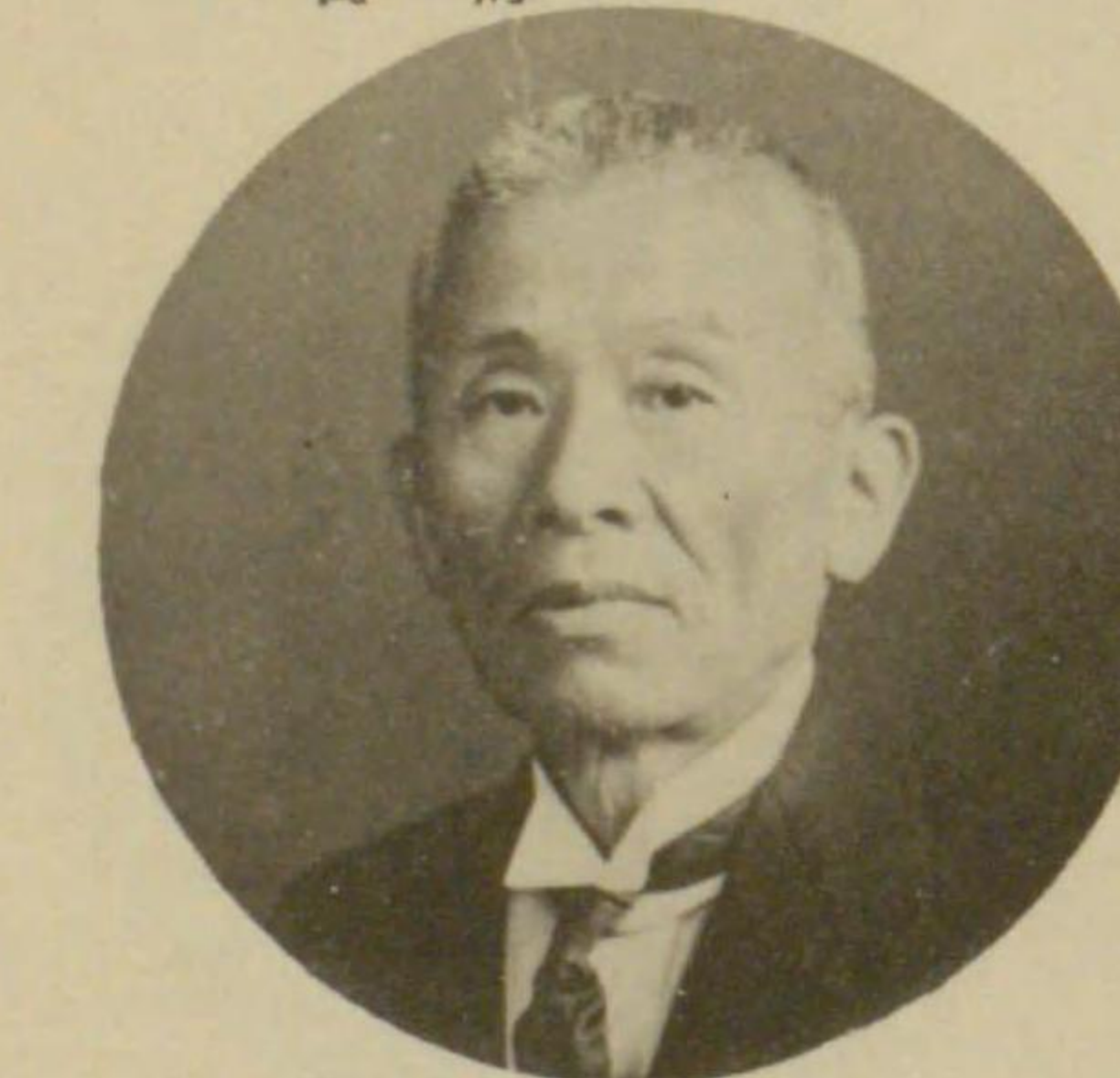
員議會市  
郎三與邊渡



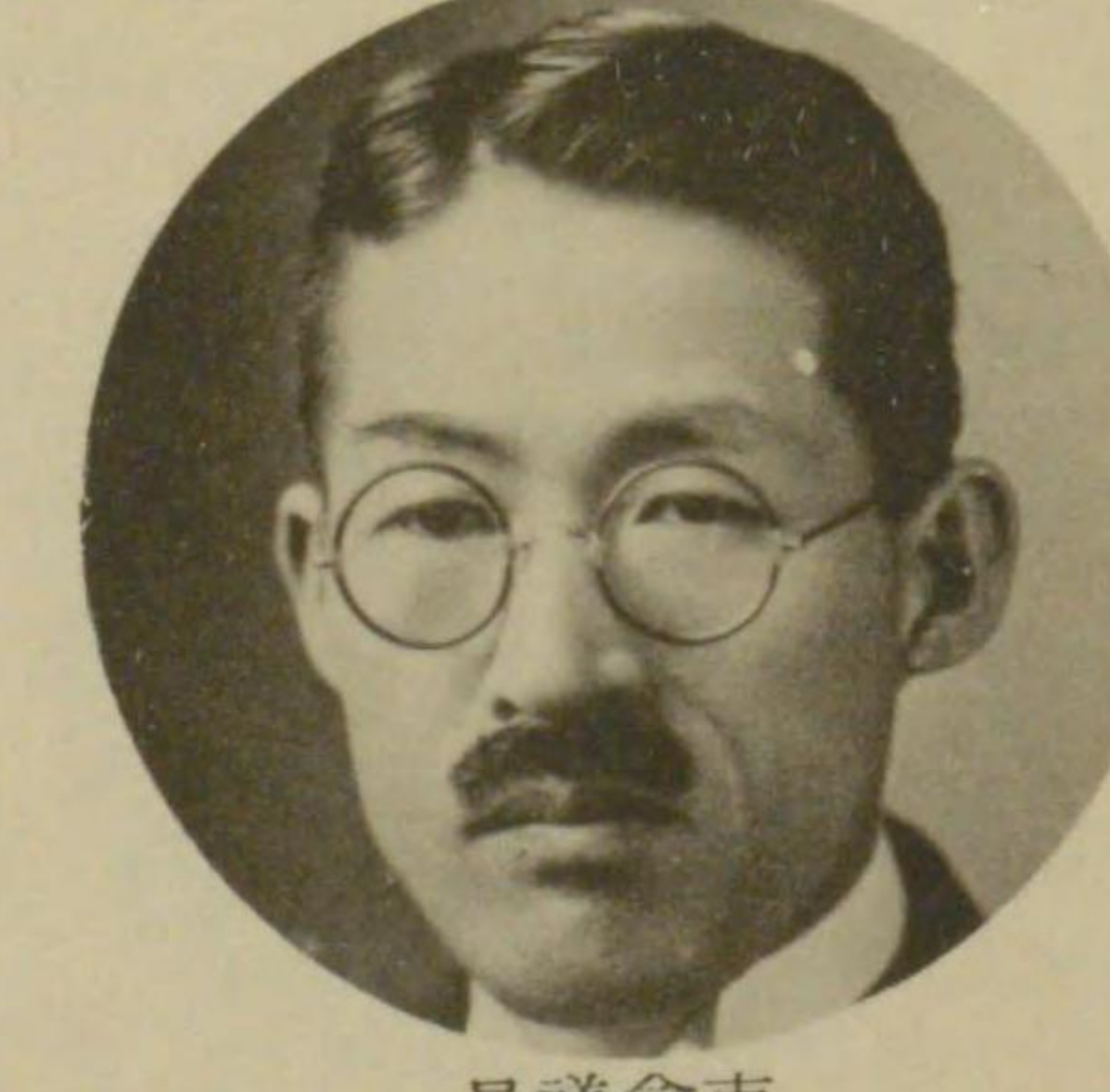
員議會市  
吉梅口谷



員議會市  
郎太重林小

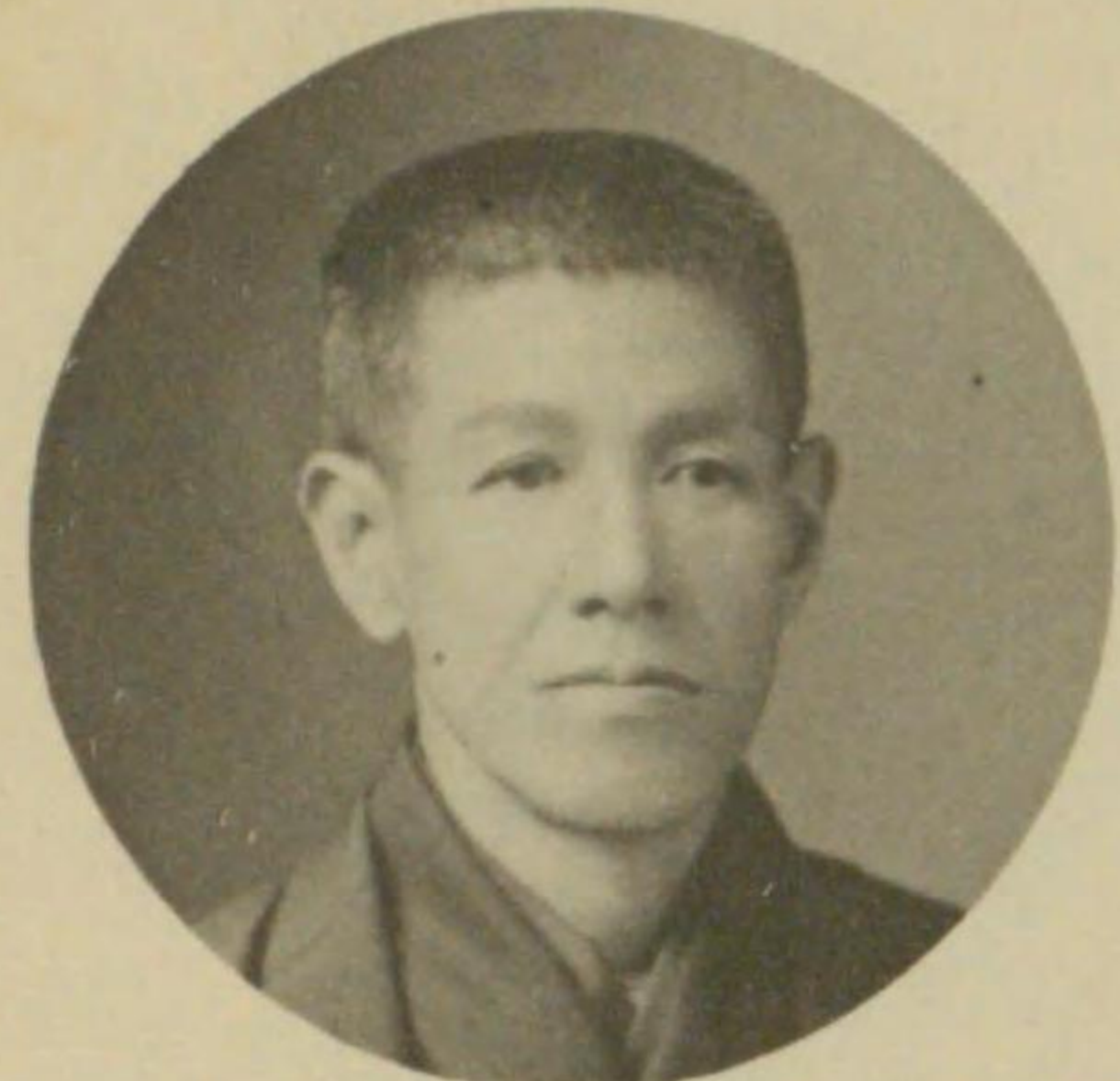


員議會市前  
策逸田鶴故

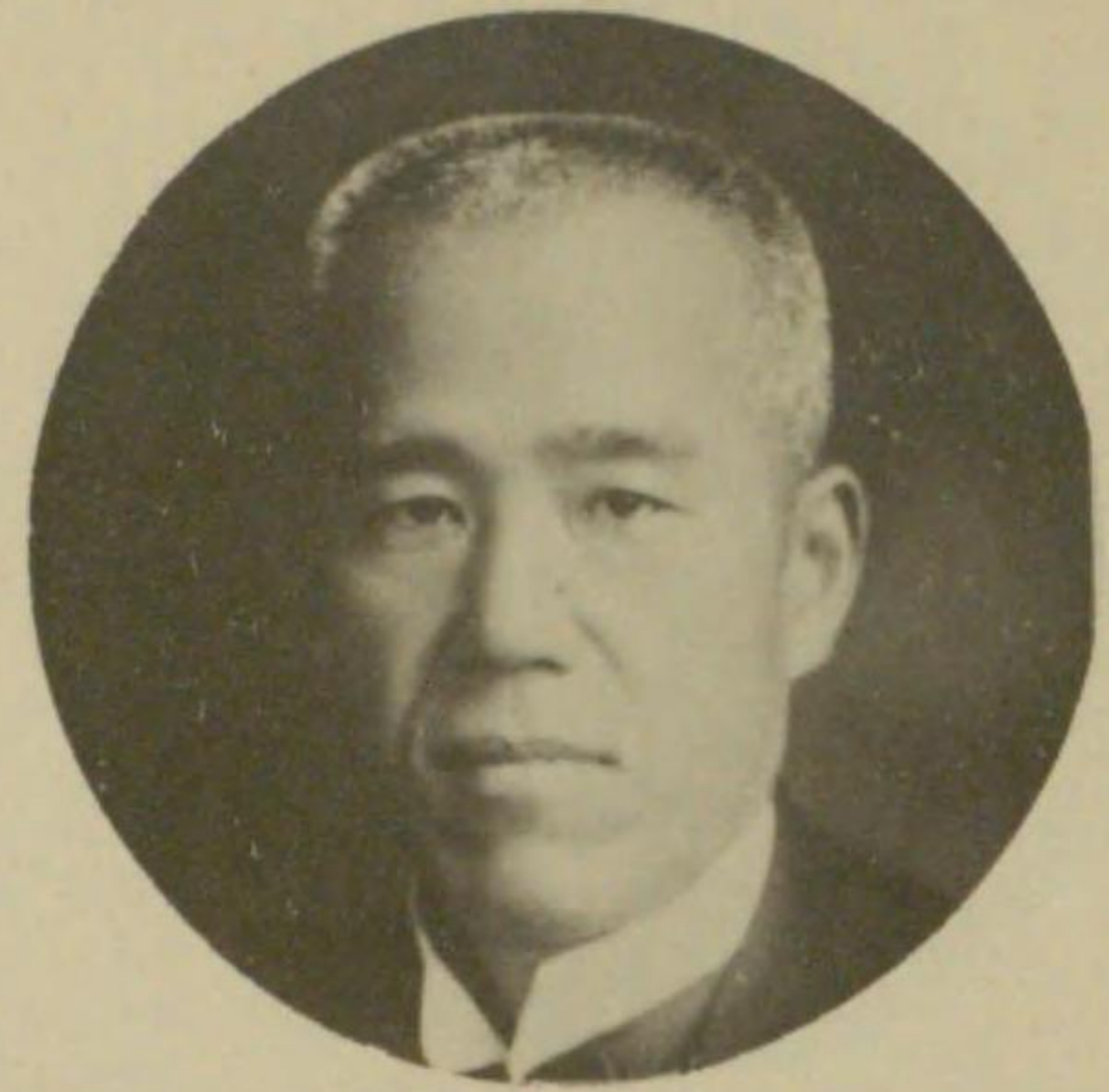


員議會市  
雄良原篠

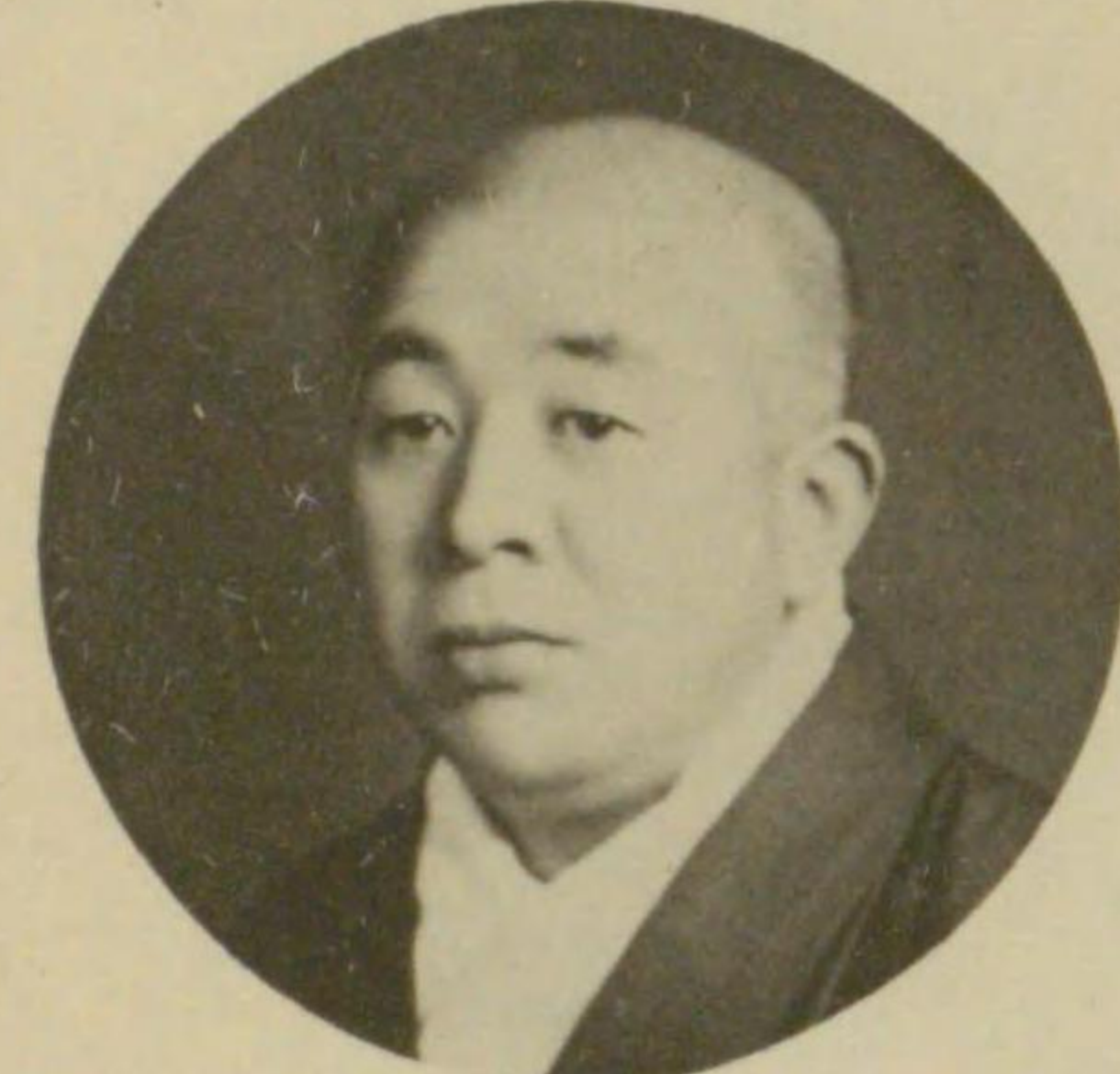




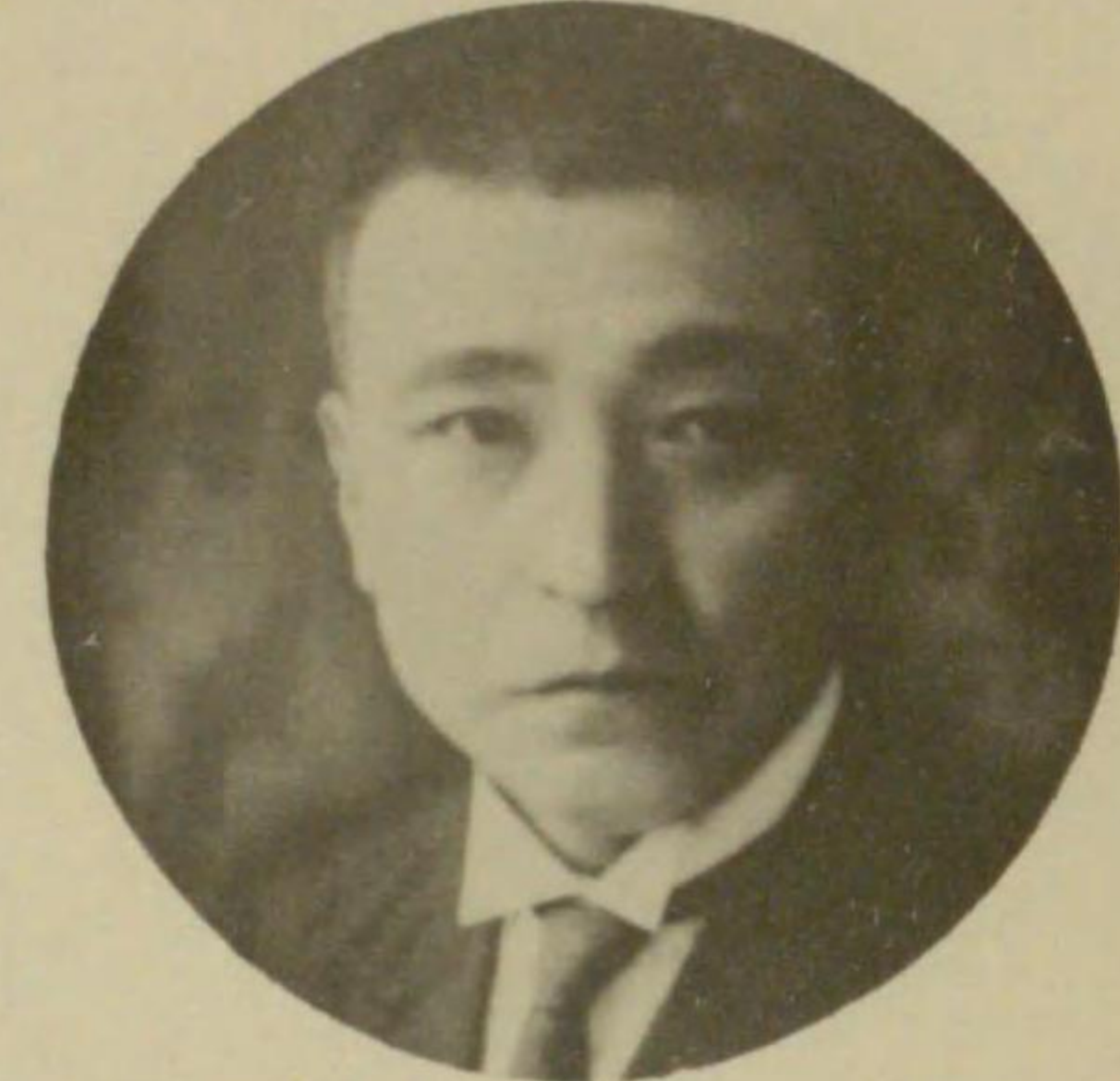
員議會市前  
良三伊原杉故



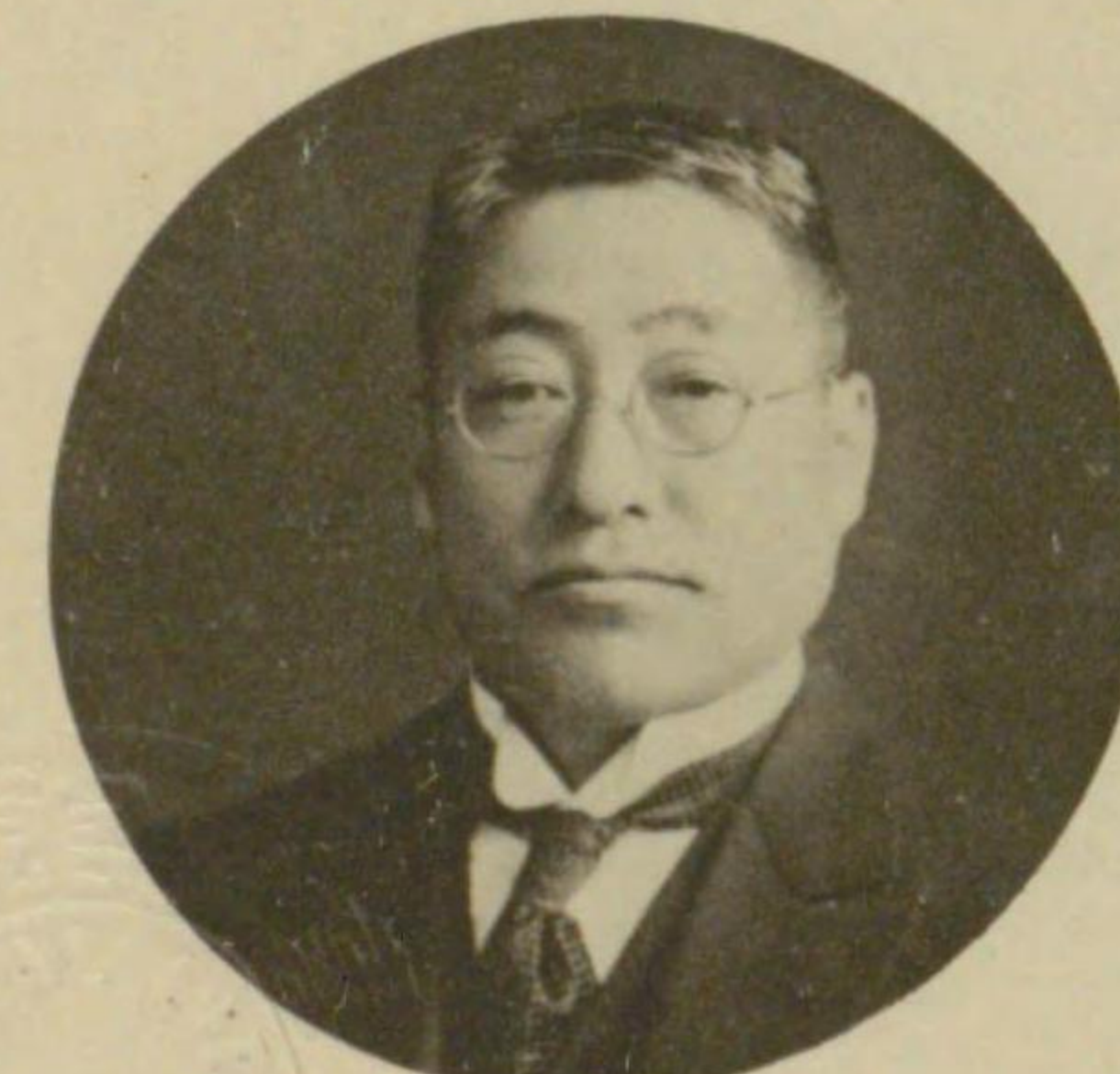
員議會市前  
門衛右茂井今



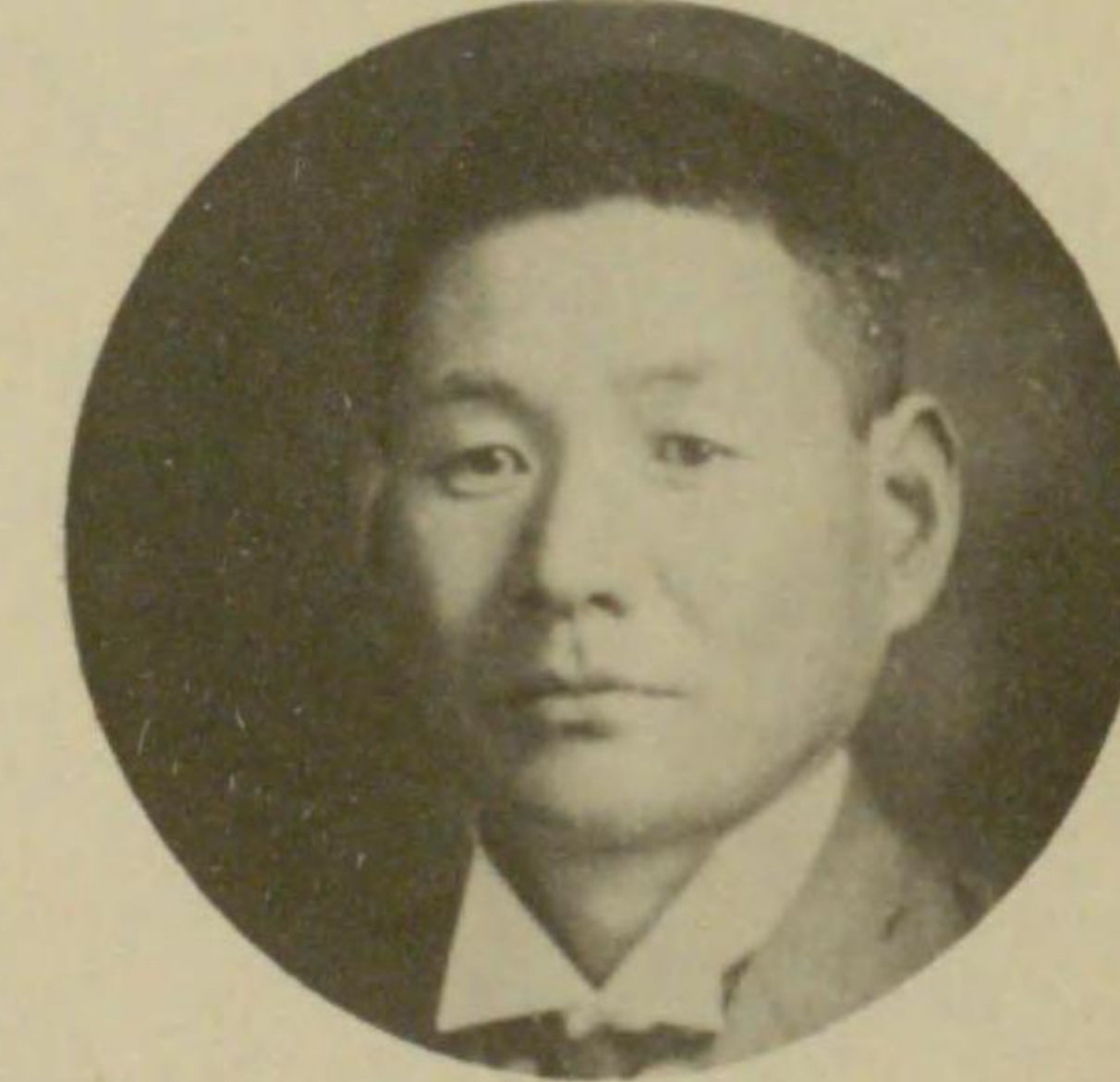
員議會市前  
誓玄村志故



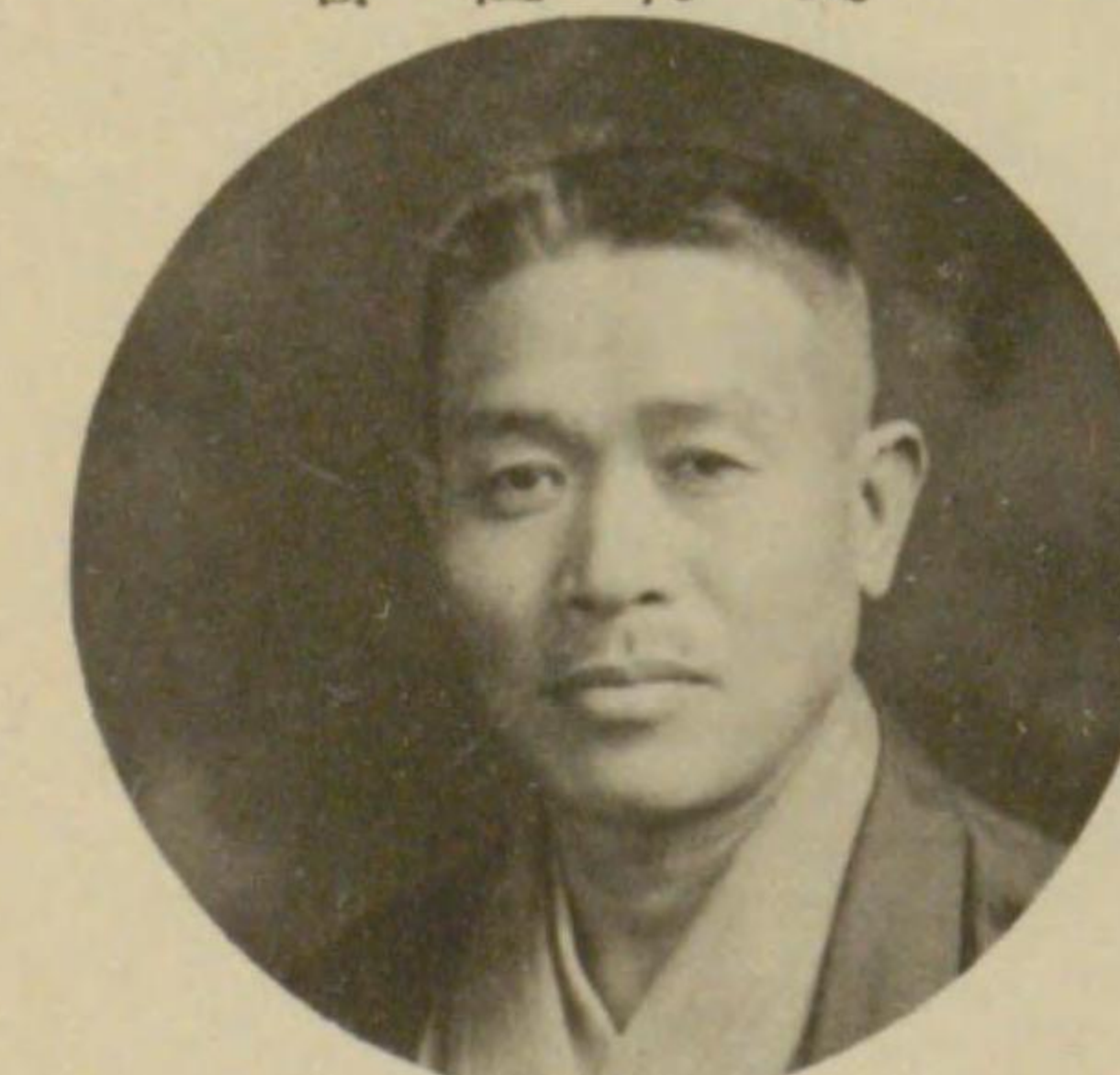
員議會市前  
郎治徳井三故



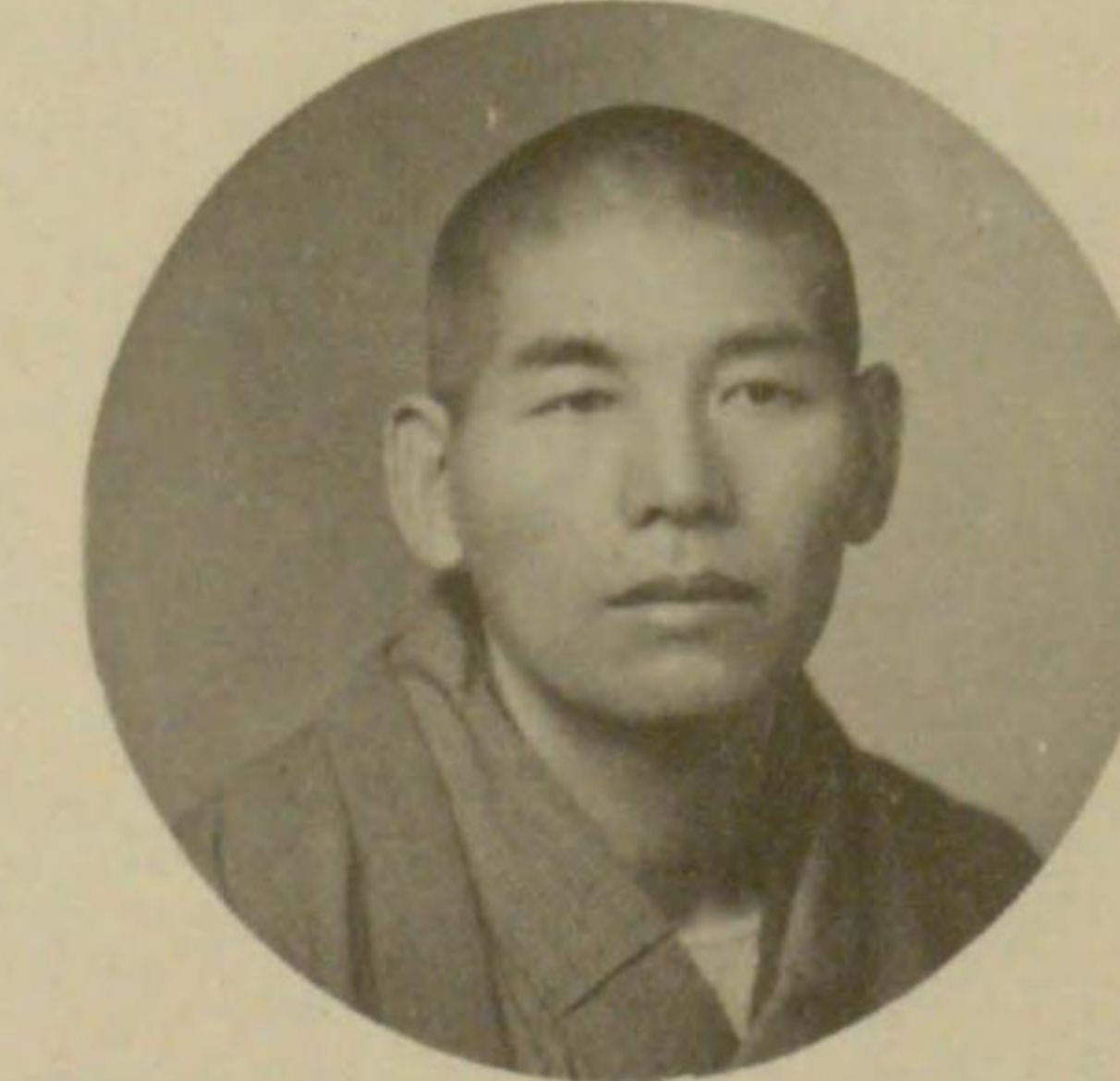
員議會市前  
吉恒村奥



員議會市前  
幸治藤内故



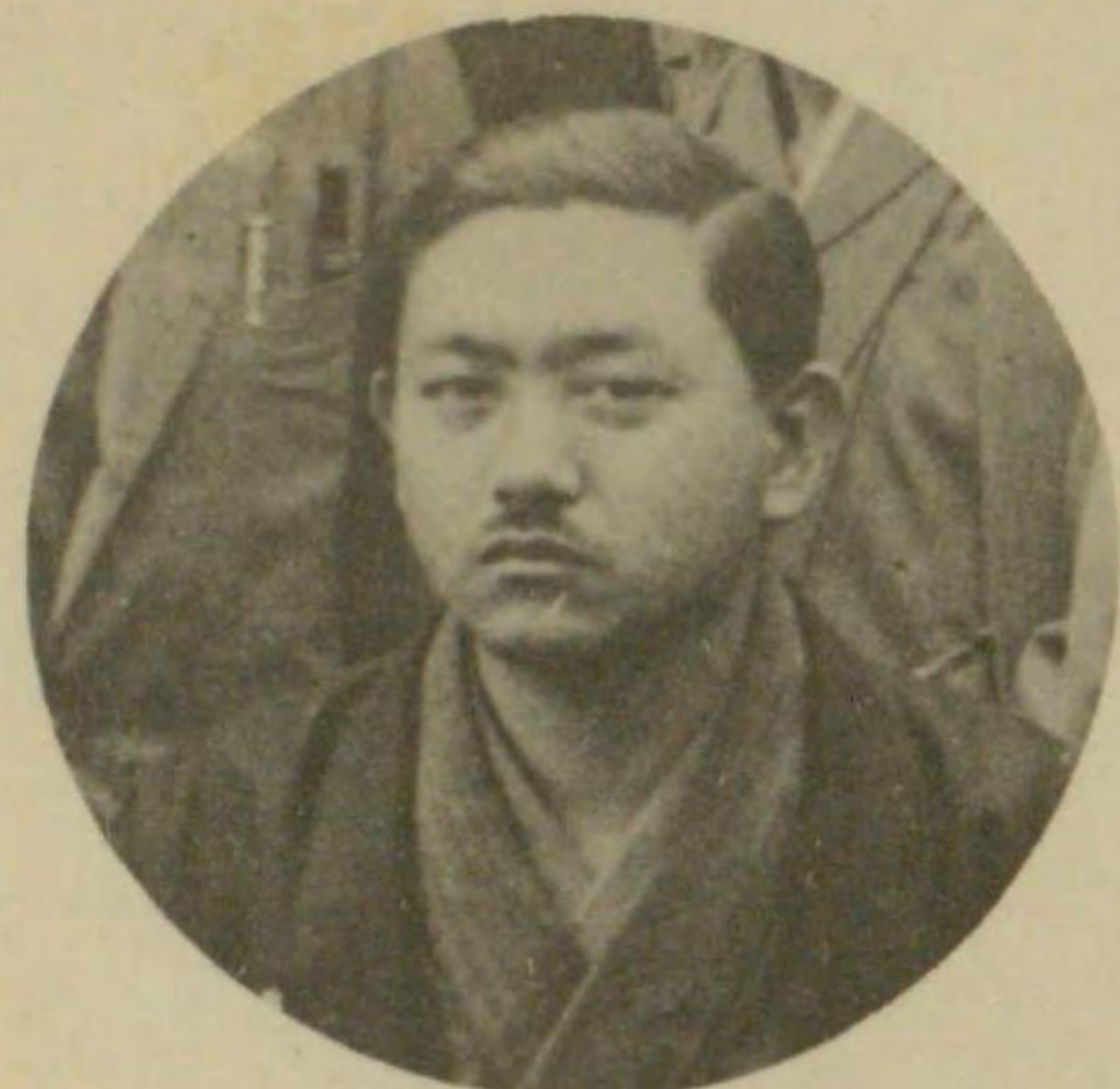
員議會市前  
郎太豊澤仲故



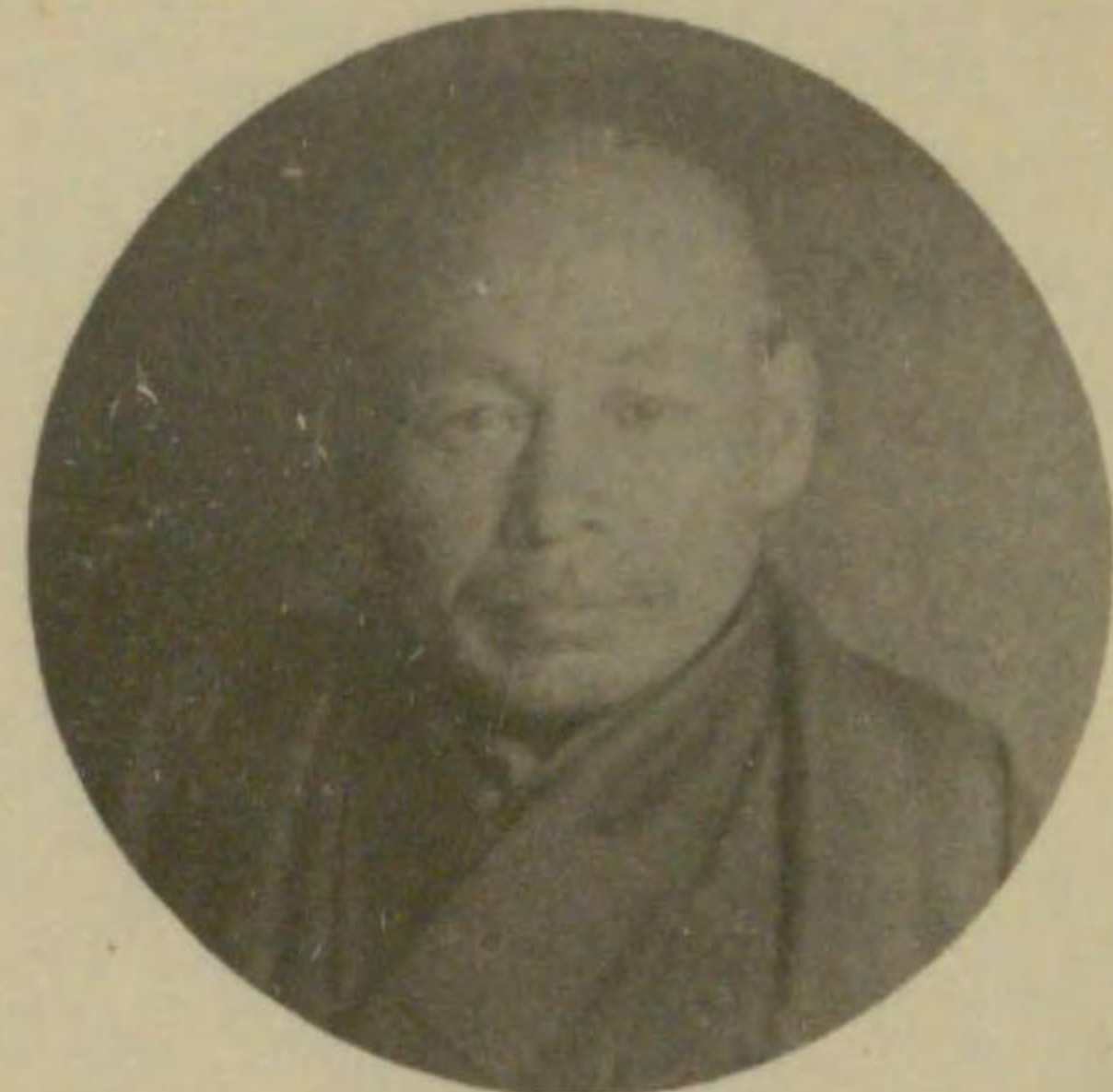
員議會市前  
造萬尻井故



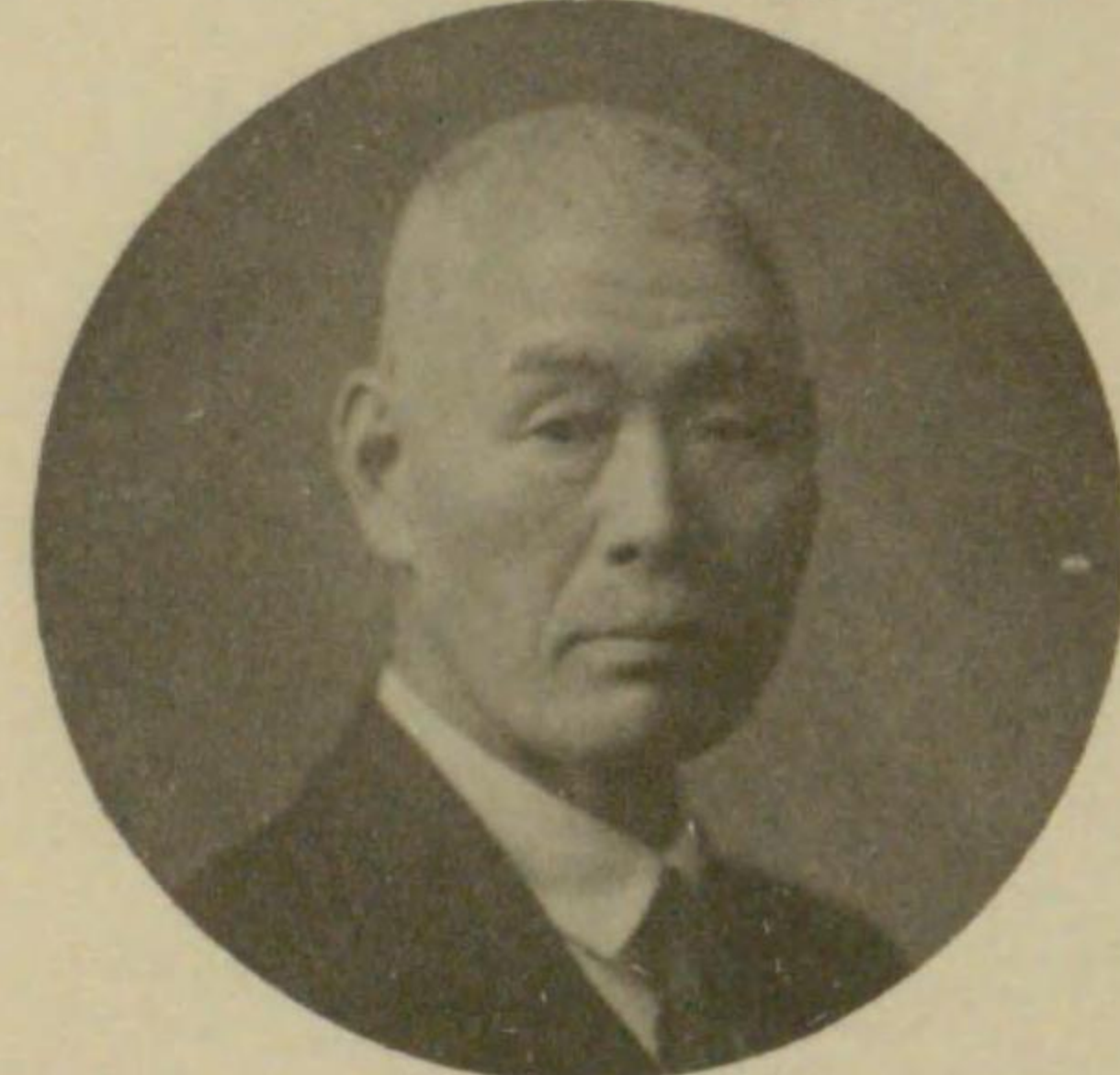




員議會市前  
夫 貞 林



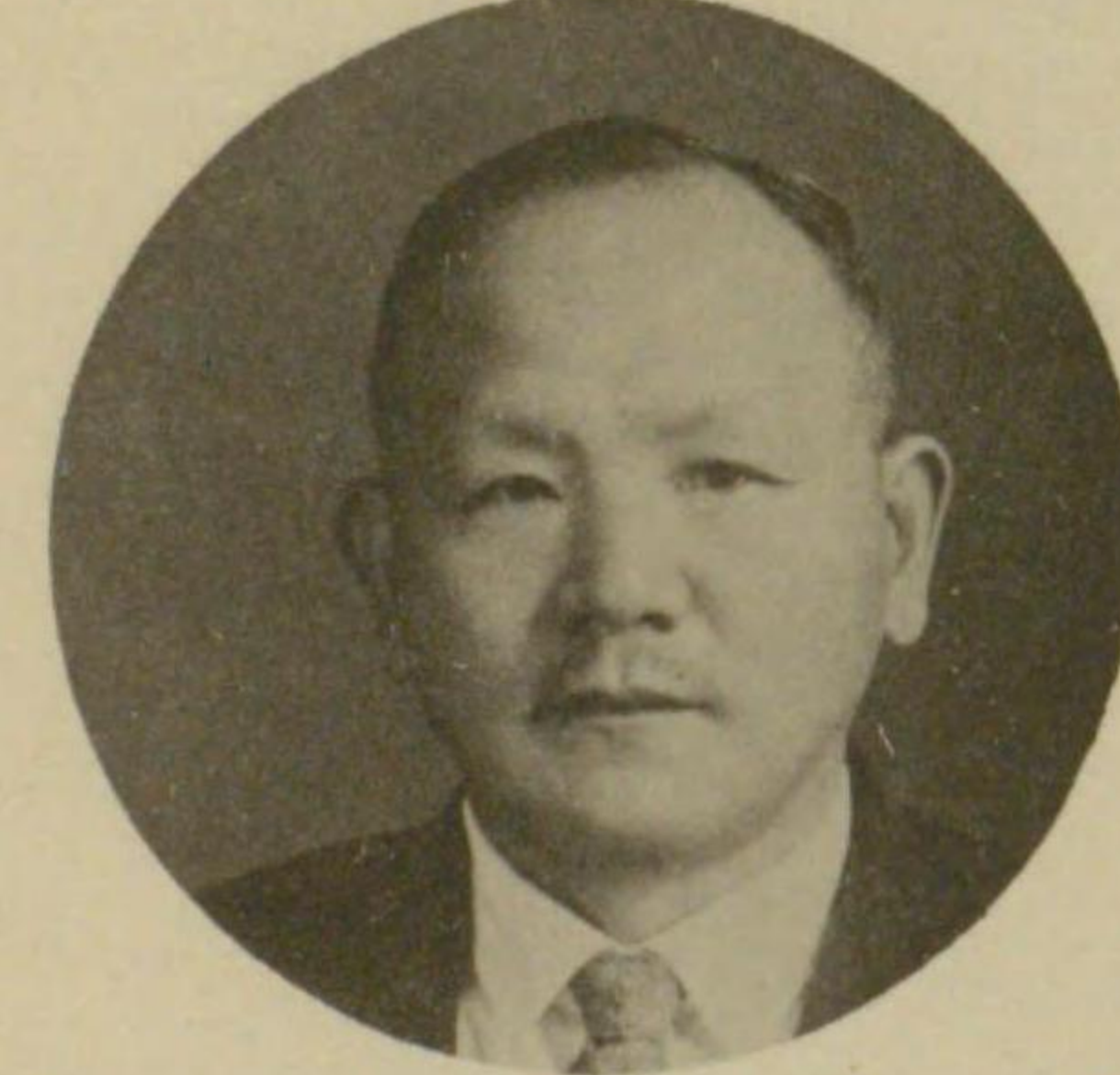
員議會市前  
郎 太 長 田 山 故



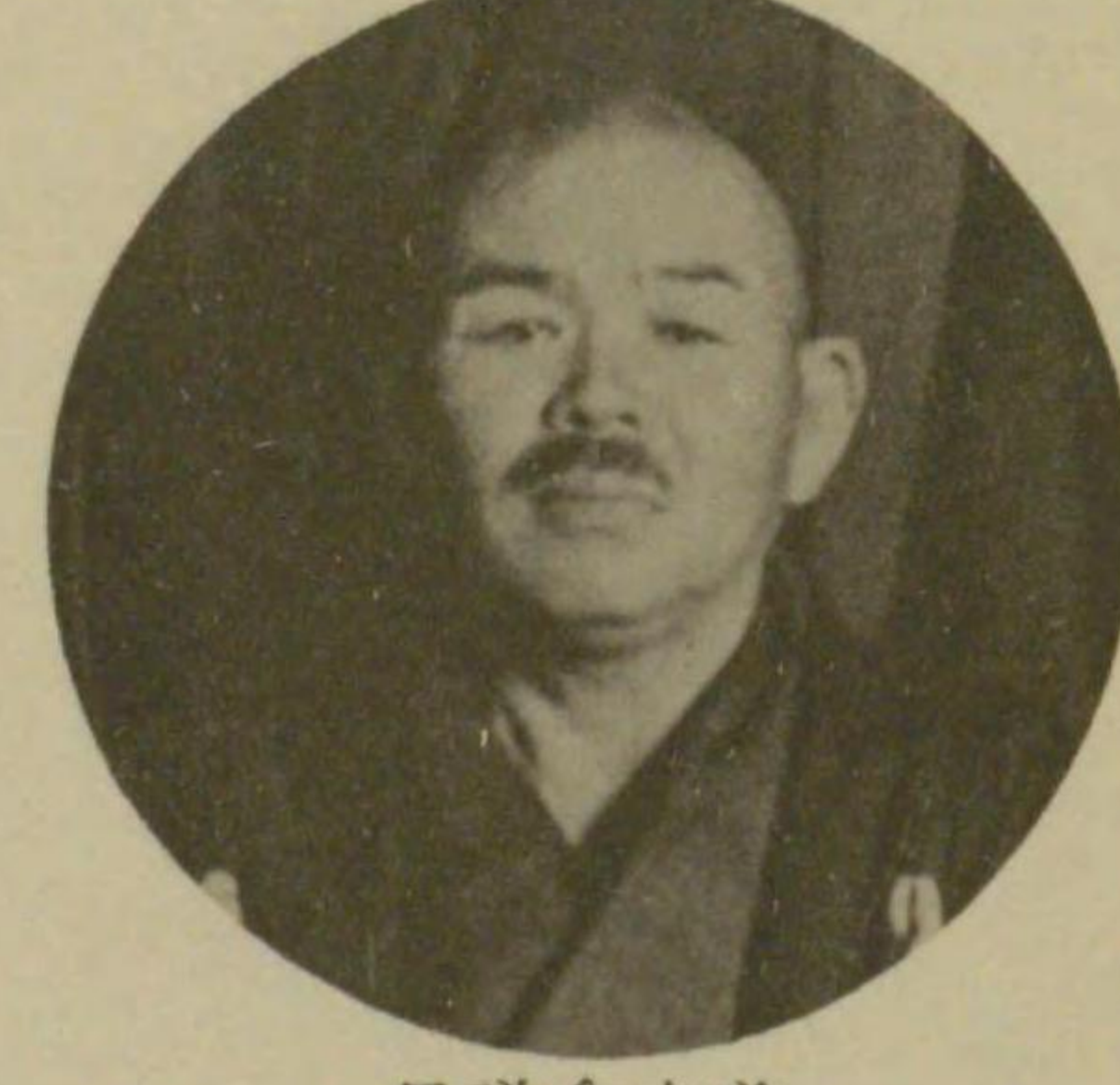
員議會市前  
郎 三 兼 口 堀 故



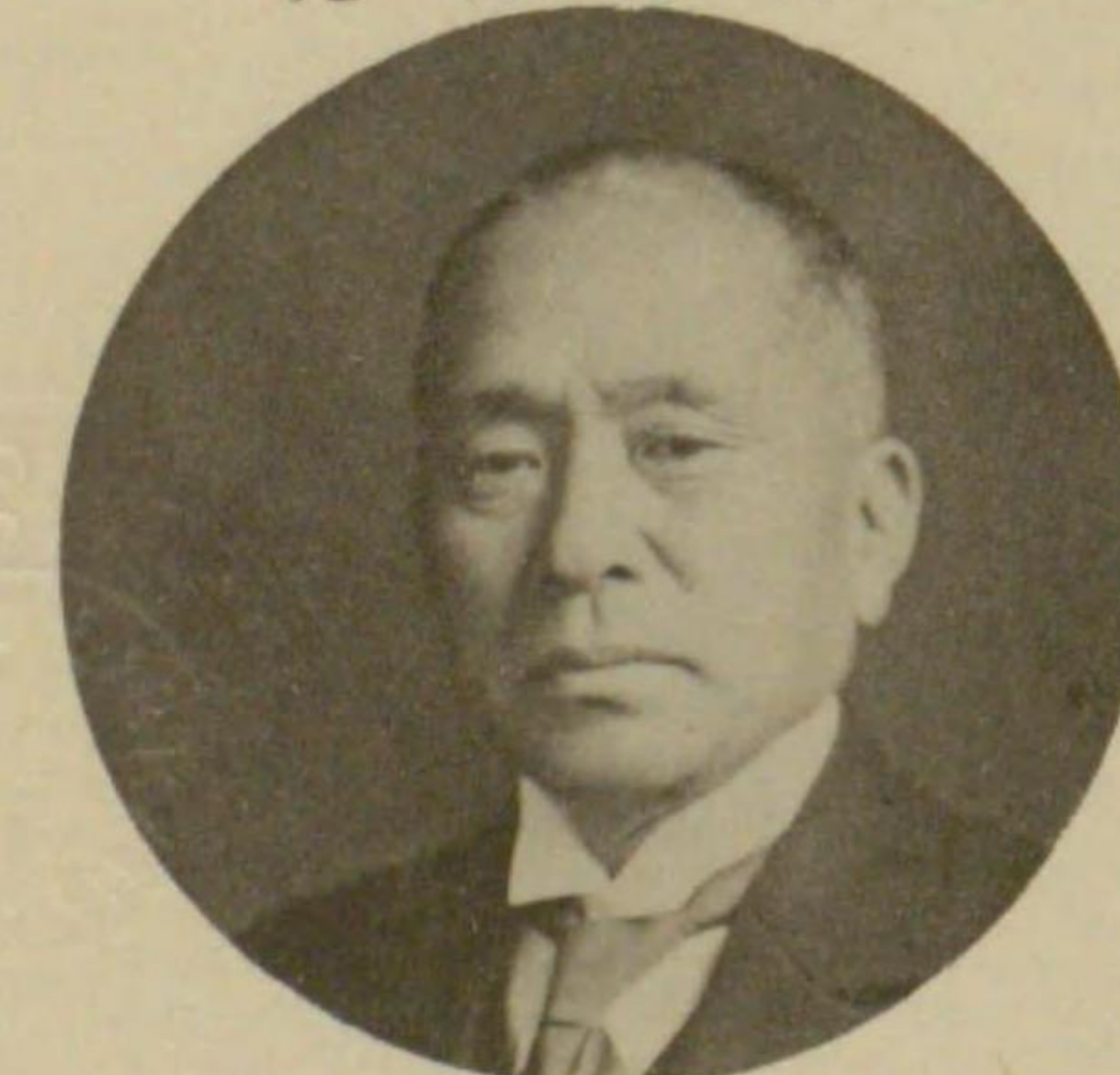
員議會市前  
策 周 井 淺



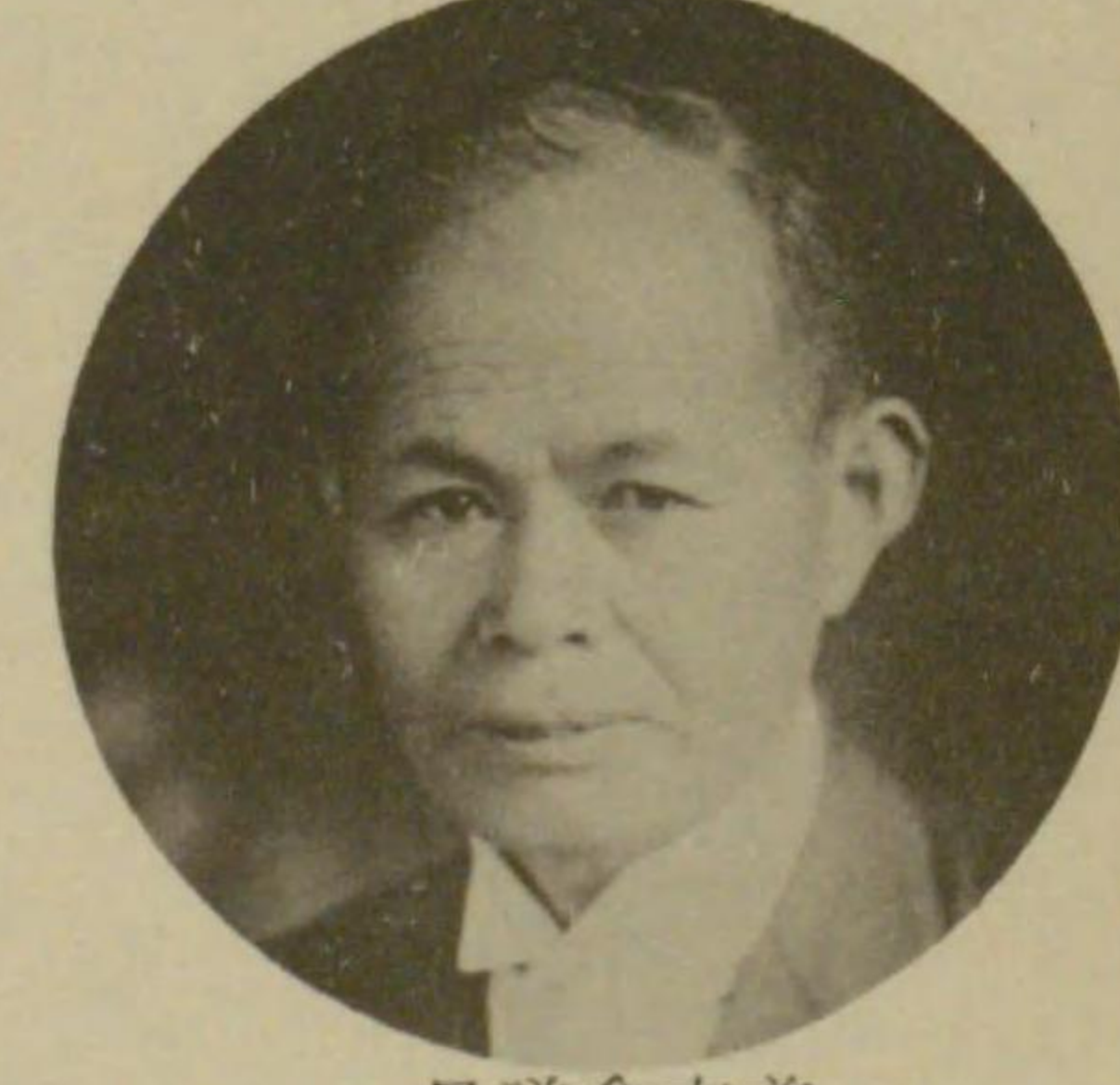
員議會市前  
光 義 上 井



員議會市前  
郎 二 幸 屋 土 故

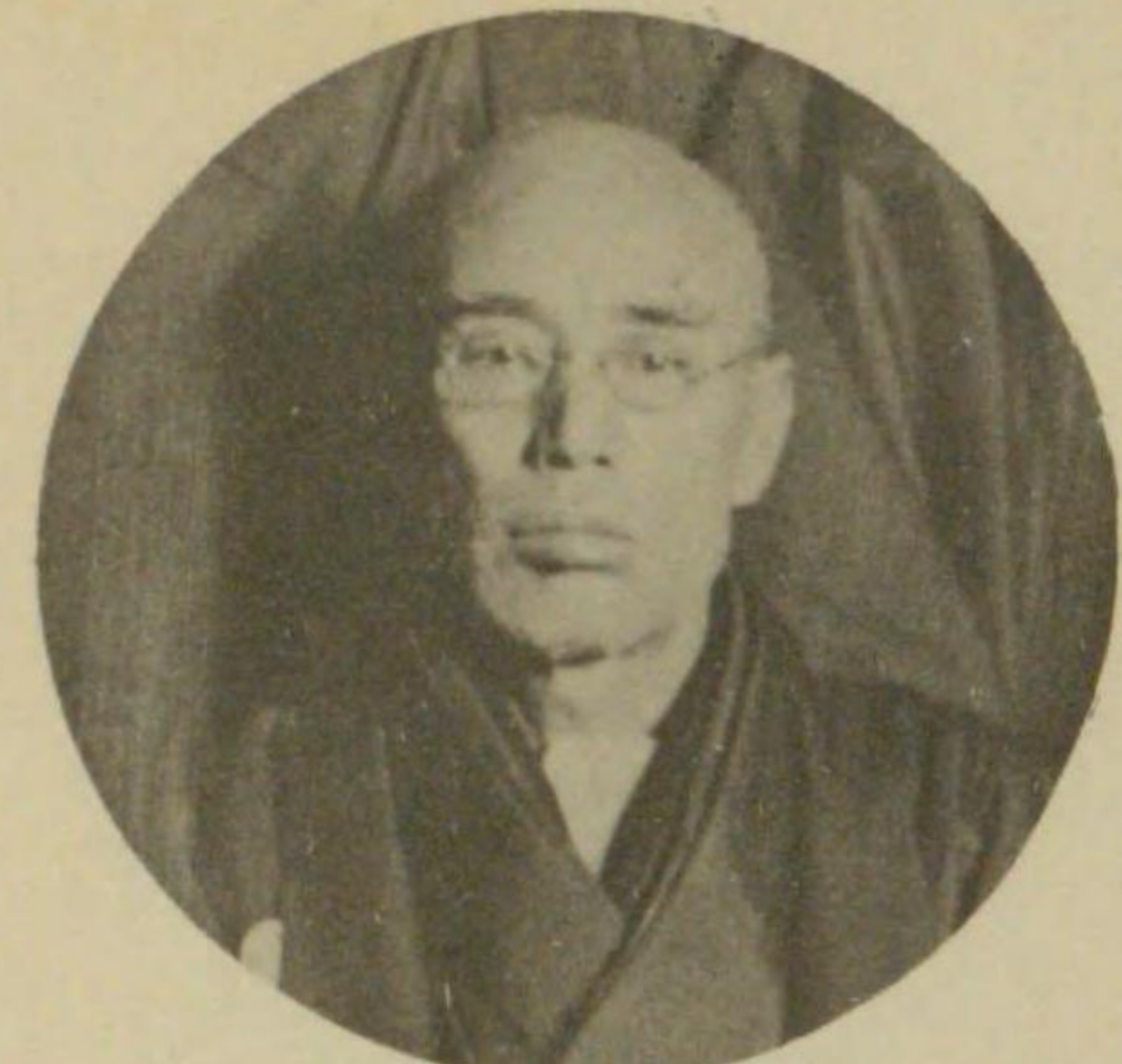


員議會市前  
郎 治 萬 科 保

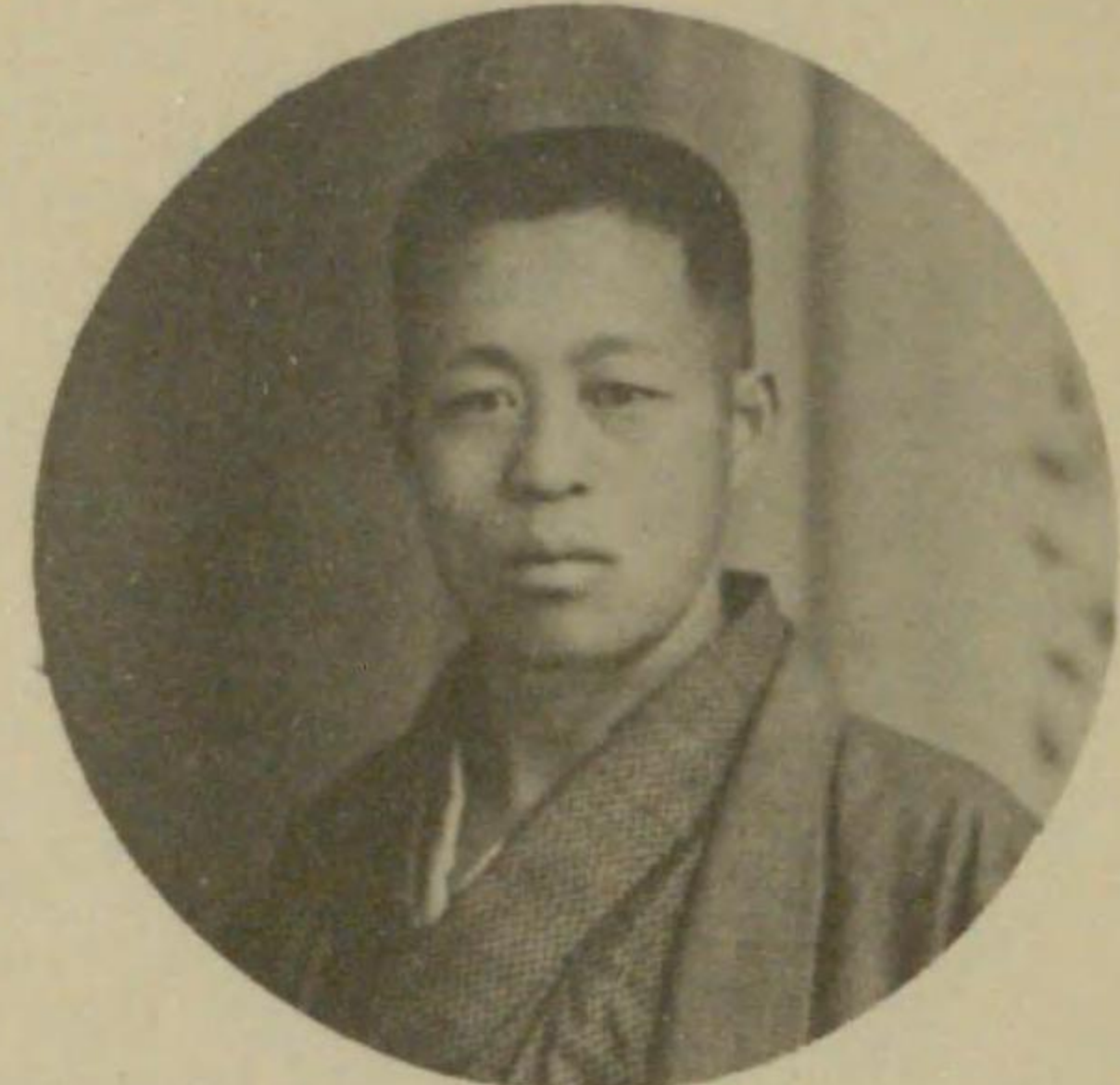


員議會市前  
郎 五 安 川 立 故

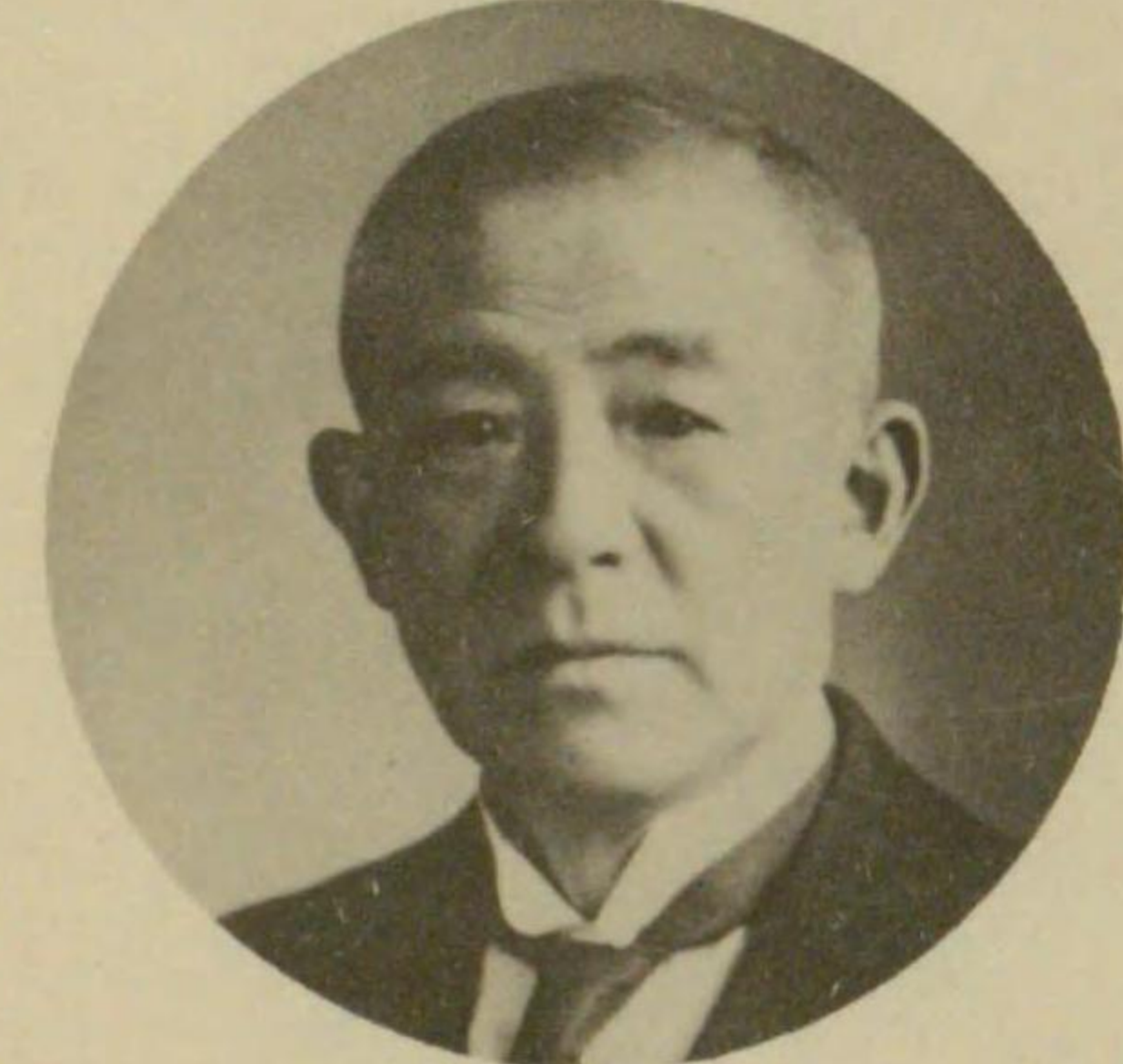




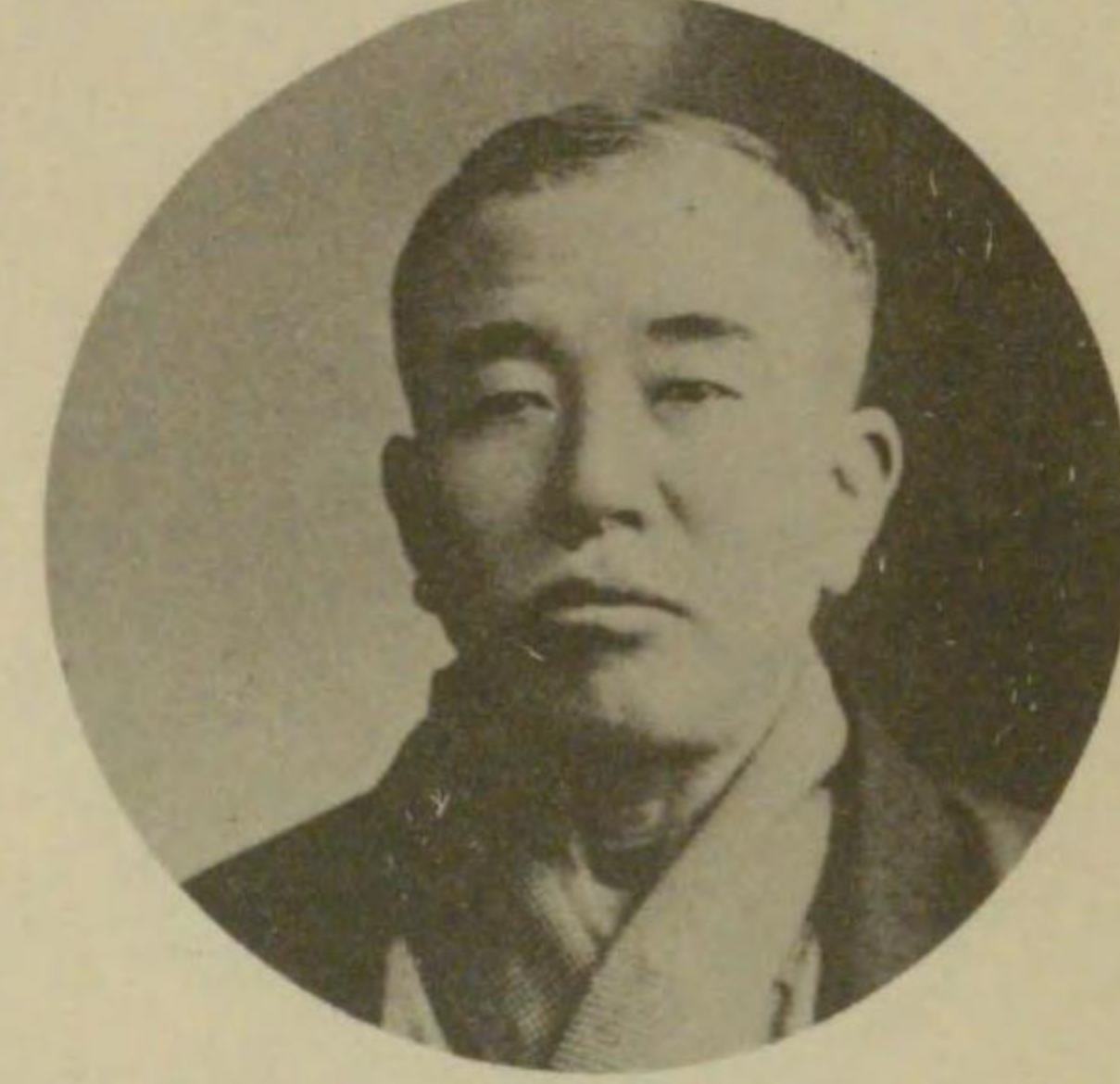
員議會市前  
郎次德下竹故



員議會市前  
吉安川樋故



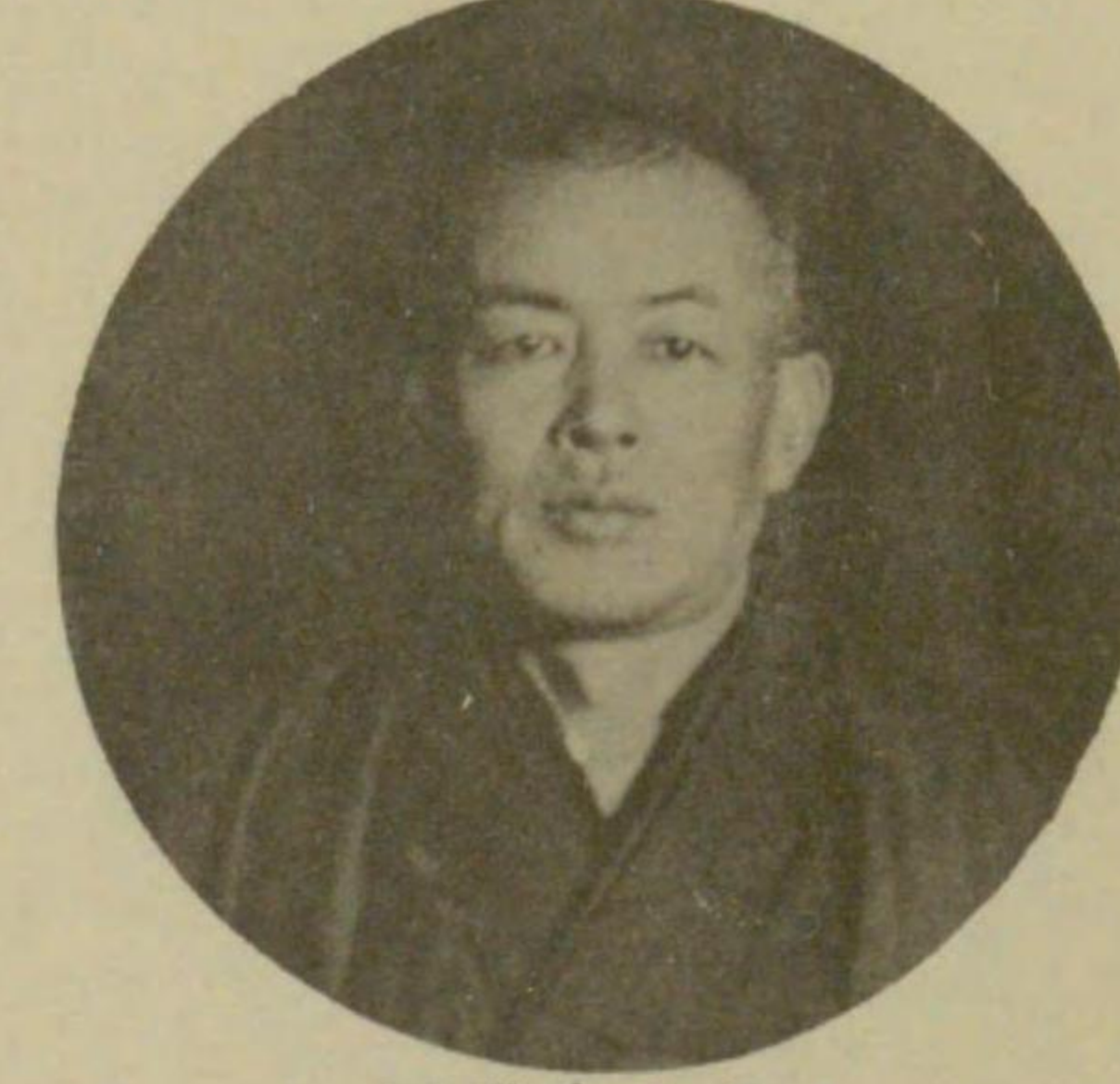
員議會市前  
市清口山



員議會市前  
郎次吉原萩



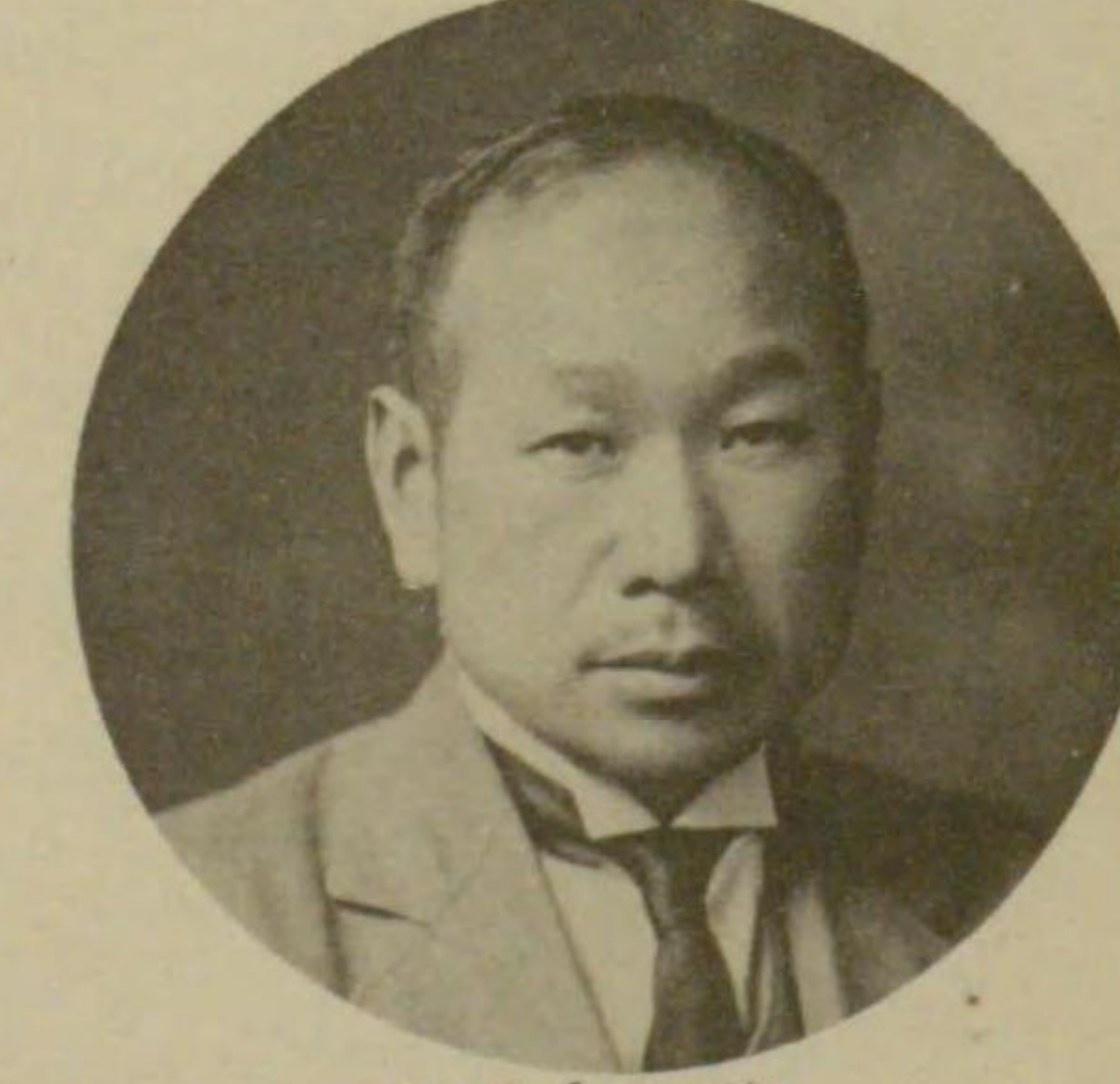
員議會市前  
平義原



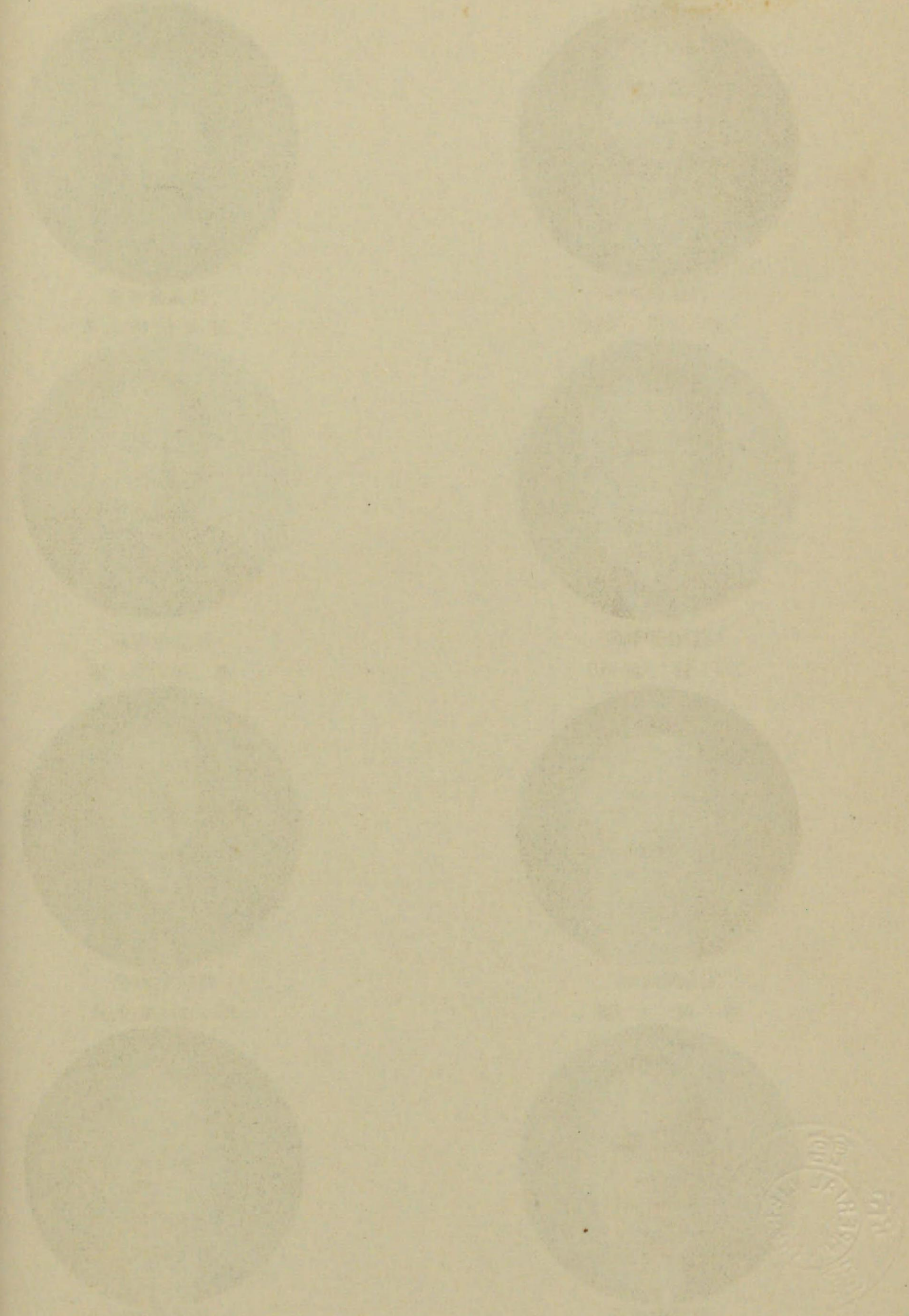
員議會市前  
郎一新原萩故



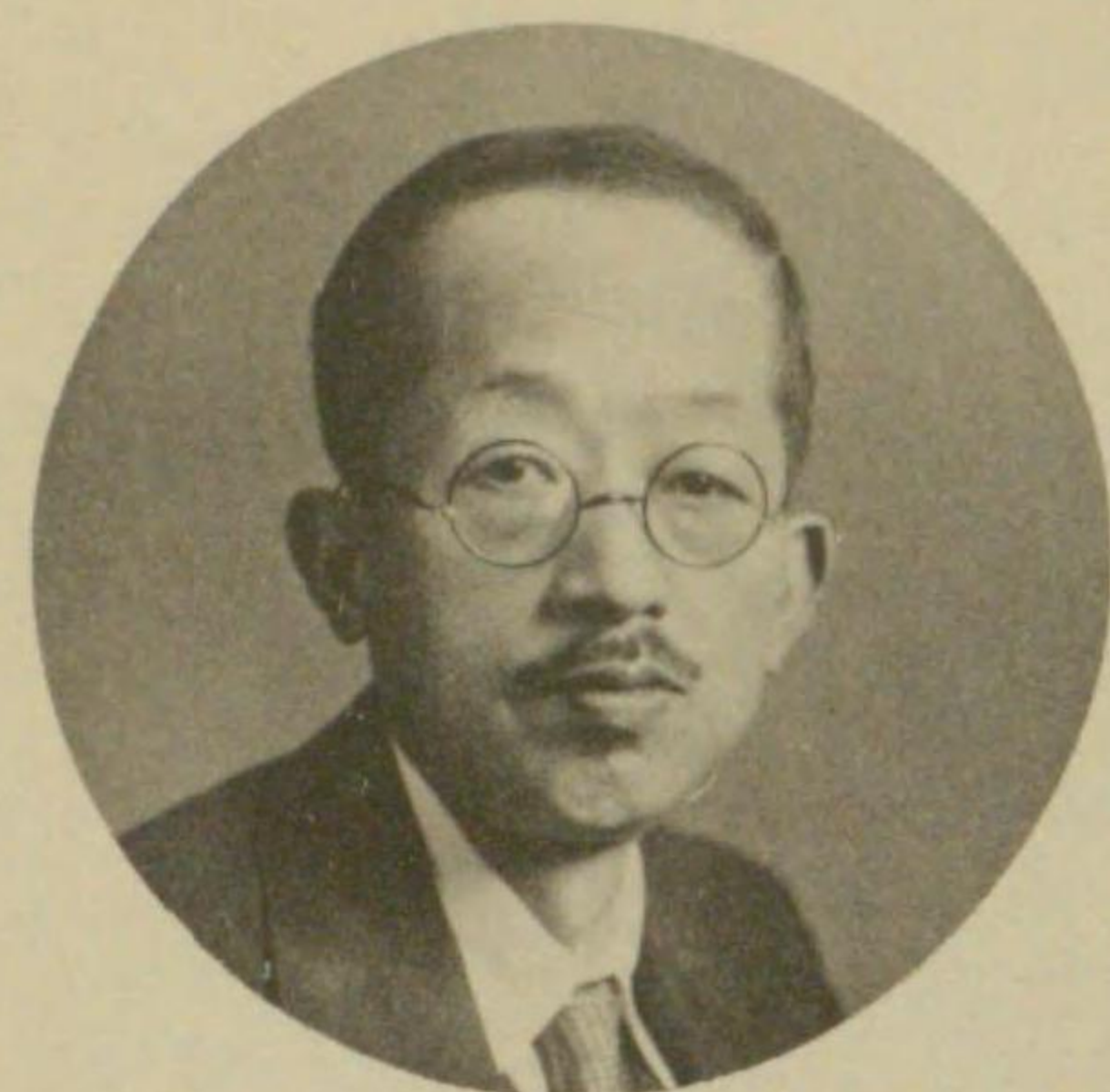
員議會市前  
治唯田角



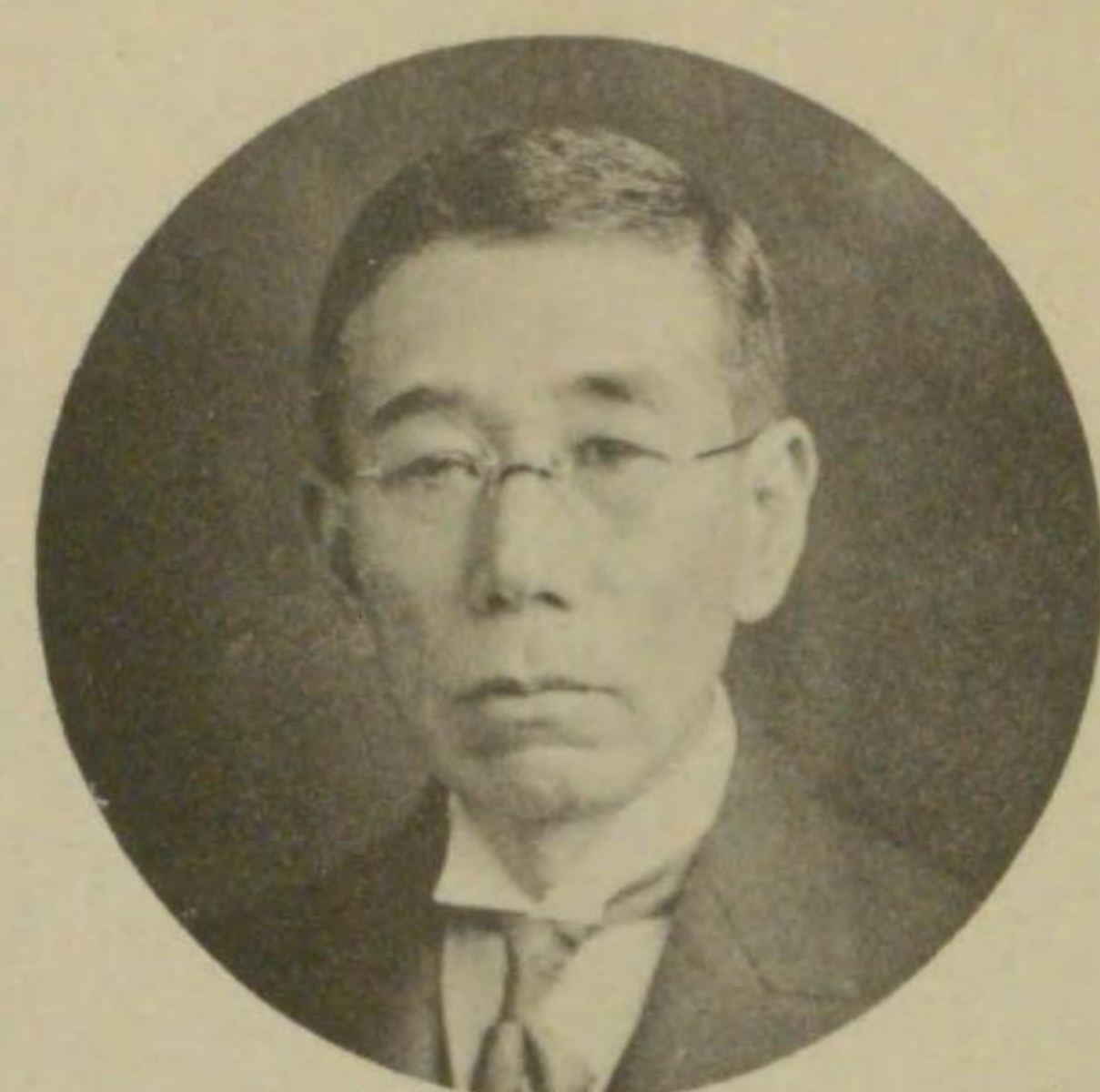
員議會市前  
松千林小



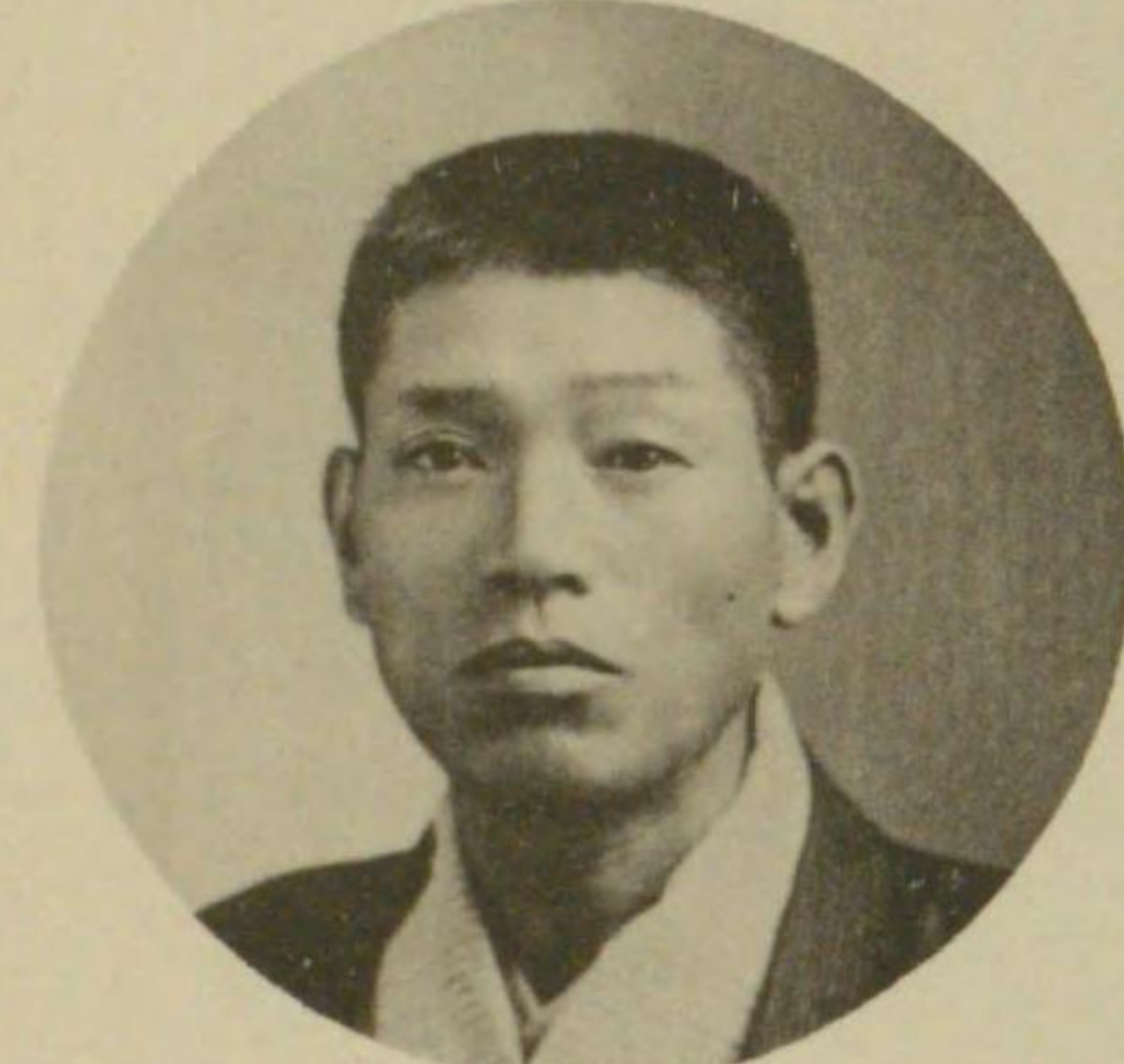




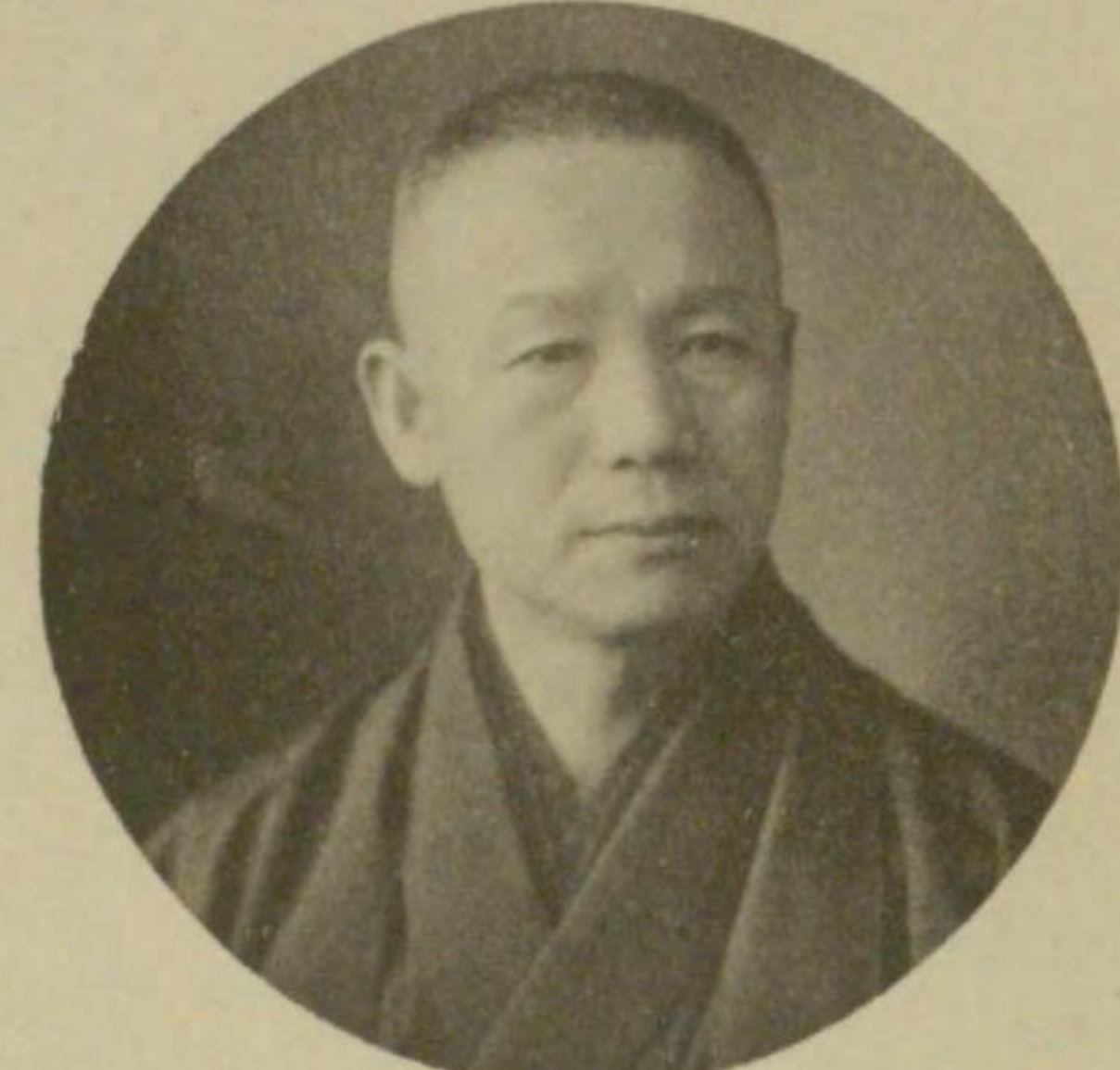
員議會市前  
雄 敏 田 中



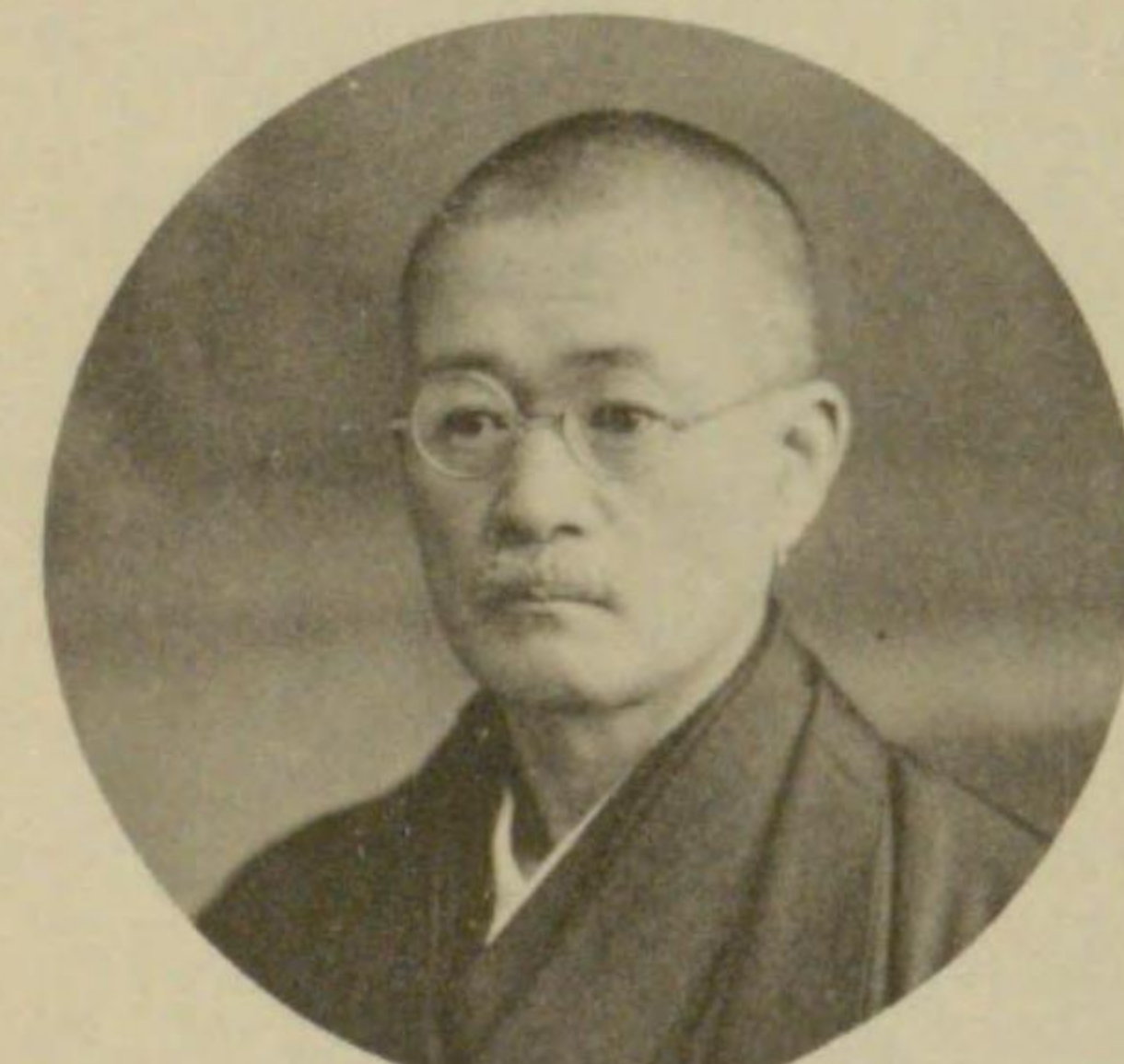
員議會市前  
勳 石 與 故



員議會市前  
一 依 松 村 故



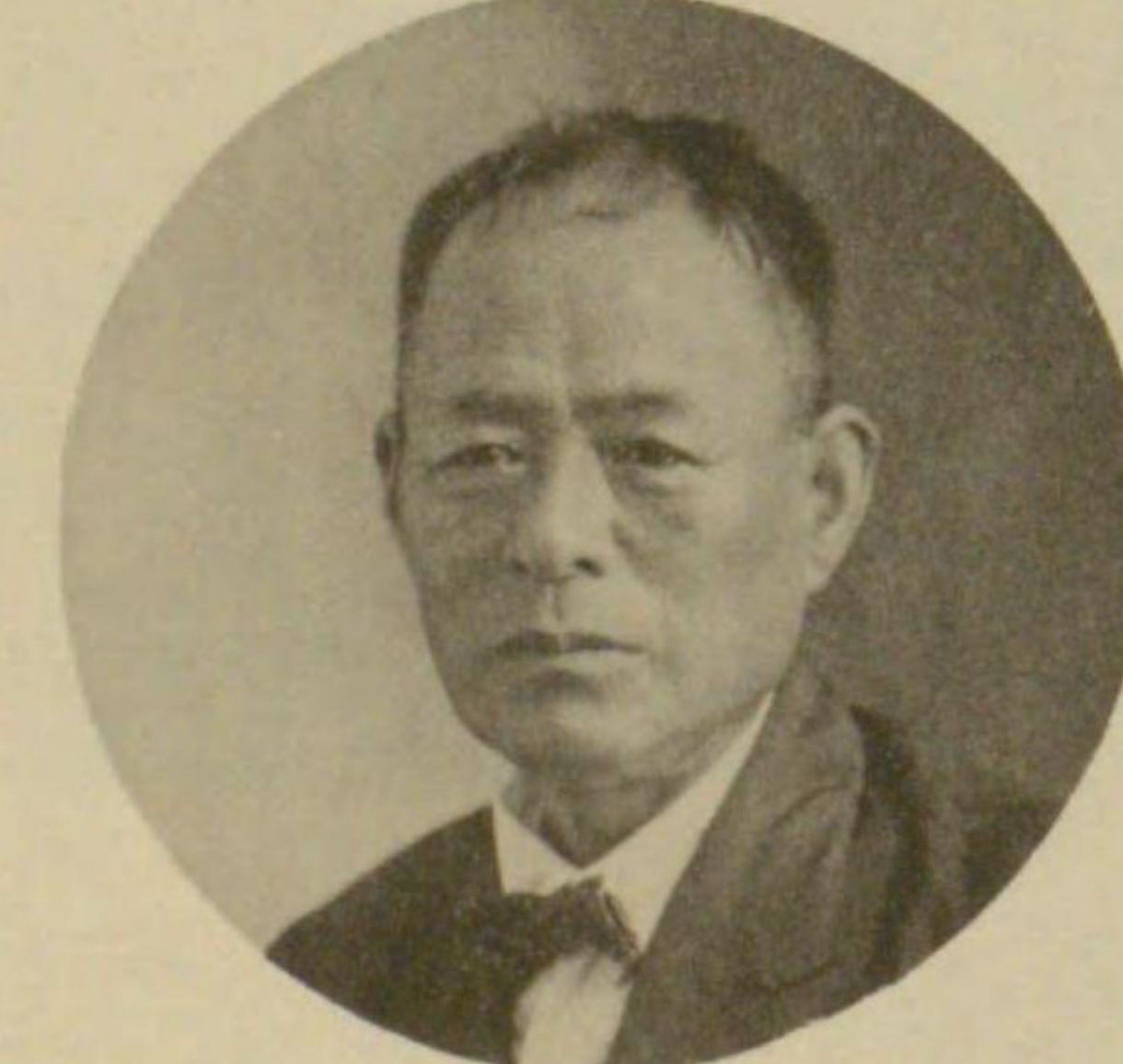
員議會市前  
吉 勇 宮 雨



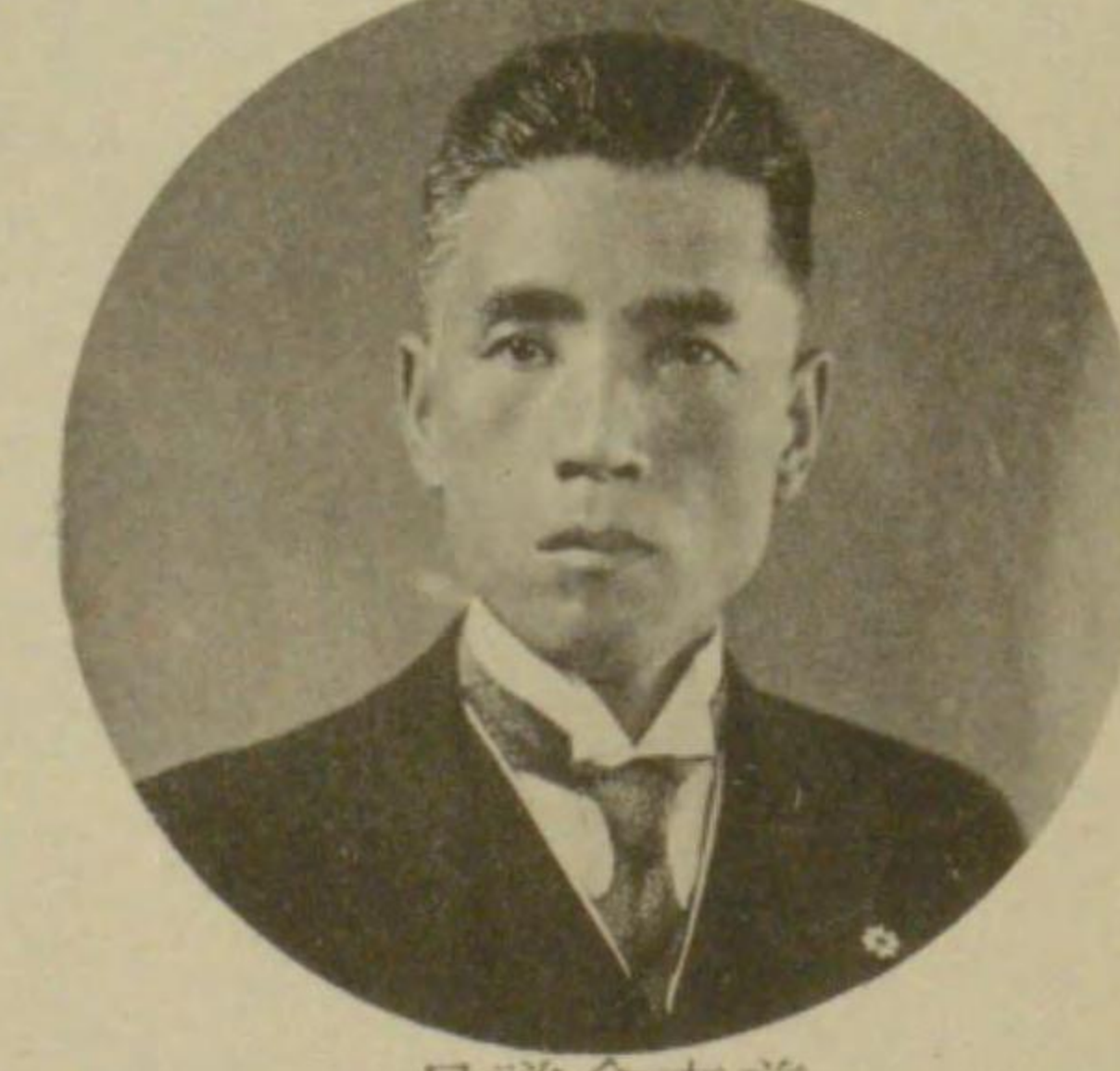
員議會市前  
退 林 小



員議會市前  
郎 次 元 持 劍

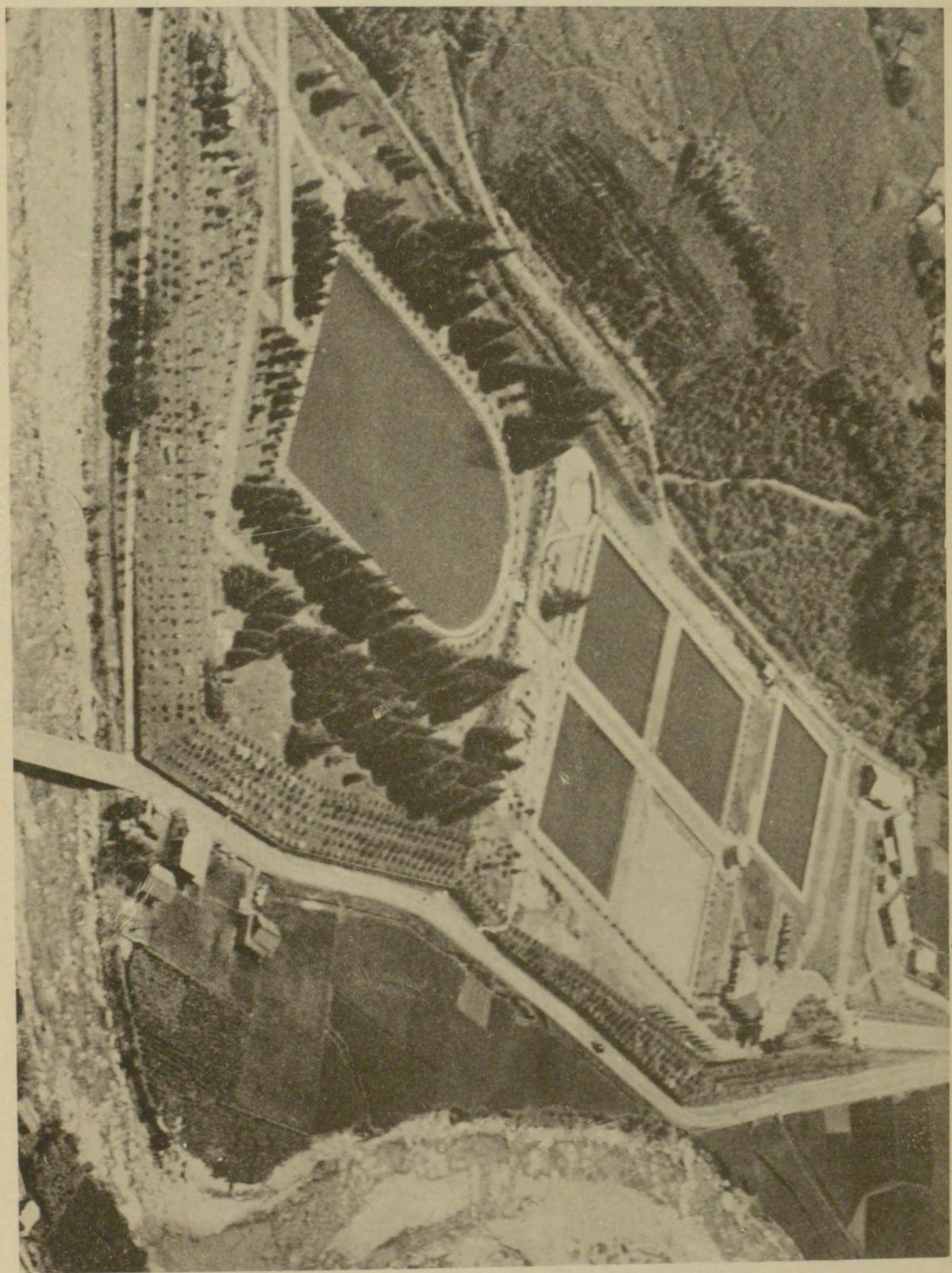


員議會市前  
吉 熊 浦 三



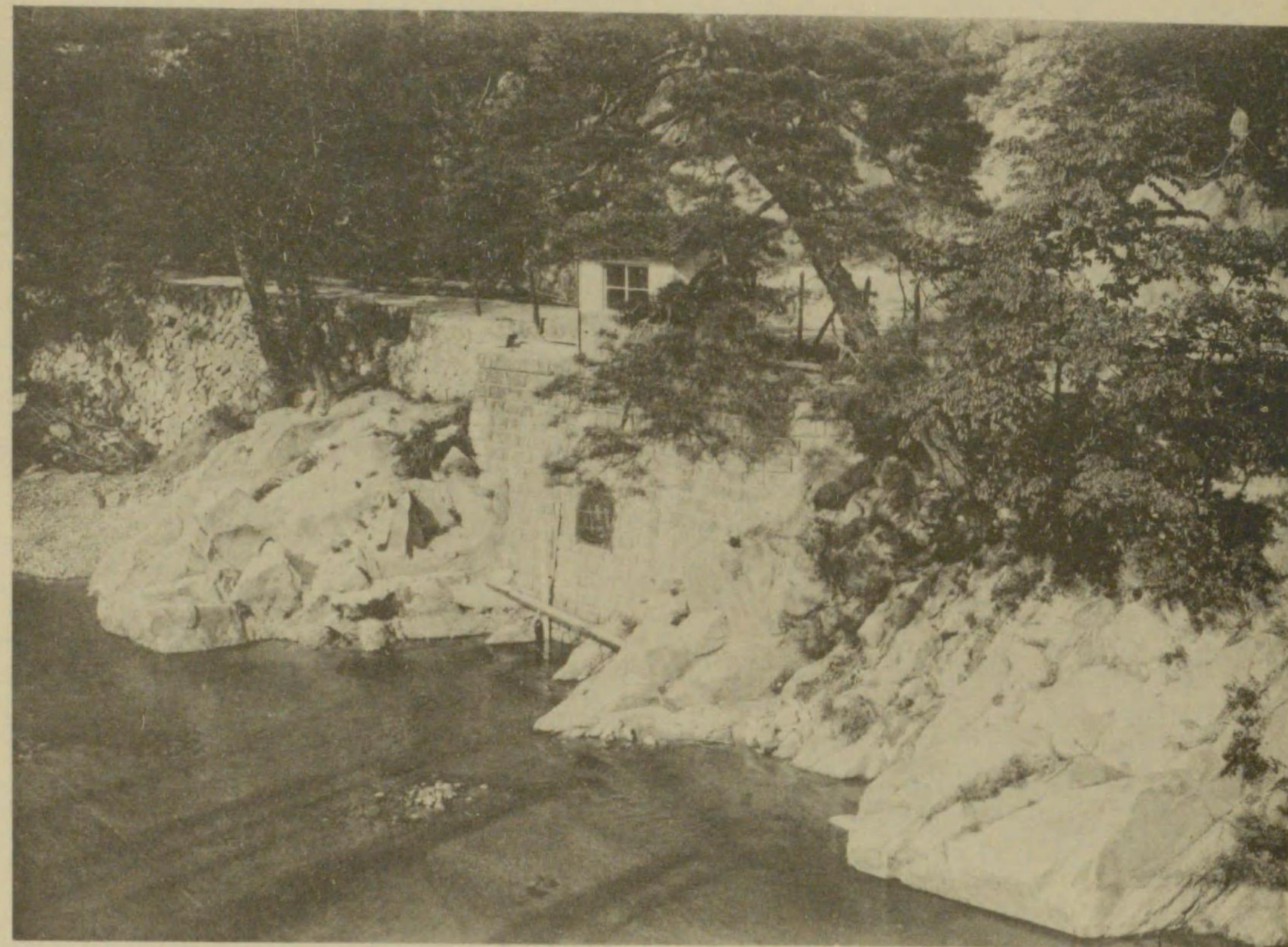
員議會市前  
紀 義 川 窪 故



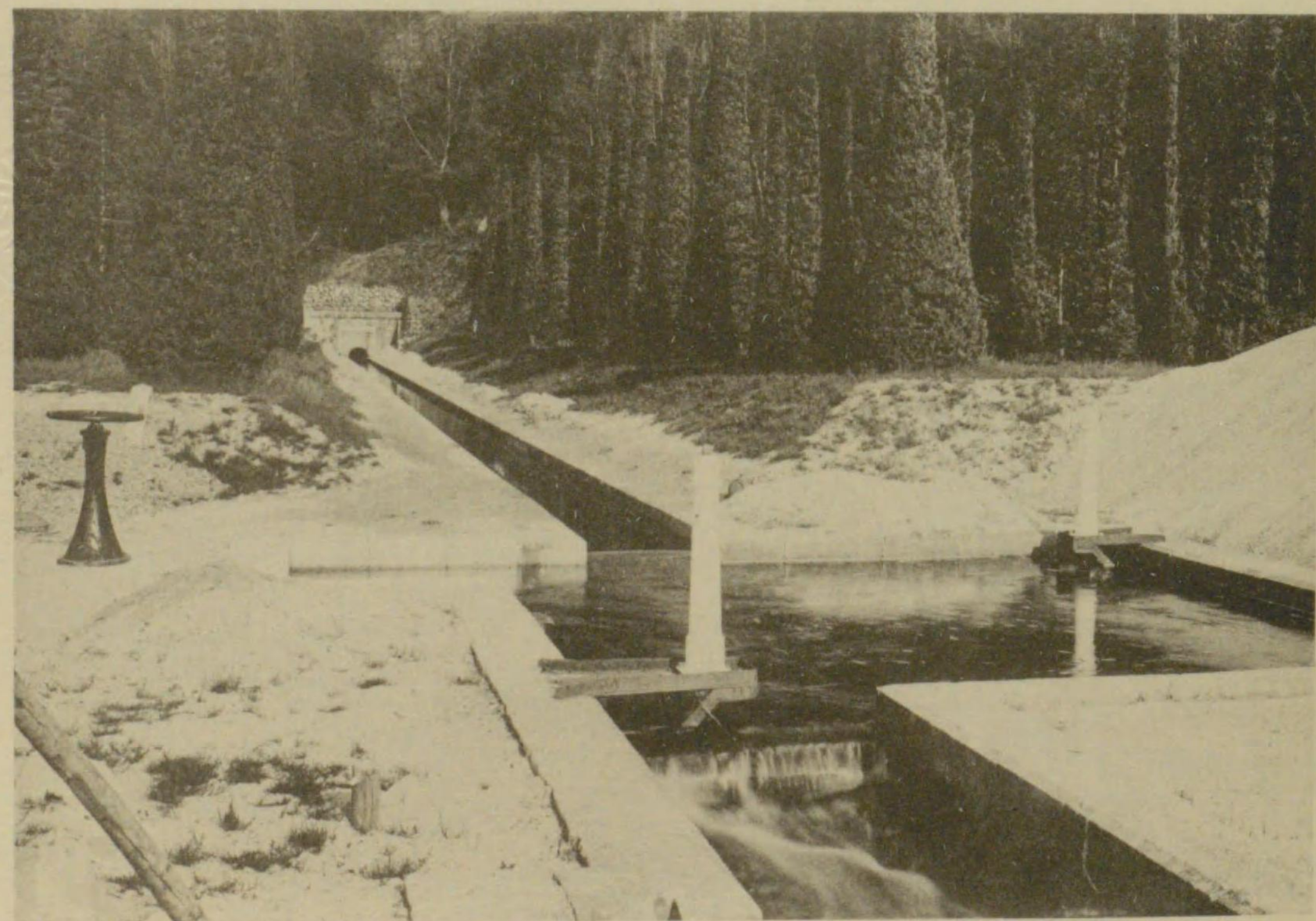


甲 府 市 上 水 淨 水 場





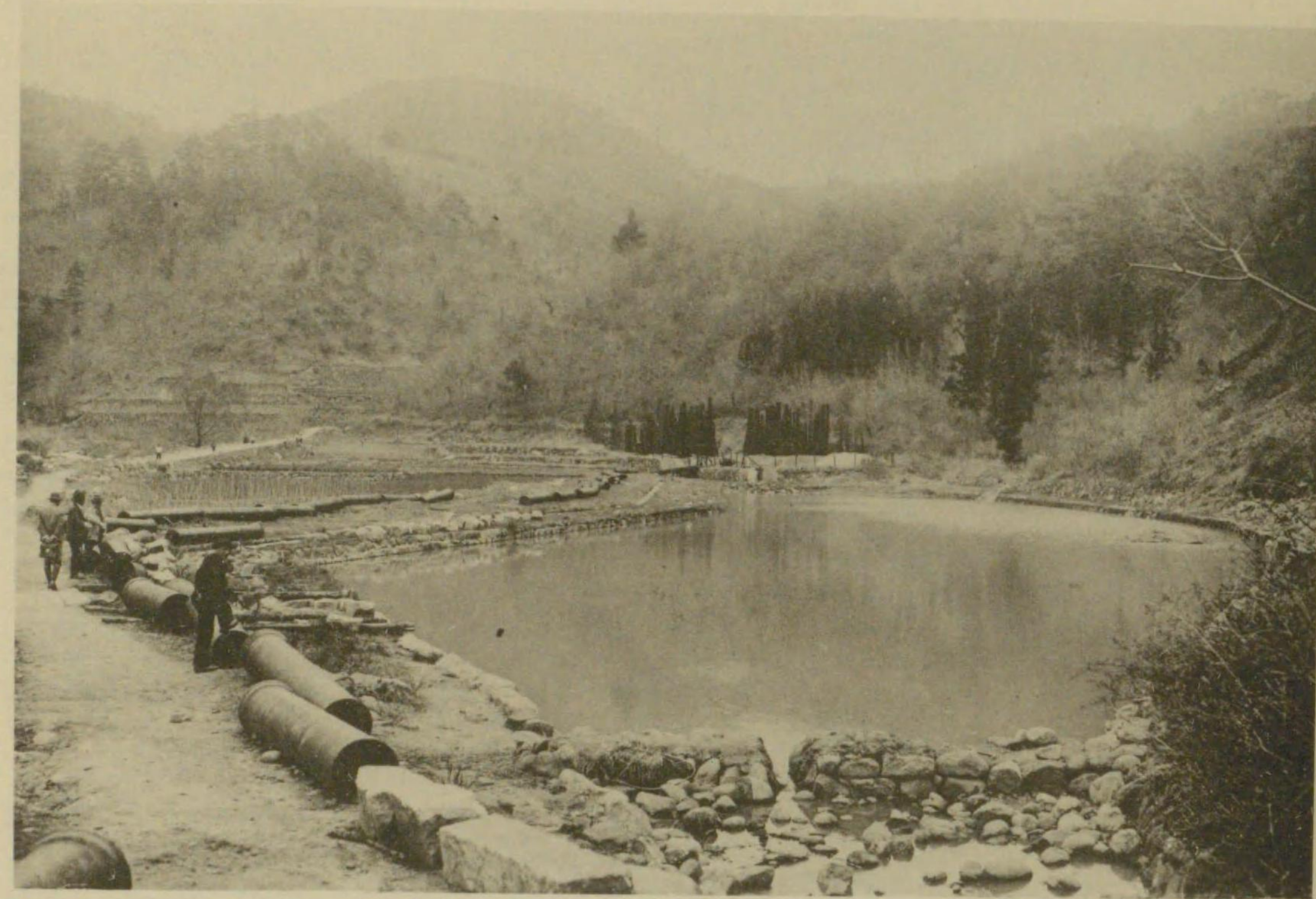
室計位水及口入取



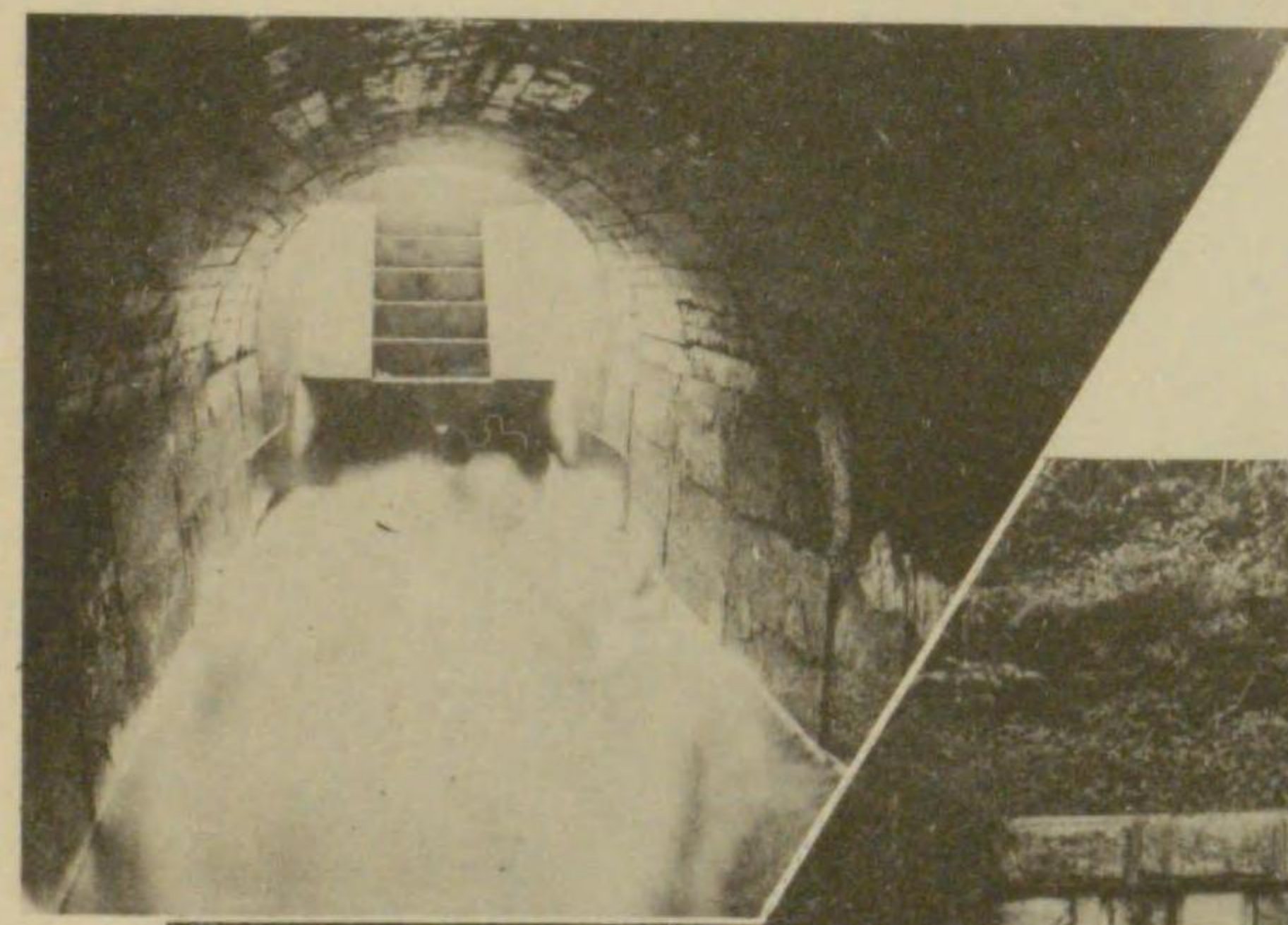
池 水 分



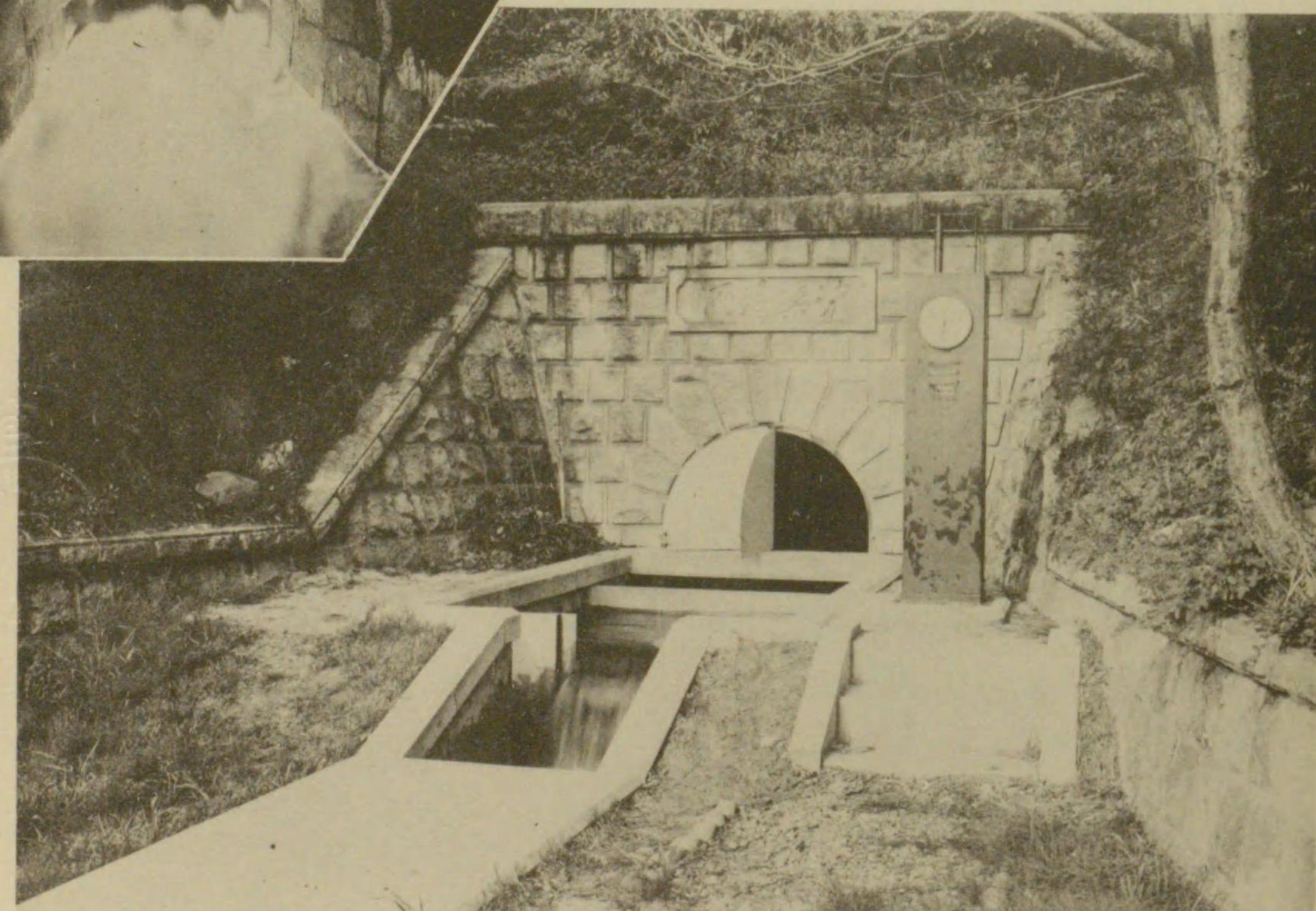




導 水 線 路

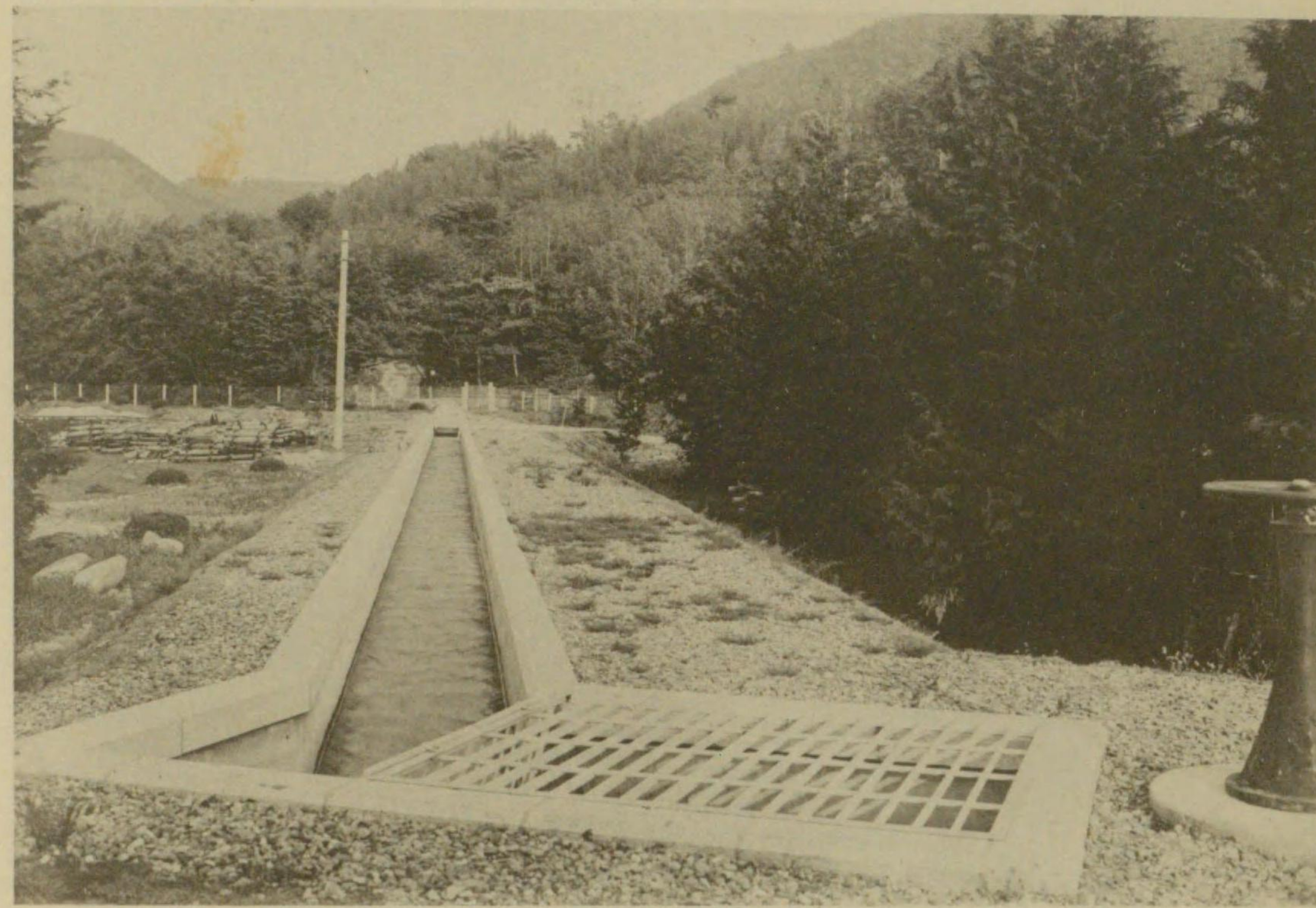


隧 道 入 口

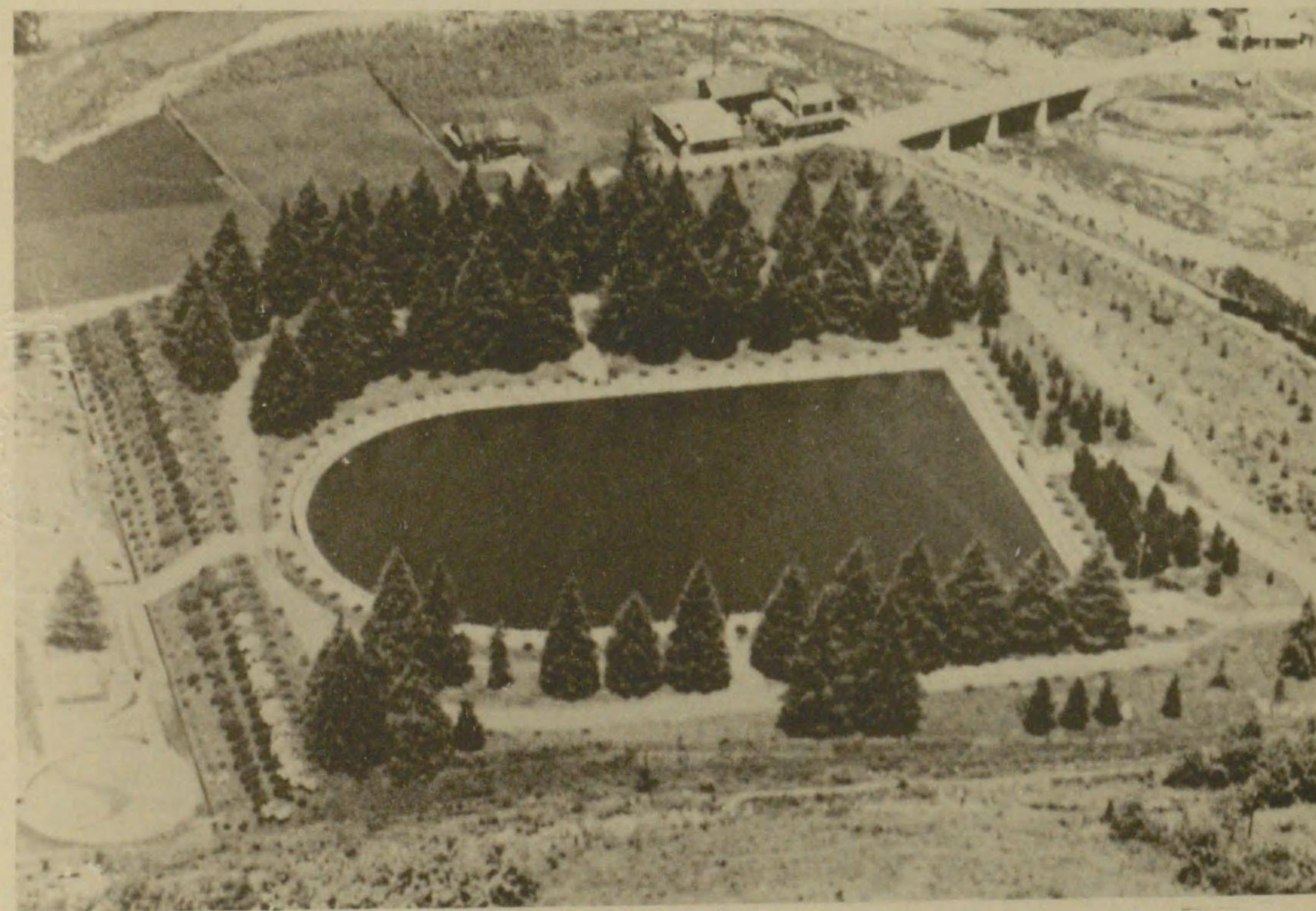


導 水 隧 道 出 口





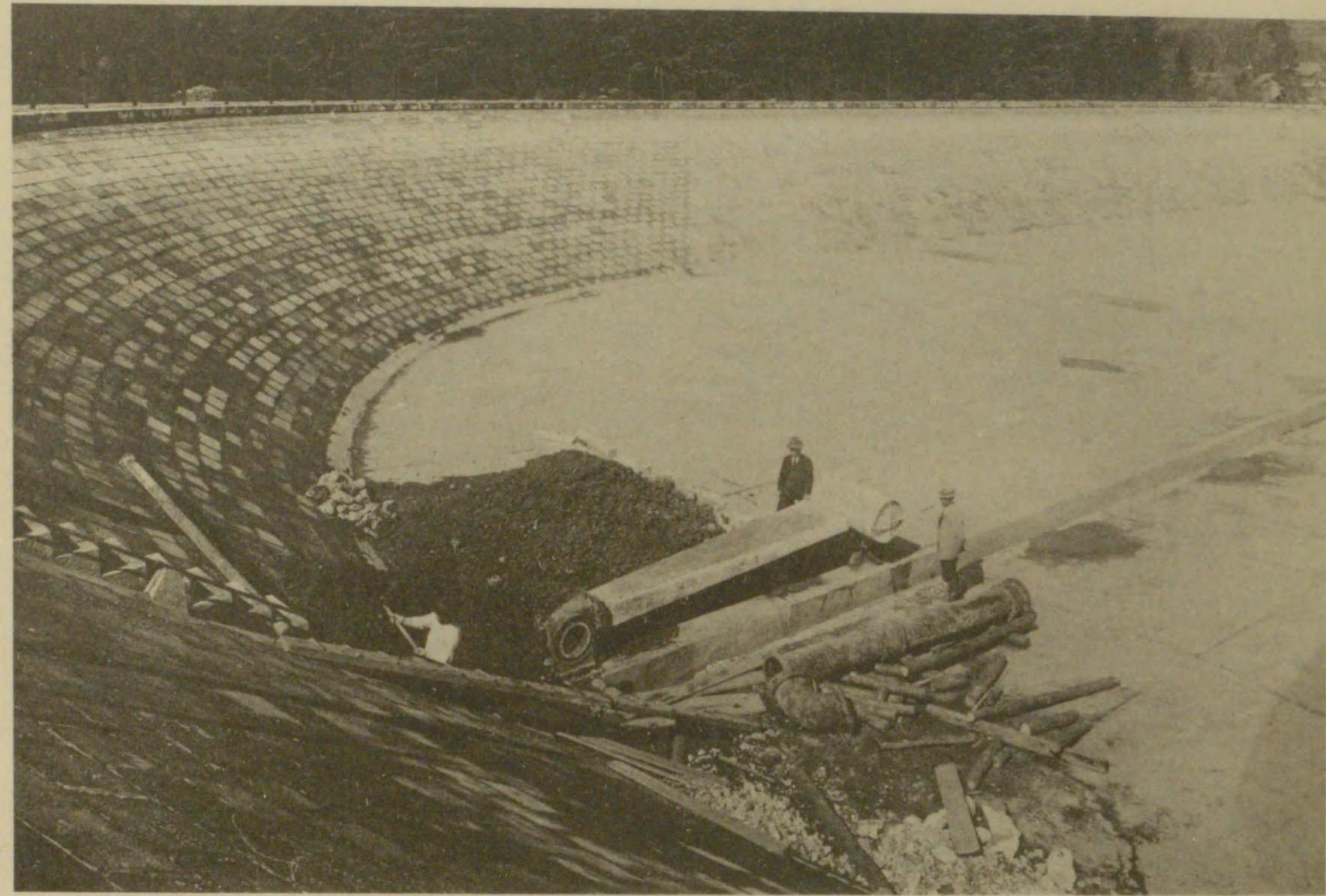
導 水 開 渠



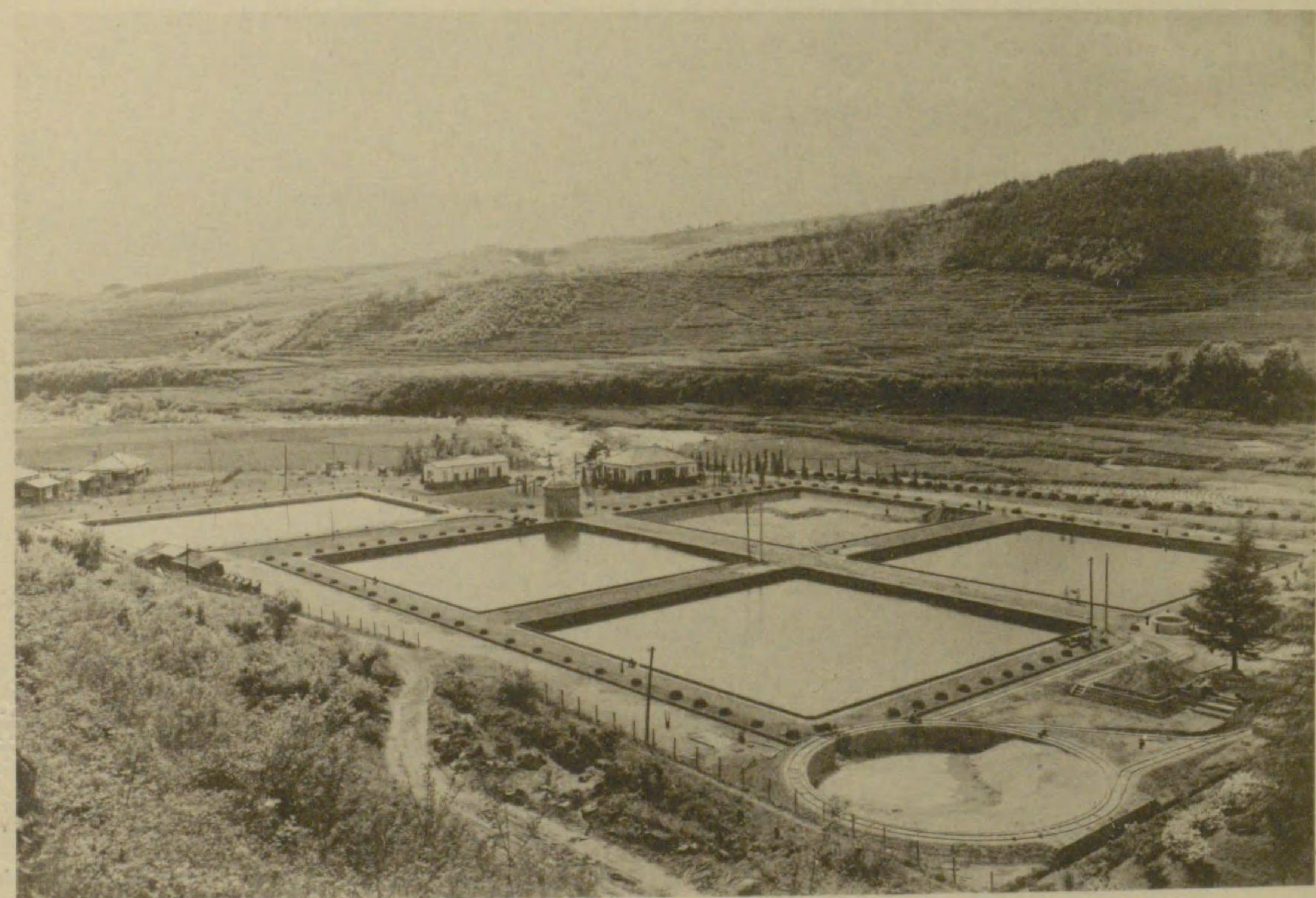
沈 澄 池 全 景







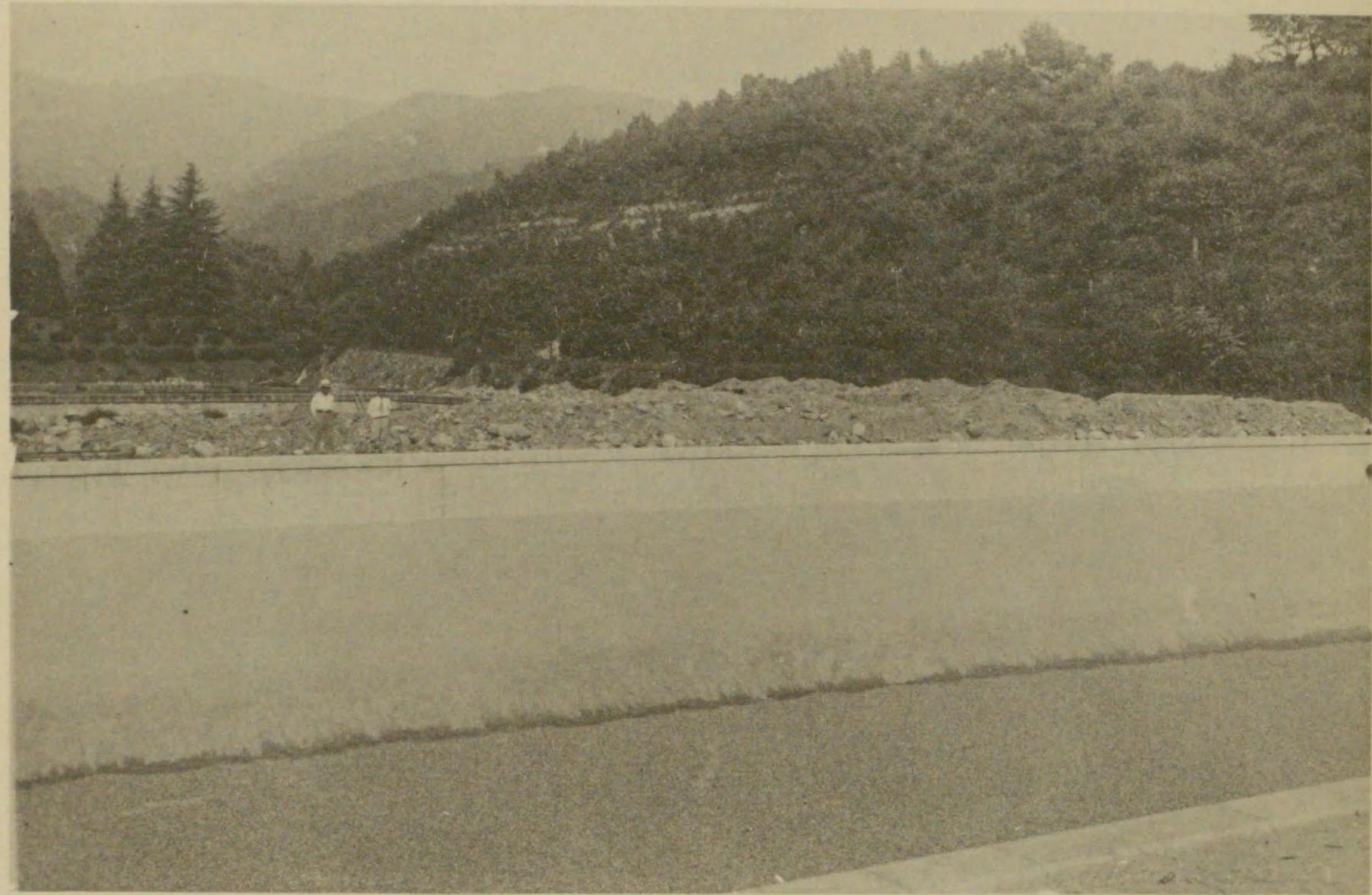
沈澄池引出管敷設替作業



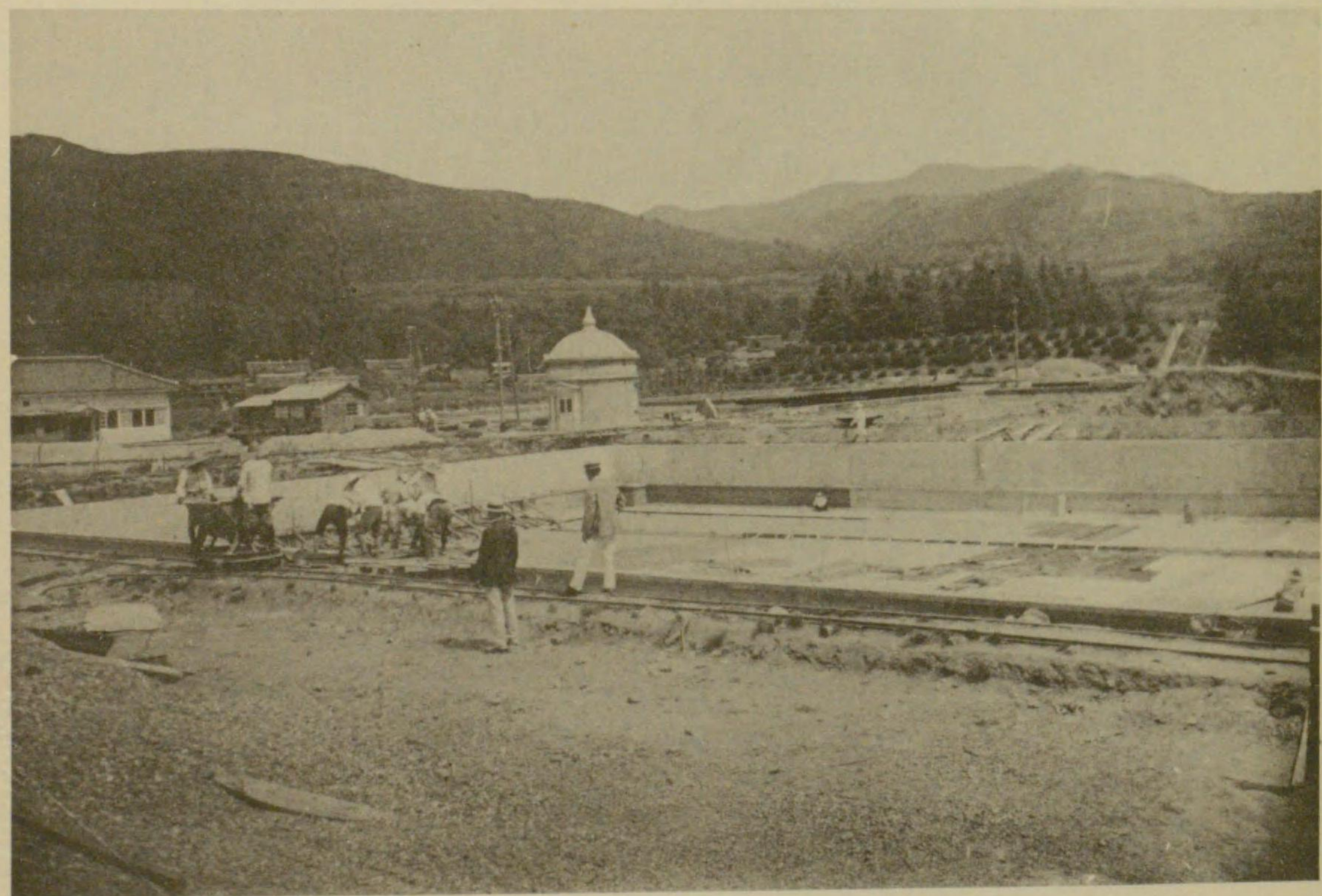
濾過池全景







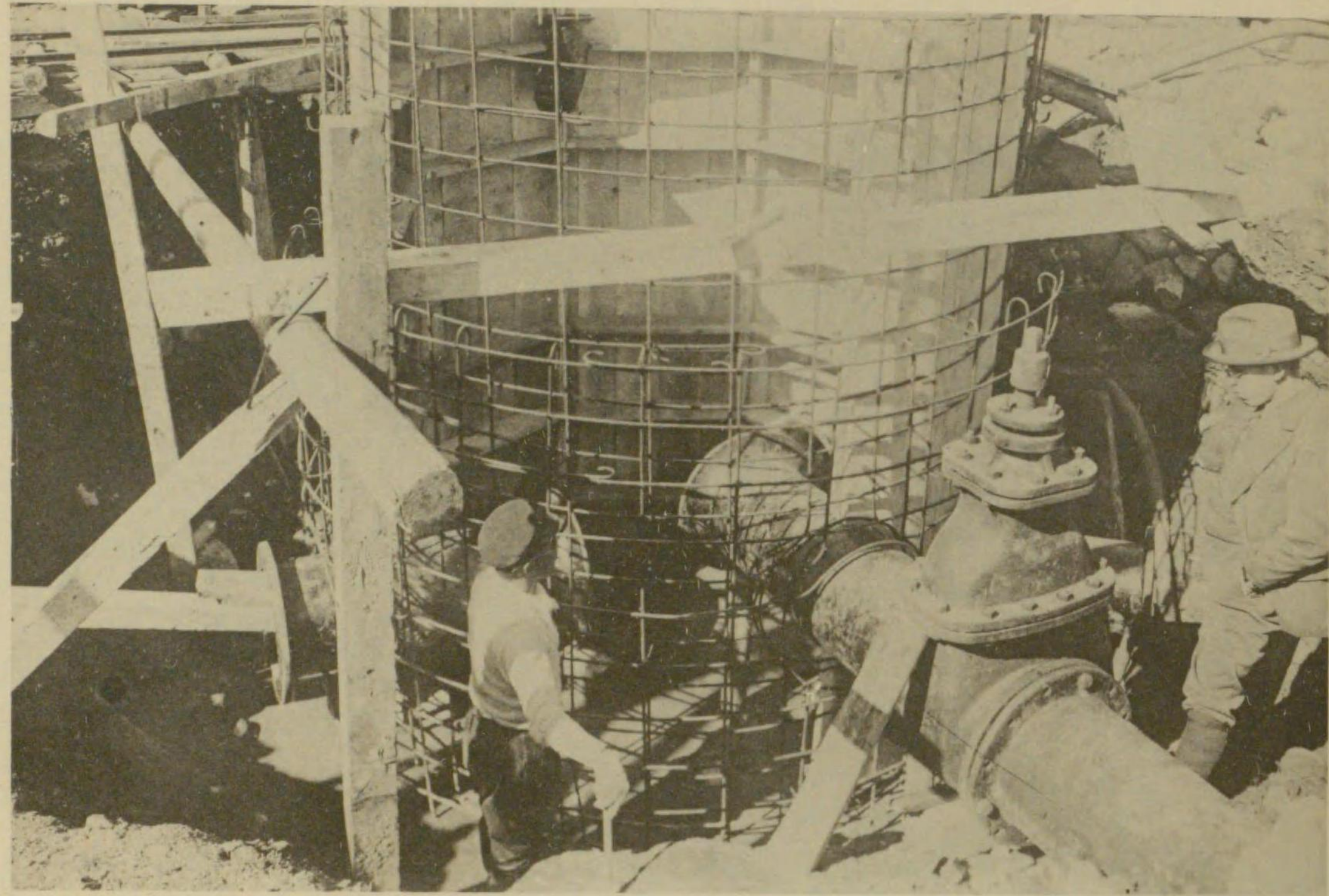
新設濾過池床



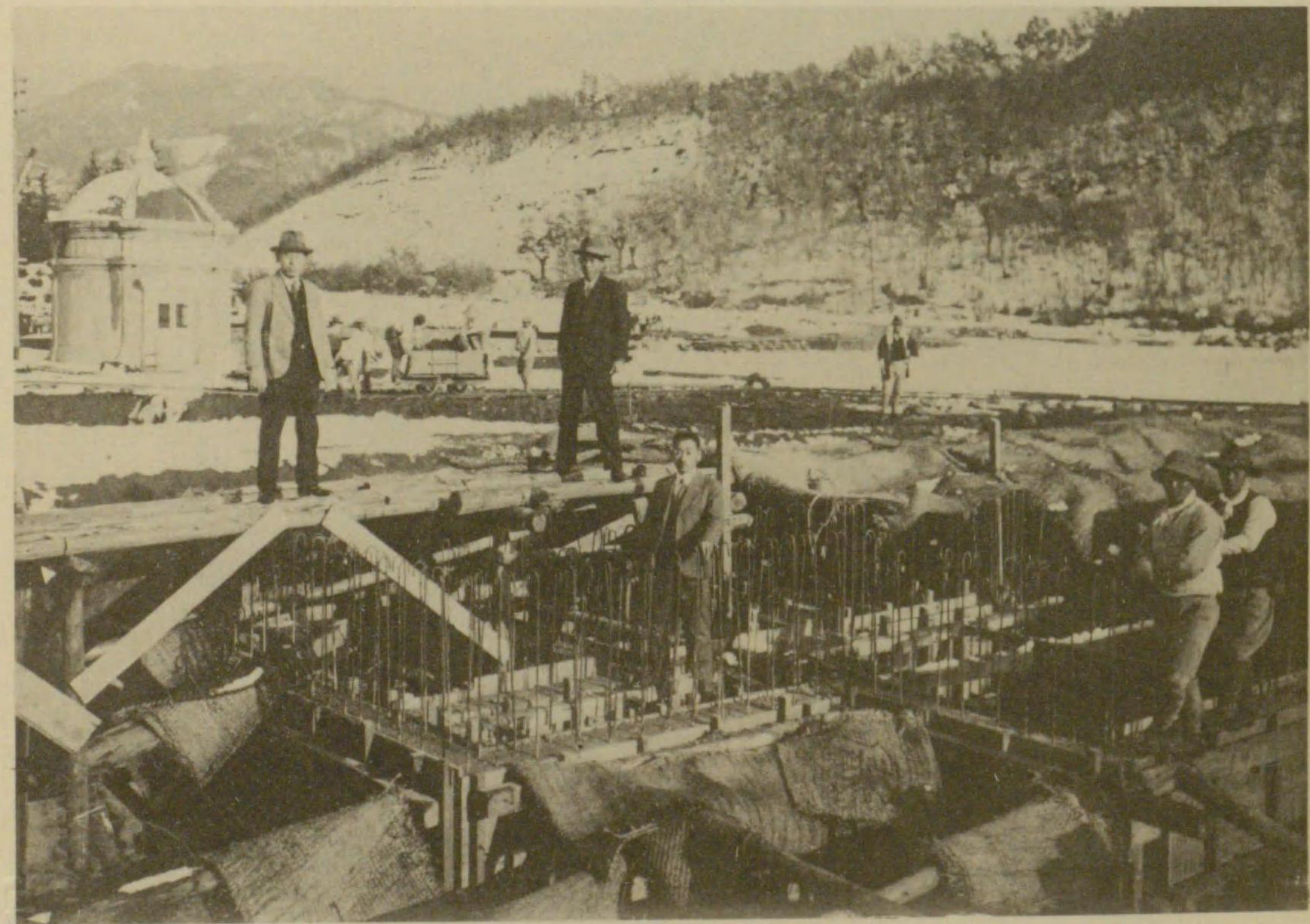
施工中之濾過池





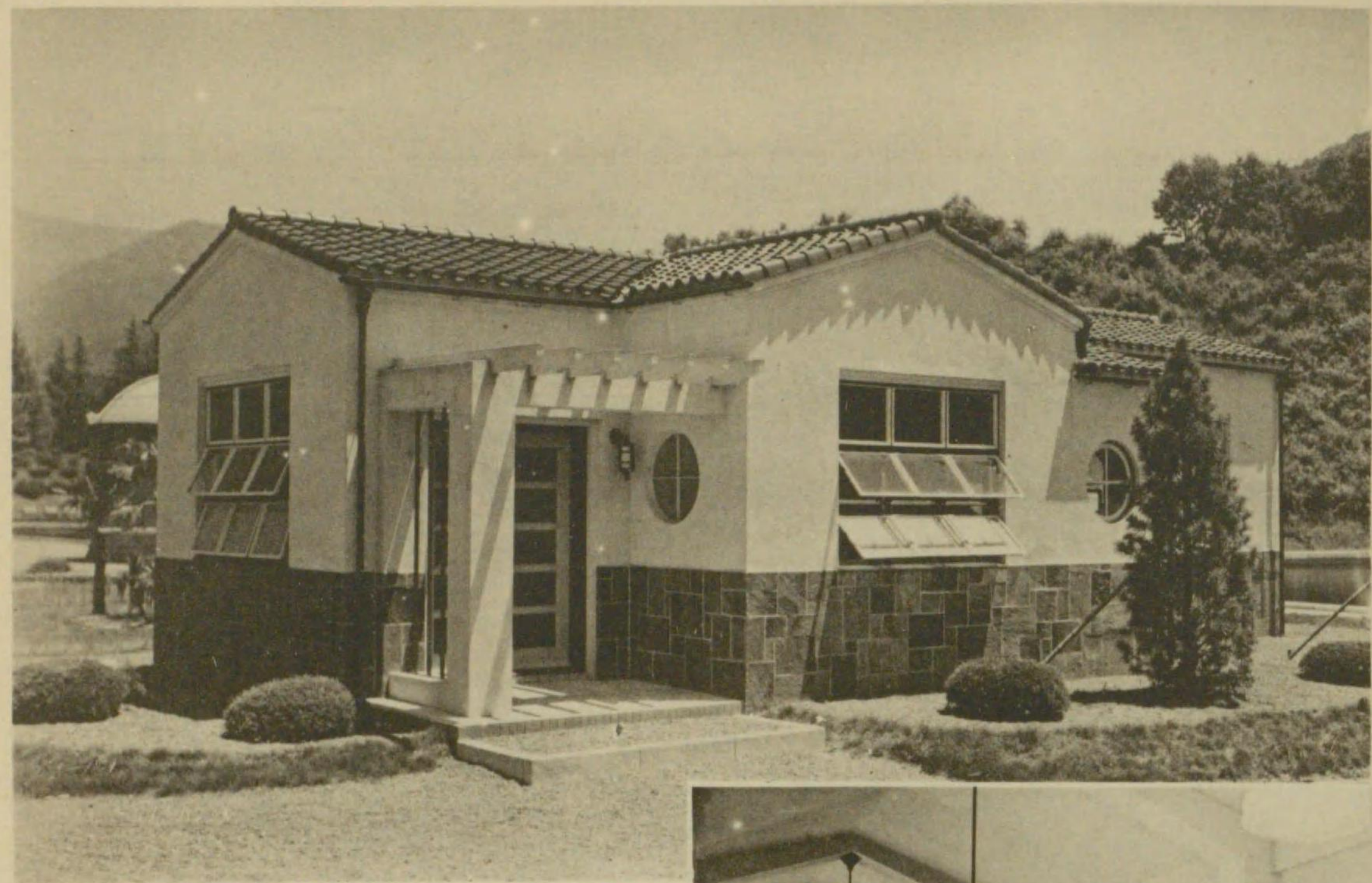


井 合 接 ノ 中 工 施

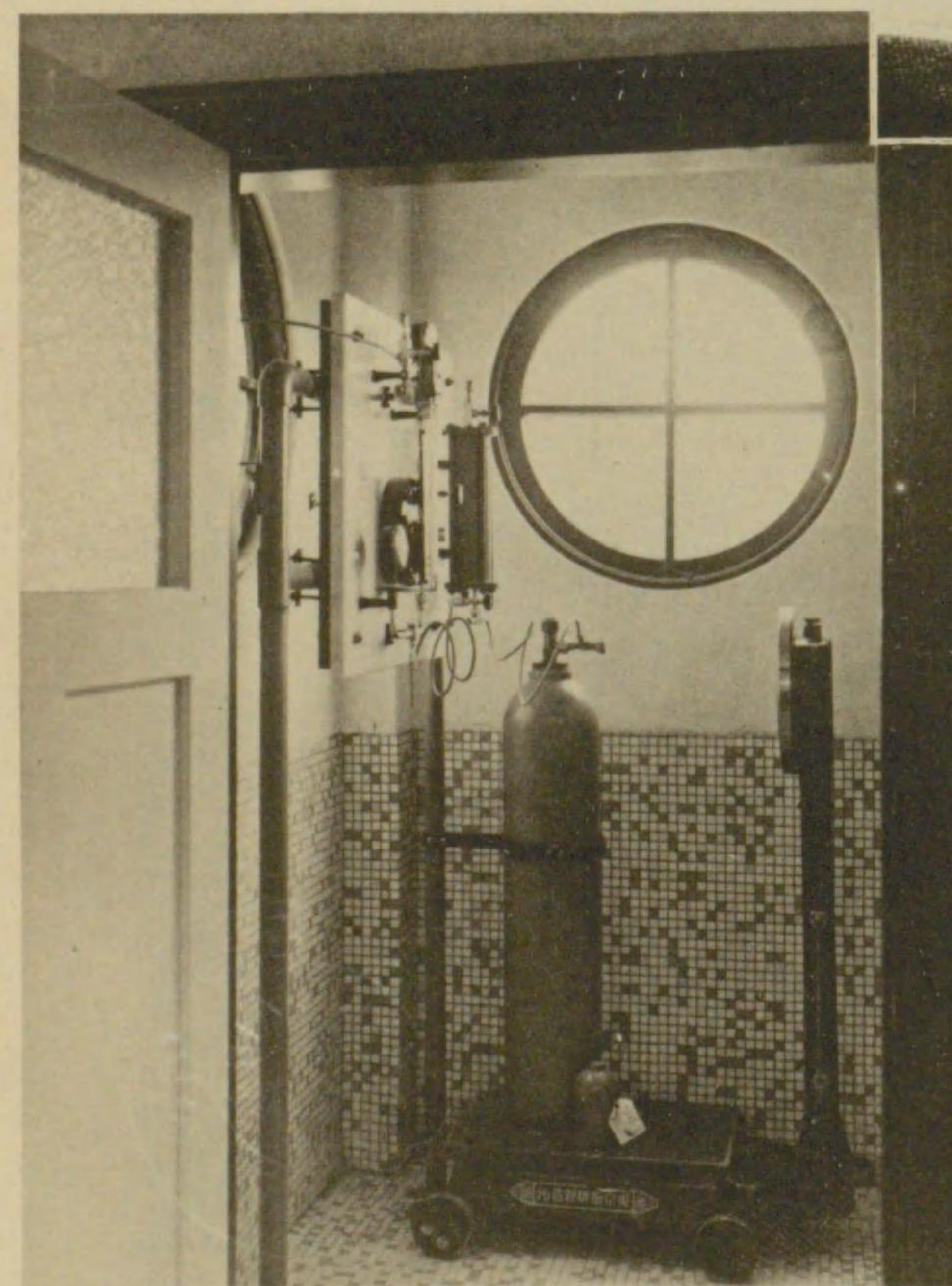
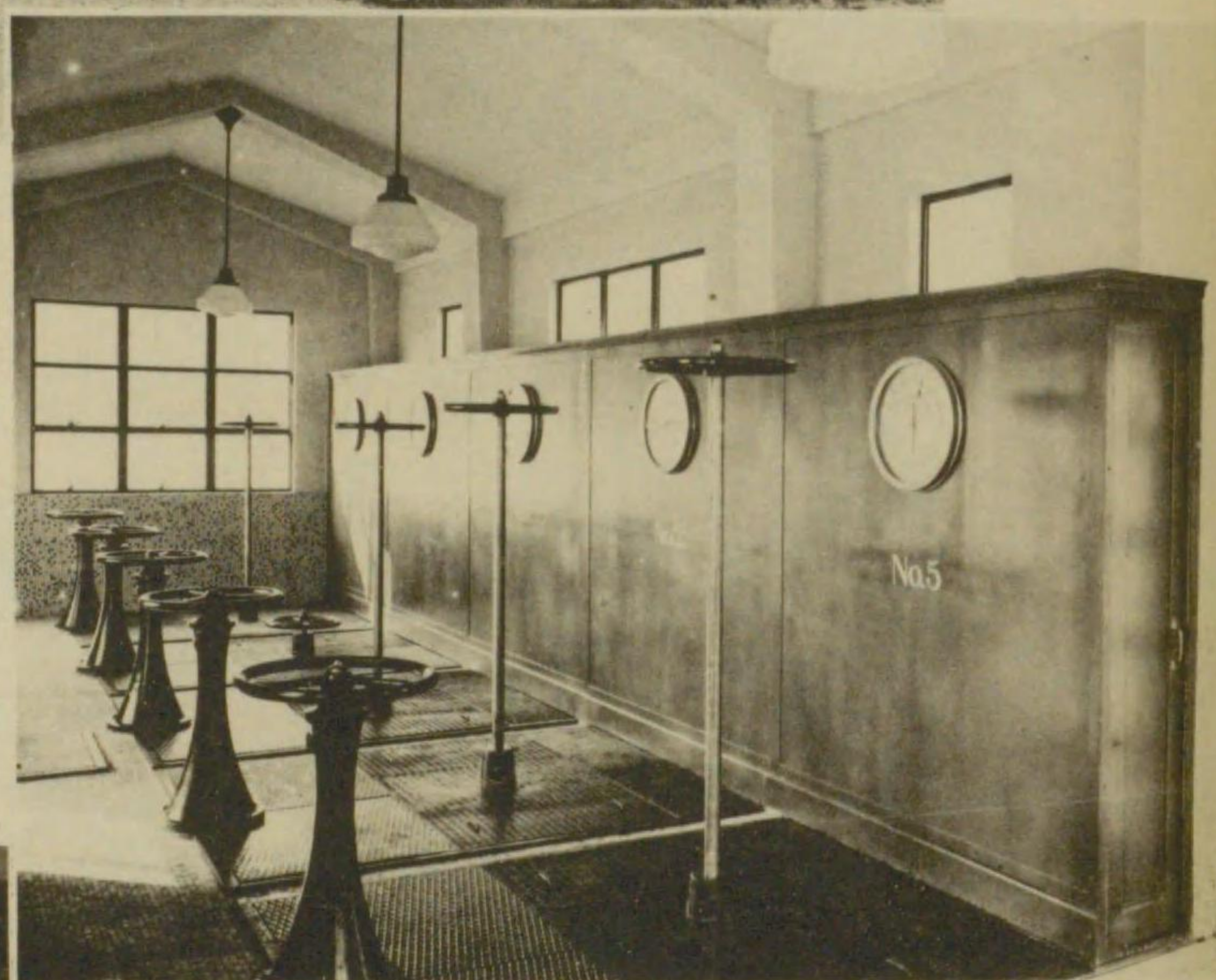


事 工 礎 基 室 整 調 過 濾





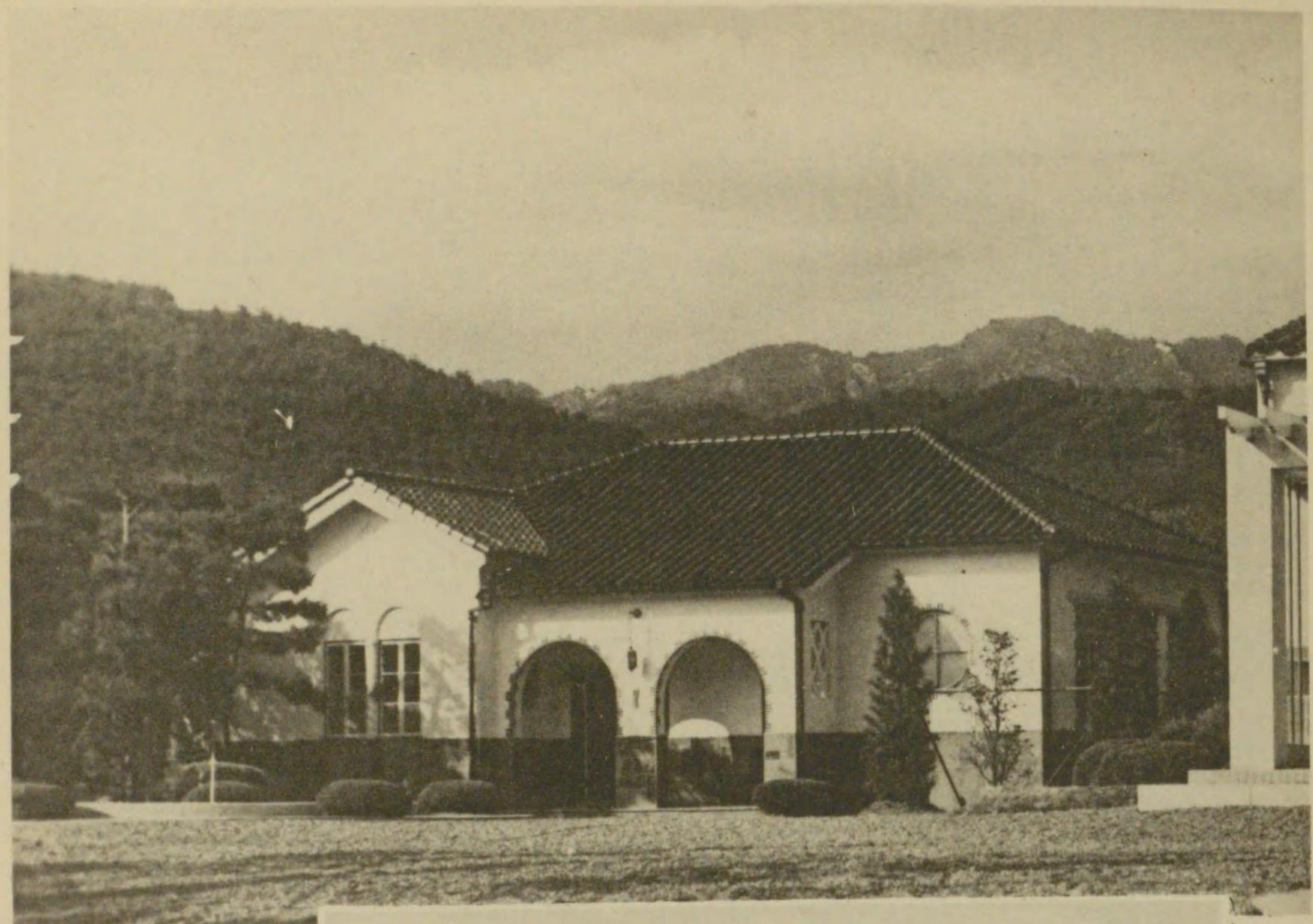
濾過調整室及其內部



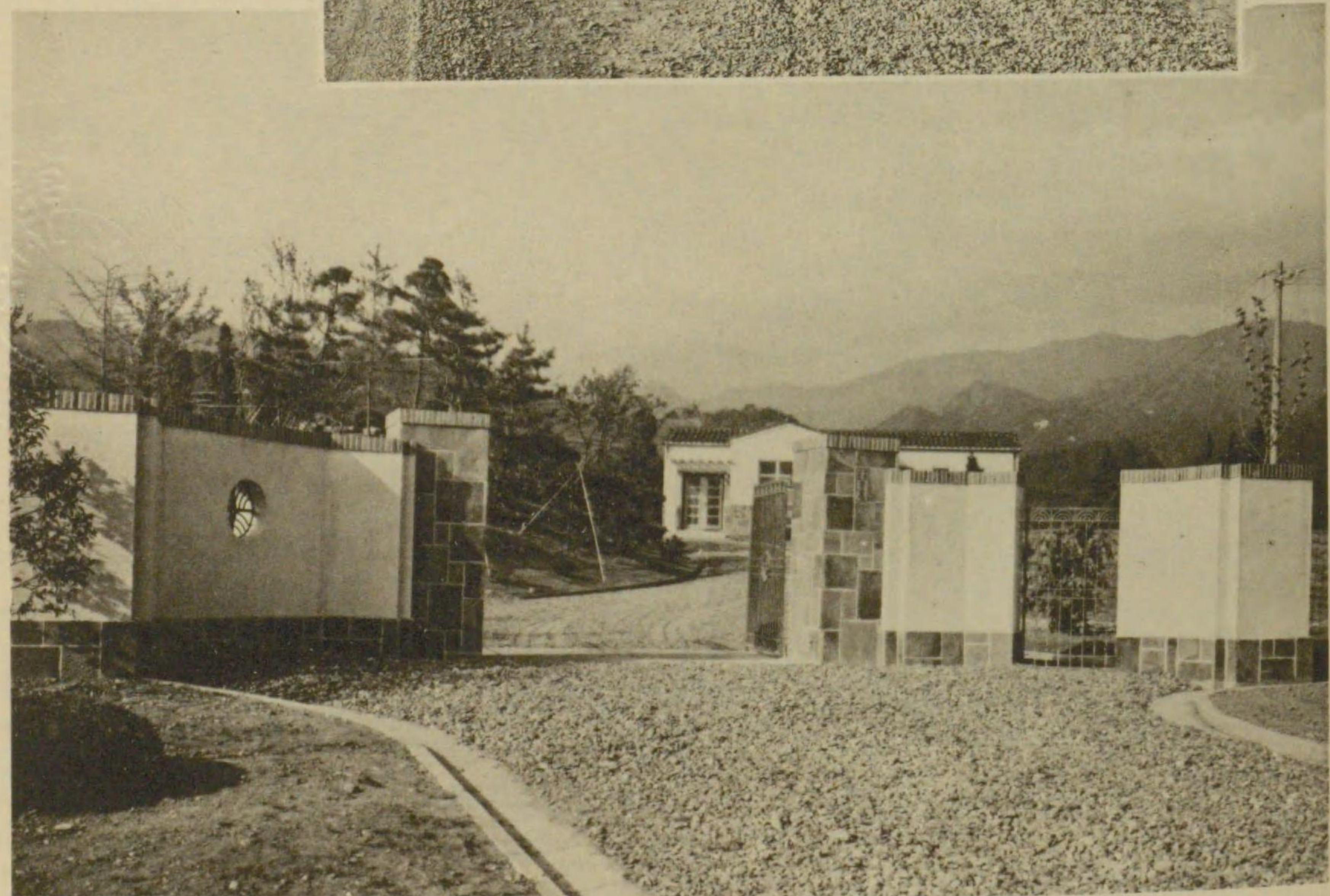
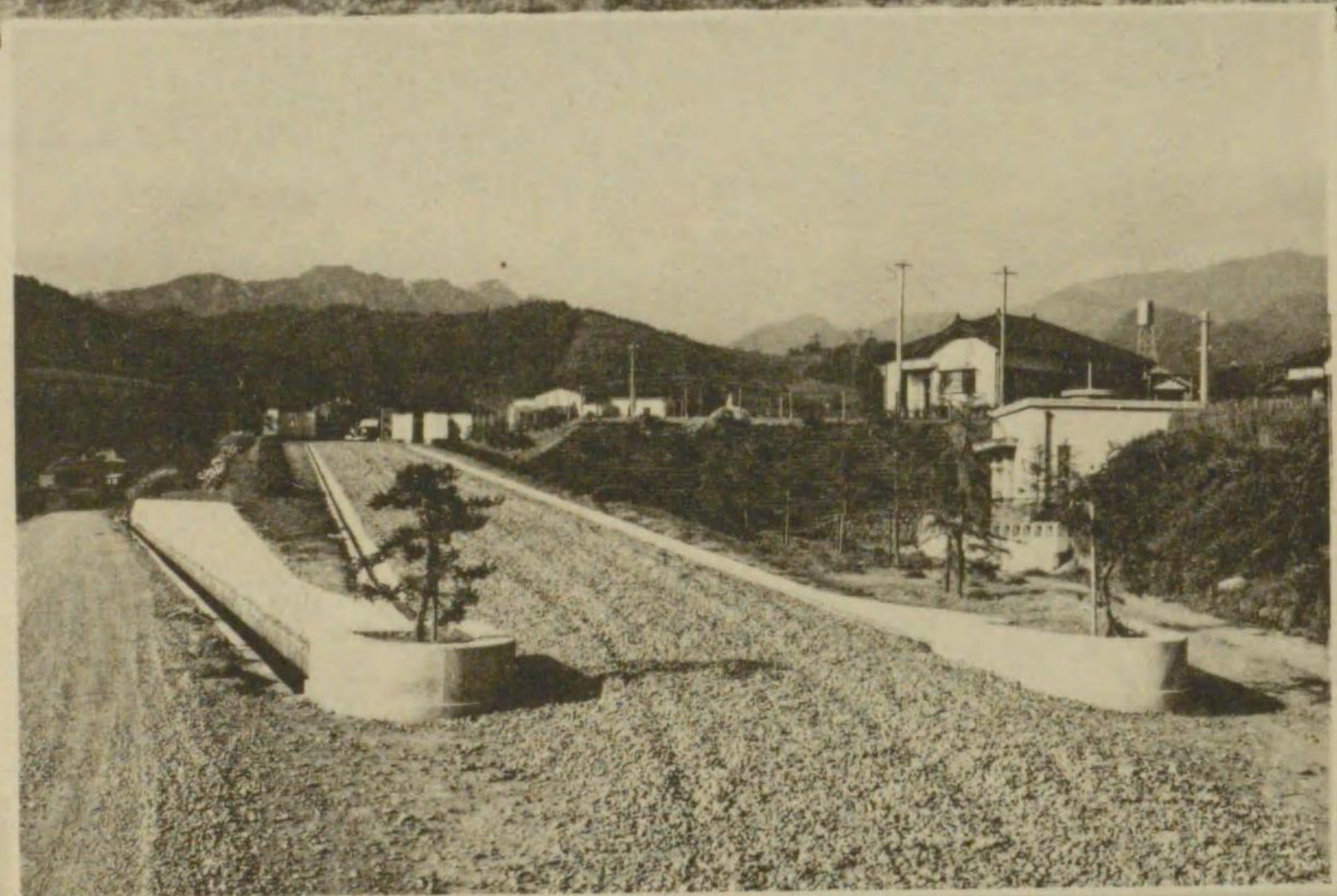
鹽素滅菌機室



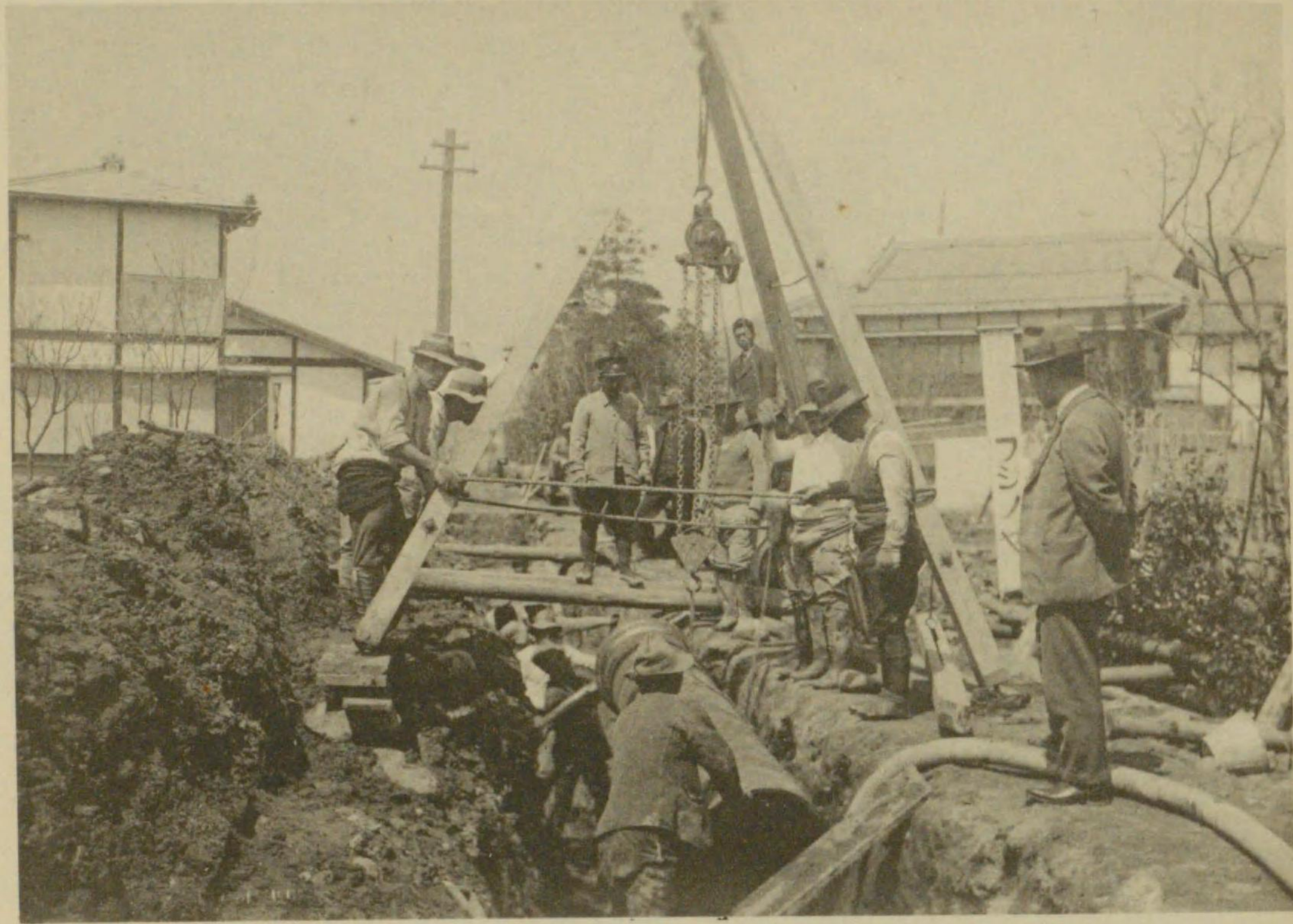




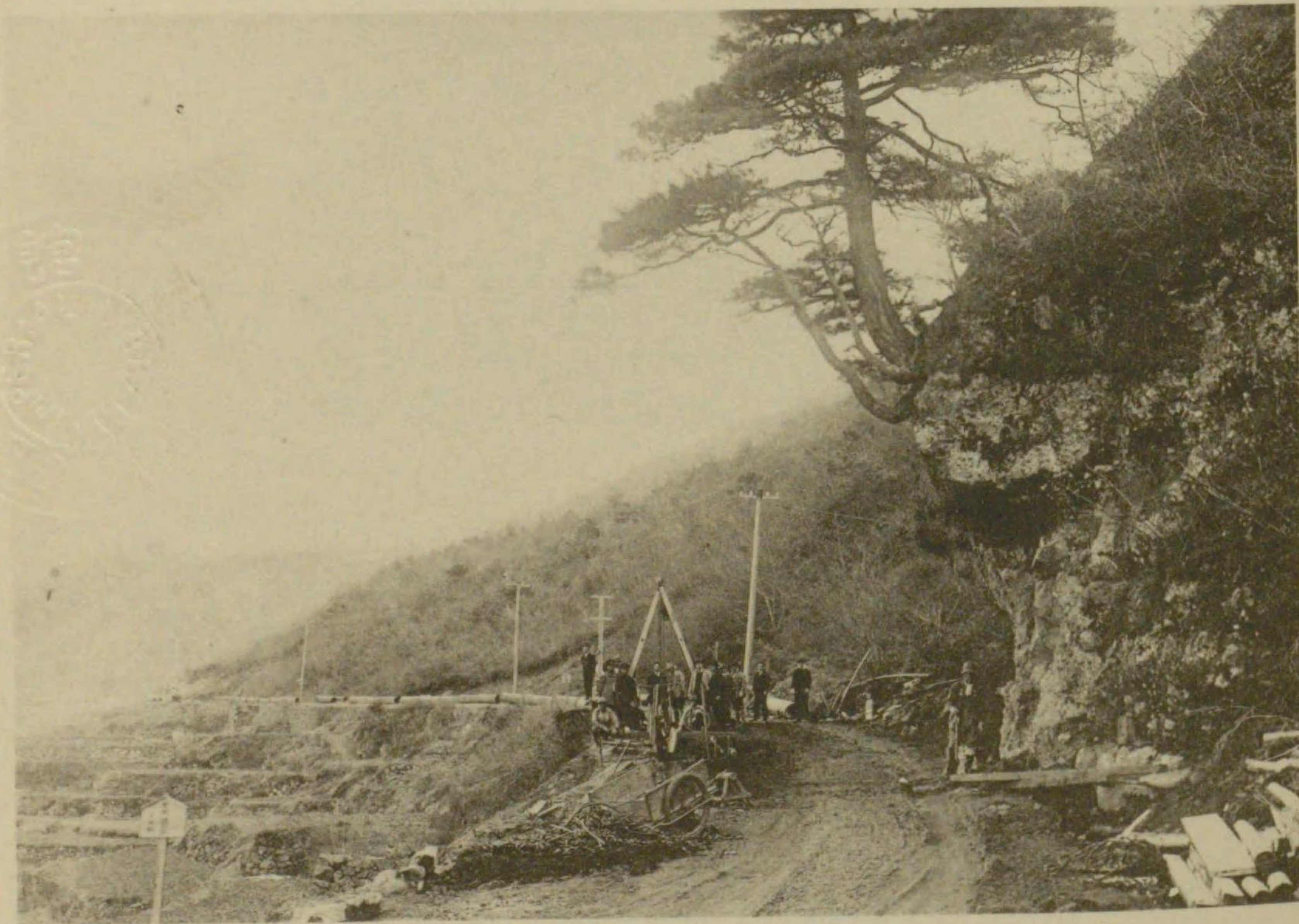
水源事務所及入口







業作設敷管鐵水送耗百五



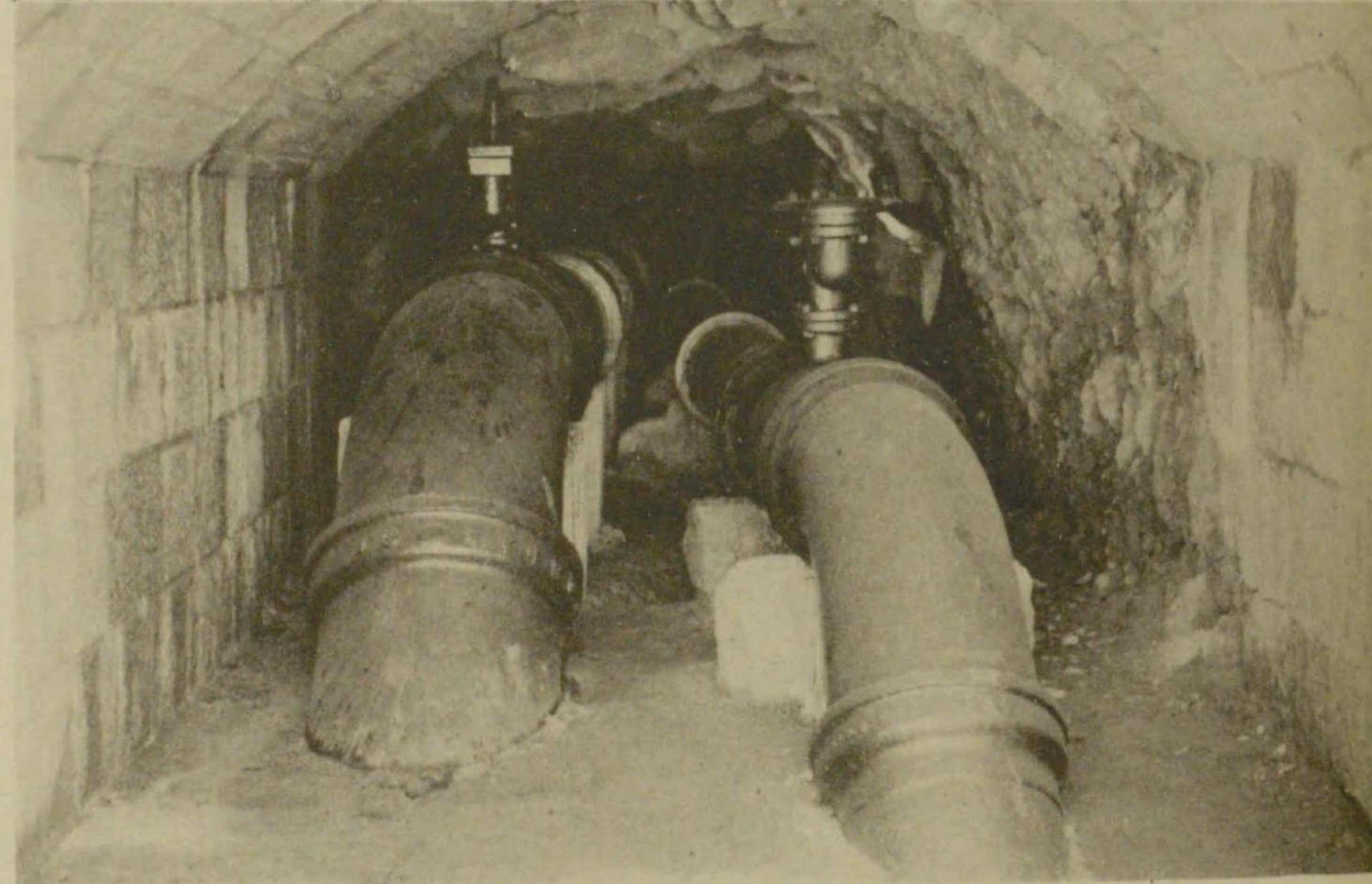
上

同

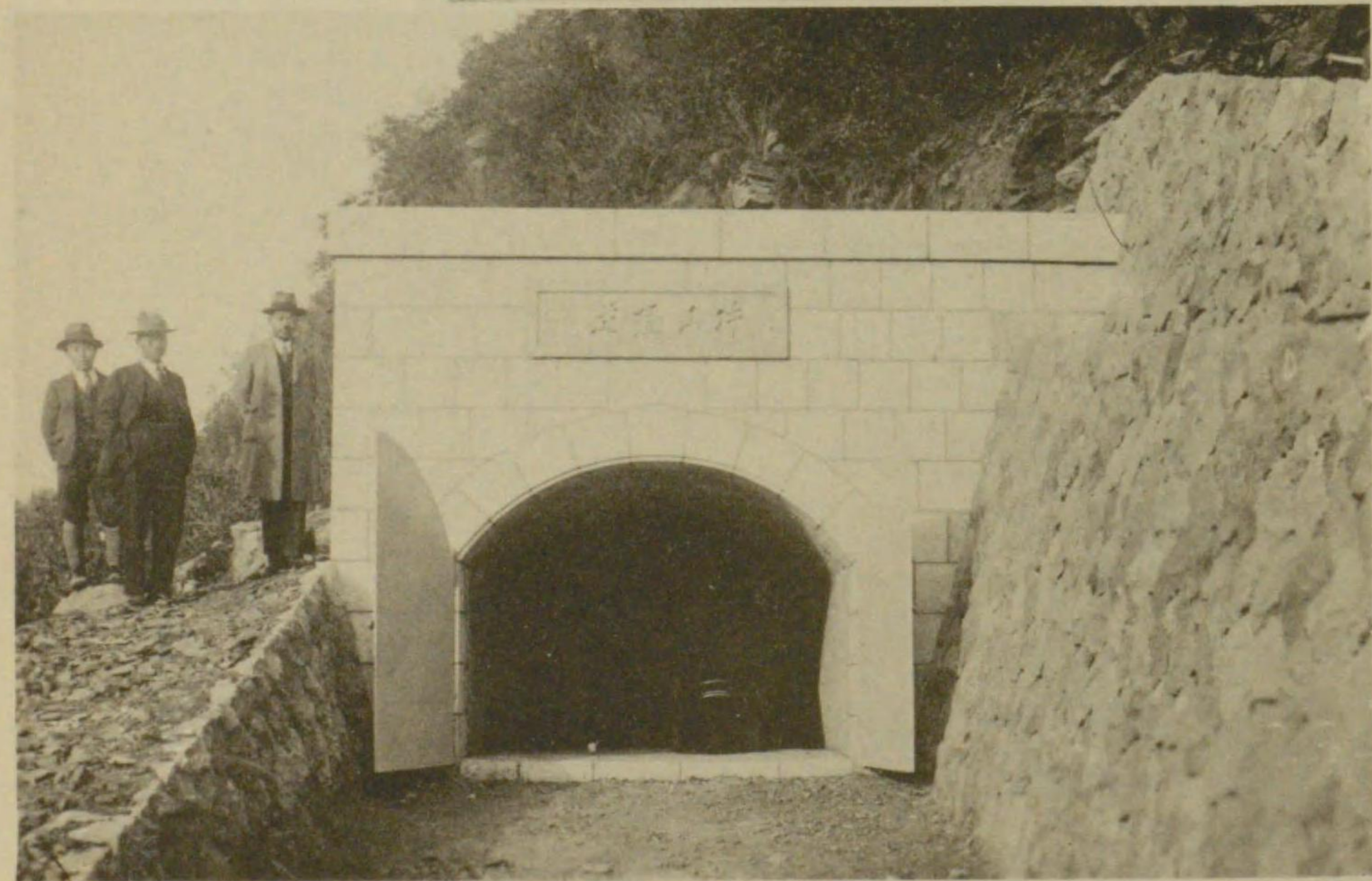




片山隧道擴張作業



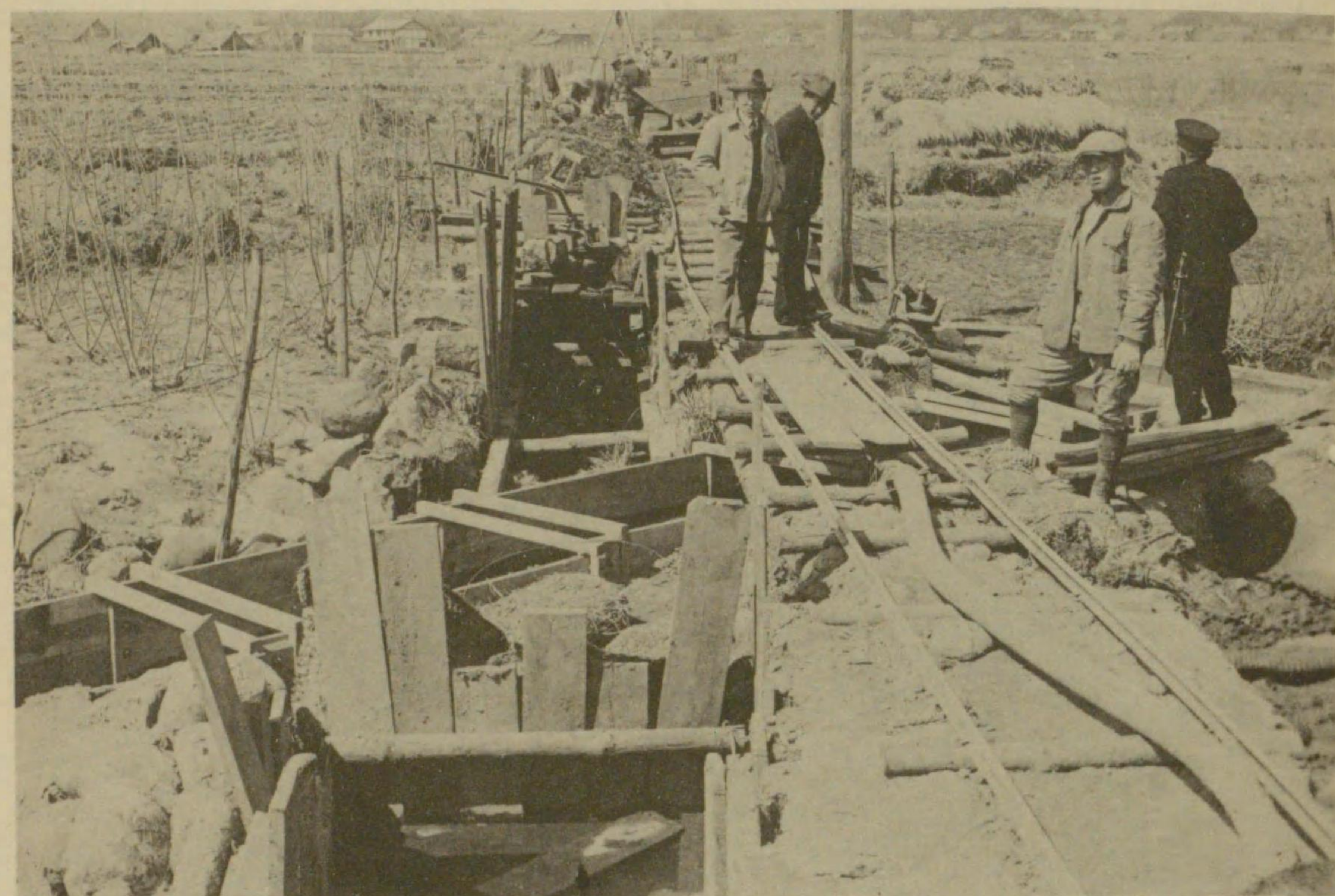
隧道內部鐵管



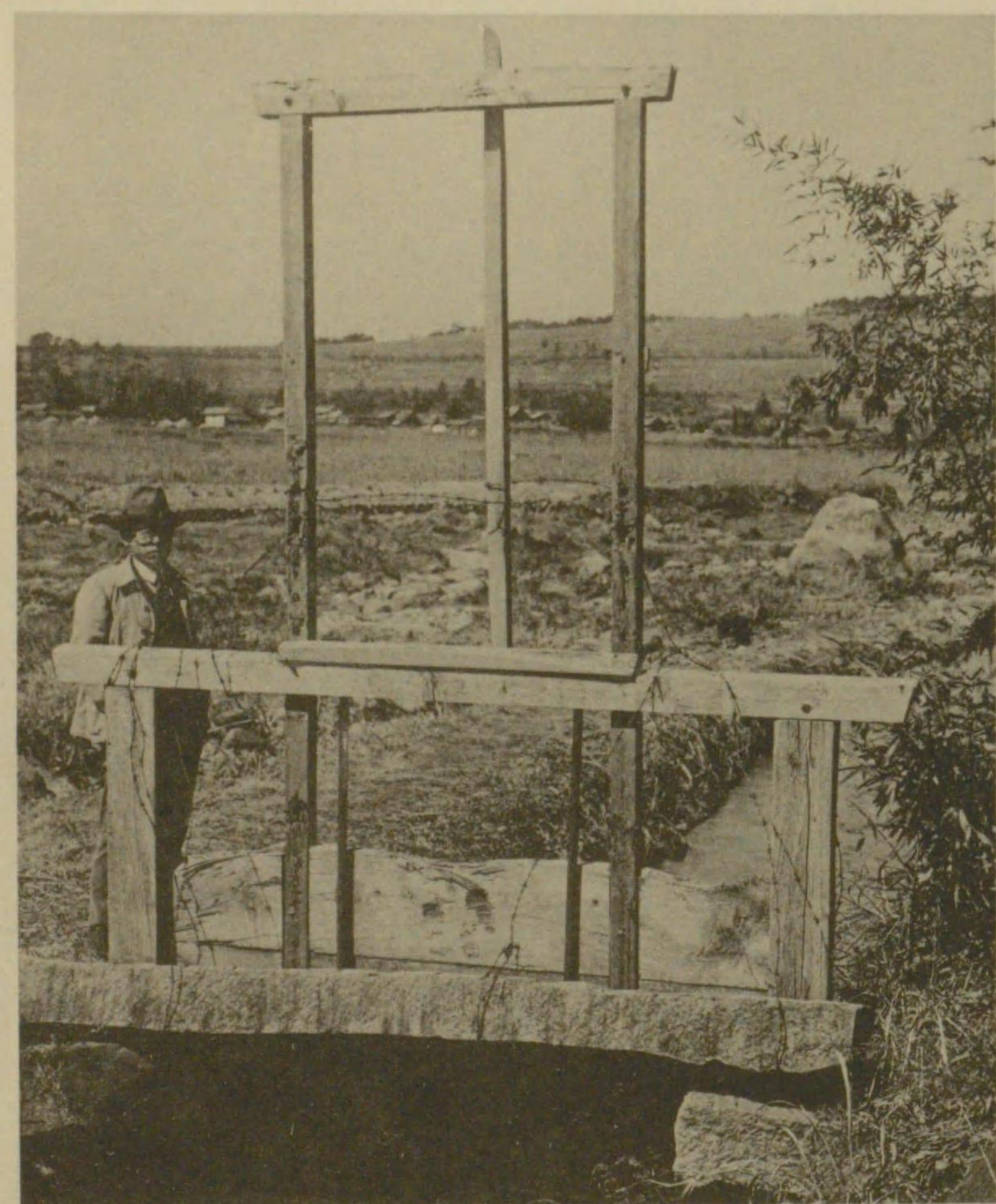
門扉







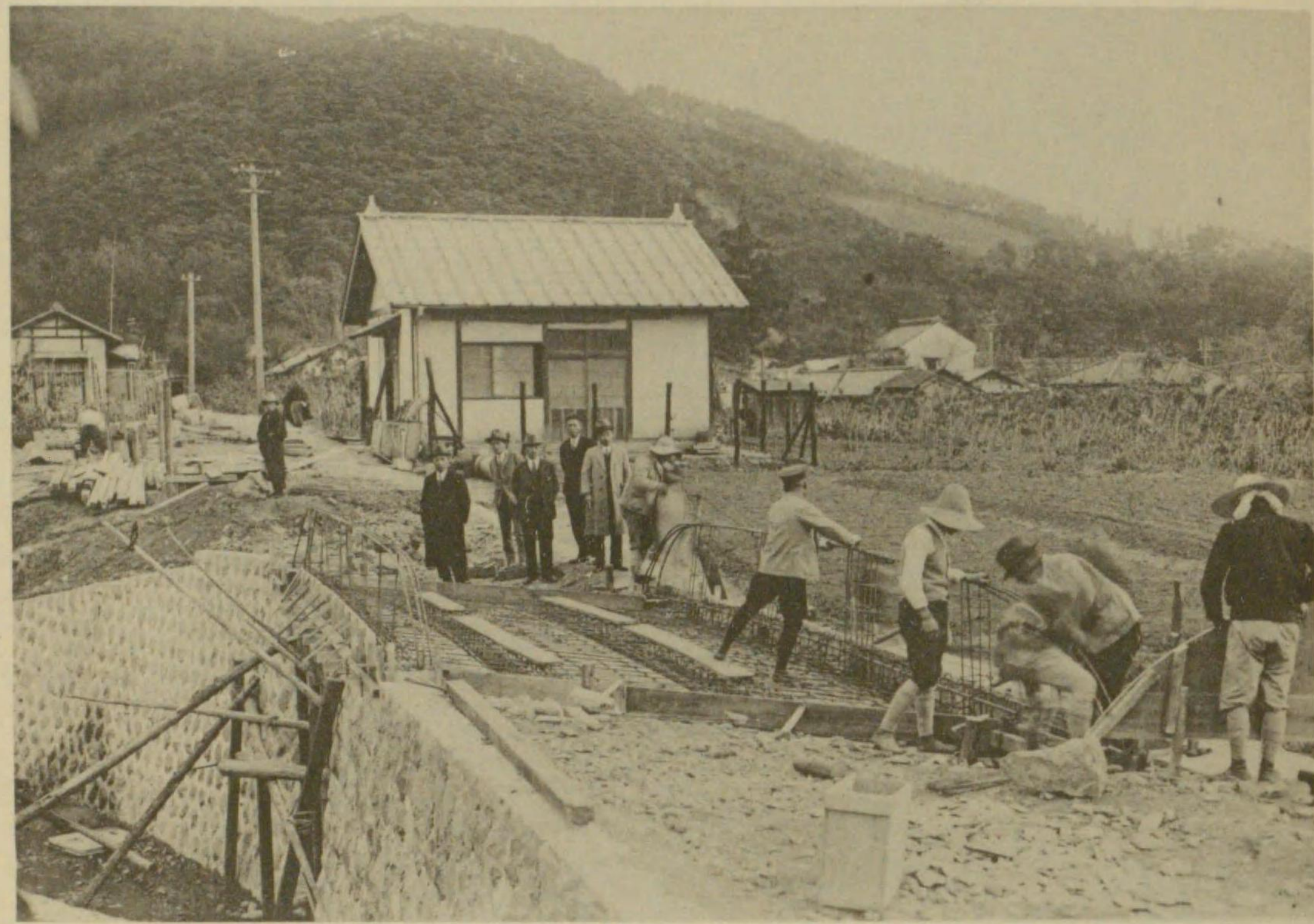
送水鐵管水路伏越作業



同水路引入樋門







水 道 橋 架 設 作 業



鐵 管 試 驗 所







起

工

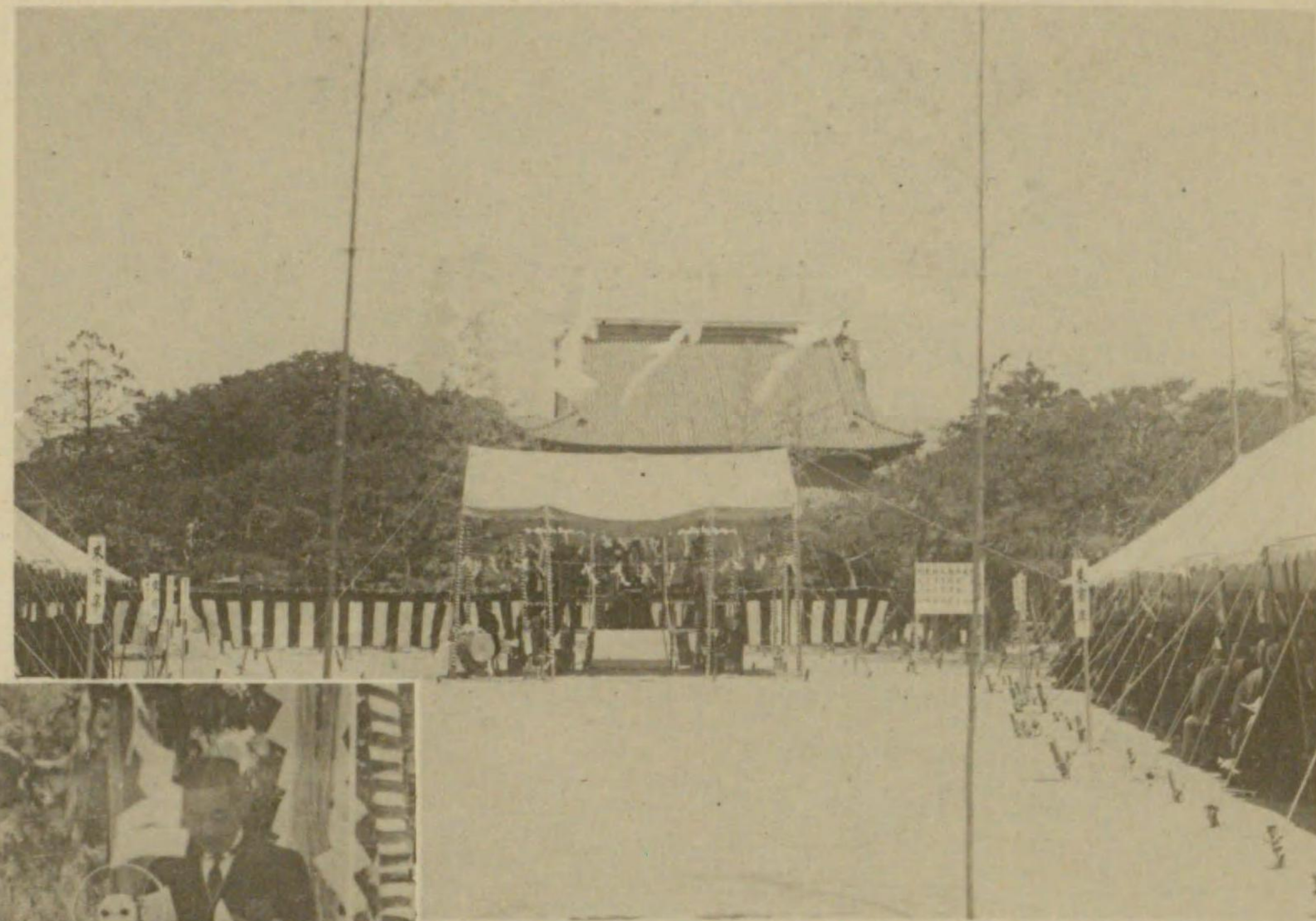
式



通  
水  
試  
驗





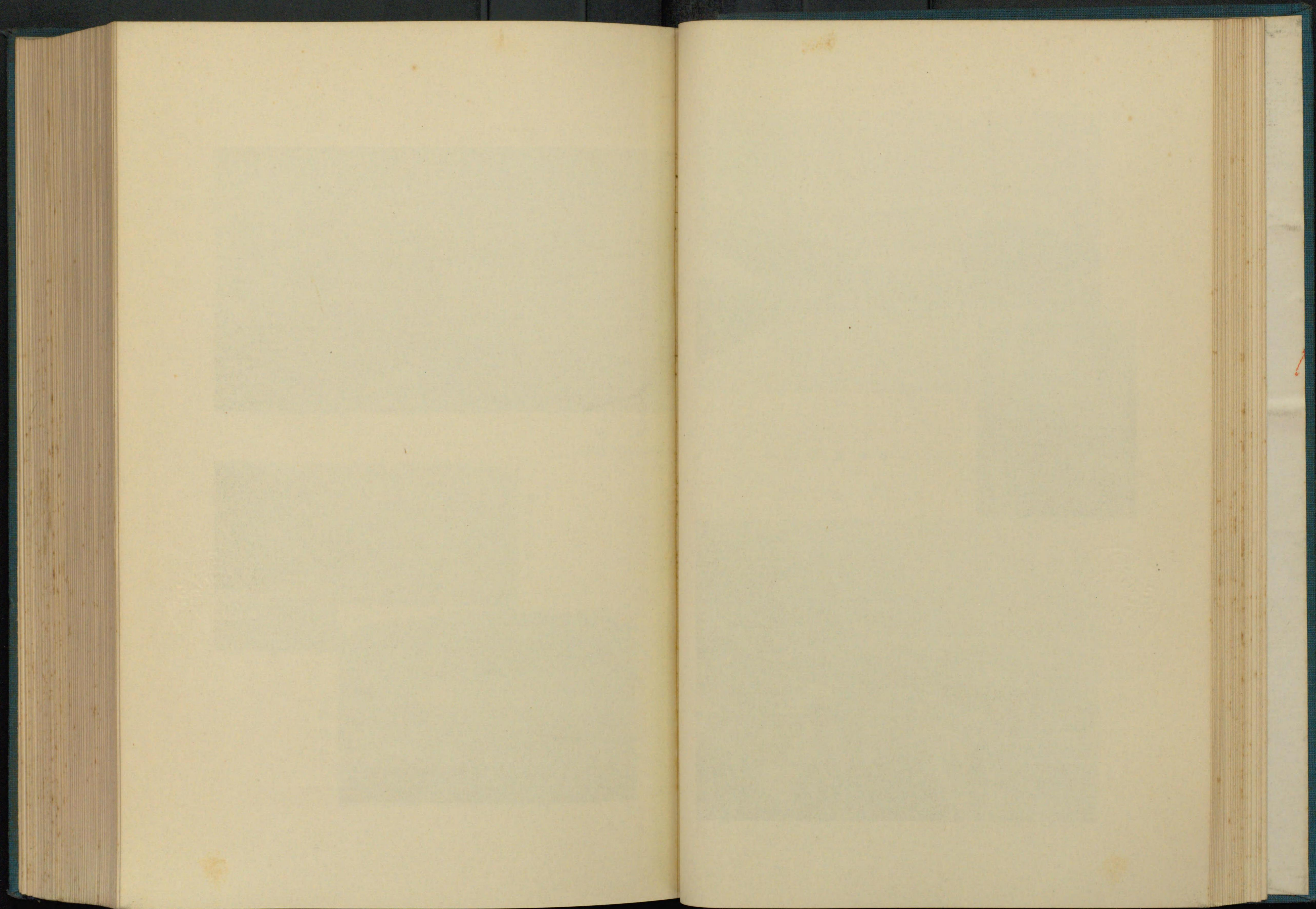


會賀祝及式工竣

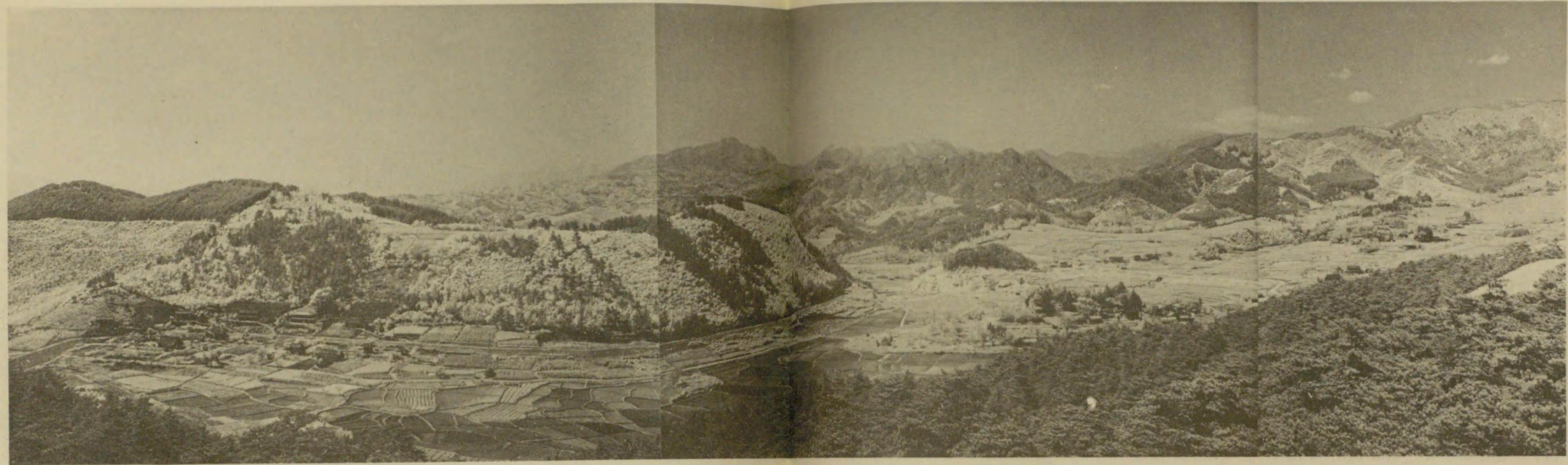


2.

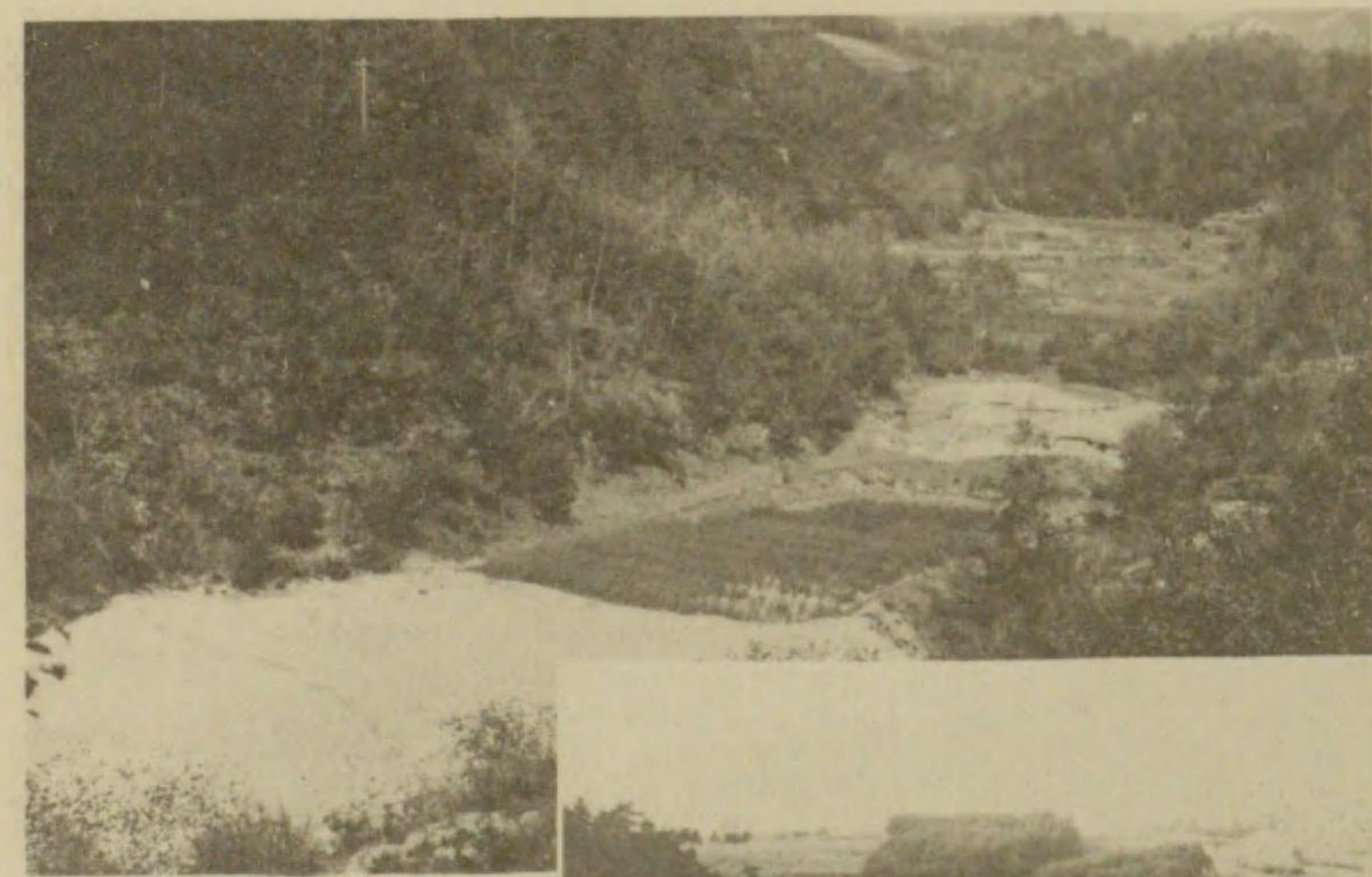




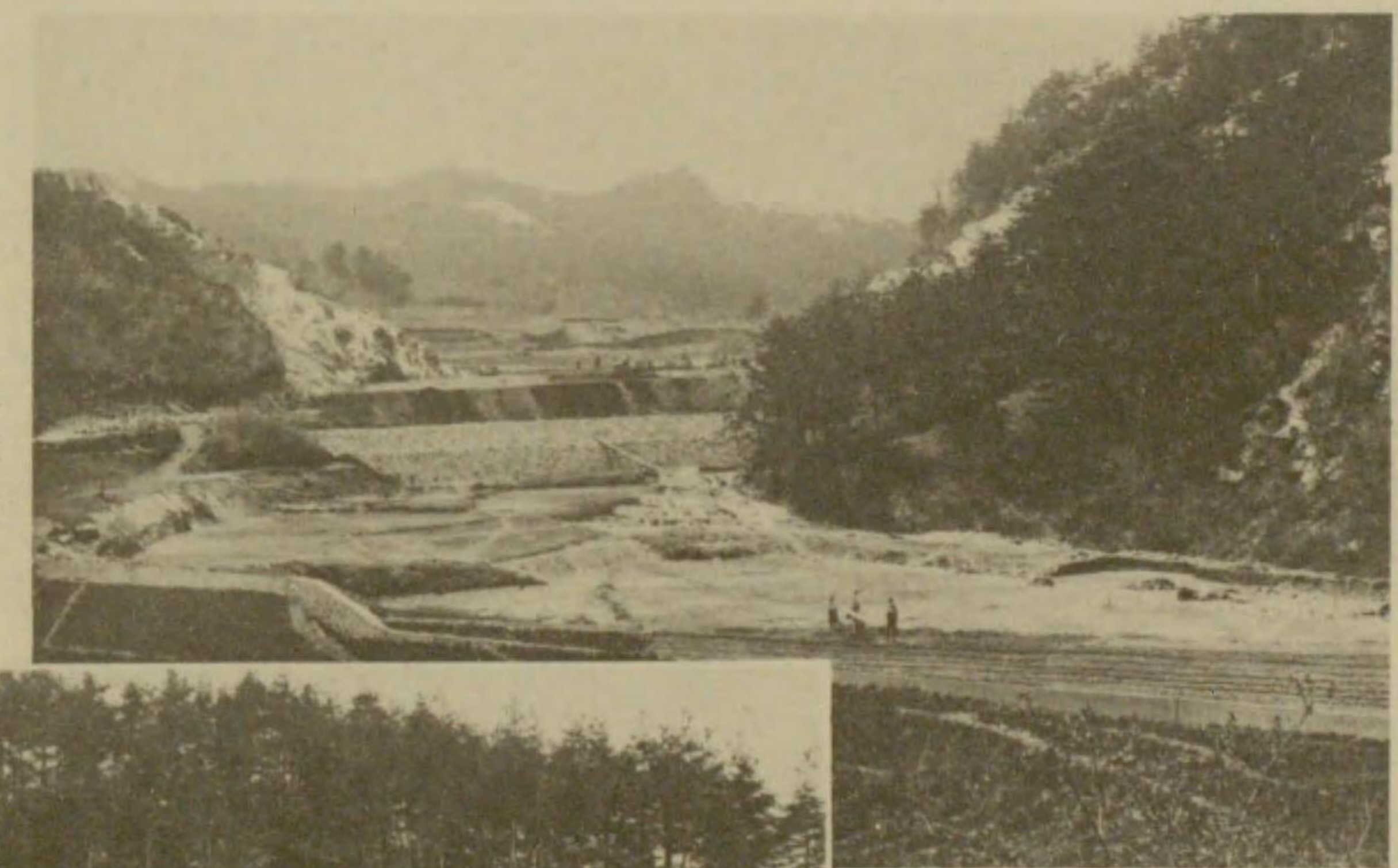




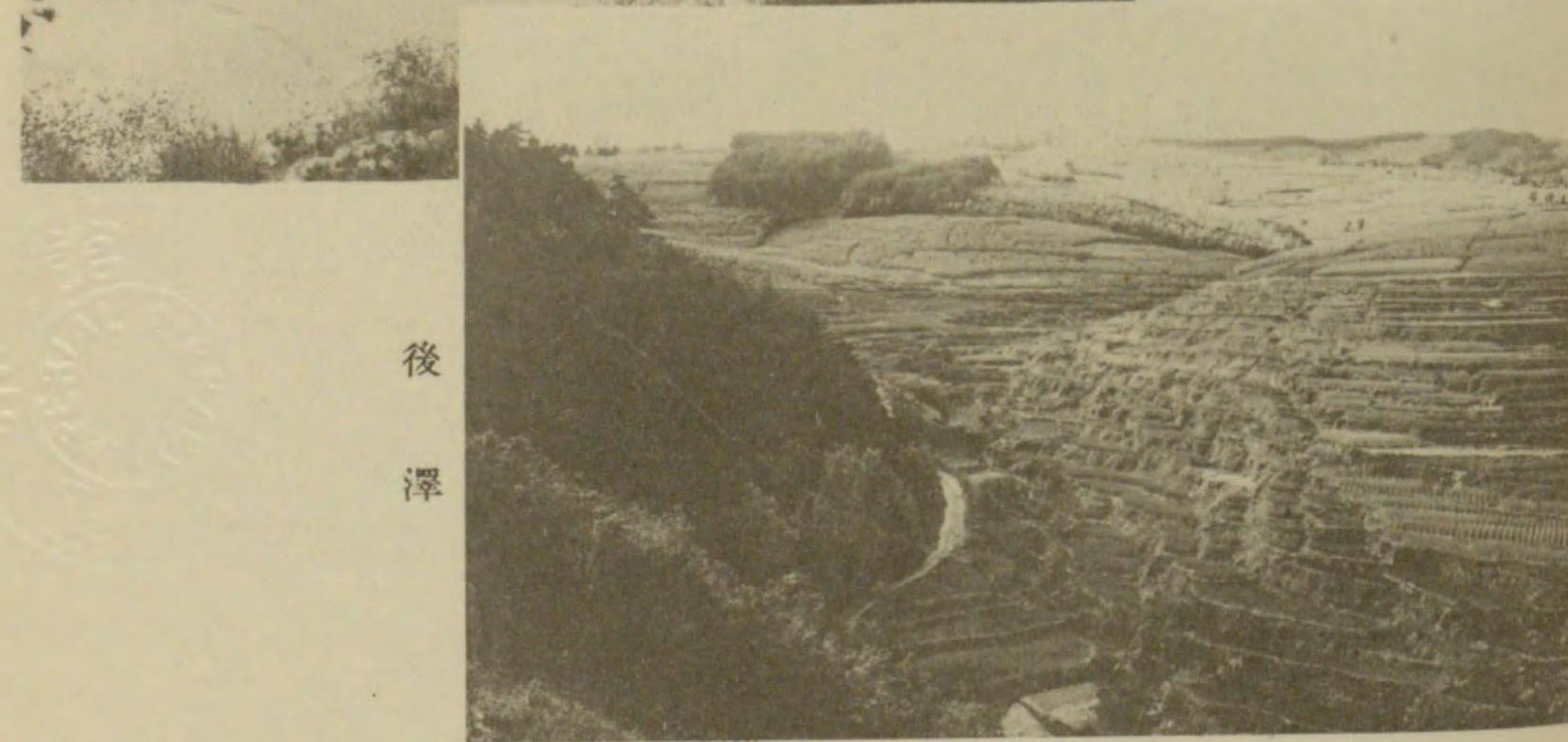
丸山用水池  
 (荒川沿岸用水幹線改良事業)



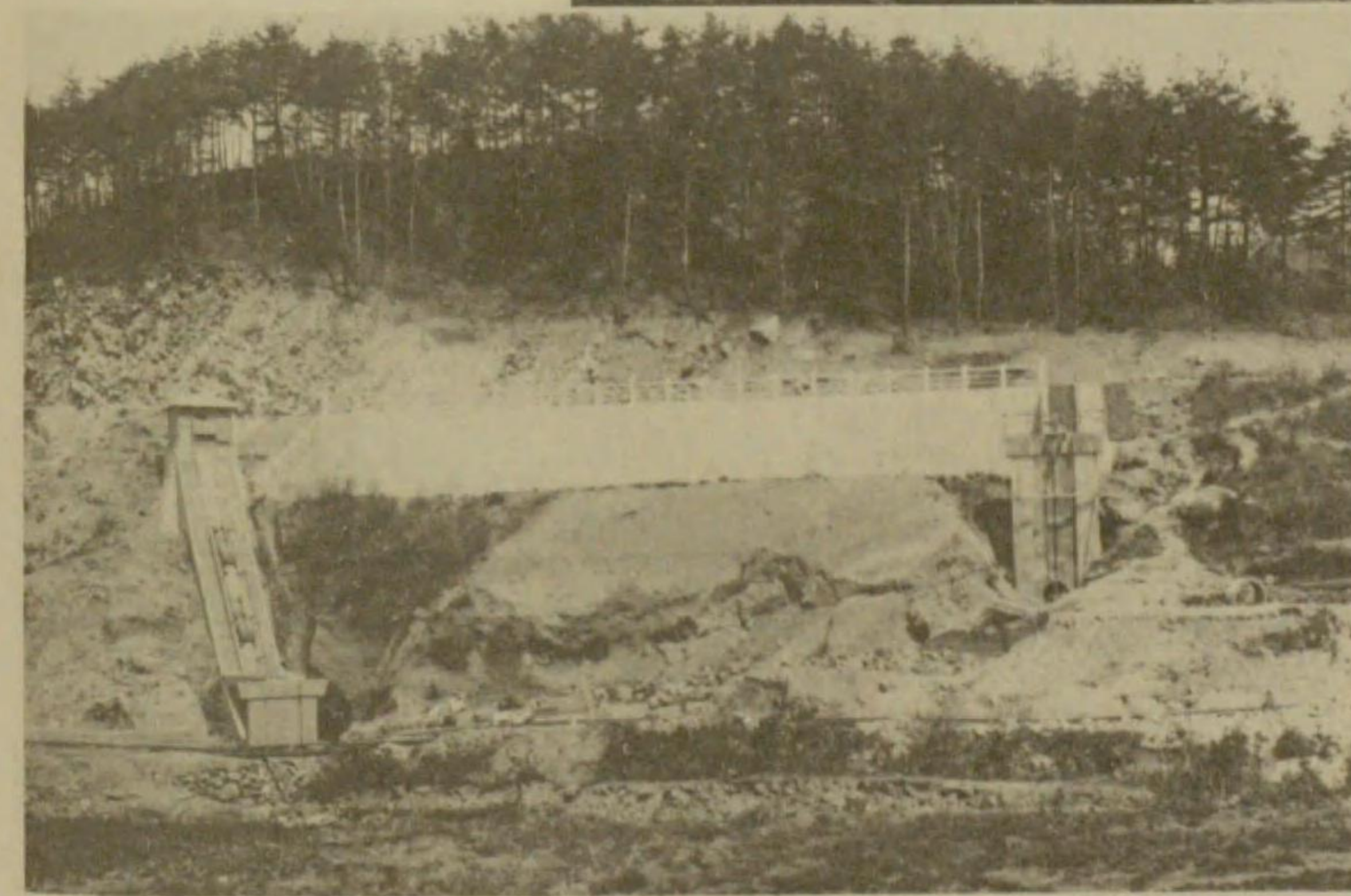
芹澤



施工中ノ堰堤



後澤



連絡隧道





住吉村揚水唧筒場  
(住吉山城小排水改良事業)



水道擴張委員ノ視察





# 甲府市水道擴張誌

## 概 説

わが甲府市は山梨縣の略中央に位し、東南は西山梨郡甲運、王諸、住吉の各村に連り、西は荒川を挿んで中巨摩郡西條、龍王、池田の諸村に隣し、北は西山梨郡千代田、千塚の兩村に接して居る。其の地域は東經百三十八度三十四分二十九秒、北緯三十五度四十分の位置にありて、東西は六籽八、南北が一一籽五之の面積は四二、三五三平方籽、一千二百八十一萬千七百八十二坪である。

四面は秀麗なる山嶽に圍繞され、其の中央は一平野を爲して居る之が即ち甲府盆地である。わが甲府市は本縣文化の中心地にして、又之の盆地の樞軸に方つて居る。市内上府中は土地高燥であるが、下町は東南に従ひ低濕地である。南は四季白雪を冠せる靈峰富士を仰ぎ、東は愛宕山に連なり、更に要害山夢見山を負ひ、北は遠く八ヶ岳の奇嶂を望み、駒ヶ岳、鳳凰山、白根山系の峻峰は遙かに西方に聳え、荒川の清流は市の西部を南に流れて居る。舞鶴公園は舊城址にして、市中唯一の展望地である。天守臺に立てば視野廣く、甲府平原を望み、市中は一眸の裡におさめる事が出来る。市街は殆んど平坦ではあるが、北方稍々高く、南方は極く緩かに傾斜して居る。

氣候は四季を通じ概して溫和であると云ひ得るも、稍々大陸的氣候である爲に寒暑の差著しき事がある。昭和十一



年の冬期は嚴寒零下十八度まで下降した。又昭和九年の夏季は酷暑三十七度一分に上昇したが、既往十五ヶ年の平均温度は十四度四分、降雨量は一千二百七十七耗一分である。春冬には北西の風多く、殊に冬は所謂八ヶ岳嵐が吹き荒び寒威は厳しく、積雪も尺餘に及ぶことがある。夏は南風、秋は西風が強い。

甲府は甲斐の國府にして往時は府中と稱へられ、舊西山梨郡相川村古府中の地にありて武田信虎、同晴信、同勝頼の居城であつたが、天正十三年三月武田氏亡びた後は織田、豊臣、徳川氏等の治下に屬した。天正十八年家康關東へ受封の後は、豊臣氏の臣加藤光泰が同十九年當國に封ぜられ、甲府城築造の工を進めたが朝鮮の役に出陣し戦死した爲に竣工しなかつた。續て文祿三年淺野長政が當國に封ぜられるに至り、城壁を修築し工事を完成したので、古府中の民戸を之の附近に移し州治を司る首府と定めた。之が本市街衢の形成した始めである。慶長五年淺野氏和歌山に移封となつた後は、徳川幕府の所領となり、天領とも稱し或は城代を置き支配せしめて居たが、寶永二年柳澤吉保當國に封せられるに及び、子孫永領の基礎を樹て、經營に益々努力したので、治績大いに擧り、又城地を修理し、樓櫓を建て、階壁を造り、道路を拓き、市街を擴張し、城の外濠を以て、廓内と廓外に區別して市街の規模を改めた。之が本市中興である。享保九年柳澤氏封を大和國郡山に移されて再び徳川幕府直轄の領となり、慶應三年に至る迄百四十年間勤番、支配二名を置き、追手、山手に分ち各番士百人、與力十人、同心五十人を隸屬せしめて城を守備し、城下を警衛し、租税の事務を掌り、風教を維持し、法獄を聽斷し、大小の政令を施行せしめた。明治元年六月には王政維新となり、城代を廢して鎮撫府を置き、柳原前光國政を治めた。同十一月鎮撫府を廢し甲斐府を置き、同二年七月甲府縣に改められ同四年十一月には山梨縣となつた。翌五年縣内を八十區に分ち、本市中錦町外三十六ヶ町を一區、二區に區劃されて區長、戸長を置き市中の諸事を司らせたが、同十三年五月區制を廢し郡制を布かれて西山梨郡の所轄に屬した。

同二十二年六月市中錦町外三十六ヶ町、上府中各町、稻門、飯沼兩村を合併して市制施行地に指定され、同七月甲府市となり市政の獨立を見た。以來諸制改まり人口は益々増加し、殖産興業は年を遂ふて隆盛し、本縣文化の中樞地となつた。尙電信は早くも明治十二年六月架設され、又同三十六年六月中央線東京甲府間の鐵道開通し續て、明治三十八年三月電話の開設により、交通運輸は繁劇を加ふるに至り、更に同四十二年四月市外相川村に歩兵四十九聯隊設置せられ、同四十四年五月中央線の全通を見るに及び、市勢は著しく發展するに至つた。越えて大正十四年山梨高等工業學校設立せられ、本縣學園の最高峰として君臨し、又、靜岡縣富士驛を起點とし、峽南身延を経て中央線甲府驛に通ずる富身鐵道は昭和三年四月全線開業により、表裏日本との交通運輸は完全に聯絡せられ、産業に、教育に其の他一切の文化施設は全く面目を一新し、市勢の上にも一轉機を劃するに至つた。又昭和六年四月多年の懸案であつた中央線電化は實現し、同十二月國道八號線の開通を見、翌七年十二月山梨電氣軌道鐵道西部線の竣成等により、本市の交通機關は自動車の飛躍進出と共に愈々完備し、商工業は急激なる進展を告げ昭和十二年八月一日、市域に接せる西山梨郡相川、里垣、中巨摩郡國母、貢川の四ヶ村を合併するに及んで、大都市計畫の第一歩を印するに到つた。市中の戸數人口は明治四年四月太政官布告第七十號に基き、同五年正月始めて戸口調査を行つたが、其の調査に依ると

第一區 愛宕町外三十八ヶ町

戸數 一、〇八五軒 人員 三、八三七人

第二區 柳町外二十七ヶ町

概説



戸 數 二、七〇九軒 人員 一一、七八九人

一、二區併せて三千七百九十四軒の一萬五千六百二十六人にして、次で同七年再調した結果一萬七千六百十六人であつた。同二十二年市制施行當時には六千八百五十五戸の三萬千二百二十八と増加發展して、以來諸制の施行と共に商工業は日に月に進展隆昌を見るに至つた。

昭和十年十月一日現在の國勢調査人口は八萬二千六百六十三人にして、本縣人口六十四萬六千七百三十二人に對する一二%七、乃ち一割二分七厘を示めて居る。之を既往に稽へると大正九年の一二%五等、其の増加割合は漸次昂りつゝあり、全國平均増加割合から見れば、昭和五年の調査迄は漸増の過程を辿つて來たが、昭和十年の調査では僅かばかりの低率を示めて居る。

市政の機關は市制施行と共に、柳町に役所を設けたが、市勢の發展に伴ひ著しく狹隘を告げるに至つたので、大正四年十月現在の地に移轉改築して昭和十二年八月前掲新市域四ヶ所に出張所を設け今日に及んで居る。初代の市長は若尾逸平にして、現市長齋木逸造に至るまで十四代の市長を迎へた。又助役は、昭和十二年九月小泉源其の職に就き収入役は澁谷俊在任す、以下各吏員は主事技師各五名、視學、社會教育主事各一名、醫員二名、書記五十五名、技手十九名、清掃監視長、公園監視、消防士、機關士各一名、消防技手八名、書記補三十三名、技手補十一名、消防手十名、清掃監視六名、守衛一名、雇三十七名、事務員二十二名、商工統計吏員二名、藥劑師一名、看護婦六名、囑託八名等の職員を擁し、廳内九課三十係を以て市政を分擔し、課に課長、係に係長を置き以下係員を配して諸般の事務を執掌せしめて居る。尙水道擴張工事の爲臨時水道擴張部を設けたるも工事終了と共に、之を廢し其の後は水道課に屬せしめ、水道擴張係と爲し擴張工事に附隨せる工事に當らしめ、又甲府病院同附屬診療所、公益質屋等を經營し、更

に本市産業の中心的指導機關として甲府工業研究所を設けた。市會議員は本年六月補選し現在三十六名、名譽職市參事會員十名を以て夫々議政機關を構成して居る。又外に市政各部門に互る執行上の諮問機關として夫々常設委員會が設けられて居る。

次に本市水道の濫觴は、明治八年四月開設した甲府用水路に端を發して居る。而し之は露溝式の水路を導水としたものであつて、衛生上極めて不完全なるもので、大正二年一月水道條例に基き敷設した。即ち之が本市最初の下水道である。水道經營は給水以來極めて良好なる成績を示めし、人口増加と市民生活の改善を扶け、産業經濟其の他各種部門及機關の發展を促し、之が爲早くも既設水道の規模を以てしては、完全なる給水を爲すことは出来なくなつたので、大正十一年七月擴張調査を試みたが、未だ其の機熟さずして中止された。爾來幾多の調査計畫と波瀾曲折を重ねて、昭和八年十月漸く擴張工事に着手し、同十一年三月完成した。此處に於て既設水道設備と併せて人口十萬人へ給水する施設は、完く充實し、更に極度人口十五萬人までに供給し得る豫定の許に荒川取水量を定め送水鐵管を敷設し、水道事業の大計に備へ、本市將來の理想に對し之が設備の全きを得た次第であつて、市民と共に欣慶措かざる所である。



## 第一編 上水道史

### 第一章 草創より敷設まで

#### 第一節 用水設備

擴張工事施行以前の既設水道は大正二年一月より通水したものであるが、之が施工經過に就きては大正三年五月刊行した「甲府市水道誌」により詳細を極めて居るが、其の編纂時期の關係上未輯録の部分と、荒川水利沿革に關するものを今上水道擴張誌編纂に際し、其の順序として一節を設け其の概要を併せて敘述することとした。

#### 草創時代

甲府市街の發祥は、古く文祿三年古府の民家を移して州治を司つた時に胚胎して居るが、之の民家の移集と共にまづ先に考へられるのは用水にして、町用水の濫觴は、荒川を水源として鹽部、湯村の各部落を疏通して市中に通ずる水路と、相川より古府中、下府中の街衢の中を疏放して居た流水を、孰れも使用して居たものである。延享三年町年寄の口上書によれば、

町用水之儀何レ之御領知之節ヨリ初申哉御尋ニ御座候

町用水渡り候者文祿年中淺野彈正様同左京様御領知之節堀井戸に而者火元用心に手支候故用水堰相渡り候段承傳勿論町内迄御入

用に而兩側石垣に被遊堰節御渡被下候段承傳候夫より三四年過候而堰蓋無之候而者往來通路惡敷御座候に付石蓋も御入用に而被遊被下候段是又承傳候夫より以後者町内之儀用水堰修復一町切に町入用に而只今迄修復到來申候寛永十三年より寛文元年まで廿六年之間平岡次郎右衛門、平田勘三郎様父子一國御奉行此節者御本丸に而御座候右に准御修復被遊被下候由承傳候、夫より櫻田御領<sup>甲府</sup>家也に罷成候御新見但馬守様<sup>家老</sup>御出被遊細井治兵衛様御普請御奉行に而所々御普請御座候而用水筋堰筋も御入用に而御普請被遊被下候段是又書留に御座候其以後寶永二百年松平美濃守<sup>柳澤</sup>家也に相渡候而も櫻田御領より御引渡御書送を以御入用に而御普請被遊被下候其以後松平甲斐守様にも右に准し御入用之場所者御入用に而御普請被遊被下候勿論町入用の場所者只今に至迄町入用に而年々致來申候惣而御掛替被下候節者入札を以一式御入に而請負人仕上申候御修復之節者手傳人足者町人足度々出申候御事

當地町方に相掛り候上水郭内迄之樋升等破損之節は前々は窺之上公儀御入用を以修復申付來候付此度修復之儀前々之趣を以御勘定奉行中に申達候處於江戸表上水御修復之儀武家方町方入用割合出金之事に候由殊に於當地は御用水一切無之全く町方用水に付江戸表之通割合申付可然候申來候依之御老中方に申上向後武家方町方入用を以普請申付候筈に相極候右割合武家方之儀も高割に而出銀有之候町方は小間二間口を武家方高百石之積に相極め出銀之筈に候尤右割合江戸表同様之事に候條自今以後右之通相心得此度修復入用高之内右上水掛り候町方二十三町へ別紙書付之銀高割掛來卯正月二十九日迄之内取立差出候様水下町方名主共に可申渡候事

甲府町上水修復入用割合之覺

掛り高十五萬九千三百五十二石三斗

一銀高三貫八十二匁六分八厘

此割 但高百石ニ付一匁三厘四毛餘

兩替五十八匁之積

第一章 草創より敷設まで

上水入用落札直段



銀二貫六百九十六匁二分一厘

水下二十三町出銀

此掛高十三萬九千三百七十五石

此間口二千七百八十七間半

右二十三町兩側分

但間口二間ニ付百石之積リ

銀三百八十六匁七厘

武家五十人出銀

此掛リ高一萬九千九百七十七石三斗

とあるに據りて、其の沿革を始め、修覆方法等の慣習の概要を窺知し得る譯である。又寛文年中以後に於て水路を取縮る爲に左の如き用水制札を掲出した。

一、此用水に於て魚を取、水をあび何に而もあらい申間敷候事

附堰土手狽にふみあらず間敷事

一、用水まちの上通路いたすまじき事

一、籠尺木こぼち取まじき事

附狽にふみあらずまじき事

右之條々相背輩有之におゐては、可爲曲事もの也

月 日

又寶永二年町奉行竹川渡兩人の引渡書に

町用水箱樋六ヶ所、御馬屋敷一ヶ所、同所圍之内一ヶ所、伊勢町一ヶ所、川尻町一ヶ所、八日町一ヶ所、百石町一ヶ所、右八日

町、百石町二ヶ所、者御破損方迄而被申付候且又町用水樋御入者御年貢金ニ而申付候。一、用水掛樋六ヶ所但小、鹽部村三ヶ所、湯村三ヶ所右者湯村溜水用に入交に付惡水拔之ため掛樋申付候是者材木近所御林に而被下町人足に而爲伐場所へ持運候も町人夫に

申付候大工者役大工仕申候右者地方分に而御座候得共町奉行より申付候間書載申候

とありて従前から水路は下府中の全部に鑿通し、用水に充てて居たもので、又元治元年町方取扱帳にも

町用水箱樋八日町御門外一ヶ所、山田町御門外一ヶ所、穴切御門外右箱掛替修復共用水掛リは武家町方より入用出銀致掛替修復致來申候

外に用水掛樋上飯田村分之内一ヶ所、上府中新水路箱樋白木町三之御堀一ヶ所、右同斷

とあり、寛文寶永の兩度市街の發展に伴ふて修理を行ひ、又天保十年に上府中方面の用水設備の爲に水路を開設して、庶業の振興に備へる等、明治に至つたもので、町中では之等を御所用水と稱へて居たが、町用水に關する概説を知り得られる譯である。

### 明治以後

王政復古し明治の御代となり、縣治を甲府に定めて明治四年十一月には山梨縣と改稱されて以來、新制の施行に伴れて漸次人心の安定を見、戸數人口は愈々増加し殖産興業日を遂ふて進歩した。従つて土地の開發するに従ひ商賈工匠の勃興と共に、最も痛切に要求されるものは用水問題である。然るに當時本市の用水設備は極めて不完全なる爲に、製糸其他の製造工業には充分利用する事が出来なかつたので、市民より用水改良計畫策立を翹望されるに到つた。偶々明治三年十月山田町若尾逸平氏は市中有志と相謀り用水改良を企てた。之は飯田町交陣場堰を擴張し、從來の漑灌用兼備の水路を、市中用水専用にする様、縣の許可を経て、荒川流水を取入れて、相川町より新青沼町、魚市場東より百石町元英和學校前に出で松原小路（錦町）まで水路を開設して、市中諸用水に供與したのが、甲府用水路の濫觴であつた。



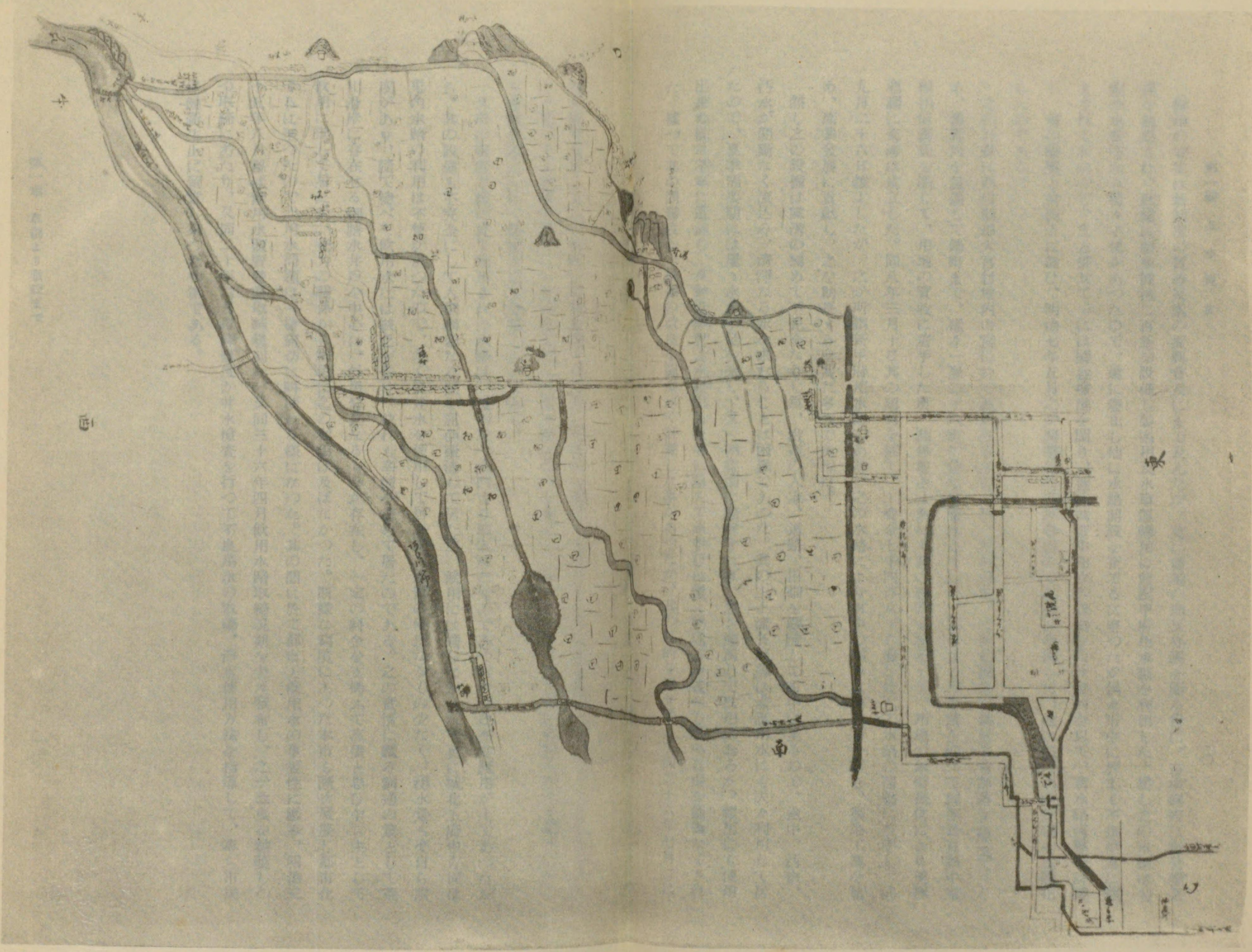
縣治の安定は新制度の實施民業の振興普及にまで及んだが、更に産業の助長保護を圖る爲に、市中錦町に縣營勸業場を建設され、此處に製糸機械二百釜を設備し製糸用及水車運轉用に前記甲府用水路を利用した。然し之の水路は勾配や水量等から種々不便があつたので、遂に廢止し他に水路開設を企てるに至つたが偶々市中に於ても不良用水に悩まされて居たので、之と併せて一には國益増進を圖り、他には市中用水の改良をなす目的を以て、新水路開鑿を計畫し、縣の勵獎と斡旋とに従ひ、明治七年五月之が開鑿見込及經費捻出方法書を申請して、茲に新に水路計畫を具體化したのである。

之の計畫は西山梨郡大宮村地内山宮に於て荒川原水を引入れ、同村羽黒、千塚村鹽部、湯村の各部落を疏通せしめ、舊郭内を貫通して錦町まで、延々一里二十八町の間を開鑿するもので、市中よりの申請を俟つて同年五月縣中屬相川信義氏を派して、用地の買収に着手した所、關係地主は孰れも其の趣旨を諒解して、用地の無償提供により至極順調に交渉は成立した。同八年三月十日其の認可を経て、工費金七千四百八十六圓を投じて水路の開鑿に着手し、同九月二十六日竣工したが、之が所謂新甲府用水路である。之の水路により市中の用水は面目を一新し、製糸工業を始め、産業發展に貢献し、之を助長する所甚だ多大であつた。

然し之の設備は露溝の極めて不完全なりし爲、沿道の人家、道路、田畑を緩流して市中に至るので、途中、汚物、汚水が間斷なく流込み、清淨なる水を求むることは困難であつた。其の上上流各部落は灌漑用水にも夫々利用して居たので、夏季需要期には屢々水量不足を來し、又一朝霖雨に際會すれば、忽ち溷濁して飲用はおろか、雑用にも使用出來ぬ様な不幸に遭遇し、又對沿岸村と水路引入れ等に絡んで水争ひは屢々繰返され甚だしき不自由を餘儀なくされた。據つて其の間幾度か、設備の改良を圖るべく計畫した事があつたが、其の目的を達せずして同二十六年七月には



用水路平面繪圖



圖

東



用水區會設置による、特殊の經營形態を以て兎に角維持を續け、大正二年一月上水道敷設の竣工を見る迄利用された。従つて上水道の出現により同年七月一日舊水路は公用を廢止し、同三年二月十三日西山梨郡千塚大宮兩村に對して灌漑水路として、無償を以て讓渡したのである。

又市の南部方面に於て利用された水路は、荒川三つ水門より取入れたものであつたが、之亦灌漑用が主であつたら、其の設備も不完全にして人烟稠密なる間を屈曲疏流して居た爲、飲用には適しなかつた。更に城北上府中方面は兎角水路の利用は不便があつたので、多くは井水を使用して居たが、水質の優良なるもの少なく、湧水量も亦自ら限度があり、隨て總べて飲用水には缺乏を告げ、孰れも辛酸を嘗めて居たのである。之の實情に鑑み窮通の策として荒川沿岸に存在せる御膳水井戸を中心に、外屋營業なるものが存在し、一定の料金を支拂ふて高價と思ひ乍ら主として飲用に供して居たが、資力の關係から細民に迄の利用は及ばなかつた。斯様な窮境にあつた本市も漸次發展し都市化するに至つたので、用水問題は一層痛切に叫ばれる様になつた。其の間に於て都市と飲用水の重要性に鑑み、明治三十五年八月縣は飲用水販賣營業取締規則を、又同三十六年四月飲用水路取締規則を夫々發布し、之が改良を勸奨しつつ取締にあたり、又同二十年六月以降幾度か井水検査を行つて不良用水の取締、淨水使用方法を指導して、専ら市民保健衛生上に留意し來つた次第である。



## 第二節 既設水道

## 第一項 敷設經過

明治二十二年七月には市制が實施され、同二十三年二月水道條例の公布により、政府の各都市上水道敷設の指導獎勵の方針確立するに及び、多くの刺戟を享けて、其の敷設を唱導し或は翹望する聲は内外に擡頭し、本市も亦同二十五年十二月金五百圓の水道調査費を計上し其の調査に着手し、翌二十六年七月には内務省御傭技師英人「ダブリュー、ケイ、バルトン」氏を聘して水道敷設の基本調査及具體的計畫を試みるに至つた。之が本市上水道敷設企畫の起原である。

この「バルトン」氏の調査設計は内務省岡田技師と共に七月二十九日より親しく實地を調査の上設計し、荒川原流を西山梨郡千代田村地内甲府紡績株式會社工場附近に於て取水し躑躅ヶ崎迄送水し、此處に淨水場を設くる計畫に金二十萬圓を要する設計々畫であつたが、時機未だ熟せず、唯市内製糸家は非常に之が實現を希望したが、起業の運びに至らずして中止となつた。踰えて二十七年十二月縣より敷設の慫慂を享け、縣技術官に委嘱して再び調査を開始したが、日清戦役の爲見合せるに至り、爾來各市長夫々之が輿論と共に計畫し、愈々明治三十四年一月專任技師以下吏員を任命して之が調査設計に従事せしめ、同六月具體的計畫を得たが、不況其他により起業着手を逡巡して、遂に後日に譲るの已むなきに至つた。其後幾多の調査と曲折を経て、明治四十一年四月愈々實施を目差して設計に着手し、他都市の既設水道の實際を見、或は參考資料等を得て諸種の研鑽を重ね、同七月上水道敷設案を完成し、同八月三十

日の市會に於て其の決議を経、國縣費補助金交付方の手續に及んだのである。

敷設計畫は荒川に水源を求め、給水人口十萬に對し一日一人平均四、五立方尺を給水する各施設に、工費金八十九萬圓を要するものにして、其の財源には國庫より金三十萬圓、縣費より金十五萬圓の補助金を受けて、其殘額を公債に俟つべく其の稟請手續を執つた。然して前記補助金は國庫より金二十一萬八千圓と、縣費より金十萬圓を交付せらるゝ事となつたので、之に做ふた豫算書及財政計畫に變更の上、主務省に認可稟申を爲し、同四十二年九月一日工事施行認可を経た。茲に調査を開始してより實に二十年に垂んする間苦心を重ねて漸く宿望を達し、本事業の端緒を得るに至つた。

工事着手の爲同年九月相生校舊校舍を水道部事務所に充て、以下諸準備を調へて同十一月十日起工式を擧げ、關係用地二萬四千五百餘坪の買収交渉と、引續き所定工事の完成に向つて鋭意進工を圖つた。斯て現場地質の關係で多少難工であつたのと、又工期中の明治四十四年八月の大水害等で、豫定の竣工期より遅れたが、大正元年十一月十日滿三ヶ年の工程を終へ、同二年一月二十一日全市給水を開始し、以て計畫全く竣功を告げた。之が既設水道工事經過の大要である。

尙之に要した總經費は金七十九萬四千七百六十六圓にして、其の豫算に比して金十萬九千八百十六圓六十二錢九厘の剩餘金を算したが、起債額は國縣費補助金交付の時期長期に亙つたので、金七十八萬八千圓を仰いたのであつた。



甲府市水道布設費各年度決算一覽表

| 科 目     | 計畫豫算額    |   |   |   | 四十二年 |   |   |   | 四十三年 |   |   |   | 四十四年 |   |   |   | 四十五年 |   |   |   | 大正二年 |   |   |   | 附 記 |
|---------|----------|---|---|---|------|---|---|---|------|---|---|---|------|---|---|---|------|---|---|---|------|---|---|---|-----|
|         | 計        | 支 | 差 | 備 | 計    | 支 | 差 | 備 | 計    | 支 | 差 | 備 | 計    | 支 | 差 | 備 | 計    | 支 | 差 | 備 | 計    | 支 | 差 | 備 |     |
| 第一水源工費  | 六,〇六・二〇  | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 第二水源工費  | 六,五七・二〇  | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 沈澱池工費   | 四,五〇・七三  | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 濾過池工費   | 七,八七・七五  | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 淨水池工費   | 七,七九・六五  | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 鐵管工費    | 三,〇五・七四  | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 鐵管布設費   | 三,三〇・〇〇  | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 制水用具費   | 三,三〇・〇〇  | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 制水用具布設費 | 三,〇〇・〇〇  | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 導水線路工費  | 九,七〇・〇〇  | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 橋梁工費    | 四,〇六・一六  | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 測量製圖費   | 一,三六・三七  | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 檢査費     | 六,九〇・七〇  | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 器具機械費   | 二,五五・八五  | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 運搬費     | 七,九六・六二  | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 賠償費     | 四,八二・六四  | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 電話費     | 二,九六・六九  | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 備用費     | 三,六八・五五  | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 公用給水費   | 一〇,四五・〇〇 | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 給水用品費   | 一〇,五〇・〇〇 | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 事務所費    | 六,二九・八三  | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 計       | 一〇,〇〇・〇〇 | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |

備考  
 歳入合計金百  
 貳拾貳萬參千  
 五百貳拾參圓  
 六拾貳錢壹厘  
 ヲリ歳出合計  
 金七拾九萬四  
 千七百六拾六  
 圓九拾九錢貳  
 厘ト公債費金  
 參拾壹萬八千  
 九百四拾圓ヲ  
 差引キタル殘  
 額ハ金拾萬九  
 千八百拾六圓  
 六拾貳錢九厘  
 トナリ此内大  
 正年度歳入  
 決算過剩額金  
 五千七百八拾  
 八圓九拾六錢  
 參厘ト歳出公  
 債費決算殘額  
 金八千七百九  
 拾四圓六拾五  
 錢八厘ヲ差引  
 キタル殘額ハ  
 本表布設費利  
 餘金九萬五千  
 貳百參拾參圓  
 八厘ト符合セ  
 リ

| 科 目       | 計畫豫算額     |   |   |   | 四十二年 |   |   |   | 四十三年 |   |   |   | 四十四年 |   |   |   | 四十五年 |   |   |   | 大正二年 |   |   |   | 附 記 |
|-----------|-----------|---|---|---|------|---|---|---|------|---|---|---|------|---|---|---|------|---|---|---|------|---|---|---|-----|
|           | 計         | 支 | 差 | 備 | 計    | 支 | 差 | 備 | 計    | 支 | 差 | 備 | 計    | 支 | 差 | 備 | 計    | 支 | 差 | 備 | 計    | 支 | 差 | 備 |     |
| 豫備費       | 一七,八二・九六  | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 貯水池費      | 一七,六三・二〇  | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 合 計       | 八〇,〇〇・〇〇  | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 科 目       | 收入豫算額     | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 國庫補助金     | 三六,〇〇・〇〇  | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 歳縣補助金     | 一〇〇,〇〇・〇〇 | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 入 公 債     | 七六,〇〇・〇〇  | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 市經濟ヨリ繰入金  | 二〇,〇〇・〇〇  | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 之 繰 越 金   | —         | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 部 預 金 利 子 | 一九,五五・二〇  | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 雜 收 入     | —         | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |
| 合 計       | 一〇,〇〇・〇〇  | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —    | — | — | — | —   |

附記  
 大正三年  
 度ニ於テ  
 受領スベ  
 キ額

第二項 施設の全貌

既設水道施設々備の全貌は左の如くである。

一、給水人口と給水量及區域

本市の人口は明治四十年末には四萬八千七百五十二人にして、過去に於ける人口の増加は一ヶ年平均約千人であつたが、向後千五百人宛を増加するものと假定して、三十年後には十萬人に達すから、之を以て給水人口の基礎とし、一日一人平均三立方尺五、最大一日一人五立方尺二五と、外に消防用水に毎分百立方尺の水量を給水し得る設備を用意し、甲府市全部と西山梨郡相川村、兵營及學校之の附近の住宅と、中巨摩國母村宇郡高畑飛地に給水する區域とした。



## 二、水源と水質及水量

西山梨郡千代山村字平瀬地内に於て荒川より分流する灌漑用水千代田堰を以て、本市水源とするに當り、同堰の取入口は同村萬年橋の下流にあつたが、水道敷設水源の技術的見地から、河床の保持と水質の保護上、同取入口を同橋の上流に移し、荒川流水を水源に採つた。水質は明治三十四年以後數回、山梨縣に於て同流水を取水し試験した結果、飲用水に適當なる好成績を得た、殊に取入口の上流は、十數里の奥地を距り、沿岸の人烟は稀薄の上に、田畑は極めて少なく、流路は奔流激湍を以て自淨作用を爲し唯降雨に禍され、少し河水の濁濁する事はあるが、四季を通じて清淨にして有毒含有物を發見しない。又水源に於ける水量は百二十六秒立方尺（明治三十三年八月山梨縣に於て實測）あり平生は之より多く、従つて本市が四、三五秒立方尺を取水するも用水に缺乏する憂ひはないし、取入口に關係する千代田堰も減水時に十四秒立方尺を取入、灌漑する水田は十七町歩餘であるが、其の内本市水道用地として買収したものは八町歩になつたから灌漑用水量には現在も將來も影響はない。

## 三、水源取入口

前記萬年橋附近は河幅狭く、河底一帯は花崗岩盤にして、天與の堰堤を形成し、左岸は岩石彎曲し、河水の衝突を防ぐ地點の下を取入口とした。取入口より同隧道を穿ち、淨水場に導かしめるが、其水位の最低は（明治三十四年五月二日測定した結果）基線三千四百五十四尺四寸三分にして、例年最低水位より四尺低く、將來取入の安固を期する爲に、前記水位より更に二尺を下げて取入口の水面とした、此處に幅三尺の水溝を設け、水溝入口の上部及び兩側には河流に面し、鞏固なる石壁を作り、溝口より中へ九尺五寸の水門を設け、荒川の水位に依り、取入水量を匡正し、隧道内の勾配を減ずる爲に七階の石段を設け、取入口を落下して、隧道内の水底に至らしめた、取入隧道は二百六間餘にして開渠を通じて分水池に導水するが、水路は幅三尺、水深二尺である。分水池で所要水量を分割し、徑十四吋鑄鐵管にて、途中沿岸の土質孱弱の箇所には、隧道百二間餘を開鑿し、導水鐵管を敷設し又は水路として場内引入井に至り之より沈澄池に導水し、又沈澄池清掃其の他を考慮し直接接合井に至る内徑十四吋副管を設けた。

## 四、沈 澄 池

沈澄池は一池にして、同村平瀬宮平に設置した、池の頂部は長二百八十九尺、底部二百三十三尺八寸、幅は頂部百八十七尺八寸、深は底部に沈澱物二尺の餘地を残し、更に水面上の二尺を見込み、有效水深十五尺とし最大給水量の一日七分以上の容量として、充分沈澄池の目的を達せしめた。構造は全部「コンクリート」塊で張立て、一割五分の斜面周壁を作り、底部は周壁より一層多く「コンクリート」工を施した上に「アスファルト」を塗り、更に「セメンモルタル」仕上げを爲し、漏水を防いだ。底部は左右より中央に向ひ、百分の一の勾配を附し、中央に幅二尺深さ一尺五寸の縦溝を設け、之に二分の一の勾配を附して、池底掃淨時に於ける排水に便し、吸水口溜井及排水管を設く、引出管は「フロート」付十四吋浮動管にして、水面の昇降に伴ひ、常に水面下二尺の水を引出せしめ、尙最高水位面に餘水吐を設けた、沈澄池掃除洗滌の場合は前記引入井より接合井に直接送水し、濾過池に通連し又は濾過池を経ずして、送水管に入らしむる非常設備をも備へた、更に雨雪後の水源濁濁甚だしく、濾過に間に合はぬ時は引入井で化學淨水に備へた。

## 五、濾 過 池

濾過池は四面にして沈澄池に接続して設置した、構造は各池共周壁一割勾配にて頂間百二十一尺四方、底部百五尺二寸四方で、厚さ七寸の「コンクリート」塊を以て張立て、裏面は「コンクリート」で詰め込み、池底下層は「コンクリート」工を施し、次で混凝土塊を以て敷詰め、其の上に「アスファルト」工を施し、漏水を防いだ。池底は間隙を距て、煉瓦を置き溝渠を作り、空積煉瓦で覆ふた所へ、全面厚一尺五寸の玉石及礫を敷き、更に二尺五寸の厚さに、細砂を敷き均し濾過床とした。又池底中央に幅二尺深一尺五寸、百分の一の勾配で厚二寸、幅一尺五寸、長三尺の硬石蓋で蔽ひて暗渠を作り、濾過池の集水渠とし、十二吋引出し鐵管に依り各池共「コンクリート」造の濾過整水井に集水し其の内部には鉋金製「ウェヤー」を設け制水弁に依り濾過速度と流出量を調整する、其の上部は周圍廻廊とし各濾過池毎に流量計を設け「コンクリート」造の上家を築造した。四池は常に輪番に使用し、一池は清掃の爲に休める、三池一晝夜の濾過速度は一日十尺とした、尙各池には口径八吋の餘水吐及濾過



床面上に排水管各一ヶを併置した。

#### 六、送水設備

濾過整水井より愛宕山配水池迄、四千四百二十七間九分の間は、落差二百二十三尺五分管路中最大水位差三百五十五尺餘となるので、之に耐ゆる鑄鐵管内徑十四吋を四種に分ち、連絡敷設した上送水設備とした。低壓管は水源に接する地點に、高壓管は水壓の高くなる部分に夫々敷設し、送水路は地形上同千代田村字片山の一部分に長八十間の隧道を掘鑿し、尙隧道内は將來の擴張を顧慮し、二條を敷設し得る幅員とした。又本市北方の兵營、師範學校附近に給水する爲に、市内白木町地内で送水管の途中に八吋支管を分岐し、制水弁及量水器を附設し、直ちに配水出来る様にした。送水管全體に制水弁七、排水弁七、排氣弁五ヶがある。

#### 七、配水池

配水池は愛宕山上に一池を設けた、人口十萬に對し最大給水量八時間分と、消火用水二萬立方尺を給水出来る容積即十四萬立方尺である。構造は中央に一隔壁を設け二池に分ち、隔壁中央部は通路として、兩側に流入井、流出井を作つた、各池の上部は長百十九尺一寸五分、幅五十一尺九寸、底部長百十七尺、幅五十尺有效水深十三尺五寸で、各池共七ヶの導流壁により池水を停溜せしむる、池底は「コンクリート」にて搗固め、周壁は「コンクリート」工を施し、尙底部は其の上に「アスファルト」工を以て仕上げ防水層とし、導流壁は「コンクリート」周壁と連續して、厚さ一尺二寸の「コンクリート」拱を架し覆蓋とした、上面は換氣口四十ヶを設けた、又送水管から水は流入井に入り、各池に分流し導流壁に依り壓力を減殺した水を、流出井より十六吋、十四吋二條の配水本管に依り量水室に導かれ「ヴォルトマンメーター」で計量した上市内に配水するものである。

#### 八、配水管

配水管は全市を高低二區に分ち、高區は上府中約二萬を給水人口と豫定して十二吋幹管を敷設し、所々に十吋、六吋、四吋の支管で分岐し、又低區は下町一帶の約八萬を給水人口と假定して、十六吋幹管を配水池より敷設して、途中十四吋、十二吋、十吋、八吋と漸次細くし、又之の幹管より十二吋以下の三大支管を出し、八吋より四吋迄の小支管に依り分流の上、全市に配水管網を張りて、管内水の循環流通を自在ならしめた、給水栓消火栓は市街の十字路其の他に夫々設置したが、配水管の延長は、三萬三千八百四十間、制水弁三百六十五ヶ、公設消火栓三百四十五ヶ、公設共用栓百八十四ヶを設置した。

### 第三節 荒川水利沿革

本市の上水道水源を荒川河水に求めた事は、本市が其沿岸に位して居ると共に、同河川に於ける水量、水質の點から觀ても天與の資源にして、灌漑水利よりする他の沿岸村と其の撥を一にするものである。従つて荒川に於ける水利は飲用を始め、灌漑用に或は水車用、雜用に其他、尠くとも生活上の需要に供する事は、沿岸各市町村が共同的利害を享有すると、亦慣習に據りて容認されて居る所の水利にして蓋し當然である。然乍ら偶々之の共通的水利を繞つて其の使用する所の目的が其の立場に於て異なる故を以て、屢々紛争を生じた例は、古くは明治時代に於ける甲府用水路を中心とする用水引入を始め、水道經營の當初に於て、或は昭和五年五月計畫した水道擴張等に至る迄枚擧に違がなかつた程、幾度か紛擾の事迹を残して居る。

而して其の孰れもが各自の立場に於て自衛上の手段と見得るけれども、更に亦紛糾の根本は水利の性質及效用等の立場から、排他的獨占的觀念の下に紛争を生じたと見る事も出来る。故に本市が水道事業を經營するに當つて過去に於ける慣例、水利狀況等を詳細に調査研究の上之に衝つたが、甲府用水路當時に於ける沿岸村は、其の開鑿に對し西山梨郡大宮、千塚兩村は多大の好意を寄せられ、用地の無償提供まで爲したが、荒川右岸の中巨摩郡敷島池田兩村は之に對し反對の意見を以てした。以來之の水路を繞つての取水問題は、早魃期毎に極端なる紛争を繰返したのであつ



た。

甲府市中用水路堀割ノ義ニ付申上候書付

山梨郡第五區 山 宮 村

山梨郡山宮村地内荒川ヲ水源トシ竝ニ湯村羽黒村和田鹽部ノ毎村ヲ經テ舊廓内ニ至リ甲府市中用水路堀割ノ義昨七年五月中ヨリ願上候ニ付水路堀割ノ模様御検査トシテ相川中屬殿出張夫々検査相成候處私共村内田畑堀割ニ相成候ニ付持主共へ右次第御談示相成候處一同故障ノ者無之潰地ノ分地價不申受上地仕候ニ付地券面ノ内潰地相成候分御差除キ方其節ノ御見分野帳へ奥書印形差上候通リニテ尤モ田用水樋口從前ノ通り御建置被成下兩側石積漏水無之様御仕立奉願上候市中用水多分引取方ニ相成擬際通リ屋敷田畑冷地ニ不相成様御普請被成下置度奉願候就テハ此上何等差支ノ筋無御座候依之此段申上候以上

明治八年二月十九日

山 宮 村

戶 長 氏  
副 戶 長 氏  
同 氏  
同 氏  
伍 長 氏  
同 氏

名 名 名 名 名

山梨縣令 藤 村 紫 朗 殿

右 指 令

書面用水路堀割潰地ノ分地券差除キ方聞届候事

田方用水樋口ノ義ハ水掛反別竝地味ノ模様検査ノ上潤澤候様至當ニ相定メ候條其旨可相心得事  
用水際屋敷竝田畑冷地不相成様堅固ニ普請ノ義市中區戶長ニ相達置候事

明治八年三月十二日

甲府市中用水路堀割ノ義ニ付申上候書附

山梨郡第三區 和 田 村

山梨郡山宮村地内荒川ヲ水源トシ竝ニ湯村羽黒和田鹽部ノ毎村ヲ經テ舊廓内ニ至リ甲府市中用水路堀割ノ義昨七年五月中市中ヨリ願上候ニ付水路堀割ノ模様御検査トシテ相川中屬殿出張夫々検査ニ相成候所私共村内田畑堀割ニ相成候ニ付持主共右次第御談示ニ相成候處一同故障ノ者無之潰地ノ分地價不申受上地仕候ニ付地券面ノ内潰地ニ相成候分御差除キ方其節ノ御見分野帳へ奥書印形差上候通リニテ差支筋無御座候依之此段申上候以上

右村副戶長 氏  
同 氏  
同 氏  
同 氏  
戶 長 氏

名 名 名 名

山梨縣令 藤 村 紫 朗 殿

右 指 令

書面用水路堀割潰地ノ分地券面除キ方聞届候事

明治八年三月十二日

其他鹽部村羽黒村湯村等ノ各村ヨリ提出シタル書面前記山宮羽黒二村ト皆同様ニシテ只羽黒村ノ書付中極貧ノ者ノ潰地代申受度旨記入シアルノミニシテ指令文モ亦同様ナルヲ以テ省略ス

第一章 草創より敷設まで



御用水ノ儀ニ付御願

今般山梨郡第五區山宮村地内ヨリ荒川流水ヲ以テ市中用水御引入ニ付既ニ井筋開鑿相成候處當區各村之儀ハ荒川西縁ニ接續シ同川流水ヲ以テ田方養水ニ供シ來リ別トシテ元中下條以南ノ村落ニ至リ候テハ自今用水御引入樋下ヨリ右流水縮入候儀ニ有之候處右ハ素ヨリ水脈細リ僅カ照續候テモ悉減水致、從來早魃ニ困苦罷在乍去各村ノ儀ニ付難易厚薄可有之況其ノ年ノ晴雨水脈ノ多寡ニ於テ豫メ難斗儀ヲ人民彼是苦情 罷在難 當今ノ御主意懇篤説諭可仕ハ勿論ノ儀ト奉存候共市中用水無間斷御引入相成候也又ハ田方不養水中引入相成候哉私ニ於テ聊承知不在辨別可致方便無之尤右用水御引入ノ模様ニ寄リ各村人民ニ於テ平年ノ振合等斟酌ノ上耕地推キ處ハ田畑換作仕付方ノ都合モ可有之ト思慮仕候間水量其他期節共委細御達被下度此段奉伺候以上

明治八年五月四日

巨摩郡第五區區長

横

山

精

義

山梨縣令 藤 村 紫 朗殿

書面伺ノ趣ハ山宮村ニ於テ從來荒川ニ樋ヲ設ケ同村其外村々田方養水ニ灌溉ノ餘水ヲ以テ市中用水トシ年中流水ノ見込ニ有之尤モ是迄ヨリハ聊カ餘分通水ノ管ニハ候共夫ガ爲別段堰或ハ樋張ヲ設ケ候様ノ義ハ無之ニ付元中下條以南各村養水ニ敢ヘテ障碍ハ無之見込ニ付其旨可相心得此段市中用水引入ニ付テハ山宮村近傍右堰路關係ノ村々ニ於テハ兼テ市中用水ノ缺乏ヲ察シ田方養水ヲ減シ田畑ヲ畑ニ換ヘ候向モ有之偏ニ艱難相救フノ通義ヲ重シ夫々及心得候次第ニ付其區内各村ニ於テモ相當交際ノ情誼不相失候様注意可致事

明治八年五月四日

山梨縣令

藤

村

紫

朗

壹四五六

第五區池田村ヨリ用水ノ儀ニ付窺出候ニ付御指令

書面最前説明之次第ハ元來市中飲用水ハ山宮村外三ヶ村ニ於テ從來引來ル處ノ田地灌溉ノ餘水ヲ引通ス主意ニ付是カ爲メ其村ノ損害ヲ來タス所以無之勿論客歲ノ如キハ非常ノ早魃ニシテ用水ニ缺乏ヲ生シ是レニ苦シミシハ一般ノ事ニテ申立ノ如ク強チ市中用水ノ爲ニ缺乏セシモノトハ難見倣且飲用水ノ如キハ市民數千人ノ生命ニモ關スル緊要至當ノモノニテ其輕重ヨリ見ルモ汚水混濁ヲ免レサル舊水路ニ復シ度トハ不可忍申出ニテ旁情理ニ於テ難及詮議筋合ニ付篤ト勘辨可致固ヨリ河水ハ其村又ハ市中其他ニ不拘一市村一己ノ占有スヘキモノニ無之ニ付客歲ノ如キ早魃ニ際シテハ互ニ相讓ルハ勿論ノ筋ニ付萬一向來右様ノ場合上流町々ニ於テ分水ノ儀區戸長ニテ取扱モ不行届ノ節ハ申出次第於縣廳現量ニ依リ至當分水ノ處分可致若又豫メ不安心ト思惟セハ右處分方向出可シ然ルニ於テハ明了及指揮旨申聞候次第ニテ敢テ平常配水ノ法ヲ設ケ可伺出トノ主意ニハ無之候條其旨可相心得件尤々伺ノ赴ハ左ノ通可相心得事

第一條

下町水掛村々ニ於テ障礙不相成以上ハ格別於無其儀ハ上町ニ於テ獨リ多量ヲ引入ル、筋ハ無之條實際申出ノ通ニ相違無之候ハ、區長へ申出配水ノ處分ヲ受ク可シ若右ニテ不行届候ハ、區長連署ヲ以テ其旨可申出事

但シ非常ノ早魃等ニテ急遽水配ヲ要スル筋ハ直ニ申出不苦事

第二條

早魃ノ節融通ノ儀ハ第壹區々長協議ノ上双方障礙不相成様可取計事

但シ若協議不行届ノ節ハ其旨可申出事

第三條

第一章 草創より敷設まで



第壹條指令ノ通可心得事

第四條

戸長ニ於テ至當配水ノ處分可致若右ニテ不行届ノ節ハ申出ノ通

但シ早魃ノ場合ニ於テハ假令出張ヲ請フト否トニ不拘臨時巡視爲致候條其旨可相心得事

區長へ申出置ク可シ

第五條

明治十一年二月二十日

山梨縣令 藤 村 紫 朗

荒川通各町々通水方ニ付御窺

第五區巨摩郡池田村何人惣代

河 野 有 信  
小 宮 山 昌 尙

右ハ過般荒川二ノ町山宮村外三ヶ村田養水流未開鑿市中用水通水致候ニ付兼テ當區ヨリ奉伺候御指令ニ通水方法御座候ニ右ノ趣ニ悖リ候仕成方ヨリ私共村方田養水苦迫ニ及ヒ掛合候處情實ニ通セサルヨリ彼是躊躇機節ノ運ニ不相成田方枯槁障碍ヲナシ候ニ付尙是上二ノ町ヨリ通水相成居候テハ期節ノ運不相成ハ歴然ノ儀ニ付去ル明治六年中ヨリ同八年迄通水相成候第四區舊飯田村字陳場堰ニ復ル様出願仕候處堰路ノ儀ハ据置通水方ニ付テハ同川町ニ可伺出已降安心可相成様御指揮被成下候趣御説明依之左ニケ條ヲ以テ奉伺候

第一條

一、荒川壹ノ町ノ儀去ル明治八年市中用水路開鑿已成兼テ下町ノ困難ト認メ壹ノ町ノ流水ヲ以テ下町水掛田歩ニ普及可致ノ目算ニ候哉追々過當ノ水引入夫カ爲メ該路ニ係ル水車稼ノ者次第ニ相増候ヨリ平常ニテモ夜分ノ水ヲ引入レ候ニ付自然下鄉用水ニ不足ヲ生シ吞水ニモ差間候儀間々有之殊ニ水車業ノ者ハ速ニ廢轉致即今ニテハ自用ノ搗挽物等迄モ遠隔ノ地へ運搬不致テハ難相成譯ニ及彼是實地衰弊ノ形狀歎ケ敷次第ニ付田養水ノ時節而已ナラス平素ノ用水ニ候トモ上町自儘勝手ノ振舞不致テ下等相甘苦ヲ嘗俱ニ生業行立候様御指揮被成下度候

第二條

一、二ノ町市中用水ノ儀ハ兼テ當區ヨリ奉伺候御指令ノ通山宮村外三ヶ村田方養水灌溉流ノ餘水ニテ元中下條已南各村田養水ニ障碍無之旨市中ニ御達置被成下度最モ早魃ノ節ハ一日三時間モ通水相成候得ハ用水相足候趣區長若尾逸平申候儀モ御座候間午前第六時ヨリ九時迄通水、餘ノ時間ハ用水留相成候様被成下度候

第三條

一、田方苗代ノ機ニ及ヒ壹ノ町ヲ始メ各町張立ノ節ニハ掛リ御官員御出張ヲ願町張水配方渾テ御指揮被成下度最モ早魃減水差間ノ節ハ猶御出張ヲ願ヒ各町水掛リ田反別へ比較水門口水高分量相定リ候様被成下度候

第四條

一、早魃ノ年柄ニテ反別ニ應シ水配分量相定リ候トモ水利ノ便否將々耕地ノ量況ニヨリ水保ニモ可否御座候間時期ニ依リ巡查御詰合ヲ願各村耕地巡視水配過不足無之様被成下度候

第五條

一、右箇條ノ趣前以テ水掛リ村々へ御達置被成下置候

右條々奉伺候間何卒出格之以御詮議伺之通被下度此段奉懇願候已上

明治十一年二月十六日

第一章 草創より敷設まで

右



山梨縣令 藤 村 紫 朗 殿

河 野 有 信  
小 宮 山 昌 尙  
戶 長 三 井 善 政

荒川分水ノ儀ニ付第五區池田村ヨリ再應伺出候御指令

一六二四

書面窺之趣ハ左ノ通り可相心得事

第 一 條

市中用水ノ儀ハ最前開鑿ノ節山宮村外三ヶ村田地灌溉ノ餘水ヲ引通ス事ノ出願ナルヲ以テ是カ爲メ元中下條以南ノ田養水ニ障礙  
スルモノトハ認メス且早敷ノ節融通配水等取計候儀ハ區長當然ノ職務ニ付旁特別ニ達置ニ不及儀ト不心得尤相心得方ハ猶區長へ  
申開置候様可致事

第 二 條

配水等ノ儀區長當然ノ職務ニ付特別ニ達スルニ不及儀ト可相心得事

第 三 條

事機急遽之節ハ第壹千四百五拾六號指令ノ第一條但書ノ通可相心得尤艱難相救ヒ互ニ融通スルハ當然ノミナラス區戸長ヨリ其旨  
可相達置旨兼テ達置候ニ付別段ノ達ニ不及候事

但シ尙注意方ハ區長へ申開候様可致事

十一年二月廿七日

荒川通配水御處分方再伺

第五區巨摩郡池田村何人總代

河 野 有 信  
小 宮 山 昌 尙

右ハ過般箇條ヲ以テ荒川配水御處分方奉伺候處第一四五六號ヲ以テ御指令被成下候處猶左ノ條モ奉伺候

第 一 條

一、二ノ町市中用水ノ儀兼テ御指令ノ通山宮村外三ヶ村田地灌溉流ノ餘水ニシテ元中下條區南各村田養水ニ障礙不相成旨御達被  
成下候儀ニ御座候哉且亦早敷之節融通ノ儀互ニ障礙不相成様協議可致旨第一區々長へ御達置被成下度候

第 二 條

一、下堤用水差問候節ハ勿論田方苗代之機ニ及ヒ汀々張立ノ節ハ區長へ申出配水ノ處分可請、右ニテ不行届ノ節ハ區長連署ヲ  
以テ可申出御指令ニ御座候得共右ハ區長ニ於テ配水之處方可致様御達置被成下度候

第 三 條

一、上汀水掛村々ノ義獨リ多量ヲ引入候義無之已降下汀用水差問候節ハ一應區長ニ於テ配水取計尙不行届ノ節ハ御掛リ御出張御  
指揮被成下趣ニ候得共事機緊急ニ至リ彼是苦情等相發シ容易ニ分水相成ラサレハ猶昨十年ノ如キ場合ニモ可立到ト焦慮仕候  
間上下艱難相俱ニシ獨リ自儘之振舞等無之様且亦區長並御掛リニ於テ汀張リ配水方御指揮被成下候旨前以水掛各村へ御達置  
被成下度候

右條々奉窺候間何卒格別之以御詮議伺之通被成下度此段奉懇願候已上

明治十一年二月廿七日

右 河 野 有 信

第一章 草創より敷設まで



山梨縣令 藤 村 紫 朗殿

戶 長 小 宮 山 昌 尙  
長 三 井 善 政

水量標杭新設御伺

第五、四、區 長

右者區内荒川通り接續各村流末村々ヨリ減水之都度上流各町年々分水奉願有之即右水配之如キハ客歲八月乙百十號御布達區長事務職制中ニ網羅セルヲ以テ其已來今日ニ至ル心配罷在候處本年之義既ニ配之義流末地内村ヨリ申出候ニ付追例私共其之分ヲ遂ゲ夫々處置致候就中各町曳入口未ダ不設故ニ配水之際ニ臨ミ各自水量之所見ヲ異ニシ此儘ニテハ往々煩雜ヲ極メ確量之由ナキヲ以テ今般各町ハ新タニ水流杭ヲ打建該目標ニ由テ其増減ヲ酌量セハ是則庶人之處見晴疑及配水使健之一端ト奉存候尤モ右費用之儀ハ其地各村ニ屬シ候様致度候間前顯御洞察之上至急御指揮被下度連署ヲ以テ此段伺奉候以上

明治十一年六月二十日

山梨縣令 藤 村 紫 朗殿

第五區長 長 田 智 康  
第四區長 尾 澤 孝 治

第四七七七號 (朱書)

書面臨時水配之爲メ田養水中量標建設候儀ハ不苦事  
但シ第一區長ヘモ豫テ可打合置事

明治十年六月廿五日

山梨縣令 藤 村 紫 朗

第五區池田村外一ヶ村ヨリ田養水不足ヲ生シ旱魃可及見込ヲ以テ昨廿九日分水處置營度旨同區々長ヘ申出候趣ヲ以テ當區ヘ掛合有之依テハ其之機ニ可應ハ勿論ニ付明三十一日各町分水水配之處置致度就而先般中經伺候水量杭各町引込口ヘ設置致度如是亦掛合有之候間該擔任之方午前第八時マデ御立會有之候様御達有之度此段御照會候也

明治十一年七月三十日

第一區長 若 尾 逸 平殿

第四區長 尾 澤 孝 治

第五區池田村舊長塚村兩村田耕地養水旱魃ニ付分水願出候故ヲ以テ本日各町分水致候段該區長ヨリ掛合有之候間其御掛リヘ御達被下早々御立會之義及御依頼ニ候也

明治十一年八月九日

第一區長 若 尾 逸 平殿

第四區長 尾 澤 孝 治

荒川通分水施行ニ付甲府市長ヘ協議之件取消願

中巨摩郡 池 田 村  
松 島 村  
西山梨郡 千 塚 村

右私共上郷下郷舊十六ヶ村組合荒川通り田地灌溉水使用上舊慣古例ニ則リ分水施行ニ付イテハ從來ヨリ關係各村吏員立會協議ノ上臨時執行致シ來リ甲府市長ヲシテ立會ヲ爲サシメ事斷シテ無之然ルニ去ル八月例規之通り下郷ヨリ配水ノ件出願去ル十日兩郡衙吏員出張各關係村吏員召集協議中俄然引上ゲ相成候ニ付如何ナル都合ニ出タルヤ承合候處御廳ニ於テ中巨摩郡長ヘ對シ甲府市

第一章 草創より敷設まで



長へモ協議ノ上執行可致旨ノ命アリタルニ起因スル由ニ御座候處甲府市長へ協議立會ヲ要セシムルニ於テハ私共水利上ノ權利ヲ傷クル事至大ナル一新事例ニシテ決シテ藐視スベカラサル重大事ニ御座候故ニ茲ニ舊慣ノ例ニ考へ各連署出願候ニ付御詮議ノ上速ニ御取消相成私共組合各村ニ權利ヲシテ全カラシメラレン事伏而奉謹願候也

明治二十七年七月十七日

中巨摩郡池田村地主惣代

三井重濟 外八人

同郡松島村地主惣代

三井鐘左衛門 外十四人

西山梨郡千塚村地主惣代

尾澤重孝 外四人

同郡千塚村外二ヶ村組合長

窪田多七

中巨摩郡松島村外二ヶ村組合長

横山喜十郎

山梨縣知事 田沼健殿

土第一二二號

御所轄内松島、池田兩村及西山梨郡千塚村地主惣代ヨリ荒川通分水施行上ニ關シ甲府市長へ協議取消願ト題シ本縣知事宛願書差出候處右昨十八日當郡長ヨリ貴職及松嶋池田兩村有志へ説示被及通分水之義ハ從前之慣例ヲ以テ施行相成候筈ニ付本願書提出之要無之様相認メ候條右之趣旨ヲ以テ別紙願書却下相成度此段申進候也

明治二十七年七月十九日

第二課長 小宮山貞彰

松島村外二ヶ村組合村長 横山喜十郎殿

訓第一六八號

西山梨郡役所  
中巨摩郡役所

其ノ郡内ニ係ル荒川通り松島村外四ヶ村地先田用水配水ノ義ニ付キテハ其關係村長ヨリ往々ニ當廳へ臨檢ヲ申請スル向有之候處右ハ所管郡長ニ於テ相當處置セラレヘキ筋ナルヲ以テ右等申請ニ對シテハ實地臨檢周到監督セラレベシ且從來其ノ關係村ノ情誼宜キヲ得ザルモノニ有之趣ニ付此際各村長へ示諭シ協議セシメ分水方法相定メ旱魃ニ際シテハ河川ノ上下流ヲ問ハズ用水欠缺ヲ告グル部落アル場合ニ於テ適宜分水ノ上配水行届候様臨機處分セラレベシ但シ配水上ニ關シテハ甲府市長へモ豫メ協議スベシ

右訓令ス

山梨縣知事 櫻井勉

荒川一ノ町分水ノ儀ニ付願

客月初旬以來ノ旱魃ニ依リ荒川ノ水量甚敷減少シ本市飲用水路入口即西山梨郡大宮村地内荒川通り第二町ニ於テ堰切及町張夫々盡力致候へ共辛ジテ同村地内山宮及羽黒組等ノ田面灌漑用ニ充ツルニ過キズシテ本市用水ノ如キハ晝夜一滴モ通水セス市内ノ常用全ク相絶エ候付時分柄衛生及警備等ノ支障ハ勿論用水區内住民ノ困難言語ニ盡シ難ク候間右實況至急御檢分ノ上中巨摩郡福岡地先第一町ニ於テ相當ノ分水シ第二町へ流入速カニ本市へ通水相成様御處置相成度此段願上候也

第一章 草創より敷設まで



明治三十一年八月九日

山梨縣知事殿

甲府市長代理助役

内第二八三號

郡下荒川水配之義ニ付用第十九號御照會之趣了承客月廿五日中午巨摩郡長ト協議ニ依リ池田・松島兩村ヘ分水候結果ハ該郡福岡村第一町開通ニ隨ヒ順次通水候契約ヲ履行セシメタルニ止マリ甲府市ニ關スル通水上ニハ聊カ喙ヲ容レタル處無之ニ付右御承知有之度且分水上貴市ト協議云々御來示之處抑該水路開築疏通當時下流關係各村ノ伺出ニ關シ藤村縣令指令之旨趣ニ基キ別段協議ヲ要セザル意見ニ有之候右ニ付客年五月本縣知事ヨリ訓令之趣モ有之候得共畢竟該訓令ハ修築當時ノ精神ニ支吾シ扱兼候間中巨摩郡長連署ヲ以テ直チニ其旨具申致シ置候次第ニ付該訓令ニ依遵致シ兼候條右御承知有之度此段及回報候也

明治三十一年八月五日

甲府市長代理助役 小林 董 作殿

西山梨郡長 秀 島 醇 三

第七九號

西山梨郡、中巨摩郡境荒川通り松島村地先田用水々配ノ義ニ付テハ客年五月廿二日付第一六八號ヲ以テ知事ヨリ訓令ノ趣旨モ有之候間分水等ノ場合ニ於テハ兩郡長ヨリ本市長ヘモ協議ノ上處分スヘキハ勿論ニ候處西山梨郡長ニ於テハ本市ヘ一應ノ協議モナク客月二十九日迄主務ノ吏員ヲ派遣シ本市用水引入所ニ於テ分水セシメタルハ該訓令ノ趣意ニ悖リ甚ダ不都合ノ處置ト認メラレ候付其旨該郡長ヘ照會セシニ右ハ中巨摩郡福岡村第一町ノ開通ニ隨ヒ順次通水セシメタルニ止リ甲府市ニ關スル通水上ニハ聊喙ヲ容レタル義ニ無之旨有之候處本市ノ如キハ頃日來ノ早魃ニ際シ本市ノ用水非常ニ缺乏ヲ告ゲ流通全ク相絶候實況ニ付水源村方ト協議ノ上晝間ハ大宮村各組ノ田面灌溉用ニ供シ夜間ノ内五時間ヲ限り田面ヘ引入レノ各樋口ヲ閉チ本市通水セシムルコトニ取

計置候處前陳ノ如ク西山梨郡長ニ於テ分水セシメタルガ爲メ水量甚敷減少シ夜間通水ノ時間モ三時間ニ減縮シ其流水ハ市内迄到達セザルカ如キ場合ニ立至ル次第ニテ水源村方ノ申出ニ依ルモ分水ノ事實ハ毫モ疑ヲ容サル所ニ有之然ルニ該郡長ニ於テハ如斯所ニ分水ノ事實アルニモ拘ラズ本市ノ通水上ニ聊關係セザルモノナリト云フ如キハ最不當ノ行爲ト存ジ又前陳訓令ノ趣旨ニ對シテモ本市用水路開鑿當時ノ精神ニ齟齬シ取扱兼候付中巨摩郡長連署ヲ以テ其旨御廳ニ具申セシ趣ニ有之候得共該訓令ハ兩郡長ノ具申ニ依リ消滅スヘキモノニ非サルハ勿論取消ノ令達ニ接セザル限り訓令ノ趣旨ニ基キ處理スベキハ當然ノ義ト被存ジ而已ナラズ本件ノ如キハ一市二郡協議ノ上水配ノ處分ヲ爲スハ最至當ノコトト思料致候付テハ該訓令ノ現存スル限りハ當該郡長ヲシテ不都合ノ處分ナカラムル様御指置成下度別紙西山梨郡長ノ回答書寫相添此段上申仕候也

明治三十一年八月九日

甲府市長代理助役

山梨縣知事殿

第四〇五號

貴市經營ニ係ル水路ノ義ハ往古ヨリ鹽部堰ト稱シ經費ノ大部分ヲ鹽部々落ニ於テ支辨シ田地灌溉致シ來候處去ル明治八年水路擴張ト共ニ貴市飲用ニ供給セラル、事ニ相成候ヘ共元來沿道關係町村田地灌溉水ニ缺乏ヲ來ス場合ハ往々斷水相成候然ルニ貴市計畫ニ係ル水道今ヤ完成セラレタル上ハ從來ノ慣例ニ據リ關係所屬町村ニ於テ之ガ管理ヲ爲スハ當然ノ義ト相考候ニ付今回村民ノ意志ニ依リ普通水利組合設置可致候條右之御承知相成度爲念此段及照會候也

大正二年六月十二日

千塚村外一ヶ村組合長岡

甲府市長 加藤 平 四 郎 殿

用收第一六號ノ一

第一章 草創より敷設まで



本月十二日第四〇五號ヲ以テ本市用水ニ對シ水利組合設置云々御申越ニ候處右ハ豫テ交渉中ニ係ル根本ノ御協議解決ノ上ニ非ラサレハ一切該水路使用ニ御同意難致ニ付キ右ニ御承知相成度  
隨而水利組合設置云々御照會書ハ一先及返戻候也

大正二年六月十七日

甲 府 市 長

千塚村外一ヶ村組合長殿

第七八二號

今般貴市新設ノ上水道工事御竣成ニ就テハ多年經營相成貴市舊用水ハ將來不用ニ相成ル事ト被存候間當組合兩村內該水路沿線各部落ニ於テ其ノ權利ヲ讓渡ヲ受ケ管理致シ度ニ付多年田用之御分與ヲ受ケタ緣故ニ依リ特別之御同情ヲ以テ山宮引入口ヨリ鹽部相川ニ至ル迄ノ間有形之儘無價ニテ讓渡相成度此段御依頼旁々及照會候也

大正二年十二月二十三日

西山梨郡千塚村外一ヶ村組合長

甲府市長 加藤平四郎殿

水路讓渡ニ關スル回答ノ件

土發第三號

大正二年十二月廿三日付第七八二號御照會之趣書承了右御來示舊用水路御讓渡ニ於テハ左記事項ヲ含ムル書面御提出相成候様致度此段及御照會候也

大正三年二月五日

甲 府 市 長

千塚村外一ヶ村組合長殿

左記

- 一、甲府市ニ於テ萬一該水路使用ノ必要ヲ生シタル場合ニハ何等ノ異議ナク直チニ返付スル事 但シ返付シタル時ハ舊來ノ慣行ニ依リ通水スルモノトス
- 一、該水路ニ關スル將來ニ起リタル費用ニ就テハ一切甲府市ニ負擔ヲ要セザルハ勿論本水路ヨリ生シタル内外ノ爭論有之候場合ハ總テ本村ニ於テ處分シ聊カ甲府市ニ迷惑ヲ掛ケサル事
- 一、關係部落ニ於テ水利組合ヲ作り之ヲ管理セシムル等ノ場合アリタル時ハ本書ノ趣旨ハ悉ク遵守セシムル事
- 一、本書ハ其確實ヲ期スル爲メ現任西山梨郡長ノ奥書又ハ連署ヲ求ムルコト
- 一、本書ハ公然村會ノ決議ヲ得ル事

第八〇號

豫テ及御照會書ニ貴市用水路ノ内山宮引入口ヨリ相川ニ至ル迄無償讓渡ノ義甚深ノ御同情ヲ以テ御承諾被下候段感謝ノ至ニ御座候、就テハ將來該水路ニ對スル費用關係又ハ内外ノ爭論如何ナル場合有之候共決シテ貴市ニ御迷惑ヲ掛ケザルハ勿論、萬一貴市ニ再ビ該水路御使用ノ必要相生ジ候場合モ有之候ハ、何時ニテモ異議ナク御返附可致候、併シテ返附致候際ハ舊來之慣行ニ依リ通水相成度候、又將來關係部落ニ於テ水利組合ヲ作り管理致候等ノ事有之候ハ、本書之事項ハ總テ遵守爲致可申候此ノ同情厚キ御讓渡ニ付キテハ本村關係部落ニ於テ永ク貴市ノ惠澤ニ浴ス可ク茲ニ誠意ヲ表スル爲村會之決議ヲ經テ本書差出候也

大正三年二月十三日

西山梨郡千塚村外一ヶ村組合長

甲府市長 加藤平四郎殿

在任中取扱タル關係ヲ以テ其確實ヲ證スル爲茲ニ署名候也

第一章 草創より敷設まで





又本市の水道敷設計畫に對する沿岸村の態度は、既に其の相容れられぬ氣運が甲府用水路開設及其の取水等に胚胎して居たので、明治三十四年一月及同三十六年九月、同三十八年一月の前後三回に亙る調査計畫には早くも夫々反對を表明し、續て明治四十一年四月の調査設計乃ち擴張以前の既設水道に對しては、其の反對運動猛烈を極め遂に主務省まで上達するに至り、本市よりも荒川に於ける水利に關する意見書を提出する所あつたが、水道事業の公共的且大なる使命に鑑み、縣は和協せしむるよう兩者の中に立ちて斡旋され、本市と各村の水利關係を調査し灌漑用補給の是非を講究した上、同四十二年十月左の如く裁斷し兩者の紛紜を圓滿解決を圖るべき舉に出たのである。

甲府市用水設計ニ付申請

中巨摩郡福岡村外七ヶ村

右申請候甲府市用水敷設計畫ニ對シ既往屢次奉申請置候處仄カニ承レバ近者又該設計再興ノ狀態ニ御座候故重複ノ嫌ヲ顧ズ左ニ梗概ヲ記シ奉申請候、甲府市用水供給ノ喫急事タルハ固ヨリ論ナキ事ニ御座候然共之レガ水源ヲ荒川流域ニ探ルニ於テハ沿岸各村ノ絶對峻拒ノ態度ニ出デザルヘカラサル儀ニ御座候、沿川各村飲用ニ灌漑ニ工業雜用ニ一ニ荒川流水ニ依リ來リタルニ元來該河川ハ山脈淺イ水量僅少ニシテ往昔ヨリ夏季稻作給水ノ盛時ニ際シテハ分水供給上行政ノ措置ヲ受ケツ、アルモ下流部落ニアリテハ比年旱害ヲ蒙リ近ク去明治五年、同十九年、同二十一年、同二十七年、同三十一年、同三十五年、同三十七年度ノ如キ被害著シク依テ水源涵養ニ苦心中ニ御座候而シテ甲府市用水ニ對シ從來提供候書類ハ蓋シ最近ノ去明治三十六年中稟申書ヲ始メ然曲ヲナスニ足ル儀ト奉存候故ニ書類御達觀ノ上甲府市ハ該水流ヲ使用セントノ目的ニ御座候ハ、關係部落ノ利害ヲ藐視シタル暴舉ト云フモ敢テ失當ナラサル儀ト奉確信候ニ付可然御保護被成下茲ニ大要ヲ具シ關係各村以連署奉申請候也

明治三十八年十二月八日

中巨摩郡敷島村長外七名

上 申 書

謹而奉上申候甲府市水道問題ニ付キテハ去月末委員上京根津代議士ノ紹介ヲ以テ親シク面謁ノ光榮ヲ荷ヒ殊ニ金玉ノ時間ヲ御割愛被下具サニ御聽取懇切ノ御諭示ヲ賜リ吾等關係村民ハ委員ノ報告ニ接シ閣下ノ御誠意ハ肝ニ銘シテ長ヘニ護ルヘカラサル次第ニ御座候然ルニ市當局者ハ何等折衝ノ端緒ヲモ開カズ縣知事モ亦吾々提出意見ノ進行上ニ付一回ノ面談ノ機ヲ與ヘズシテ市費ノ國庫補助ハ着々進行今ヤ御閣議ノ決定ヲ見ルマデニアルカノ如ク新聞紙ノ傳フル所ニ有之候果シテ國庫補助ノ御裁可ヲ得ルニ於テハ市ハ一層專肆ノ狀態ヲ以テ吾々關係村落ノ實害ヲ無視スルニ至ルヤ瞭然タル儀ト奉確信候故ニ爰ニ敢テ尊嚴ヲ顧ミス吾等村民ハ閣下海岳ノ御仁意ニ甘ヘ奉リ再ヒ無禮ヲ制シテ左右ニ捧呈仕候希クハ御閣議御決定以前ニ於テ市ヲシテ吾々ノ要求ヲ容レシメラル、様御諭達ヲ賜リ俱ニ聖代ノ民タラシメラレ度懇願ノ至リニ御座候而シテ吾等輩々ノ農民ハ稍狂妄ノ嫌ヒヲ免カレズト雖モ忉々タル憂念ニ驅ラレ別ニ内閣總理大臣閣下ニモ亦上申書ヲ奉提供候次第ニ御座候願クハ非禮不倫ノ罪御悔容被成下願意徹底候様奉願候積類頓首百拜

明治四十一年十月二十二日

山梨縣中巨摩郡福岡村外九ヶ村民代表

内務大臣 男爵 平 田 東 助 殿

(沿岸關係村長及村民代表ヨリノ陳情書省略)

甲府市水道敷設計ニ關シ荒川沿岸村民ノ苦情ニ對スル意見

本市水道敷設計畫ニ對シ中巨摩郡松嶋村外荒川沿岸各村ヨリ異議ノ陳情ヲ爲シタル趣承リ候本市ガ水道敷設計タル百年ノ大計ヲ企ツルニ當リ此等沿岸村民ヨリ反抗ヲ受クルガ如キハ甚ダ遺憾ノ次第ニシテ市ハ素ヨリ多大ナル他ノ利害ヲ無視シテ以テ自己ノ希



望ヲ充サストスルモノニ無之出來得ル限リ穩當ナル手段ニ依リ圓滿ニ協定センコト希望セル所ニ候得共此等異議者ニシテ此ノ水道事業ヲ或ル營利的事業ト同一視スルノミナラズ甲府市ニハ荒川水利使用權無シ全然我が要求ノ何事ヲモ甘受スヘシト云フガ如キ主張ヲ爲スニ於テハ斷乎之ヲ拒絕シ以テ其是非曲直ヲ爭ハサルベカラザル義ト存シ候ニ付既往ノ事歴ヲ有體ニ記述シ且ツ聊カ鄙見左ニ開陳仕候

抑モ甲府市町用水ハ往古ヨリ荒川ヲ引入レ來タルコト確然タル事實ニシテ之ヲ百有餘年前ノ舊記ヨリ降テ明治維新前後ニ於ケル書類圖面若クハ古老ノ口碑ニ徴シテ明瞭ニ御座候其水路ハ荒川筋字陣場ヨリ引入レ甲府城廓内ニ通シタルモノニシテ古人是ヲ御廓上水又ハ御町御用水ト稱シタル由ニ候

維新後縣治ヲ甲府ニ定メ明治四年十一月山梨縣ト改稱後本市ノ戶數人口漸ク加リ殖産工業ノ事又日ヲ逐フテ開發ノ機運ニ向ヒタルモ陣場堰用水ハ途中湯川又ハ相川ト稱スル種々混淆セル小川ノ汚水ト合流シ到底飲用ニ供スル能ハサルヲ以テ別ニ清潔ナル良水ヲ引クノ計畫ヲ立ツベキ様屢々縣廳ヨリノ厚キ御勸メモ有之種々調査ノ末當時山宮村外數ヶ村共用水路ヲ基トシテ新規適當ノ水路ヲ開鑿スルコトノ便利ヲ認メ明治八年三月中本縣ノ許可ヲ得テ起工シ前後八ヶ月ノ日子ト工費凡ソ壹萬餘圓ヲ投シテ現今ノ一大水路ヲ開鑿シ市内ニ通水シタルモノニシテ此ノ事業ニ對シテハ當時縣廳ニ於テ格段ナル保護ヲ與ヘラレ又山宮羽黑湯村鹽部等ノ關係村落ニ於テモ毫モ故障等ナキノミナラズ將來此等諸村ハ灌溉上ノ供給ヲ受ケ其他利益少ナカラザル事ヲ認識シ大ニ之ヲ歡迎シ水路掘割潰地ニ對シテハ資力乏シキ數名ノ村民ヲ除ク外殆ソ全部ノ無償寄附ヲ承認シタル等別紙證書類ノ通りニシテ工事中縣廳ヨリ資金ノ貸下ヲ爲シ又堀鑿人夫トシテ囚人ノ使役ヲ許可シ且ツ又水路各村ニテモ非常ナル便宜ヲ與ヘラレタリ而シテ同年九月竣成スルニ及ビ御伺ノ上用水路看守規則ヲ定メ且ツ惡水或ハ塵芥汚物ヲ流シ込ミ或ハ漁獵ヲ爲シ水路ノ妨害ヲ爲スモノヲ禁止スル等屢々縣ヨリ發令セラレタルコトアルノミナラス當初通水ノ際通過村落ニ於ケル途中ノ灌溉水ハ其引入口ニ石材ヲ以テ水量ヲ標示シ決シテ其ノ以上ノ水ヲ引入ル、ヲ許サス又爾來新タニ灌溉樋口ヲ設クルコトハ絕對ニ禁止シ萬一此ノ用水路ニ異動故障相生シ又ハ新タニ施設ヲ爲サントスルトキハ本市ニ申出許可ヲ得ルニアラサレバ何事ヲモ爲ス能ハサル規定ニシテ明治

十四年七月市中用水町聯合會ヲ設ケテ之ヲ管理シ明治二十六年九月本縣達乙第九六號ヲ以テ用水區會條例ヲ認可セラレ該條例ニ依リテ用水區會ヲ設ケ又明治二十九年十月用水路管理規則ヲ發布シテ以テ現時ノ狀態ニ其管理ヲ繼續シ來リタルモノニ有之候然ルニ此新水路ノ開鑿ヲ見ルヤ對岸一二ノ部落ニ於テハ之ヲ以テ自己ノ不利益ナリト感シ度々多人數縣廳ニ押掛ケ苦情ヲ申立候モ縣廳ニテハ荒川流域ニ於テ其水ヲ使用スルハ甲府市ニ於テ多數人民ノ飲用ニ供スルコトニ最モ重キヲ置キ田養灌溉ノ如キハ之レニ比スレハ頗ル輕キモノトシ其輕キモノ、利害ヲ以テ重キモノヲ制セントスルハ不條理ナリ且ツ公領河川ノ水ハ如何ナル事由アルモ少數一部落ノ私占スベキモノニアラサレハ其輕重大小ニ由テ取捨斟酌セザル可ラストテ懇諭セラレ強テ苦情ヲ主張セル場合ニ對シテハ人命ハ田地ニ換ヘ難シ甲府用水ヲ以テ田用水ト兩立セスト信スルナラハ寧ロ之ヲ畑ニ換作セヨト迄説諭アリシコト一再ニ止ラサリシナリ而シテ彼等ハ其我田引水ノ論鋒ヲ以テ縣廳ニ向ヒタルモ其都度説諭叱責ヲ受ケテ其主張ノ行ハレサルヲ憤リ水路ニ向ツテ種々ノ妨害ヲ加フルニ至リ終ニハ本川ニ設ケタル汀張リヲ破壞スルノ暴舉ニ出ルニ及ヒ其暴行者數十人ヲ拘引投獄セラレ、ニ至レリ此事件以後ハ暫ク鎮靜ノ姿ナリシカ其後早魃ノ際一般ニ用水ニ缺乏シタルコトアリシヲ以テ又々前來苦情ヲ唱フル部落ニ於テ水論ヲ惹起シ縣廳ニ迫リタルモ縣廳ハ其用水缺乏ハ雨量少ナキ自然ノ天災ニシテ飽クマテ甲府市用水ノ關係ニ非スト説諭セラレタリ是等ノ事情ハ別紙參考書類ニ明記セラレ、處勢ナカラス又當時其事ニ關與セル古老ノ直話ニ徴セルモノニテ一點ノ私見等ヲ挾ミタルモノニ無之候又古書類中右苦情村方ヨリノ伺ニ對シ往々灌溉ノ餘水ト云ヘル文字アルヲ今猶苦情村落ニテハ唯一ノ言質トシテ甲府用水水利權ノ有無ヲ論セントスルカ如クナルモ熟々其文意ヲ玩味シ且ツ當時ノ實況ヲ古老ニ質スニ右ハ不條理ノ議論ヲ以テ縣廳ニ迫ルヲ以テ縣廳ハ其煩ニ堪ヘス甲府市ノ用水ハ絕對の新設ニ非ラスシテ從來山宮村外三ヶ村ニ於テ使用セル用水豊富ニシテ灌溉ニ用ユルモ猶餘裕アルヲ以テ之レヲ使用スルノ趣意ナレハ之レカ爲メニ對岸下郷ノ用水ニ影響スル筈ナク早魃渴水時等ノ如キハ十分ニ之ヲ制シ當該官吏ヲシテ公平無私ノ取計ヒヲ爲サシムヘシト示サレタルモノニシテ彼等カ曲解スル如ク灌溉ニ使用シテ餘リアレハ之レヲ使用シ得ルモ其殘餘ナキニ於テハ使用ノ權利ナシトノ意ニ非スト云フ固ヨリ當初ノ開鑿願書ニモ其指令ニモ何等ノ制限ナク殊ニ縣廳ハ各荒川流域關係中甲府市ノ用水ヲ以テ第一重トシ之レニ換ユルモノナ



シト示サレタル一事ヲ以テスルモ又壹萬餘圓ノ大資ヲ投セシメ勸誘シテ之ヲ開設セシメラレタル點ヨリスルモ異議者ノ言フ如ク市ノ使用權ヲ薄弱ナラシメラル、ノ理ナキヲ信ス苦情村落ニ於テ渴水時ニ於ケル分水ノ場合ニ甲府市ハ之レニ立會スルノ權利ナシト主張スルモ縣廳ハ其分水ヲ以テ區長當然ノ職務ナリトシ之レニ訴ヘテ其處分ヲ受クヘシト爲シ若シ區長ノ取扱ヒニテ不行届ノ場合ニハ縣官出張之ヲ處分スト云フニ在リテ其場合ニ於テ縣廳カ關係者ヲ召喚セラル、ニハ毎時主トシテ甲府市ヲ召喚シ又ハ協議セラレタルモ實際分水上ノ爲メニ召集セラレタルコトハ極テ僅少ナリシ然ルニ古キ以前或ル場合ニ於テ或ル部落ノ如キハ必要ニモアラス又召集セラレタルニモ非スシテ多人數出張シ暴力ヲ以テ我儘ノ振舞ヲ爲サント試ミタルコトアリテ他ノ迷惑セシコト少ナカラスト云フ會テ一度分水ノ爲メ出張スヘキ旨縣廳ヨリ命令有之本市係リ吏員出張セル途中ニシテ騎馬ノ警官歸リ來ルニ會シ其警官ヨリ分水ノ場所ニハ某村多數ノ人民出張シテ暴威ヲ振ヒ形勢不穩ナレハ出張ヲ見合スヘシトノ注意ヲ受ケ事情ハ解セサリシガ其儘引返シタルコトアルモ何等權利ノ消長ニ關係ナカリシ彼等ハ多數ノ暴力ヲ以テ我儘勝手ノ行動ヲ敢テシ之ヲ以テ自己ノ權利ナリ慣例ナリト云ハバ此ハ殆ント論スル價值ナシ然ルニ其後年ヲ經ルニ從ヒ或ル年柄ニ早魃減水ノ際ハ用水路通過ノ村落又ハ町下々流村落ヨリ配水方ノ出願若クハ無心ニ相談及ハレ分水シタル事歴モ無キニアラス此ノ如ク甲府用水路開設以來格段ナル早魃ノ爲メ甲府市及ヒ各村ト共ニ用水ノ缺乏ヲ感シタルコトナキニアラサルモ未タ曾テ甲府市用水ノミ豐富ニシテ各村灌溉用水ノ缺乏シタルコトナシ又甲府用水路開設以來實際之レカ原因トナリ大凶作ヲ來シ全然不收穫ノコトアリシヲ聞カス然ルニ甲府市ハ是迄用水ノ缺乏又ハ不足ヲ感シタル場合往々有之殊ニ近年其場合多キヲ見ルハ本川源流ノ減水又ハ引入水量ノ減少セルニハ非スシテ途中ノ關係村ニ於ケル濫用ト漏水トニ起因スルモノ多シ固ヨリ此ノ水路ハ權利義務共ニ全然市ニ歸シ居リ途中ノ村々ニテハ只一定ノ場所ニ於テ所定ノ分量ヲ引用スルノ外何等ノ權利ナキニ付其管理ト監督ハ十分ニ行届キ斯ル不便ヲ感スルノ理ナキ筈ナルモ事實ハ漏水到ル所ニ有リテ之ヲ防ク能ハス此ハ一種ノ惡例アリテ一部ノ者或ル目的ノ爲メニ故意ニ漏水ヲ爲スノ弊ヲ生シ頗ル迷惑ヲ感スルニ至レリ是レ從來ノ用水不便ニシテ新水道計畫ノ必要ヲ感スルニ至リタル一因ニシテ降雨時ノ濁濁汚物ノ混入等衛生上其他ノ關係ニ於テモ到底從來ノ用水ニ甘スル能ハサル場合ニ迫リ茲ニ新式水道敷設ノ止ナキニ至リタル次第ニ有之

候

甲府市民カ古來荒川沿岸ニ其地位ヲ占メ生存上必要ノ爲メ此ノ流水ヲ利用シ又時勢ノ進化ト共ニ新水路ヲ開鑿シテ需用ヲ充タシ來リタルハ至當ノ處置ニシテ沿岸村民ノ恩惠ニ依ツテ分與ヲ得タルモノニアラザルコト瞭然タル義ナルモ猶彼ノ反對村落カ證據トシテ唱導スル餘水云々ノ文字アル何指令ノ條文ニ依リ前條陳シタル古老ノ直話等ニ考ヘ當時ノ事情ニ想到シナバ一層事理明白ノ如クニ存セラレ候即チ明治十一年二月十六日中巨摩郡池田村人民惣代河野有信外一名ヨリ荒川通り各町々通水方ニ付御覽ト題スル一ノ故障の書面ニ依レハ其冒頭ニ於テ甲府市用水路へ通水スル荒川二ノ町ヨリ引キ入レシムルハ田養水涸渴スルニ付キ舊飯田村陣場堰ヨリ通水スルノ舊狀ニ復サレンコトヲ要求シ其何書ノ第一條ハ荒川一ノ町通水ヲ制限シ其第二條ハ二ノ町乃チ甲府市用水ハ山宮村外三ヶ村田方灌溉流ノ餘水ニシテ元中下條(現今松嶋村ノ内)以南各村田養水ニ障礙無之旨市中ニ合達シ置キ且ツ早魃ノ節ハ一日三時間ノ通水ニ制限センコトヲ要求シ其第三條ハ各町張立ノ節ハ町張配水方ニ付官吏ノ立會指揮ヲ求メ其第四條ハ巡查ヲシテ各村耕地ヲ巡視セシメ水配ニ過不足ナカラシメンコトヲ欲シ其第五條ハ前諸條ノ趣旨ヲ各市村へ通達シ置カレンコトヲ求メタリ之レニ對スル同年同月二十日ノ縣指令ニ依レハ元來市中飲用水ハ山宮村外三ヶ村ニ於テ從來引キ來ル處ノ田地灌溉ノ餘水ヲ引キ通ス主旨ニ付是レカ爲メ其村ノ損害ヲ來タス所以無之勿論客歲ノ如キハ非常ノ早魃ニシテ用水ニ缺乏ヲ生シ之レニ苦シミハ一般ノ事ニテ申立ノ如ク市中用水ノ爲メニ缺乏セシモノトハ見做シ難ク且ツ飲用水ノ如キハ市民數千人ノ生命ニ關スル緊要至當ノモノニテ其輕重ヨリ見ルモ汚水混淆ヲ免レザル舊水路ニ復シ度シトハ忍ブベカラザル申出ニシテ旁情理ニ於テ詮議及ビ難キ筋合ニ付キ篤ト勘辯致スベク固ヨリ河水ハ其村又ハ市中其他ニ拘ハラズ一市一村一己ノ占有スベキモノニ無之ニ付キ云々ト說示シ非常早魃ノ節ハ縣自ら至當ノ分水處分ヲ爲スベキ旨指示シ又第二條市用水ノ通水時間ニ制限ヲ設ケントノ伺出ハ双方區長協議ノ上障礙相成ラザル様融通スベク若シ協議不行届ノ節ハ其旨申出ベキ旨指令セリ

右山梨縣廳ノ指令ハ河川流水ノ使用ニ關スル情理ヲ說明シ能ク法理ニ適シタルモノト存候然ルニ池田村民ハ之レニ満足セズ同年二月二十七日更ニ荒川通り配水御處分方再伺ヲ提出シ其第一條ニ二ノ町市中用水ノ儀兼テ御指令ノ通り山宮村外三ヶ村田方灌溉



流ノ餘水ニシテ元中下條以南各村田養水ニ障礙不相成旨御達被成下候儀ニ候哉且又旱魃ノ節融通ノ義五ニ障礙不相成様可致旨第一區々長ニ御達置成下度候トアリ此ノ伺ニ對シ縣廳ハ市中用水ノ義ハ最前開鑿ノ節山宮村外三ヶ所田地灌溉ノ餘水ヲ引キ通ス事ノ出願ナルヲ以テ是レガ爲メ元中下條以南ノ田養水ニ障礙アルモノトハ認メズ且旱魃等ノ節融通配水等取斗ヒ候儀ハ區長當然ノ職務ニ付旁々特別ニ達シ置クニ及バザル儀ト心得ベシ云々ト指令ニ有之候

斯ク池田村惣代ガ前後二回伺出ノ目的ハ察スルニ甲府市ノ用水ハ山宮村外三ヶ所田地灌溉ノ餘水ニシテ元中下條以南各村ノ田養水ニ障礙アル場合ハ通水スルコトヲ得ザル趣ノ言質ヲ捉ヘント欲スルニ在タルナランモ縣廳ハ之ニ對シテ第一次ノ指令ニ於テ山宮村外三ヶ所ニ於テ從來引キ來ル處ノ田地灌溉ノ餘水ヲ引通ス主旨ニ付キ其村落ノ損害ヲ來タス所以ナク明治十年ニ用水缺乏セシハ非常ノ旱魃ニシテ一般雨量少ナカリシニ原因シ市中用水ノ爲メニ缺乏セシモノトハ見做シ難シト斷定シ且ツ河川ノ流水ハ其村又ハ市中其他ニ拘ハラズ一市町村一已ノ占有スベキモノニアラズト説明シ其第二次ノ指令ニ於テモ亦同様ノ文意ヲ以テシ且ツ元中下條以南ノ田養水ニ障礙アルモノトハ認メズト指令セリ

若シ假リニ池田村惣代カ執拗ニモ此ノ如ク前後二回ノ伺書ヲ提出シタルハ餘水ナル語ハ先占ノ使用者アリ其者ガ優越ナル使用權ヲ有シテ勝手ニ使用シ其餘濫ヲ恩惠的ニ分與スルコト恰モ乞巧ニ殘飯ヲ與フルト等シキ意味ニ解釋セシメント企圖シタルモノト想像セン乎之レニ對スル縣廳ノ指令ハ前記ノ如ク荒川流水ハ豊富ニシテ田地灌溉ヲ爲スモ綽々餘裕アリ甲府市ハ之ヲ利用シテ市中ニ通水セントノ出願ナレバ田用水ニ障礙ヲ與フルモノトハ認メズト再三指示ニ及ビタルハ確ニ伺者カノ企圖ヲシテ挫敗ニ終ラシメタルノ感ナクンバアラズ古老ノ直話ハ暫ク措キ此等條文ノ上ニ於テ之ヲ見ルニ何等優越ノ權利アル承認ヲ與ヘザリシモノト存セラレ候

夫レ斯ノ如ク甲府市ハ荒川ノ水ヲ使用スル上ニ於テ古キ歴史ヲ有シ從テ沿岸各村ニ比シ寧ロ優越ノ權利ヲ有スル次第ナレバ今ヤ市ノ水道設計ニ異議ヲ唱フル松嶋池田兩村カ此ノ伺指令中ノ餘水ナル語ヲ捉ヘテ之ヲ自己ノ爲メニ利益アル如ク解釋シ各沿岸村落ニ於テ田地灌溉ニ用ヒテ餘リアル場合ノ外ハ甲府市ハ荒川ノ水ヲ使用スル權利ナキモノ、如ク附會セント欲スト雖モ縣當局ノ指令既ニ一定シ隨テ松嶋池田等ノ各村カ荒川ノ流水ヲ甲府市ニ先ダチテ取り入ル、ノ權アリト云フコトヲ得ザルコト亦明カナル義ト存候之レニ依リテ之ヲ見レバ此等諸村ノ或者カ公領タル荒川流水ヲ恰モ自分ノミノ所有ノ如ク考ヘ無斷ニ水道ノ計畫ヲ爲シタルハ不都合ナリナゾト異議ヲ挾ムトスレバ其主張ハ如何ナル權利ニ基キヤ市ノ用水ヲ禁止シ若クハ之ヲ制限シ又ハ或ル義務ヲ負ハシメント欲スルニハ甲府市ニ比シテ優越ナル權利ナカルベカラス若シ斯ル權利アリトスレバ如何ニシテ之レカ權利ヲ何レノ時代何レノ人ヨリ獲得セシヤ契約ニ因ルカ舊慣ニ基クカ之ヲ彼我古來ノ關係書類ニ徵スルモ契約又ハ舊慣上優等ナル權利ヲ獲得シ居ルコトヲ認ムル能ハス故ニ今日ニ於テハ甲府市ハ荒川ノ流水使用上何等權利ノ抑損ヲ受クル所ナク又制限セラレ、コトナシト信ス然ルニ反對村落ニ於テハ市水道引入口ハ從來最上ノ利ヲ有シタル字一ノ堰ノ上位ナルヲ以テ容認スベカラスト稱スレ共是レヲ一般ノ法理ヨリ論ジ甲府市ガ未ダ曾テ荒川ノ水ヲ使用シタルコトナキモノト假定スルモ流末各村ニ實害ヲ及ホサザル限リハ新タニ水路ヲ創設シテ之ヲ使用スルコトヲ得ベシ此ノ點ニ關シテハ夙ニ大審院判決例等ノ在ルアリ況ンヤ本市カ荒川流水使用ノ歴史ハ古代ヨリ繼續漸次發達シ來リタルニ於テヤ而シテ下流村落ニ實害ノ有無ニ至リテハ卅有餘年前現時ノ新水路開鑿以來ノ經過ニ依リテ實證明カナリ加之水道敷設上水利使用權トシテ新設計ニ必要ナル所要地ハ多ク水田ヲ買收スルモノナレバ其地所ニ於テモ幾分所用ノ水利權ヲ得ルニ難カラサルナリ且ツ又反對村落ノ理由トスル所ハ新設計ニ於テハ從來ノ分量ヨリモ猶多量ノ水ヲ使用スルカノ疑ヒヲ存スル如クナルモ淨水池又ハ配水鐵管內ニ貯蓄シテ必要水量ノ外放流又ハ漏洩スルコトナキヲ以テ現在ノ如ク途中ノ漏失多大ニシテ且ツ晝夜間斷ナク放流スルモノニ比スレハ非常ノ節約ヲ加フルコトヲ得テ用水經濟上水利關係ノ村落ニ對シテハ却テ頗ル便益ヲ與フルモノナレハ是等ノ内容ヲ理解セハ憂心忽チ解ケテ喜色安心スベキ筈ナリ猶單ニ事實ヲ舉テ之ヲ證センニ從來ノ用水路ハ引入口ノ幅員七尺ニシテ新設計ノ鐵管ハ徑十二吋ナリ而シテ之ハ數十年ノ後人口今日ニ倍加シタル時ノ豫備ニシテ現時ハ其半額ニシテ足ルモノナレハ殆ント數字ヲ用ヒテ比較スルノ要ナキモノト存候

若シ夫レ或者ノ解釋ノ如ク灌溉ノ餘水云々ノ指令カ田地灌溉ニ用ヒテ餘リ在ルニアラサレハ市ニ引用スル能ハサル意義ニシテ其ノ文字カ後年永久ニ權利ノ有無ヲ確證スルモノニテ社會ノ歴史モ法律ノ保障モ對抗スル能ハサルモノト假定スルモ此ハ甲府用水



ノ取入口タル荒川二ノ下ニ位シテ取入汀ヲ有スル松嶋池田其他下流ノ諸村ガ主トシテ争フヘキ理合ニアラスシテ寧ロ山宮羽  
黒湯村鹽部等ノ各部落ノ主張スベキ點ナルヘシ然レトモ此等諸部落ニ於テモ明治八年水路開鑿ニ關スル手續ト爾來該用水路ノ經  
歴及ヒ實權ノ所在一切ヲ無視スルニアラサレハ斯ル暴論ハ提起スルコト能ハサル乎ト存候

以上ノ如キ次第ニシテ甲府市ハ完全ナル水利權ヲ有スルモノト確認シ荒川流水ニ頼リ水道ヲ設計シタル所以ニシテ決シテ他ノ權  
利ヲ侵害シ又反對村落ヲ蔑視シタル所存毛頭無之候

終リニ臨ンテ特ニ一言致シ度キハ水道計畫ノ事タル要スルニ國家的問題ニシテ彼ノ單ニ營利ヲ目的トスル事業ト異ナルコトハ今  
更絮説ヲ要セザル所ニシテ本市水道布設モ亦決シテ市民ノ衛生ト財産ノ保護ノミニ止マルニアラズ本市ハ本縣首腦ノ所在地ニシ  
テ行政司法ノ諸機關ヨリ教育通信商業ノ中樞タルノミナラス物資集散ノ要地タリ加之今ヤ 皇軍ノ駐營地トナリタレハ其關係  
スル所實ニ重大ナルト同時ニ是レカ施設ノ有無ハ一市一縣ノ體面ノミニ止マラザルヲ思ヒ市民財政上多大ナル苦痛ヲ忍ヒ上政府  
ノ補助ニ依リ内縣民ノ授護ヲ以テ此ノ事業ノ完成ヲ期スル所以ナルヲ以テ本市ハ特ニ事ヲ構ヘテ他ト争フカ如キハ全然欲セザル  
所ニ有之候故ニ荒川沿岸ノ反對村落ニ於テモ互ニ公私ノ區別ヲ明カニシ利害ノ存スル所ヲ考究シ穩當ナル情義ノ下ニ交渉解決セ  
ラレンコトヲ希望スル者ニ御座候

明治四十一年 月 日

(證憑及參考書類省略)

甲府市長 加藤 平 四郎

梨土收三〇一五號ノ一

客月廿八日梨區第五號ヲ以テ甲府市水道敷設ニ對スル水利關係ヨリ陳情書提出ニ付右ニ關シ事實及市ニ於テ措置振竝ニ本官ノ意  
見御照會之趣了承乃チ左記事實竝經過ニ有之候條御了知相成度

一、本件ニ付テハ本年四月中及八月中來廳ニ對シ福岡村長外數ヶ村長ヨリ水道敷設工事ハ市ガ現況ニ徴シテ喫緊事タルニ同情ニ  
堪エサル所ナルモ然モ沿河水利關係村從來ノ水利權ヲ甲府市ノ爲ニ犧牲ニ供スル不能具體的設計ヲ閱覽セザルニヨリ或ハ杞

憂ノ嫌ヒアルモ別ニ水源ヲ増加セザル限り沿河村ノ水利ニ不便ヲ感ズルハ自明ノ理ニ付可然措置ヲ請フトノ趣旨ノ書面提出  
有之然ルニ今回市ガ提出セル工事認可稟請中ノ設計書第四項水源ノ水量ニ於テ説明セル如ク現在市ガ使用セル山宮堰ノ水量  
及千代田堰ノ灌溉ヲ受ケル一部ノ土地ハ水道用地トシテ買收スベキヲ以テ之ガ灌溉水量ヲ以テ充ツルニ於テハ現在市ガ使用  
セル水量ヲ増加セザルモ優ニ給水スベキ計畫ニ有之當局技師ヲシテ調査セシメタルニ果シテ將來市ノ計畫ノ如ク沿河村ノ水  
利上ニ實害ナキヤ否ヤ姑ヲク事實ノ證明ヲ待タザレバ未ダ遽ニ斷ジ難シト雖モ諸種ノ材料ニヨリ調査ヲ遂ケルニ相當ノ計畫  
ト認候ニ付工事認可ノ稟請ヲ進達候様ノ次第ニ有之尙關係村民中直接當廳ニ出廳陳情候者モ有之候處要スルニ前陳ノ如ク水  
道敷設ニ對シテ絕對ノ反對ヲ唱フモノ之無唯從來ノ水利權ノ擁護ヲ唱ヘ水道敷設ニ依テ生スル水量ノ減少等ノ場合ニ於ケル  
救済ノ途ヲ求メタルト云フニアルモノノ如シ依テ本官ハ懇ニ之ニ諭スニ水道敷設問題ニ屬スルヲ以テ沿河水利關係民ニ於テ  
モ又此意ヲ諒シ所謂隣保相救ノ道義ヲ重ジ平和ニ局ヲ結バルコトニ力ムベク而シテ水利權ノ解決ノ如キハ始メテ之ヲ別問題  
トシ水道敷設ノ結果由テ生ズル水量ノ減少等ノ場合ニ於ケル之ガ救済方法ニ付テハ市當局ト共ニ互ニ胸襟ヲ披キ妥協ノ上圓  
滿ニ解決ヲ與フルニ努メラレベシトノ旨ヲ懇示セシメタリ

二、是ニ於テ九月二十一日甲府市役所ニ於テ沿岸村民重之者約二十名餘ハ市長並市吏員ニ會見ヲ爲シ意見ノ交換ヲ爲スベク會商  
候處村民中市ガ水道敷設ノ計畫ヲ議決スルニ先立利害關係ヲ有スル沿河村ニ對シ其意嚮ヲ尋ヌルハ德義上當ニナスベキノ途  
ナルニモ拘ラズ何等ノ交渉ヲ爲サザルハ不都合ナリトテ不滿ヲ抱クモノアリ會見マヅ第一村民ヨリ關係村ニ對シ没交渉ニシ  
テ水道敷設ヲ進行セシハ不都合ナラズヤトノ推問ヲ發シ市長等ト二三應答ノ末遂ニ要ヲ得ズシテ村民ハ市役所ヲ退却候様ノ  
次第ニテ此ノ會見ニ於テ何等得ル處ナキ而已ナラズ却テ村民側ニ於テハ益々惡感ヲ抱キ此旨御省ニ直接出頭陳情ノ上解決ヲ  
仰カント唱フル者アルヤニ聞及候ニ付、當廳ニ於テハ兩名ノ意見ヲ疏通熟議セシメシメコトヲ圖リ關係郡長ヲシテ諭示セシメ  
又本官モ親シク關係村民及市長等召具シテ懇諭セシ結果村民等モ其意ヲ諒トシ早魃ノ際ニアツテハ水量引入ノ水量ヲ減少若  
クハ斷水或ハ貯水池ヲ適當ニ設クル等ノ條件ヲ提出シ互ニ篤ト熟考スベク一先ヅ引取リタル次第ニ有之然ルニ其際三井悟六

第一章 草創より敷設まで



外一名ハ本官ニ對シテ陳フル所ニ依レバ既ニ御省ニ向テ陳情書ヲ郵送致置候共其ノ後市當局トノ間ニ於ケル諸事懇談的ニ解決ノ方向ニ相向候次第ニ付此眞情ヲ具陳旁々一度上京致度トノ事ニ付キ貴官ニ宛テタル紹介書ヲ彼等ニ交付シタル次第ニ有之候

右ノ事情ニアリ今後兩者ヲシテ互ニ交讓セシムル手段ヲ取り平穩ニ解決ヲ告ゲシメント目下專ラ考慮中ニ候條御含ミノ上可然御措置相成度此段及回答ニ候也

明治四十一年十月一日

内務省土木局長殿

山梨縣知事

本市水道敷設ト各村ノ水利關係

- 一、市ノ設計書ニヨル水量 一秒間四立方尺三五
- 一、千代田堰ニ取入ル水量及灌溉反別 取入水量 一秒間十四立方尺三九、灌溉反別 十七町九反九畝
- 一、千代田堰ヨリ荒川ニ復スル水量 一秒間八立方尺七三
- 一、下流各村ノ用水ノ數、名稱及灌溉反別 別紙(省略)
- 一、水道ニ要スル水量ノ各町村用水ニ及ボス影響ノ有無及程度、水道用水取入レノ爲各村用水が受クベキ影響ヲ知ラントセバ先ヅ目下市が使用セル山宮堰(甲府用水路)ニ付テ水利權及水量ヲ考フベキナリ、山宮堰ニ對スル水利權ガ全然甲府市ニ有シ其ノ水量ガ水道計畫ニ要スル水量以上ニシテ市ハ水道完成ノ後此ノ堰ヲ撤去スルモノトセバ山宮堰下流各村用水ニ及ボス影響ハ毫モアルナキノ理ナリ而シテ本年(四十二年)九月中同堰ノ水量ヲ計リタルニ取入口附近ニ於テ二十九立方尺一九、湯村ニ於テ十一立方尺四六、ニシテ市ニ於テ要スル水量四立方尺三五ニ比シ遙カニ大ナルヲ以テ山宮堰ヨリ上流ナル福岡村地内一ノ堰ノ外ハ各村ニ及ボスベキ影響ナシト云フベシ然レ共市ガ水利權不確實ノモノナリト假定スルハ水道使用ノ水量四

立方尺三五丈各村用水ノ受クベキ影響アルベキナリ

若シ又甲府市ガ山宮堰ニ對スル全部水利權ナキモ此堰ニ於ル灌溉用水ヲ引去ル殘餘ノ水量使用ノ權利アリトセバ此水量ダケハ市水道完成後此用水路ヲ撤去セバ水道ニ使用得ベキモノナリ此ノ水量ハ本年八月十六日間旱魃ノ續キタル後市側ヲ測定シタルモノニ依レバ二立方尺強(小官ガ九月測定シタル量ハ三立方尺三四ナリ)故ニ四立方尺三五ヨリ此水量ヲ減シタル量ハ各村用水が受クベキ影響ナリトス

一、多少實害アリトセバ之ヲ除去スル方法、前項ニ述ベタル如ク甲府市ニ山宮堰全然水利權ヲ有シ水道完成後ニハ之ヲ撤去セバ同堰以下ノ各村用水ニハ些少ノ妨害ヲ及ボサザルモ同堰以上ノ各村ハ本水道ノ爲ニ其ノ用水四立方尺三五ヲ減損セザルベカラズ一町歩ノ灌溉用水最少水量ヲ零立方尺三トスル時ハ十四町五反ノ田地ハ其ノ水ヲ失フニ至ルベシ而ルニ市水道用地トシテ千代田堰灌溉反別十七町九反九畝ノ區域内ニ於テ七町八反九畝ヲ買收スベキヲ以テ市ハ尙十四町五反歩ニ達スベキ六町六反一畝ノ田地ヲ買收スルカ又ハ之ニ要スル水量一立方尺九八三ヲ供給スベキ貯水池ヲ築造セザルベカラズ今二十日間ニ對スル貯水池ヲ造ル時ハ其ノ水量三百四十二萬六千二百四立方尺ヲ要ス若シ水深八尺トスレバ貯水池ノ面積三町九反六畝ヲ要スル此工費二萬六千圓潰地五町一反金一萬二千七百五十圓合計三萬八千七百五十圓ヲ要ス又河中ニ堰堤ヲ築造シテ貯水スルトセバ工費實ニ四萬二千圓ヲ要シ且ツ斯ル急流ニ堰堤ヲ造ルハ治水上安全ノ策ト云フベカラザルノミナラズ上流ヨリ出水毎ニ流送シ來ル土砂埋塞ノ爲數年後ニハ其ノ效用ヲ失スルニ至ル、貯水池築造モ亦工費ノ許スコトアリトスルモ其位置ヲ求ムルニ困難ナルヲ以テ市ハ六町六反一畝ノ田地ト合セテ十四町五反歩ヲ千代田堰區域中ヨリ買收スベキヲ少シク餘裕ヲ見テ同區域全部十七町九反九畝ヲ買收スルヲ策ノ得タルモノト云フベキナリ其ノ増加地十町一反ノ買收價格ハ二萬五千圓ニ過ギザルベシ

一、水道ノ水量ガ濁川ニ及ボス影響有無程度、殆ンド計上スベキ程ノ影響ナカルベシ今別ニ數字ヲ以テ證明セシ濁川ニ及ボス影響ハ平時ニアリテハ更ニ之ナカルベキモノニシテ洪水ノ際ニ限ルモノナルベシ會ツテ縣ニ於テ調査シタル所ニ依レバ濁川ハ



平水量三十立方尺前後普通洪水ニ於テハ二百五十立方尺前後ニシテ其ノ平均深五尺前後ナリトス而シテ市計畫水道ノ夏季一日中ノ最大給水量一日一人五立方尺六二五ヲ換算スレバ一秒間立方尺五一トナル此水量ハ全部濁川ニ注入スベキモノニアラズ相川又ハ直接荒川ニ注入スベキモノアルベク、且其間多少ノ滲透蒸發ノ爲減少スベキモノアルベク今假ニ全部濁川ニ注入スルモノトシテ洪水ノ際如何ナル水位ヲ濁川ニ影響スルカヲ計算スルニ僅カニ八分九厘アルノミ

上 申 書

本市水道ノ布設ニ就テハ水源ヲ荒川ニ取ルハ從來ノ關係上及地勢上當然ノ事ニ候ニ然ルニ沿岸村ニ於テ故障ヲナスモノアリ希クハ閣下ノ公明ナル御裁定ヲ得テ此際永遠ニ右等ノ故障ヲ除去シ圓滿ナル解決ヲ得テ速カニ水道工事ノ完了ヲ期シ度茲ニ市會ノ決議ヲ經テ此段上申候也

明治四十二年八月三十日

甲府市參事會市長 加 藤 平 四 郎

山梨縣知事 熊 谷 喜 一 郎 殿

上 申 書

荒川水源ノ其沿岸各村ノ田方用水ニ關係アル事ハ從來再三陳情セシ所ニシテ篤ト御承知ノ事ト存候今回甲府市水源ヲ荒川ニ取ルノ計畫ハ既ニ確定シ將ニ其ノ工事ニ着手セントスル場合ニ立至リ候而シテ本工事ニ由リ從來ノ灌溉用水ノ分量ヲ減ジ一朝旱魃ノ曉良田稻木ノ涸死スルガ如キ事アレバ是レ實ニ沿岸村民ニ取リ由々敷大事ト奉存候然ルニ未ダ沿岸村ニ對シ何等ノ救濟ノ處理ヲ蒙ムルヲ得サレバ甚ダ憂慮ニ堪サル所ニ御座候希クハ此際速カニ相當ノ御裁斷ヲ仰度茲ニ村會ノ決議ヲ經テ上申候也

明治四十二年九月十八日

中巨摩郡松島村長 石 川 甚 逸

- |   |                |           |
|---|----------------|-----------|
| 同 | 福岡村長           | 武 井 庄 吉   |
| 同 | 池田村長           | 五 味 重 直   |
| 同 | 西山梨郡千塚村外一ヶ村組合長 | 望 月 春 藏   |
| 同 | 中巨摩郡國母村長       | 大 間 文 哉   |
| 同 | 西山梨郡山城村外二ヶ村組合長 | 内 藤 幸 三 郎 |
| 同 | 中巨摩郡大謙田村一ヶ村組合長 | 三 神 俊 藏   |
| 同 | 貢川村長           | 中 込 丑 治 郎 |

山梨縣知事 熊 谷 喜 一 郎 殿

(明治四十二年九月廿日經由)

甲府市水道布設ニ關シ明治四十二年八月三十日付ヲ以テ甲府市參事會甲府市長加藤平四郎カ甲府市會ノ決議ヲ經テ差出シタル上申書竝ニ明治四十二年九月二十二日付ヲ以テ中巨摩郡松島村長石川甚逸同郡福岡村長武井庄吉同郡池田村長五味重直西山梨郡千塚村外一ヶ村組合長望月春藏中巨摩郡國母村長大間文哉同郡大謙田村外一ヶ村組合長三神俊藏西山梨郡山城村外二ヶ村組合長内藤幸三郎中巨摩郡貢川村長中込丑治郎カ各當該村會ノ決議ヲ經テ差出シタル上申書ヲ査閲シ相互永遠ノ福利ト平和ヲ維持スル所以ヲ惟ヒ左ノ如ク裁斷ス

此ノ裁斷ニ對シ甲府市參事會市長及關係村長ハ遲滞ナク當該市村會ノ決議ヲ經テ請書差出スヘシ

明治四十二年十月六日

山梨縣知事 熊 谷 喜 一 郎

裁 斷 書

一、甲府市ハ關係村ノ灌溉用水ヲ補充スル爲大要別紙設計竝ニ圖面(設計竝ニ圖)ニ依リ明治四十五年三月迄ニ西山梨郡千代田村

第一章 草創より敷設まで



- 下帶那地内ニ溜池ヲ設置シ關係村ニ交付スヘシ
- 二、前項溜池ノ交付ト同時ニ其ノ維持修繕基金トシテ甲府市ハ關係村ニ一時金貳千圓ヲ提供スヘシ
- 三、關係村ハ今回甲府市ノ設計ニ係ル上水道敷設及經營事業ニ關シ何等ノ異議故障ヲ申立テサルヘシ
- 四、溜池及基金受渡方法並ニ其ノ管理方法ハ當廳ノ指示ヲ遵守スヘシ

附 記

此ノ裁斷書ハ正本二通ヲ作り一通ハ甲府市參事會甲府市長之ヲ保管シ一通ハ中巨摩郡長及西山梨郡長ノ指定セル關係村長之ヲ保管スヘシ

和田峠貯水池計畫

設計ノ大要

各村ハ市水道ノ爲メ其ノ用水四立方尺三五ヲ全然減損セラレタルモノト認メ一町歩ノ灌溉ニ要スル水量ヲ零立方尺三トスル時ハ十四町五反ノ田地ハ其用水ヲ失フニ至ル然ルニ市ハ水道用地トシテ七町八反九畝ノ田地ヲ買收スベキヲ以テ差引六町六反一步ハ水利ヲ失フベシ之ニ要スル水量一立方尺九八三ナリ今之ヲ兩岸ニ分チ各十時間ニ對スル貯水池ヲ築造スル時ハ其ノ一池ノ設計左ノ如シ

- 一、水量 一秒量零立方尺九、九一五ノ十日間分ニシテ八十五萬六千六百五十六立方尺
- 一、水面 平均面積水深八尺トスル時ハ十萬七千八百二十二坪平方尺即チ一町歩
- 故ニ池ノ大サハ水深中央ニ於テ長サ六十間幅五間
- 水面 長 六十二間 幅 五十二間
- 池底 長 四十八間 幅 五十八間
- 築堤中央ニテ 長 六十四間 幅 五十四間

工 費 豫 算 書

|             |         |           |
|-------------|---------|-----------|
| 一五、六九三、二三四圓 | 堰 堤 費   | 三、八六四、三八一 |
|             | 堤 防 費   | 一、四三七、〇三〇 |
|             | 貯 水 池 費 | 二、六一八、三八五 |
|             | 導 水 路 費 | 三二八、三五八   |
|             | 河 附 替 費 | 三、三二九、三八〇 |
|             | 賠 償 費   | 三、八一五、七〇〇 |
|             | 雜 費     | 三〇〇、〇〇〇   |

然して本市は明治四十五年六月一日縣裁斷書に基く貯水池築造工事に着手すべく其の準備を進めたが、間接沿岸村である住吉村外二ヶ村は、交付後に於ける溜池管理及其の經費は、直接關係村である敷島、池田、大宮、千塚の各村に於て負擔するは勿論、非常時災害による復舊をも爲すべきであると主張し、又溜池分水法を縣に於て指示されたいと要求が起り、縣裁斷書に對する承諾書は容易に取揃はなかつた關係から、之の工事着手も遷延するに至り、又之と相前後して直接關係村中の千塚、大宮兩村と、敷島、池田兩村は相對して、其の溜池の位置である西山梨郡千代田村下帶那地内は不適當であると爲し、其の位置變更に絡んでの内紛を生じて係争を續くる事實に二ヶ年有餘に及んだので、再び縣知事の裁斷を煩はし之の裁斷の結果、沿岸村相互間の紛議は勿論住吉村を除く他の沿岸村との本問題は圓滿に解決したのである。



裁斷書變更ノ件

明治四十二年九月二十六日付梨土收第二五五四號ノニヲ以テ甲府市水道敷設ニ關シ甲府市長及關係各村長ニ對シ與ヘタル裁斷書ハ之ヲ廢正シ更ニ左ノ通裁定ス松島村ハ速カニ別紙ノ請書ヲ提出シタル上甲府市ニ就キ交付金ヲ受領スベシ

大正三年二月 日

山梨縣知事 若 林 資 藏

裁 斷 書

- 一、甲府市ハ松島村ニ對シ大正三年三月末マデニ左記金額ヲ交付スベシ
- 一、金四千五百二十六圓八十錢四厘
- 一、松島村ハ甲府市上水道敷設經營ニ關シ何等異議故障ヲ申立テザルベシ

附 則

此裁斷書ハ甲府市長、中巨摩郡長、松島村長ニ之ヲ交付ス

右松島村ノ外左記各村ニ對シテハ本案朱點ノ部分夫々記入交付ス

|         |           |      |
|---------|-----------|------|
| 池 田 村   | 七、四五九、八四錢 | 中巨摩郡 |
| 福 岡 村   | 六〇六、五九    | 〃    |
| 貢 川 村   | 三〇〇、〇〇    | 〃    |
| 國 母 村   | 三〇〇、〇〇    | 〃    |
| 大 鎌 田 村 | 三〇〇、〇〇    | 〃    |
| 二 川 村   | 三〇〇、〇〇    | 〃    |

|       |          |      |
|-------|----------|------|
| 千 塚 村 | 一、七〇〇、〇〇 | 西山梨郡 |
| 大 宮 村 | 一、三〇〇、〇〇 | 〃    |
| 山 城 村 | 三〇〇、〇〇   | 〃    |
| 朝 井 村 | 三〇〇、〇〇   | 〃    |
| 住 吉 村 | 三〇〇、〇〇   | 〃    |

請 書

大正三年二月十日提出ノ請書ニ基キ今般金四千五百二十六圓八十錢四厘分配相成候ニ付テハ何等異議無之ハ勿論荒川ニ於テ水利關係相互ノ權利ヲ害スルガ如キ施設ヲ爲サザル限り現在ノ水利ニ關スル施設ニ付毫モ故障申聞敷候依テ此段及御請書候也

大正三年三月二十七日

中巨摩郡松島村長 窪 田 友 兵 衛

(以下 略)

溜池設置之義ニ付上申

西山梨郡千塚村、大宮村

甲府市水道敷設ニ付キ古來ヨリ水利權ヲ有スル各關係村長ハ旱魃ノ際其影響甚大ナルヲ憂ヒ連署ヲ以テ御廳ヘ救濟ノ法ヲ具申候處前知事閣下双方ノ意見ヲ徵シ明治四十二年十月六日梨土收第二五五號ノ一ヲ以テ裁斷書ヲ下サレ甲府市ハ和田峠ニ貯水池ヲ設ケ且維持費ヲ合セ關係村ヘ提供スベシト此ノ裁斷ニ對シテハ甲府市參事會市長及關係村長ハ當該市村會ノ決議ヲ經テ請書ヲ提出セシメタリ然リ面シテ千塚、大宮兩村ハ此ノ恩惠ニ敬服シ一日モ早ク貯水池ヲ設置セラレ其ノ救濟ニ浴シ度宛モ大旱ニ雲霓ヲ望ムガ如ク期待シ居リ候處西岸ヨリ突然位置變更云々ヲ主張シ東西兩意見ヲ異シ遂ニ空シク歲月ヲ經過シ誠ニ遺憾ノ至ニ御座候何

第一章 草創より敷設まで

五三



卒情實御洞察被下度速カニ前知事閣下御指定地へ溜池ヲ設置シ甲府市ヲシテ義務ヲ了セシメラレ候様被下度村會、村長連署ヲ以テ此段奉上申候也

大正二年十二月二十二日

西山梨郡千塚村外一ヶ村組合長 鈴木 根津 佐太郎

同 千塚村會議員

根津 榮太郎

須藤 良太郎

横田 長三郎

西山 金十郎

鈴木 木力

三井 傳兵衛

森澤 幸吉

望月 春藏

同 大宮村會議員

内藤 圓次郎

福島 九策

窪田 義博

劍持 仁三郎

永田 辰造

與石 祐一

若月善作

山梨縣知事 若林 賓 藏 殿 歎 願 書

中巨摩郡、福岡村、松島村、池田村

謹而奉歎願候甲府市水道敷設ニ付關係村ノ交付ヲ受クベキ貯水池ノ儀ハ先般御裁斷之通り去明治四十五年三月迄ニ交付ヲ受クベキ所御指定ノ位置西山梨郡千代田村和田峠附近ハ單ニ貯水池トシテ好適ナルモ之レヲ利用シ旱魃焦炎地ガ救濟ヲ受クベキニ於テ距離遠隔ニ失シ且排水路次ハ四坊澤ト稱スル里餘ニ亘ル間ニ介在セル數個ノ稻田ハ平時ニ於テモ灌溉水ニ乏シク旱天旬餘ニ彌ル所キハ全然涸渴シテ殆ンド枯死セシ狀況ニアリ故ニ貯水池排出水ハ多クハ之レニ吸收セラル、ト及ビ山澤間ニ滲潤シテ大イニ減耗ヲ來タスノミナラズ加フルニ本流ニ合流シタル水モ各種ヲ通過スル間ニ於テ消耗シ盡ヌハ實驗上炳カナル次第故ニ直接關係村ハ協議ノ結果位置變更申請ノ議ヲ決シ候處之レガ候補地ヲ定ムルニ當リ西山梨郡大宮村千塚村ハ蓋シ一ノ種ト稱スル唯一上流樋ニ對シ覬覦ヲ抱キアルガ如ク故ニ池ノ位置ヲ定ムルニ際シ誠意ヲ缺キ意見區々岐レ何分一致セザル爲在昔經過今日ニ至リ候處市長ニ於テモ屢次會議ヲ遂ゲラレ去十月九日福岡村、松島村、池田村、大宮村、千塚村ノ代表者ヲ市役所ニ招致セラレ懇談ヲ受ケ候處關係村へ本案ノ解決ヲ舉ゲテ市長ニ一任スルコトニ決シ又市長ヲ之レヲ快諾セラレ候其後市長ハ縣技師及ビ市技手ヲ伴ヒ各村希望ノ候補地ニ付キ踏査ヲ遂ゲラレ候關係村ハ其結果如何ト翹望セル處本月十二日關係各村長ハ市長ヨリ出廳ヲ促サレシニヨリ登廳セシ處豫期ニ反シ各村ノ希望ノ各候補地ハ何レモ不適當ナリト言明セラレ且其筋ノ意嚮ト法規ノ制裁上大正二年度末日迄ニ全部解決セザルニ於テハ該費目ハ自然支出ノ途ヲ失シ遺憾ナガラ交付不可能ニ了ルベキヲ以テ此際假ニ適當ノ候補地アリトスルモ今日ニ至ツテハ事業遂行ノ餘日無シ依テ關係各村ノ被害狀況ニ鑑ミ貯水池築造費ノ金員ヲ以テ適當ニ配當セント説示セラレ候是眞ニ遺憾ノ極ミニ御座候ヘドモ惟フニ至當ノ事由ニシテ疑ヒヲ挿ムノ餘地ナキヲ信シ候



事爰ニ至リ萬止ムヲ得ス金員ヲ受ケ其筋ノ指示命令ノ下ニ水利之用途ヲ講シ灌溉ヲ救済スル外ナキ窮境ニ陥リ候ニ付先月來直接關係村ハ數次協議ヲ重ネ候處大宮千塚ノ兩村ハ市長ノ言明ヲ諒トセシニモ拘ハラズ先ニ市長ニ一任セル主意ヲ無視シ剩ヘ矛盾ニモ最初御指定貯水池位置ハ不適當ナリトシテ俱ニ其ノ變更ヲ提唱シ來リタルニモ係ラズ今ニ至リ之レカ築設ヲ希望スト頑強ニ主張セリ事態如斯ナレバ既往ノ實蹟上到底東西兩岸村ノ意見ノ一致ハ得テ望ムベカラサルニ至リ可然當局ノ御措置ニ俟ツノ外ナキヲ覺悟シタルモ猶一回ノ協議ヲナサント豫メ双方合議決定シタルモ去二十三日ノ協議會ヘモ二村出席セス徒ラニ我見ヲ固執シ到底一致點ヲ見出ス能ハサル場合ニ立チ至リ候迄ニ前途ヲ逆觀スルニ前述ノ如ク私共各村ハ金員ノ交付ヲ受ケルヨリモ池其ノモノノ交付ヲ熱望スル點ニ於テ東岸兩村ニ讓ラサルニ地形上ヨリ見ルモ事理明瞭ナルニモ係ラズ今ヤ事情萬止ヲ得ス涙ヲ吞ンテ御諒ヲ奉信頼適當ノ金額ノ交付ヲ受ケテ御指令ノ旨ニ遵ヒ水利ノ用ニ供セント決定致シ候次第ニ御座候

仰キ冀クハ前陳ノ事態深ク御憐察ヲ垂レサセラレ甲府市水道ニ對スル水利權上市ノ賠償的救済ノ本旨ニモ慚ミ私共各村救済ノ實ヲ舉ケサセラレ長ヘニ其誠德ヲ仰カシメラレ度茲ニ謹テ東岸千塚、大宮兩村意見ノ一致シ得サル願末ヲ具シ敢テ哀情ヲ披瀝シ連署ヲ以テ奉嘆願候以上

大正二年十二月廿五日

中巨摩郡福岡村長 横 山 博 義  
 同 松島村長 窪 田 友 兵 衛  
 同 池田村長 保 坂 嘉 藏

山梨縣知事 若 林 資 藏 殿

而して當初より異議を唱へて居た住吉村は、獨り前記縣再裁斷書にも承服せず、溜池設置交付金を要求して已まなかつたので、縣から糞に發した裁斷書は廢止する旨を通牒した。之を受取つた同村は、同三年二十九日裁斷書或は覺

書の廢止命令は、沿岸各村間に於ける水利上の權利を毀損せるものであるからとの理由を以て、不當なる行政處分取消の行政訴訟を出訴したが、縣よりの疏明等ありて東京行政裁判所は、同七月十三日「各示達ハ形式ノ如何ニ拘ラズ行政處分ヲ爲スベキ限リニ非ラズ」との理由により却下を見るに至つたのである。

同村は更に之を不満として、同十一月十八日裁斷書に據り溜池設置交付の權利を有するものであるから、之が設置の上交付するか、若しくは之が設置に相當する金員を支出すべしとの理由を以て、本市を相手取り溜池設置方請求の訴を甲府地方裁判所に提起したのである。斯て數次に及ぶ公判辯論の結果、裁判所長より示談方の諭示があつたので、之の先更に相互が法廷に於て相争ふ事は、將來禍根と不利益を胎すものであると、石氏（兵作）市會副議長、淺尾長慶の兩氏斡旋よろしく效を奏して示談調ひ、同四年七月八日左の如き覺書を交して、久しきに互り紛議を重ねた水利關係は圓滿の裡に完く解決した。以上が水道敷設に繞れる水利關係經過である。

達第一九號

西山梨郡住吉村

大正三年三月十九日  
右相違ス

山梨縣知事 若 林 資 藏

行政處分取消方ノ訴狀及同宣告書（省略）

溜池設置方請求ノ訴（省留）

覺 書

甲府市ト西山梨郡住吉村トノ間ニ起レル水利權問題ハ双方ノ讓歩ニ依リ和議ヲ遂ゲ茲ニ解決シタルヲ以テ甲府市ハ住吉村ノ水利

第一章 草創より敷設まで



ニ不便ナルコトニ同情シ水利上同村ニ對シ將來好意ヲ有スルコトヲ表明ス  
大正四年七月八日

甲府市長 加藤 平 四 郎

西山梨郡山城村外二ヶ村組合長

藤 田 正 邦 殿

覺 書

甲府市ハ本村トノ間ニ於ケル水利權問題解決シ貴市ヨリ金千圓竝ニ覺書交付相成候ニ付テハ將來貴市ニ對シ訴訟問題ニ關シ何分ノ異議申問敷爲後日如件  
大正四年七月八日

西山梨郡住吉村代表者

西山梨郡山城村外二ヶ村組合長

藤 田 正 邦

甲府市長 加藤 平 四 郎 殿

訴 訟 取 下 書

原 告 住 吉 村  
被 告 甲 府 市

右當事者間ノ大正三年(第六十五號溜池設置請求事件ハ今般當事者間ニ於テ和解成立致候付此段連署ヲ以テ訴訟取下候也

大正四年七月八日

原告法定代理人 藤 田 正 邦

被告法定代理人 加 藤 平 四 郎

甲府地方裁判所民事部 御中

## 第二章 水道經營

### 第一節 經營機關

本市上水道は給水條例に基き大正二年一月二十一日主務省の認可を経て、給水を開始したものであつて、公營事業として本市最初のものであり、又極めて大規模である施設にして、従つて之が經營或は維持の適否如何は單に水道經濟の盛衰消長に係るのみでなく、市政の上にも重大なる反映を投ずるものであるから、維持方法經營手段に關しては種々講究を遂げた上極めて慎重なる態度と周到なる用意の下に當つた。まづ之の經濟を一般會計より切離した特別會計を設置して、其の收支を明かにして事業の運行狀態を考察するに便ならしめ、經營機關として新に水道課を設置し、課の下に庶務、會計、工務の三係に分ちて其の事務を執掌せしむべく庶務規程を定め、更に愛宕山配水場、千代田村水源淨水場には夫々出張事務所を置き營造物の保護取締と配水事務を執掌せしめ、又水道巡視を任命し各擔任區域を定め、公、私設共用栓、放任専用栓、計量給水栓、量水器等給水装置の保護取締と使用取扱方法の指導を爲し、進んで給水條例違背行爲の未然防止に、或は未使用者の勧誘普及等の事務を司らしめた。

之の經營維持上の機關、方法を整備し本事業の目的遂行と、圓滑なる發展を期すべく創業第一歩を踏み出したのであるが、其の後經營上の體驗と研究よりして能率増進、經營費の調節を圖る爲に幾多の改正を爲したが、大正八年四月水道課設置規程は之を廢して一般處務規程の中に包含せしめ、以後數次の改正等ありて現在に及んで居る。現在課長技師一名、係長書記二名、同技手一名、書記十二名、技手一名、書記補二名、水道巡視七名、雇員四名、事務員三



名と外に職工、工夫等を配し各々事務を分擔執掌せしめて居る。

甲府市役所處務規程拔萃（昭和十一年四月三十日改正）

第一章 總 則

第一條 市役所ニ左ノ課所及係ヲ置ク

(略)

水道課、庶務係、監視係、工務係

(略)

第二章 事務分掌

(略)

水道課

庶務係

- 一、上水道ノ施設ニ關スル事項
- 二、水道經濟ニ屬スル收入ニ關スル事項
- 三、水道給水ノ手續ニ關スル事項
- 四、主管所屬備人ノ進退ニ關スル事項
- 五、給水用具材料品出納保管ニ關スル事項
- 六、主管ニ屬スル不用品ノ處分ニ關スル事項
- 七、主管ニ屬スル財産管理ニ關スル事項
- 八、植林經營ニ關スル事項

九、主管經費ノ豫算執行ニ關スル事項

一〇、主管ニ係ル統計報告ニ關スル事項

一一、其ノ他水道ニ關スル事項

監視係

- 一、給水栓ノ視察ニ關スル事項
- 二、條例違背者取締ニ關スル事項
- 三、量水器點檢ニ關スル事項
- 四、水道料金滯納處分ニ關スル事項
- 五、給水使用者戸口及資格調査ニ料スル事項
- 六、主管ニ係ル統計報告ニ關スル事項

工務係

- 一、送配水及給水設備並修理ニ關スル事項
- 二、給水工事ニ關スル事項
- 三、水道工作物ノ維持保管ニ關スル事項
- 四、工事用品及諸機械ノ検査製作修繕ニ關スル事項
- 五、量水検査ニ關スル事項
- 六、水質検査ニ關スル事項
- 七、専用電話ニ關スル事項
- 八、主管ニ係ル統計報告ニ關スル事項

第二章 水道經營



又本事業の圓滑適正なる經營維持を圖るは勿論、益々其の發展を望むには、之が方針と運營上のよき諮問機關を必要なりとし、偶々大正四年一月二十八日市會より水道委員會設置の意見が擡頭したるも、幾多の事情から實現を見るに至らなかつたが、爾來事業の發達は事務の輻輳と相俟ち、前途愈々多端なるを思はしめたので、昭和二年五月二十七日市會より別項の如き意見書が提出された。據つて同七月十九日水道委員會設置規程を制定、市會の議決を経て諮問機關の成立を見、爾後幾多の重要案件に對し適正なる答申並意見の開申あり、本事業に對する發展に寄與され現在に及んで居るのである。

●水道巡視勤務細則

大正元年十二月二十一日  
訓令 甲 第九等

- 第一條 水道巡視ハ當該課長ノ指揮ヲ受ケ水道區域内ノ各受持區ヲ擔任シ又ハ指定ノ場所ニ勤務スヘシ
- 第二條 水道巡視ハ常ニ受持區域内ヲ巡回シ又ハ所屬ノ場所ニ出務スヘシ
- 第三條 水道巡視ハ常備職工工夫ノ作業ヲ巡視若ハ指揮ヲ爲スコトヲ得
- 第四條 水道巡視ハ必要ト認ムルトキハ常備職工、工夫ノ作業服、器具等ニ關シ視察シタル事項ヲ市長ニ報告スヘシ
- 第五條 水道巡視ハ常ニ消火栓、制水弁、止水栓及標識等ヲ視察シ異狀ヲ認メタルトキハ應急處置ヲ施シ其ノ旨市長ニ報告スヘシ
- 第六條 水道巡視ハ常ニ公私共用栓放任教計量器及導配水管等ヲ視察シ盜水漏水未裝置其他設備ニ危害ヲ及ホス等ノ非行ヲ監視シ其ノ狀況ヲ勤務日誌ニ記載スヘシ
- 第七條 前條其ノ他ノ場合ニ因リ訴追ノ手續ヲ要スト認メタルトキハ時機ヲ失セス之ヲ市長ニ報告スヘシ
- 第八條 水道巡視ハ受持區内消火栓制水弁ノ所在並使用ヲ熟知シ非常ニ應スルノ注意ヲ爲スヘシ
- 第九條 水道巡視ハ毎月一回以上給水使用量ノ調査ニ從事シ其ノ狀況ヲ市長ニ報告スヘシ

第十條 水道巡視ハ受持區内給水使用者ノ人口、職業、給水栓ノ異動ニ注意シ給水料ノ増減給水種別ノ變更其ノ他必要ト認ムル事項ハ之ヲ市長ニ報告スヘシ

第十一條 水道巡視ハ受持區内ノ給水戸數栓數ヲ調査ノ上記録シ異動アル毎ニ之ヲ加除訂正スヘシ

第十二條 水道巡視ハ勤務中給與ノ手帳ヲ携ヘ事故ヲ記入スヘシ手帳ハ上司ノ求メアルトキハ之ヲ示スヘシ

第十三條 水道巡視ハ前各條ニ掲ケルモノノ外毎日勤務ノ要領及勤務中ノ事故ヲ日誌ニ記載スヘシ

●水道巡視受持區域

大正五年三月十八日訓令甲第一號  
同八年九月訓令甲第八號改正  
同十一年九月訓令甲第四號改正  
昭和四年十月訓令甲第十三號改正

- 第一條 甲府市水道區域ヲ分チテ六箇區トシ其ノ名稱ヲ第(何)區トス
- 第二條 前條區域ヲ定ムルコト左ノ如シ

水道巡視受持區域表

| 區名  | 町名   |
|-----|--|
| 第一區 | 鍛冶、柳、堅近習、常盤、紅梅、櫻、春日、相生、代官、佐渡、三吉  |
| 第二區 | 錦、百石、穴切、飯田、壽、西青沼、泉、二十人、國母村ノ一部  |
| 第三區 | 綠、太田、伊勢、西一條通、西二條通、住吉通、東一條通、東二條通、東三條通、東四條通、東五條通、東六條通、北大路、南大路、湯田、朝氣、東青沼、若松、桶屋  |
| 第四區 | 上連雀、下連雀、穴山、工、深、金手、上一條、下一條、和田平、城屋、里垣村ノ一部                                      |
| 第五區 | 三日、魚、八日、山田、横近習、富士川、境、愛宕、元紺屋、元城屋、廣庭、横田、元綠、大工、細工、元連雀、新紺屋、相川村ノ一部                |
| 第六區 | 日向、花園、彌生、水門、富士見、堅、壘、元穴山、元柳、新柳、久保、朝日、橘、新青沼、相川、横澤、元三日、袋、御崎、増山、白木、相川村ノ一部、千塚村ノ一部 |

計 八十六箇町

一 市外ニ在ル送水管ノ視察取締ハ受持區域ニ依ラス巡視員ヲシテ隨時執行セシム



意見書

本市ノ水道事業ハ巨額ノ公債ヲ起シテ敷設配水ノ資ニ充テ其使用料金ヲ徴シテ維持經營ノ費ニ供シ併セテ公債償還ノ財源ト爲サシ計畫ナルガ故ニ經營ノ宜シキヲ得ルバ市ノ福利ヲ増進シ措置其宜ヲ失スレバ市ノ禍害ヲ醸成ス加之世運ノ進歩ト市勢ノ發展トニ伴テ改良擴張ノ工ヲ施スベキ時機到來スヘキハ當然ノ理數ナルヲ以テ企業ノ前途洵ニ多事多難ナリト云ハザルベカラズ故ニ常設水道委員ヲ置キテ當局ヲ輔ケ其ノ機務ニ參與セシメナバ企業ノ改良發展期ト水道經濟ノ安全亦ズ期シテ俟ツベシ就テハ當局者ハ斯際速ニ水道常設委員設置規程ヲ創案シテ本會ノ協賛ヲ求メ且該委員ノ選舉ヲ請求セラレンコトヲ

大正四年一月二十八日

甲府市會議長 石氏兵作

意見書

一、甲府市ニ水道委員ヲ常設セラレンコトヲ望ム  
 (理由) 今ヤ甲府市ハ道路網計畫成リ新設道路ノ開通スルモノ多ク其ノ開通セラル、ニ隨ツテ水道ノ供給ヲ需ムルコト切ナルノ狀況ナルコトハ大正十五年度水道豫算竝ニ昭和二年度水道豫算ノ實證スル所ナリ惟フニ益々此ノ傾向ノ増加スヘキハ勿論ニシテ更ニ又多年ノ懸案タリシ都市計畫事業ノ認可セラレタルヲ以テ之ガ計畫ノ實行ニ伴ヒ近接町村ノ併合等自ラ行ハルヘク隨ツテ本市ノ區域ハ膨大シ此ニ水道送水區域ハ擴張セラレ之ニ伴フ諸般ノ工事ハ愈々多ク爲ニ或ハ導水管ノ増設等モ行ハサルヘカラサルニ到ルヘシ果シテ然ラハ是レ等工事施行ノ上ニ於テ愈細心ノ用意ト周密ノ注意ヲ要スルハ是ハ實ニ喫緊ノ事ニ屬ス以上ノ趨勢ニ鑑ミ決議機關タル本市會ヨリ常設水道委員ヲ選出シ以テ市當局ト互ニ表裏トナリ協力一致シテ是レカ衝ニ當リ圓滿裡ニ之ヲ善處スルハ市民ニ對シ最忠實ニシテ且ツ當局ノ計畫遂行ヲ容易ナラシムル所以ナリト考フ右市制第四十六條ニ依リ

意見書提出候也

昭和二年五月二十七日

甲府市會議長 新海榮治

甲府市長 石井淳雄殿

甲府市水道委員設置規程 (昭和二年七月十九日)

- 第一條 本市ハ市制第八十三條ニ依リ水道維持經營ニ關シ水道委員ヲ置ク
- 第二條 委員ハ五人トシ市會議員中ヨリ之ヲ定ム
- 第三條 委員ノ任期ハ一年トシ市會決定ノ日ヨリ之ヲ起算ス
- 委員中缺員ヲ生ジタルトキハ直ニ補缺ス補缺委員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス
- 第四條 委員執務ニ關スル細則ハ市長之ヲ定ム

初代委員

|       |       |      |      |      |
|-------|-------|------|------|------|
| 萩原新一郎 | 立川安五郎 | 角田義孝 | 村松依一 | 三浦熊吉 |
|-------|-------|------|------|------|



### 第二節 給水狀況

#### 第一項 給水狀況

水道事業の目的は市民の保健衛生其他産業の改良發達に寄與するに在るを以て、施設の完備に隨ひ、使用者の普及を圖らなければならぬ、それ故創業後に於ける使用者の給水普及宣傳には多大なる努力を拂ひ、又使用者には出來得る限りの便宜特典を與へたのであるが、一方市民の理解認識は過去に於ける不良用水に辛酸を嘗めた後の事であつたから、當局よりの勸奨を俟つまでもなく、自ら進んで給水装置方を申請し、一日も速く清冽にして然かも無限に流出する水道に、待ち焦れた如き氣持を以て之を利用するに至つた。従つて其の使用状態は給水開始當時の大正二年には人口五萬三千六百七十二人に對して給水人口三萬三千四百四十二人を示めし、給水早々乍ら六十二%を得、まづ先途多幸を思はしめ、爾來年を逐ふて使用者の累増を見、大正十二年には給水人口は八十四%、昭和三年には九〇%を示し、未使用者は僅かに一割を剩すのみの普及率を記録し、頗る好調の裡に推移して現在に及んで居る。之を全國各都市に其の類を求むれば、東京の九八%、大阪、岡山の九七%、尼ヶ崎の九五%、秋田の九四%、福井の九二%にして本市が之に亞ぎ九〇%以上の普及率は餘り其の例を數へないのである。

尙之の異常なる好記録を示現するに至れる迄の當局の努力は、創業當初の方針を尙棄てずして、絶えず施設の改良と普及勸誘に意を注ぎ、大正五年八月名取市長は水道施設後尙市民一部には、井水、河水等を使用して居るものがあるが、傳染病其他災禍の襲來する危険を虞れ、一面給水普及を圖る爲に、縣衛生検査所の後援を得て、水道未使用者の用水々質検査を執行し、其の試験の結果を示めして、之等の衛生上極めて危険なる事を力説して注意を喚起したのである。

水道使用水量統計表

| 曆年次  | 年次 | 總入口    | 給水人口   | 給水普及率% | 一日最大給水量<br>立方尺 | 一人一日最大給水量<br>立方尺 | 一日平均使用水量<br>立方尺 | 一人一日平均使用水量<br>立方尺 | 摘要       |
|------|----|--------|--------|--------|----------------|------------------|-----------------|-------------------|----------|
|      |    |        |        |        |                |                  |                 |                   |          |
| 大正二年 | 一  | 五、六七三  | 三三、四三二 | 三三     | 二六、九三〇         | 七、九五             | 三、四〇六           | 五、〇三              |          |
| 同三年  | 二  | 五、七五二  | 三六、三九  | 三六     | 三九、七四一         | 九、〇五             | 二、一、三三          | 五、八三              |          |
| 同四年  | 三  | 五、八七三  | 三八、〇二七 | 三七     | 三九、五〇〇         | 一〇、三五            | 二、一、六三四         | 五、五三              |          |
| 同五年  | 四  | 五、八八四  | 四二、八五三 | 三七     | 三六、五三三         | 七、三五             | 二、六、一三六         | 五、二五              |          |
| 同六年  | 五  | 五、七四七  | 四五、〇七九 | 三七     | 三六、七〇〇         | 八、五五             | 二、七、二五五         | 六、一〇              |          |
| 同七年  | 六  | 五、四五三  | 四六、八二二 | 三八     | 四五、〇九六         | 九、〇六             | 三、一、五九五         | 七、〇五              |          |
| 同八年  | 七  | 五、八八六  | 四八、六三六 | 三八     | 三八、五三三         | 七、八五             | 二、九、五七六         | 五、九五              |          |
| 同九年  | 八  | 六、五八〇  | 四九、一五六 | 三八     | 四三、七三六         | 八、〇六             | 二、九、四七六         | 五、九〇              |          |
| 同十年  | 七  | 六、二二六  | 五一、六〇〇 | 三八     | 四三、七三六         | 八、〇六             | 二、九、四七六         | 五、九〇              |          |
| 同十一年 | 八  | 六、四二七  | 五一、八四一 | 三八     | —              | —                | —               | —                 |          |
| 平均   | 均  | —      | —      | —      | —              | 八、〇六             | —               | —                 | 五、八三     |
| 同十二年 | 九  | 六、一五三  | 五七、〇四一 | 八四     | 三九、五、八二〇       | 六、九五             | 三、〇、八三七         | 五、四〇              |          |
| 同十三年 | 一〇 | 七〇、八四一 | 五八、七四四 | 八三     | 三七八、八六四        | 六、四五             | 三、三、一一一         | 五、三三              |          |
| 同十四年 | 一一 | 七三、七九二 | 六三、三九五 | 八六     | 三三八、一五六        | 五、五〇             | 二、七、三二四         | 四、三六              |          |
| 昭和元年 | 一二 | 七五、六八二 | 六七、〇〇二 | 八八     | 三九八、八二二        | 五、三三             | 二、七、一七三         | 四、〇四              |          |
| 同二年  | 一三 | 七六、九三六 | 七〇、一四八 | 九一     | 三九七、九〇四        | 四、九六             | 二、七、一四四         | 三、九三              | 全部計量給水トス |
| 同三年  | 一四 | 七八、九五八 | 七二、〇三三 | 九一     | 三九七、九〇四        | 五、〇六             | 二、八、一四三         | 三、九五              |          |
| 同四年  | 一五 | 八一、一三一 | 七三、一〇〇 | 九〇     | 三五二、五二二        | 四、三三             | 二、六、〇六八         | 三、三〇              |          |
| 同五年  | 一六 | 八三、四九七 | 七四、八六九 | 八九・五   | 三六〇、二二六        | 四、八〇             | 二、八、一九〇         | 三、七六              |          |



第一編 上水道史

|      |         |        |      |         |      |         |      |
|------|---------|--------|------|---------|------|---------|------|
| 昭和六年 | 一九八、五四一 | 七六、五三三 | 八九、三 | 三六九、七〇〇 | 四、八二 | 二八四、八六八 | 三、七  |
| 昭和七年 | 二〇八、七五九 | 七六、一七八 | 八九、〇 | 三六一、六七〇 | 四、六七 | 二七〇、〇三八 | 三、六四 |
| 同    |         |        |      |         |      |         | 六八   |

給水工事施行件数表

| 年度   | 放任計  | 量私設 | 公設  | 消火栓 | 撒水栓 | 臨時庭園増設 | 専用栓共  | 其他  | 開閉栓 | 聯合放位置替 | 工事布設 | 制水弁 |
|------|------|-----|-----|-----|-----|--------|-------|-----|-----|--------|------|-----|
| 大正元年 | 四三六  | 二二九 | 二   | 一   | 一   | 三      | 六〇四   |     |     |        |      |     |
| 二年   | 八三八  | 四〇〇 | 一八四 | 六   | 一〇  | 三      |       |     |     |        |      |     |
| 三年   | 一、三二 | 五九  | 一   | 一   | 一   | 一〇七    | 一、六八五 |     |     |        |      |     |
| 四年   | 五    | 二二九 | 二   | 一   | 二   | 七      | 二、八八〇 |     |     |        |      |     |
| 五年   | 一〇四  | 七   | 四八  | 二   | 三〇  | 一      | 二、九四九 | 八四九 |     |        |      |     |
| 六年   | 一四一  | 五五  | 二六  | 一   | 一   | 一      | 三、八八九 | 六六五 |     |        |      |     |
| 七年   | 一〇四  | 七   | 二七  | 一   | 一   | 一      | 四、五九  | 六四  |     |        |      |     |
| 八年   | 一八三  | 九六  | 一五  | 二   | 一   | 九四     | 三、七二  | 六〇  |     |        |      |     |
| 九年   | 一八一  | 四六  | 一五  | 二   | 六   | 六六     | 四、四八五 | 四四一 |     |        |      |     |
| 一〇年  | 三三五  | 八四  | 三三  | 三   | 二   | 二五     | 四、五五  | 六四六 |     |        |      |     |
| 一一年  | 二二六  | 二七  | 一五  | 四   | 二〇  | 三      | 三、五三六 | 一六六 |     |        |      |     |
| 一二年  |      |     |     |     |     |        |       |     |     |        |      |     |
| 一三年  |      |     |     |     |     |        |       |     |     |        |      |     |
| 一四年  | 六九七  | 七   | 二   |     |     |        |       |     |     |        |      |     |
| 昭和元年 | 六三一  | 四   | 二   |     |     |        |       |     |     |        |      |     |
| 二年   | 六五五  | 四   | 二   |     |     |        |       |     |     |        |      |     |
| 三年   | 六九七  | 一   | 一   |     |     |        |       |     |     |        |      |     |
| 四年   | 六四四  | 一   | 一   |     |     |        |       |     |     |        |      |     |
| 五年   | 四四八  | 一   | 一   |     |     |        |       |     |     |        |      |     |

水道給水未使用者飲用水需用状態

| 年次    | 買水ニ依ルモノ | 井戸水ニ依ルモノ | 河水ニ依ルモノ | 其他 | 計     | 人口 |
|-------|---------|----------|---------|----|-------|----|
| 大正元年末 |         | 三、一〇九    | 不明      |    | 三、一〇九 |    |
| 二年末   |         | 二、四八五    |         |    | 二、四八五 |    |
| 三年末   |         | 一、八〇〇    |         |    | 一、八〇〇 |    |
| 四年末   |         | 一、四七八    |         |    | 一、四七八 |    |
| 五年末   |         | 一、四三六    |         |    | 一、四三六 |    |
| 六年末   |         | 一、二六二    |         |    | 一、二六二 |    |
| 七年末   |         | 一、〇六六    |         |    | 一、〇六六 |    |
| 八年末   |         | 九七七      |         |    | 九七七   |    |
| 九年末   |         | 八五三      |         |    | 八五三   |    |
| 十年末   |         | 七〇三      |         |    | 七〇三   |    |
| 十一年末  |         | 六三六      |         |    | 六三六   |    |

第二項 區域擴張

水道給水區域は市域一圓としてあるが、人口密度のまばらな飯田町朝氣町の一部には配水管を敷設しなかつた。尙市域外にある本市近郊の各學校、官衙、工場等と共に、衛生及産業上の見地から其の區域に編入の上、普ねく之が施



設の上、給水を行ふべく、夫々其の手續と擴張配水管敷設工事を施行して、本事業の目的に向つたが、敷設工事完成後、區域擴張を爲し配水管工事を施行した箇所は左の如し。

- 一、元柳町山梨縣師範學校及其附近
- 一、市外國母村草薙社製糸工場及其附近
- 一、飯田町、朝氣町一帯に配水管を敷設し給水の便を備ふ

其後給水條例の改正に伴ひ給水希望の向に對しては、隨時之が工事を施行し、殊に區域外と雖も衛生、警備上或は産業發展上必要ある場合は、施設の擴張を圖り文化生活の向上改善に寄與して來たが、昭和三年二月西山梨郡相川村字御納小路附近に腸チフスの蔓延を見た際は、隣接各町の危険切迫したので、同村長よりの希望もあり勞々、市會の協贊を経て給水工事を施行し、同病終熄後も引續き給水し現在に及んで居る。

### 第三項 斷 水

前述の如き好調を示した水道使用状況から、商工業の發展を著しく促進し、殊に本市主産業たる製糸業の飛躍的隆昌を見るは勿論、市民生活の向上、人口の急激なる増加發展を來した、其の結果は勢ひ給水量の加速度的激増を來た爲、大正十年六月需要旺盛の夏季配水量は、一日最大四十三萬七千二百三十八立方尺に達し、設備した給水能力たる一日最大給水量三十五萬立方尺を、遙かに凌駕した數量を表示したので、早くも水量不足を告げ、且同年は連日に亘る酷暑續きの爲に給水の圓滿なるを期し得られず、遂に斷水の危機に當面したので當局は狼狽し同六月二十日節水宣傳の必要を痛感し、全市共用栓總代を市役所に招き堀（信次）市長、望月（谷三）水道課長以下係員擧つて給水使用

上の注意、水道濫費防止を指示して斷水の危機突破に大奮であつた。又毎夜吏員五名宛に編成、給水栓の放流、撒水、濫用の取締等に全力を傾注したが、七月六日には「午後八時より翌日午前五時迄斷水す」る旨の最後の非常手段に訴へるの已むなきに至つた。之を以て水道斷水の嚆矢とするのである。

然して之の非常手段に出づるや、直ちに給水栓總代、工場管理者、町總代に向つて已むを得ず之の擧に出でた事情を説明して、今後の水道使用方法に付き一段の注意を喚起する所あり、更に市民より節水宣傳に關する標語を懸賞を以て募集し、當選標語を宣傳して其の實行を促し、又給水方法それ自身にも不備があつたので、幾多の調査を経て給水條例の改正を行ふなど、其他凡ゆる手段を講じた。

爾來給水普及の好調、給水量の激増と相俟ち、需要旺盛の夏季、嚴寒の冬季には幾度か斷水の危機に逢着して、大正十三年には夜間斷水を決行する事二十五回を重ねてより、逐年之を反覆し、斷水號砲は巷間の名物とまでに噂されるに至つた。

### 甲府市上水道斷水狀況一覽

○印ハ斷水ヲ示ス

| 日/年 | 七 月 | 八 月 | 九 月 |
|-----|-----|-----|-----|
| 一   | ○   | ○   | ○   |
| 二   | ○   | ○   | ○   |
| 三   | ○   | ○   | ○   |
| 四   | ○   | ○   | ○   |







共用栓總代人諸賢に

- 一、水道使用ヲ成ルベク節約セラル、様組合員一同ニ御注意ヲ願ヒマス
- 一、共用栓ノ鍵及鑑札ハ決して他人ニ貸與シタリ又栓柱ニ掛ケ放シタリセヌ様ニ御注意下サイ
- 一、共用栓使用後ハ水ノ漏レヌ様閉メ方ニ御注意ヲ願ヒマス
- 一、若シ閉メテモ水ガ止マラヌ時ハ直チニ役所ニ御知ラセ下サイ
- 一、給水組合ニ加入退出轉去其他異動アリタル場合ハ其ノ都度速ニ水道課へ御届ケ下サイ
- 一、水料ハ成ルベク告知指定日マデニ取集メテ納付ヲ願ヒマス

大正十一年一月十日

以上

甲府市役所水道課

御膳水買ツタ昔ヲ忘レズ(標語)

第三節 經理狀況

第一項 收入及經營費

水道事業の主たる收入は其の使用料にして、之を以て經營諸費を支辨するのは勿論公債償還の財源に充てる等本事業の根幹を爲すものにして、之の納入成績は本事業の消長に及ぼす所大なるを以て、給水普及を圖り以て收入増加に對しては大いに留意して之に當つたのであるが、其の初めは事業を創始したばかりであるので、果して豫定せる財政計畫通りの実績を挙げ得るか疑はしく多少の不安もあつたのである。

然し案するより産むが安く經營後は前述の如く給水普及の好調と、使用料は豫想以上の好結果を生み愈々事業の有望さを示現し經營上の確信を抱く事が出来、従つて當初の不安も解消して隆々駸々たる發展振りは公債償還等も極めて順調に處理して行く事が出来得たのであつた。乃ち財政計畫では公債完済期である昭和四年度迄の總收入金百十一萬七千七百四十圓の豫定に對して經營僅か十三年間にして大正十四年度迄の給水使用収入は金百十五萬六百四十八圓と豫定以上の收入を挙げ得たのである。又大正十四年には震災復舊財源に仰いだ公債の償還に充當する故を以て増收の途を講じた後は更に一段の收入増加を示す様になつたが、尤も之は後圖擴張實施の計畫もあつたから特に其の必要をも含めたのである。

次に之の徴收に關しては市税其他の徴收方法とは多少其趣を異にし、所謂義務負擔に基くものではなく、公營事業に依る使用料であるから、徴收方法は法律や命令に基く市税と同様の徴收取立を爲さず、其の方法や、順序に就きては細心の注意を以て之に臨み、一方使用者の理解と協力に俟つて納入の完全を期したので、相當困難を豫想されて居た徴收事務も至極順調に進捗し、多少の滞納者はあつたが次期納期までには孰れも納付するを得て、年度を過ぎる様なもの又は停水處分による様な者は殆んどなく、經營は極く滑かに行なはれた。尙納税組合と協力して期限内納付を奨励し其の實效を期し得て其の經營の宜しきを見たので漸次剩餘金を算するに至り昭和八年十月施行した水道擴張費財源に充當した額は金七十萬圓に上つた次第である。

配水實費並使用料

| 年次       | 配水總量<br>立方尺 | 經營費<br>圓 | 一立方米當<br>配水費<br>毛 | 使用料收入<br>圓 | 一立方米當<br>使用料<br>圓 |
|----------|-------------|----------|-------------------|------------|-------------------|
| 昭和元年     | 二,七五四,〇七三   | 五四,一〇八   | 一九五               | 一七九,六七四    | 六三                |
| 第二章 水道經營 |             |          |                   | 七五         |                   |





|           |           |           |           |           |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 九         | 八         | 七         | 六         | 五         | 四         | 三         | 二         |
| 二,八六六,七二四 | 二,八四四,三四四 | 二,七八五,〇七二 | 二,八二九,六四〇 | 二,九一九,二九九 | 二,八二一,八二一 | 二,八九三,六四四 | 二,八〇〇,六九八 |

|           |           |           |           |           |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 二,八〇〇,六九八 | 二,八九三,六四四 | 二,八二一,八二一 | 二,八二九,六四〇 | 二,九一九,二九九 | 二,八二一,八二一 | 二,八九三,六四四 | 二,八〇〇,六九八 |
| 四八,一六三    | 四九,二七六    | 四六,一〇〇    | 四五,二九三    | 七〇,三九〇    | 九〇,三九〇    | 六七,六八五    | 六三,九五五    |
| 一七二       | 一七〇       | 一六三       | 一五五       | 二四九       | 三三五       | 三三八       | 三三三       |
| 一九三,八四四   | 二〇一,九七五   | 二〇二,〇二五   | 一九八,三八三   | 一八九,九〇二   | 一八二,三三八   | 一八五,〇八六   | 一八七,〇〇五   |
| 六九三       | 六九八       | 七二六       | 六七九       | 六七一       | 六五五       | 六五一       | 六五二       |

豫

使

用

料

算

| 年     | 大正元年    | 二年      | 三年      | 四年      | 五年      | 六年      | 七年      | 八年      | 九年      | 一〇年     | 一一年     |
|-------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 放任専用  | 一七〇,〇〇〇 | 一七〇,〇〇〇 | 一七〇,〇〇〇 | 一七〇,〇〇〇 | 一七〇,〇〇〇 | 一七〇,〇〇〇 | 一七〇,〇〇〇 | 一七〇,〇〇〇 | 一七〇,〇〇〇 | 一七〇,〇〇〇 | 一七〇,〇〇〇 |
| 計量専用  | 三五五,〇〇〇 | 三五五,〇〇〇 | 三五五,〇〇〇 | 三五五,〇〇〇 | 三五五,〇〇〇 | 三五五,〇〇〇 | 三五五,〇〇〇 | 三五五,〇〇〇 | 三五五,〇〇〇 | 三五五,〇〇〇 | 三五五,〇〇〇 |
| 放任共用  | 八〇,〇〇〇  | 八〇,〇〇〇  | 八〇,〇〇〇  | 八〇,〇〇〇  | 八〇,〇〇〇  | 八〇,〇〇〇  | 八〇,〇〇〇  | 八〇,〇〇〇  | 八〇,〇〇〇  | 八〇,〇〇〇  | 八〇,〇〇〇  |
| 私設消火  | 九,〇〇〇   | 九,〇〇〇   | 九,〇〇〇   | 九,〇〇〇   | 九,〇〇〇   | 九,〇〇〇   | 九,〇〇〇   | 九,〇〇〇   | 九,〇〇〇   | 九,〇〇〇   | 九,〇〇〇   |
| 量水器   | 二〇,〇〇〇  | 二〇,〇〇〇  | 二〇,〇〇〇  | 二〇,〇〇〇  | 二〇,〇〇〇  | 二〇,〇〇〇  | 二〇,〇〇〇  | 二〇,〇〇〇  | 二〇,〇〇〇  | 二〇,〇〇〇  | 二〇,〇〇〇  |
| 基本料金  | 三五五,〇〇〇 | 三五五,〇〇〇 | 三五五,〇〇〇 | 三五五,〇〇〇 | 三五五,〇〇〇 | 三五五,〇〇〇 | 三五五,〇〇〇 | 三五五,〇〇〇 | 三五五,〇〇〇 | 三五五,〇〇〇 | 三五五,〇〇〇 |
| 計量共用  | 一七〇,〇〇〇 | 一七〇,〇〇〇 | 一七〇,〇〇〇 | 一七〇,〇〇〇 | 一七〇,〇〇〇 | 一七〇,〇〇〇 | 一七〇,〇〇〇 | 一七〇,〇〇〇 | 一七〇,〇〇〇 | 一七〇,〇〇〇 | 一七〇,〇〇〇 |
| 合計    | 五五五,〇〇〇 | 五五五,〇〇〇 | 五五五,〇〇〇 | 五五五,〇〇〇 | 五五五,〇〇〇 | 五五五,〇〇〇 | 五五五,〇〇〇 | 五五五,〇〇〇 | 五五五,〇〇〇 | 五五五,〇〇〇 | 五五五,〇〇〇 |
| 手數料   | 二四,〇〇〇  | 二四,〇〇〇  | 二四,〇〇〇  | 二四,〇〇〇  | 二四,〇〇〇  | 二四,〇〇〇  | 二四,〇〇〇  | 二四,〇〇〇  | 二四,〇〇〇  | 二四,〇〇〇  | 二四,〇〇〇  |
| 増減(△) | 二四,〇〇〇  | 二四,〇〇〇  | 二四,〇〇〇  | 二四,〇〇〇  | 二四,〇〇〇  | 二四,〇〇〇  | 二四,〇〇〇  | 二四,〇〇〇  | 二四,〇〇〇  | 二四,〇〇〇  | 二四,〇〇〇  |

| 年     | 昭和元年      | 二年        | 三年        | 四年        | 五年        | 六年        | 七年        | 八年        | 九年        |
|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 放任専用  | 三六四,〇〇〇   | 三六四,〇〇〇   | 三六四,〇〇〇   | 三六四,〇〇〇   | 三六四,〇〇〇   | 三六四,〇〇〇   | 三六四,〇〇〇   | 三六四,〇〇〇   | 三六四,〇〇〇   |
| 計量専用  | 五八七,〇〇〇   | 五八七,〇〇〇   | 五八七,〇〇〇   | 五八七,〇〇〇   | 五八七,〇〇〇   | 五八七,〇〇〇   | 五八七,〇〇〇   | 五八七,〇〇〇   | 五八七,〇〇〇   |
| 放任共用  | 一六二,〇〇〇   | 一六二,〇〇〇   | 一六二,〇〇〇   | 一六二,〇〇〇   | 一六二,〇〇〇   | 一六二,〇〇〇   | 一六二,〇〇〇   | 一六二,〇〇〇   | 一六二,〇〇〇   |
| 私設消火  | 二五,〇〇〇    | 二五,〇〇〇    | 二五,〇〇〇    | 二五,〇〇〇    | 二五,〇〇〇    | 二五,〇〇〇    | 二五,〇〇〇    | 二五,〇〇〇    | 二五,〇〇〇    |
| 量水器   | 七〇,〇〇〇    | 七〇,〇〇〇    | 七〇,〇〇〇    | 七〇,〇〇〇    | 七〇,〇〇〇    | 七〇,〇〇〇    | 七〇,〇〇〇    | 七〇,〇〇〇    | 七〇,〇〇〇    |
| 基本料金  | 三六四,〇〇〇   | 三六四,〇〇〇   | 三六四,〇〇〇   | 三六四,〇〇〇   | 三六四,〇〇〇   | 三六四,〇〇〇   | 三六四,〇〇〇   | 三六四,〇〇〇   | 三六四,〇〇〇   |
| 計量共用  | 一六二,〇〇〇   | 一六二,〇〇〇   | 一六二,〇〇〇   | 一六二,〇〇〇   | 一六二,〇〇〇   | 一六二,〇〇〇   | 一六二,〇〇〇   | 一六二,〇〇〇   | 一六二,〇〇〇   |
| 合計    | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 |
| 手數料   | 四八,〇〇〇    | 四八,〇〇〇    | 四八,〇〇〇    | 四八,〇〇〇    | 四八,〇〇〇    | 四八,〇〇〇    | 四八,〇〇〇    | 四八,〇〇〇    | 四八,〇〇〇    |
| 増減(△) | 四八,〇〇〇    | 四八,〇〇〇    | 四八,〇〇〇    | 四八,〇〇〇    | 四八,〇〇〇    | 四八,〇〇〇    | 四八,〇〇〇    | 四八,〇〇〇    | 四八,〇〇〇    |

決

使

用

料

算

| 年     | 大正元年    | 二年      | 三年      | 四年      | 五年      | 六年      | 七年      | 八年      | 九年      |
|-------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 放任専用  | 一四六,六五五 | 一四六,六五五 | 一四六,六五五 | 一四六,六五五 | 一四六,六五五 | 一四六,六五五 | 一四六,六五五 | 一四六,六五五 | 一四六,六五五 |
| 計量専用  | 一七九,三三〇 | 一七九,三三〇 | 一七九,三三〇 | 一七九,三三〇 | 一七九,三三〇 | 一七九,三三〇 | 一七九,三三〇 | 一七九,三三〇 | 一七九,三三〇 |
| 放任共用  | 三三〇,五五〇 | 三三〇,五五〇 | 三三〇,五五〇 | 三三〇,五五〇 | 三三〇,五五〇 | 三三〇,五五〇 | 三三〇,五五〇 | 三三〇,五五〇 | 三三〇,五五〇 |
| 私設消火  | 一,〇〇〇   | 一,〇〇〇   | 一,〇〇〇   | 一,〇〇〇   | 一,〇〇〇   | 一,〇〇〇   | 一,〇〇〇   | 一,〇〇〇   | 一,〇〇〇   |
| 量水器   | 三,三〇〇   | 三,三〇〇   | 三,三〇〇   | 三,三〇〇   | 三,三〇〇   | 三,三〇〇   | 三,三〇〇   | 三,三〇〇   | 三,三〇〇   |
| 基本料金  | 一四六,六五五 | 一四六,六五五 | 一四六,六五五 | 一四六,六五五 | 一四六,六五五 | 一四六,六五五 | 一四六,六五五 | 一四六,六五五 | 一四六,六五五 |
| 計量共用  | 一七九,三三〇 | 一七九,三三〇 | 一七九,三三〇 | 一七九,三三〇 | 一七九,三三〇 | 一七九,三三〇 | 一七九,三三〇 | 一七九,三三〇 | 一七九,三三〇 |
| 合計    | 五〇五,八三〇 | 五〇五,八三〇 | 五〇五,八三〇 | 五〇五,八三〇 | 五〇五,八三〇 | 五〇五,八三〇 | 五〇五,八三〇 | 五〇五,八三〇 | 五〇五,八三〇 |
| 手數料   | 六三,〇〇〇  | 六三,〇〇〇  | 六三,〇〇〇  | 六三,〇〇〇  | 六三,〇〇〇  | 六三,〇〇〇  | 六三,〇〇〇  | 六三,〇〇〇  | 六三,〇〇〇  |
| 増減(△) | 六三,〇〇〇  | 六三,〇〇〇  | 六三,〇〇〇  | 六三,〇〇〇  | 六三,〇〇〇  | 六三,〇〇〇  | 六三,〇〇〇  | 六三,〇〇〇  | 六三,〇〇〇  |



| 年度別    | 大正一〇年      | 大正一一年      | 大正一二年      | 大正一三年      | 大正一四年      | 大正一五年      | 大正一六年      | 大正一七年      | 大正一八年      | 大正一九年      |
|--------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 使用料手數料 | 5,012,800  | 5,735,300  | 6,353,800  | 6,843,900  | 7,374,500  | 7,912,400  | 8,458,600  | 9,016,700  | 9,586,600  | 10,168,300 |
| 繰入金    | 1,200,000  | 1,840,000  | 2,500,000  | 3,180,000  | 3,880,000  | 4,600,000  | 5,340,000  | 6,090,000  | 6,850,000  | 7,620,000  |
| 繰越金    | 2,500,000  | 3,900,000  | 5,400,000  | 6,900,000  | 8,400,000  | 9,900,000  | 11,400,000 | 12,900,000 | 14,400,000 | 15,900,000 |
| 國庫補助金  | 3,000,000  | 3,500,000  | 4,000,000  | 4,500,000  | 5,000,000  | 5,500,000  | 6,000,000  | 6,500,000  | 7,000,000  | 7,500,000  |
| 雜收入    | 4,000,000  | 4,500,000  | 5,000,000  | 5,500,000  | 6,000,000  | 6,500,000  | 7,000,000  | 7,500,000  | 8,000,000  | 8,500,000  |
| 市債     | 5,000,000  | 5,500,000  | 6,000,000  | 6,500,000  | 7,000,000  | 7,500,000  | 8,000,000  | 8,500,000  | 9,000,000  | 9,500,000  |
| 合計     | 10,000,000 | 11,000,000 | 12,000,000 | 13,000,000 | 14,000,000 | 15,000,000 | 16,000,000 | 17,000,000 | 18,000,000 | 19,000,000 |

水道收入一覽表

| 年度別    | 大正元年       | 大正二年       | 大正三年       | 大正四年       | 大正五年       | 大正六年       | 大正七年       | 大正八年       | 大正九年       |
|--------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 使用料手數料 | 5,533,750  | 6,011,000  | 6,498,000  | 6,985,000  | 7,472,000  | 7,959,000  | 8,446,000  | 8,933,000  | 9,420,000  |
| 繰入金    | 1,000,000  | 1,500,000  | 2,000,000  | 2,500,000  | 3,000,000  | 3,500,000  | 4,000,000  | 4,500,000  | 5,000,000  |
| 繰越金    | 2,000,000  | 3,000,000  | 4,000,000  | 5,000,000  | 6,000,000  | 7,000,000  | 8,000,000  | 9,000,000  | 10,000,000 |
| 國庫補助金  | 3,000,000  | 3,500,000  | 4,000,000  | 4,500,000  | 5,000,000  | 5,500,000  | 6,000,000  | 6,500,000  | 7,000,000  |
| 雜收入    | 4,000,000  | 4,500,000  | 5,000,000  | 5,500,000  | 6,000,000  | 6,500,000  | 7,000,000  | 7,500,000  | 8,000,000  |
| 市債     | 5,000,000  | 5,500,000  | 6,000,000  | 6,500,000  | 7,000,000  | 7,500,000  | 8,000,000  | 8,500,000  | 9,000,000  |
| 合計     | 10,000,000 | 11,000,000 | 12,000,000 | 13,000,000 | 14,000,000 | 15,000,000 | 16,000,000 | 17,000,000 | 18,000,000 |

| 年度別   | 大正元年       | 大正二年       | 大正三年       | 大正四年       | 大正五年       | 大正六年       | 大正七年       | 大正八年       | 大正九年       | 大正一〇年      |
|-------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 役所費   | 4,313,400  | 4,627,000  | 4,940,600  | 5,254,200  | 5,567,800  | 5,881,400  | 6,195,000  | 6,508,600  | 6,822,200  | 7,135,800  |
| 作業費   | 1,200,000  | 1,300,000  | 1,400,000  | 1,500,000  | 1,600,000  | 1,700,000  | 1,800,000  | 1,900,000  | 2,000,000  | 2,100,000  |
| 給水工費  | 1,000,000  | 1,100,000  | 1,200,000  | 1,300,000  | 1,400,000  | 1,500,000  | 1,600,000  | 1,700,000  | 1,800,000  | 1,900,000  |
| 公備費   | 1,000,000  | 1,100,000  | 1,200,000  | 1,300,000  | 1,400,000  | 1,500,000  | 1,600,000  | 1,700,000  | 1,800,000  | 1,900,000  |
| 繰入補償費 | 1,000,000  | 1,100,000  | 1,200,000  | 1,300,000  | 1,400,000  | 1,500,000  | 1,600,000  | 1,700,000  | 1,800,000  | 1,900,000  |
| 雜支出   | 1,000,000  | 1,100,000  | 1,200,000  | 1,300,000  | 1,400,000  | 1,500,000  | 1,600,000  | 1,700,000  | 1,800,000  | 1,900,000  |
| 豫備費   | 1,000,000  | 1,100,000  | 1,200,000  | 1,300,000  | 1,400,000  | 1,500,000  | 1,600,000  | 1,700,000  | 1,800,000  | 1,900,000  |
| 電話費   | 1,000,000  | 1,100,000  | 1,200,000  | 1,300,000  | 1,400,000  | 1,500,000  | 1,600,000  | 1,700,000  | 1,800,000  | 1,900,000  |
| 公債    | 1,000,000  | 1,100,000  | 1,200,000  | 1,300,000  | 1,400,000  | 1,500,000  | 1,600,000  | 1,700,000  | 1,800,000  | 1,900,000  |
| 諸稅及負擔 | 1,000,000  | 1,100,000  | 1,200,000  | 1,300,000  | 1,400,000  | 1,500,000  | 1,600,000  | 1,700,000  | 1,800,000  | 1,900,000  |
| 特別手當  | 1,000,000  | 1,100,000  | 1,200,000  | 1,300,000  | 1,400,000  | 1,500,000  | 1,600,000  | 1,700,000  | 1,800,000  | 1,900,000  |
| 其他    | 1,000,000  | 1,100,000  | 1,200,000  | 1,300,000  | 1,400,000  | 1,500,000  | 1,600,000  | 1,700,000  | 1,800,000  | 1,900,000  |
| 合計    | 10,000,000 | 11,000,000 | 12,000,000 | 13,000,000 | 14,000,000 | 15,000,000 | 16,000,000 | 17,000,000 | 18,000,000 | 19,000,000 |

水道經營費一覽表

第二章 水道經營











|        |   |             |
|--------|---|-------------|
| 第三 隧道  | 高五尺、幅四尺卷立部切石工   | 二二五・六       |
| 開水渠    | 幅三尺四寸、深三尺二寸切石積  | 二六・〇        |
| 分水池    | 方十五尺、深五尺七寸切石積   | 三、四九四・四五〇   |
| 沈澱池    | 上部長二九〇尺、幅一八四八・尺底部長二三・三、八尺、幅一三三・八尺、深一九・三尺、容積六十萬立方尺コンクリート | 三八、一〇九・六三三  |
| 濾過池    | 各池共上部幅一三〇尺底部幅一〇五・二尺深七・九尺全部コンクリート                        | 六六、一七六・八九二  |
| 配水池    | 上部長一五・一六尺幅一〇九、一六尺底部長一七尺、幅一〇七尺深二五・九三尺、全部コンクリート           | 七〇、六八五・二四五  |
| 導水管    | 自四吋至十六吋   | 八二五・一       |
| 送水管    | 自四吋至十六吋   | 四、四二七・八九    |
| 配水管    | 自八分ノ五吋至一時二分ノ一   | 三〇、三三〇・二七   |
| 配水管    | 長一九・二尺、幅一三・二尺全部鐵筋混凝土                                    | 三、九五・七〇     |
| 量水室    | 自四吋至十六吋   | 四、〇七四・〇八〇   |
| 制水函    | 同   | 一、二九六・五七三   |
| 同表函    | 同   | 一六、〇三三・五八四  |
| 消火栓    | 口徑二吋二分ノ一  | 八、〇三四・二二八   |
| 同表     | 同   | 一一一・一五〇     |
| 排氣弁    | 單口及雙口   | 一一、四六三・〇二六  |
| 公設共用電柱 | 水道課水源配水材料收納所  | 二、三七・四六〇    |
| 私設專用電話 | 水源池内砂運搬用  | 三八四・九八〇     |
| 軌道     | 材料置場構内  | 二九・二三〇      |
| 水壓試驗場  |   | 五五六、三九一・一五五 |

### 第四節 給水條例

本市水道給水條例は大正元年九月十二日給水開始に先立ち、主務省の許可を得て同條例施行細則と共に、大正二年一月二十一日より實施したもにして、之が最初の條例である。然し之が實施にあたりては幾多の不備、不便が伴なひ缺陷あるを痛感したので、大正三年五月四日改正條例の市會議決を経て、同八月十五日主務省の許可を受けて實施しまづ第一回の改正を爲したのである。爾後幾多の改正を経て、大正十年には給水方法の缺陷から濫費の弊風を醸して居た事が判明したので、其の弊風である放任給水制を計量給水制に統一し、濫費防止と節水宣傳に備へ以て斷水緩和を圖る爲に給水條例を改正した。

内務省梨地第八九二號

大正元年八月十二日水發第一〇一號ノニ稟請山梨縣甲府市條例水道給水ニ關スル件左ノ通更正許可ス

大正元年九月十二日

一 條例案第十四條ヲ左ノ如ク更ム

第十四條 給水設備ヲ要スルトキハ家主ヨリ請求スヘシ

内務省梨地第六十四號

大正三年五月四日水發第五五號ノ一稟請山梨縣甲府市條例水道給水條例改正ノ件左ノ通更正許可ス

大正三年八月十三日

第二章 水道經營

内務大臣 原 敬  
大藏大臣 山 本 達 雄



第五十二條第一項ヲ左ノ通更ム

臨時用給水ノ設備ニ要スル材料ノ貸與ヲ受ケントスルモノアルトキハ市長ハ一日ニ付其材料原價ノ百分ノ五以内ノ範圍ニ於テ使用料ヲ定メ之ヲ徴收ス

第五十四條中之ニ相當スル「辨償金」ヲ「賠償金」ニ更ム

第五十五條ヲ削除シ第五十六條トシ以下順次繰上ゲ

内務省梨地第十八號

大正五年二月五日水發第一三號稟請山梨縣甲府市條例水道給水條例中改正ノ件許可ス

大正五年四月廿日

内務大臣 法學博士 一木喜徳郎  
大藏大臣 武富時敏

内務省梨地第二一號

山梨縣甲府市

大正八年十二月廿二日水發第一六一號稟請水道給水ニ關スル條例中改正條例ノ件左通更正シ許可ス

大正九年三月廿六日

内務大臣 床次竹二郎  
大藏大臣 男爵 高橋是清

記

一、第五十五條ノ改正文中「現行第三十二條」ヲ「第三十四條」ニ定ム

二、第三十四條ノ改正文中「現行第五十一條」ヲ「第五十二條」ニ更ム

三、第三十九條ノ改正文中「但書ヲ左通改ム」ヲ「中第三十四條第三十六條、第三十七條ヲ第三十六條乃至第三十八條ニ但書ヲ左ノ通改ム」ニ更ム

四、第四十七條ノ改正文中「現行第四十二條、第四十五條、第四十六條」ヲ「第四十三條、第四十六條、第四十七條」ニ更ム

五、第五十四條ノ改正文中又ハ前條ノ下ニ「第一項第二號乃至第七號」ヲ加フ

内務省梨地第四十九號

山梨縣甲府市

大正十年四月二日水發第六條三號稟請水道給水ニ關スル條例中改正條例ノ件許可ス

大正十年六月六日

内務大臣 床次竹二郎  
大藏大臣 男爵 高橋是清

以上數次ノ改正を爲したるも更に大正十三年三月、震災復舊の爲借入れた公債償還財源に充當する目的を以て、給水條例を改正し使用料の増徴を圖り、又公債償還後は水道擴張費財源に資する事とし、同八月二十五日許可を経て改正條例を實施した。

續て大正十五年十一月米突法の實施に伴ひ、從來の尺貫法による給水條例改正の必要が起つたので、其の改正條例の成案に着手したが、之の改正を機會に給水方法の根本的改善を圖り、從來の八十石を最低限度とする一種の定額給水に等しき給水方法では、未だ水量濫費匡正の實を擧げ得られないので完全なる計量給水に統一して實使用量に從ひ



使用料を徴収すると共に、基本料金制を採用すべく改正條例の成案を急いだ。  
據つて昭和二年一月二十六日の市會に

第一案 基本料一ヶ月金六十錢、水料一立方米金六錢

第二案 基本料一ヶ月金五十錢、水料一立方米金七錢

の二案を提案した。市會は委員會設置等により慎重審議を重ねた結果、現在の水道總收入を超えない範圍に於いて、基本料一ヶ月金五十五錢、水料一立方米金六錢五厘に修正議決したので、同四月二十二日許可の手續を執り、七月二十三日改正條例は許可されたるを以て、同施行細則をも改正して八月一日より實施して現在に及んで居る次第である。

内務省梨地第七五號

山梨縣 甲府市

大正十三年四月二十二日付親發第二〇號稟請水道給水ニ關スル條例中改正條例ノ件許可ス

大正十三年八月廿五日

内務大臣 若槻禮次郎

大藏大臣 濱口雄幸

内務省梨地第五二號

山梨縣 甲府市

昭和二年四月二十八日水發第三〇號稟請水道給水ニ關スル條例改正條例ノ件左ノ通り更生許可ス

昭和二年七月二十三日

内務大臣 鈴木喜三郎  
大藏大臣 三土忠造

記

一、第四條第一項但書及第三項ヲ削除ス

一、第六條中「寄附」ヲ「負擔」ニ更ム

一、第十五條中「請求ヲ爲シタル後」ヲ「設計ヲ爲シタル後」ニ更ム

一、第十六條第一項中「豫算」ヲ「概算」ニ更メ「第四條第一項但書ノ場合ハ此限リニ在ラズ」ヲ削除ス

一、第十七條中「此ノ場合ニ於テハ既納ノ工費ハ還付セズ」ヲ「此ノ場合ニ於テ既納工費ガ材料價格ノ減損並撤去費用ノ合計額ニ過不足アル時ハ還付又ハ追徴ス」ニ更ム

一、第五十四條中「過料ヲ科シ」以下ヲ「過料ヲ科スル外逋脱ニ係ル使用量ヲ徴收ス」ニ改ム

一、第五十八條ヲ削除ス

一、附則第一條ヲ「本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス」ニ更ム

甲府市水道給水條例(昭和二年七月二十七日告示第八十六號)

第一章 總則

第一條 給水ハ特ニ指定シタルモノノ外總テ計量法ニ依ル

第二條 給水ノ設備ヲ分チテ左ノ三種トス

一、專用栓 一戸又ハ一箇所ノ専用ニ供スルモノ

二、私設共用栓 數戸共同シテ使用スルモノ

三、公設共用栓 市ニ於テ設置シ専用栓ヲ備フル能ハサルモノ

ノニ使用セシムルモノ

第三條 給水ノ種類ヲ分チテ左ノ五種トス

一、家事用 飲料爨炊、洗濯、沐浴ノ類總テ家事用ニ供スルモノ

二、營業用 各種ノ營業及職業用ニ供スルモノ

三、庭園用 噴水、瀧、池水、其ノ他娛樂用ニ供スルモノ

四、防火用 火災消防用ニ供スルモノ

第二章 水道經營



五、臨時 用 建築工事、興業其ノ他一時的ノ使用ニ供スルモノ

給水ノ種類ニ疑アルモノハ市長之ヲ認定ス

第四條 給水設備ヲ要スルトキハ家主ヨリ請求スヘシ

前項家主ノ設備シタル給水装置ハ家屋ノ所有權移轉ト共ニ其ノ旨市長ニ届出ヘシ但シ給水装置ハ家屋ト分離シテ權利ヲ移轉スルコトヲ得ス

多量ノ水ヲ使用スヘキ新設工場ノ給水設備ハ豫メ市長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス市長ハ其ノ使用量ニ制限ヲ加ヘテ許可シ又ハ拒絕スルコトヲ得既設工場ニ於テ増設ヲ要スル場合亦同シ

第五條 他人ノ給水管ヨリ分岐給水ヲ求ムル者ハ所有者ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス

前項ノ所有者ニシテ給水管ノ位置變更又ハ撤去ヲ請求スル者アルトキハ市長ニ於テ之ヲ支管所有者ニ通知スルモノトス

前項ノ通知ヲ受ケタル者通知ノ日ヨリ五日以内ニ何等ノ手續ヲ爲ササルトキハ給水ヲ廢止シタルモノト看做ス

第六條 配水管ノ布設ナキ場所又ハ工事支障アリト認メタルトキハ市長ハ給水ノ請求ヲ拒絕スルコトアルヘシ但シ配水管ノ布設ナキ場所ニシテ市長ノ指定スル工費及材料ノ全部ヲ負擔スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條 専用給水設備ニ要スル工費中配水管ヨリ配水管線路側端迄ニ係ル分ハ市ノ負擔トシ爾餘ノ分ハ總テ請求者ノ負擔ト

シ内徑一吋二分ノ一以上ノ給水管等ヲ要スル給水工事ニ在リテハ一件ニ付設計手數料金貳圓トス

前項ノ手數料ハ設計ヲ爲シタル後取消ヲ爲スコトアルモ之ヲ還付セズ給水栓ノ修繕又ハ撤去ヲ要スルモノハ書面ヲ以テ請求スヘシ

第十六條 給水工費ハ總テ請求者ノ負擔トシ概算ニ依リ其ノ金額ヲ豫納セシム但シ新設ノ場合ハ其ノ工費ノ半額ヲ豫納セシメ殘額ハ竣工ノ月ヨリ十箇月以内ニ於テ月割ヲ以テ納付セシムルコトヲ得

官公署及官公立學校病院ニ對シテハ前項豫納ノ例ヲ適用セサルコトヲ得

第十七條 前條月割工費ヲ指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ給水設備ヲ撤去スルコトアルヘシ此場合ニ於テ既納工費カ材料價格ノ減損並撤去費用ノ合計額ニ過不足アルトキハ還付又ハ追徴ス

第十八條 給水工事ハ總テノ材料ヲ市ニ於テ供給シ之ヲ執行ス庭園其ノ他特別ノ裝置ヲ要スルモノハ請求者ヲシテ一部施行セシムルコトアルヘシ

自己ノ材料ヲ提供セムトスル者アルトキハ金貳拾錢以上金參圓以下ノ検査手數料ヲ徴シ検査ノ上許可スルコトアルヘシ

第十九條 給水工事ノ工事施行後精算ノ上其ノ差額ハ追徴又ハ之ヲ還付ス

第二十條 給水設備ハ給水費完納ニ至ル迄市ノ所有トシ請求者

ス

第八條 私費ヲ以テ私設共用栓及私設消火栓ノ設置ヲ請求スル者アルトキハ市長ハ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第九條 給水設備ヲ賣買讓渡セムトスルトキハ當事者連署ヲ以テ市長ニ届出テ承認ヲ受ケヘシ

第十條 天災地變又ハ水道破損其ノ他避クヘカラサル事故若ハ公益上必要ト認メタルトキハ一時給水ヲ止メ又ハ給水ノ時間及水量ヲ制限スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ市ハ其ノ損害賠償ノ責ニ任セス

第十一條 道路ノ變更其ノ他ノ事由ニ依リ水管ノ移轉ヲ要スルトキ之ニ伴フ給水工事ハ所有者ノ請求ヲ待タズシテ市ニ於テ之ヲ執行シ其ノ工費ハ別段ノ規定又ハ特約アル場合ヲ除ク外水管移轉ノ必要ヲ生セシメタルモノノ負擔トス

但シ給水管ニ剩餘ヲ生シタルトキハ之ヲ所有者ニ還付ス

第十二條 給水ハ總テ第三條所定以外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十三條 給水使用者ハ給水ヲ濫用シ又ハ他人ニ分與若ハ販賣スルコトヲ得ス

第十四條 給水使用者ハ市長ニ於テ定メタル標識ヲ其ノ門戸ニ掲ケヘシ

第二章 給水設備

第十五條 給水栓ノ新設、變更、増設等ヲ要スル者ハ書面ヲ以テ請求ト同時ニ一件ニ付設計手數料金五拾錢ヲ納付スヘシ但

ヲシテ管理セシムルモノトス

第二十一條 専用給水使用者ニ於テ水槽其ノ他流末裝置ヲ爲サムトスルトキハ略圖及仕様書ヲ添ヘ市長ノ承認ヲ受ケヘシ其ノ増設、變更、修繕ノ場合亦同シ但シ給水栓ノ飛沫ヲ防止セムカ爲三尺以内ノゴム管ヲ取付クルハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 給水開始ノ日ヨリ六十日以内ニ給水設備ノ破損シタルモノノ修繕ハ市ニ於テ其ノ責ニ任ス但シ故意若ハ過失ニ依リ破損セシメタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 既設ノ給水栓ニシテ設置場所不適當ナリト認ムルトキハ位置變更ヲ命スルコトアルヘシ

前項位置變更ニ要スル費用並給水工事施行ノ結果工作物ノ復舊ニ要スル費用ハ給水設備所有者ノ負擔トス

第二十四條 給水設備ノ撤去ヲ請求スル者アルトキハ其ノ負擔ニ係ル給水器具及給水管ハ本人ニ還付ス但シ之ニ要スル費用ハ請求者ノ負擔トス

三箇月以上故ナク給水ヲ使用セス又ハ給水設備所在不明ナル場合ハ其ノ給水管ヲ切斷スルコトアルヘシ

第二十五條 給水設備ニ關スル工事ノ爲工作物其ノ他ニ損傷ヲ及ホスコトアルモ市ハ其ノ責ニ任セス

給水設備ノ破損漏水ニ因ル直接間接ノ損害ニ付テモ亦同シ

第三章 給 水

第二十六條 給水ハ開栓通知ノ日ヲ以テ始マリ閉栓通知ノ日ヲ以テ終ルモノトス



第二十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ書面ヲ以テ請求ス  
 一、一時閉栓ヲ要スルトキ  
 二、閉栓中ノモノ再ヒ開栓ヲ要スルトキ  
 三、給水使用ノ目的ヲ變更スヘキ事由ヲ生シタルトキ  
 第二十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ共用栓ノ給水使用者  
 タルコトヲ得ス  
 一、所得稅ヲ納ムル者及其ノ他ノ直接國稅年額拾圓以上ヲ納  
 ムル者但シ納稅額ハ家計ヲ共ニスル同居者ノ分ヲ合算ス第二  
 號ノ場合亦之ニ準ス  
 二、一ヶ月平均七拾圓以上ノ收入アル者  
 三、延坪拾參坪以上ノ家屋ニ居住スル者  
 第二十九條 前條ニ該當スル者ニシテ相當ノ給水ニ據リ難キ事  
 情アル者ハ共用栓ノ使用ヲ許可スルコトアルヘシ  
 第三十條 共用栓ノ給水ヲ受ケムトスル者ハ組合ヲ設ケ總代人  
 ヲ選ヒ連署ノ上請求スヘシ  
 前項總代人ハ市長ニ届出テ其ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス  
 總代人變更ノトキハ組合員及新舊總代人連署ノ上届出ツヘシ  
 市長ニ於テ必要アリト認メタルトキハ總代人ヲ改選セシメ又  
 ハ特ニ指定スルコトアルヘシ  
 新ニ組合ニ加入セムトスル者ハ總代人連署ヲ以テ請求スヘシ  
 第三十一條 私設共用給水組合ニ在リテハ其ノ給水設備所有者  
 自ラ其ノ總代人トナルヘシ

前項總代人ニシテ代理人ヲ設ケ又ハ之ヲ變更セムトスルトキ  
 ハ其ノ旨市長ニ届出ヘシ  
 第三十二條 總代人ハ其ノ組合ノ給水使用料ヲ取纏メ納付期限  
 迄ニ納付スヘシ總代人ハ共用栓使用ニ關スル一切ノ事項ヲ處  
 辨スヘシ  
 公設共用給水組合總代人ニ於テ給水使用料ヲ取立ツルニ當リ  
 出金セサル者アルトキハ其ノ金額氏名ヲ納付期限迄ニ市長ニ  
 届出ツヘシ  
 私設共用給水組合總代人ハ組合員ノ給水使用料納付ニ付其ノ  
 責ヲ負フモノトス  
 第三十三條 共用栓使用者ニハ鍵及鑑札ヲ貸與ス但シ鍵ヲ亡失  
 毀損シタルトキハ賠償金參拾錢鑑札ヲ亡失シタルトキハ手數  
 料金五錢ヲ納付スヘシ  
 亡失シタル鍵及鑑札ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ返納スヘシ  
 此場合ニ於テハ既納ノ賠償金及手數料ハ之ヲ還付ス  
 第三十四條 共用栓ノ使用ヲ廢止セムトスルトキハ貸與ノ鍵鑑  
 札ヲ添ヘ總代人連署ヲ以テ届出ヘシ  
 第三十五條 給水使用者ハ氏名又ハ算定標準ニ異動ヲ生シタル  
 トキハ直ニ市長ニ届出ヘシ但シ共用給水組合員ニ在リテハ其  
 ノ總代人ノ連署ヲ要ス  
 第三十六條 量水器ハ無料ニテ貸與シ給水使用者又ハ給水設備  
 所有者若クハ管理人ヲシテ保管ノ責ニ任セシムルモノトス  
 第三十七條 量水器ハ毎月末若ハ必要ニ應ジ隨時之ヲ點檢シ其

ノ使用水量ヲ記載シテ之ヲ使用者ニ交付シ若シ點檢ノ際量水  
 器ニ異狀アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ改良ヲ終ル迄ノ使  
 用水量ハ前回ノ使用高ニ依リ日割ヲ以テ計算ス但シ前回ノ使  
 用高ニ據リ難キモノハ市長ノ認定ニ依リ計算スルモノトス  
 第三十八條 使用者ニ於テ量水器ノ試驗ヲ求ムルトキハ使用者  
 立會ノ上之ヲ行ヒ其ノ結果百分ノ五以上ノ差違アルトキハ水  
 量ヲ訂正シ百分ノ五未滿ノ差違ハ之ヲ訂正セサルモノトス  
 前項試驗ノ結果其ノ差違百分ノ五未滿ナルトキハ金五拾錢以  
 上金貳圓以下ノ試驗手數料ヲ徵收ス

第四章 給水使用料

第三十九條

專用給水使用料左ノ如シ

基本料金 總テ一戸一箇月金五拾五錢

水 料

- 一、家事營業用 百立方メートル迄一立方メートルニ付金六錢五厘、以上ノ分一立方メートルニ付金五錢五厘
- 二、製糸業釀造業用 百立方メートル迄一立方メートルニ付金六錢五厘、以上ノ分一立方メートル迄一立方メートルニ付金五錢、以上ノ分一立方メートルニ付金四錢五厘
- 三、湯屋營業用 二十立方メートル迄一立方メートルニ付金六錢五厘、以上ノ分一立方メートルニ付金參錢五厘
- 四、鐵道省用 一立方メートルニ付金六錢
- 五、陸軍々々用 一立方メートルニ付金五錢
- 六、庭園用 一立方メートルニ付金參拾錢

第二章 水道 經營

七、自動車洗滌用 一立方メートルニ付金拾參錢  
 八、臨時用 一立方メートルニ付金貳拾錢  
 共用給水使用料左ノ如シ

一、私設共用給水

基本料金

一戸一箇月金拾貳錢

水 料

一立方メートルニ付金六錢五厘

水 料

一立方メートルニ付金六錢五厘

三、第二十九條ニ依ル共用給水

基本料金

一戸一箇月金四拾錢

水 料

一立方メートルニ付金六錢五厘

一立方メートル以上ノ使用水量ニ付一立方メートル未滿ノ端  
 數ヲ生シタルトキハ其端數ハ次期又ハ翌月ニ繰越計算ス全使  
 用水量ニシテ一立方メートルニ滿タサルトキハ之ヲ一立方メ  
 ートルトシテ計算ス  
 第四十條 市外給水ニ係ルモノノ水料ハ第三十九條所定料金ノ  
 五割増トス但シ陸軍々々用ハ此ノ限ニ在ラス  
 第四十一條 基本料金ハ開栓中使用水量ノ有無ニ拘ラス一戸毎  
 ニ之ヲ徵收ス  
 給水使用料ハ一戸又ハ一箇所内ニ二箇以上ノ量水器ヲ裝置シ  
 タルトキハ各量水器毎ニ之ヲ徵收ス  
 第四十二條 一箇ノ量水器ニ依リ二戸以上ニ給水シタル使用水  
 量ハ各戸均等ニ使用シタルモノト看做ス



第四十三條 一箇ノ量水器ヨリ使用料ノ異ナル二種以上ノ用途ニ使用シタルモノノ使用量ノ區分ハ市長之ヲ認定ス

第四十四條 防火用給水ハ無料トス但シ私設消火栓ヲ演習用ノ爲許可ヲ經テ使用セシムルトキハ一栓一回貳拾分時ヲ限トシ

金壹圓ヲ徵收シ室内消火栓ノ使用ハ其ノ半額トス

第四十五條 給水使用者ハ市長ノ指定スル水料ノ見積料金を納付スヘシ但シ官公署及官公立學校病院ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ見積料金を使用ヲ廢止シタルトキ之ヲ還付ス

第四十六條 給水使用料ハ左ノ六期ニ分チテ之ヲ徵收ス

第一期 自三月 至四月 第二期 自五月 至六月

第三期 自七月 至八月 第四期 自九月 至十月

第五期 自十一月 至十二月 第六期 自一月 至二月

使用水量ノ多量ナルモノ及共用給水ニ屬スルモノノ使用料ハ一箇月毎ニ之ヲ徵收スルコトアルヘシ

臨時給水スルモノ及月ノ中途ニ於テ廢止ニ係ル給水使用料ハ隨時之ヲ徵收ス

第四十七條 給水使用料ハ毎月末ニ於テ計量シタル使用水量ニ依リ次期ノ初月二十五日限毎月徵收スルモノニ在リテハ翌月二十五日限之ヲ徵收ス

第四十八條 給水開始、廢止若ハ停止ノ場合ニ於ケレ給水使用料ハ左ノ區分ニヨリ之ヲ徵收ス

一、基本料金を開始ノ場合其ノ十五日以前ナルトキハ全額ヲ其ノ十六日以後ナルトキハ半額ヲ廢止若ハ停止ノ場合ハ其ノ十五日以前ナルトキハ半額ヲ其ノ十六日以後ナルトキハ全額

二、水料ハ専用栓ニ在リテハ量水器點檢ノ上之ヲ徵收シ共用栓ニ在リテハ前項ノ例ニ據ル

第四十九條 月ノ中途ニ於テ轉栓シタル場合ニ於ケル給水使用料ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ徵收ス

一、基本料金を其ノ十五日以前ナルトキハ前栓ニ於テ上半月分ヲ後栓ニ於テ下半月分ヲ其ノ十六日以後ナルトキハ前栓ニ於テ全月分

二、水料ハ専用栓ニ於テハ量水器點檢ノ上之ヲ徵收シ共用栓ニ於テハ轉入ノ場合其ノ十五日以前ナルトキハ下半月分ヲ其ノ十六日以後ナルトキハ之ヲ徵收セス轉出ノ場合ハ其ノ十五日以前ナルトキハ上半月分ヲ其ノ十六日以後ナルトキハ全月分

第五十條 給水使用料納入後其ノ料金を異動ヲ生シタルトキハ次期徵收ノ給水使用料ニ於テ之ヲ増減ス

第五十一條 臨時用給水ノ設備ニ要スル材料ノ貸與ヲ受ケムトスル者アルトキハ一日ニ付其ノ材料原價ノ百分ノ五以内ノ範圍ニ於テ使用料ヲ定メ之ヲ徵收ス

臨時用給水使用料工費及材料使用料等ハ官公署及官公立學校病院ヲ除ク外總テ豫納スルコトヲ要ス但シ豫納金ハ使用完了後精算ノ上其ノ差額ハ追徵又ハ之ヲ還付ス

第五十二條 公益若ハ慈善事業又ハ貧困者ト認ムル者ニ對シテハ給水料ヲ減免スルコトアルベシ但シ市長ニ認メタルトキハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第五章 違背者處分

第五十三條 給水使用者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ給水ヲ停止シ若ハ給水管ヲ切斷シ共用栓使用者ニ在リテハ鍵及鑑札ヲ返納セシメ仍ホ六箇月以内ノ期間水料ノ三倍迄ヲ徵收スルコトアルヘシ

一、給水工費、給水使用料其ノ他給水ニ關スル諸料金を又ハ賠償金等ヲ指定期限内ニ完納セサルトキ

二、共用栓下ニ於テ洗物ヲ爲シ其ノ他給水ヲ濫用シ又ハ第三條ニ定メタル種類以外ニ使用シ若ハ他人ニ分與販賣シタルトキ

三、給水設備ヲ恣ニ修繕改造増設變更シ又ハ市長ノ承認ヲ受ケスシテ水槽其ノ他流末裝置ヲ爲シタルトキ

四、量水器ノ指針部ヲ開キ止水栓ヲ開閉シ又ハ給水栓ノ封印若ハ防火用ノ爲ニアラスシテ私設消火栓ノ封印ヲ破リタルトキ

五、鍵ヲ栓柱ニ放置シ又ハ貸借シ若ハ不正ノ手段ニヨリ給水シタルトキ

六、水料算定ノ標準トナルヘキ要件ヲ詐リ又ハ本條例ニ定メタル届出ノ手續ヲ爲ササルトキ

七、給水ニ關シ吏員ノ邸宅内ニ立入ル際正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ミ又ハ職務ノ執行ヲ妨ケタルトキ

本條ノ處分ヲ受ケヘキモノニ對シ市長ハ情狀ニ依リ其ノ處分ヲ輕減シ又ハ免除スルコトアルヘシ第五十四條及第五十五條ノ場合亦同シ

第五十四條 正當ノ手續ニ依ラスシテ恣ニ給水ヲ使用シ又ハ前條第一項第二號乃至第七號ニ該當スル行爲アリタルモノハ金五圓以下ノ過料ヲ科スルノ外通脫ニ係ル使用料ヲ徵收ス

第五十五條 共用給水組合總代人又ハ代理人ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ金五圓以下ノ過料ヲ科シ且ツ總代人ノ改選若ハ代理人ノ變更ヲ命シ又ハ特ニ總代人ヲ指定スルコトアルヘシ此場合組合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ之ニ應セサルトキハ其ノ組合ノ給水ヲ停止ス

一、組合ノ戶數人口ヲ隱蔽シタルトキ

二、組合ニ加入セムトスル者ヲ正當ノ理由ナクシテ拒絕シタルトキ

三、本條例規定外ノ料金を取立タルトキ

四、組合員ヨリ取立タル給水使用料ノ納付ヲ怠リタルトキ

五、組合外ノ者ニ給水ヲ容認シ又ハ吏員ヨリ特ニ指示若ハ注意シタル事項ヲ遵守セサルトキ

第五十六條 共用栓使用者ニシテ給水使用ニ關シ吏員又ハ總代人ヨリ與タル制止若ハ注意ヲ守ラサルトキハ貸與ノ鍵及鑑札ヲ返納セシムルコトアルヘシ



第五十七條 給水使用者ハ家族、雇人、又ハ同居者ノ行爲ニ關シ其ノ責ニ任スルモノトス

第六章 附 則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正三年八月甲府市告示第三十一號甲府市水道條例ハ本條例施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

本條例施行ノ際現ニ放任給水使用者ニ對シテハ量水器設置ニ至ルマテ猶從前ノ水道給水條例ヲ準用ス  
本條例ニ依スル細則ハ市長之ヲ定ム

甲府市水道給水條例施行細則

第一條 本則ニ於テ條例ト稱スルハ昭和二年七月告示第八十六號甲府市水道給水條例ヲ謂フ

第二條 條例ノ施行ニ關シ給水ニ必要ナル事項及手續ハ本則ノ定ムル所ニ據ル

第三條 給水設備請求者ニ於テ給水工費概算金ノ納期日後三日ヲ過グルモ納付セサルトキハ其ノ請求ヲ取消シタルモノト看做ス

第四條 共用給水ノ組合ハ一給水栓ノ使用者ヲ以シテ第何號共用給水組合ト稱ス

第五條 給水使用者ハ標識(第一號様式甲)ヲ門戸ニ掲出スヘシ  
共用給水使用者ニハ共用給水鑑札(第一號様式乙)ヲ貸與ス

第六條 給水栓ノ新設ヲ要スル者ハ給水設備請求書(第二號様式甲)ヲ増設、變更ヲ請求セムトスル者ハ增設、變更請求書(第二號様式乙)ヲ市長ニ提出スヘシ但シ専用栓ハ家屋内ニ限ル既設ノ専用給水栓ニシテ設置場所不適當ト認ムルトキハ位置替ヲ命スルコトアルヘシ

第七條 給水設備許可申請書(第三號様式甲)ヲ市長ニ提出スヘシ  
市長ニ於テ前項ノ許可ヲ與ヘタルトキハ指令書(第三號様式乙)ヲ交付スルモノトス

第八條 給水設備ノ許可ヲ受ケタルトキハ私設共用給水組合ヲ設ケ總代人ヲ選ヒ市長ノ承認ヲ受クヘシ  
私設共用給水組合總代人ハ給水使用料及使用上ノ義務ニ關シ誓約書(第四號様式丙)ヲ市長ニ提出スヘシ

第九條 給水設備ノ買渡ヲ爲サムトスル者ハ給水用具買渡承認請求書(第六號様式甲)ヲ當事者連署ノ上市長ニ届出テ承認ヲ受クヘシ但シ所有權ノ取得ヲ證スル書類ヲ提示スルトキハ舊所有者ノ連署ヲ要セス市長ニ於テ前項ノ承認ヲ與ヘタルトキハ指令書(第六號様式乙)ヲ交付スルモノトス給水設備所有者隱居又ハ死亡シ之カ權利ヲ繼承セムトスル者ハ給水用具相續届(第六號様式丙)ヲ市長ニ提出スヘシ

第十條 給水設備ノ請求ヲ承認シタルトキハ給水工費概算書(第七號様式)ニ豫納金納入告示書ヲ添付シ請求者ニ交付ス  
請求者ニ於テ前項給水工費概算書ノ交付ヲ受ケタルトキハ該書ノ末尾ニ署名捺印ノ上市長ニ返付スヘシ

第十一條 給水栓ノ修繕ヲ請求セムトスル者ハ給水栓修繕請求書(第八號様式)ヲ市長ニ提出スヘシ但シ修繕ノ請求ニ就キテハ口頭ヲ以テ爲スコトヲ得

第十二條 條例第十八條第二項ニ依リ自己ノ材料ヲ提供セムトスル者ハ自己ノ材料使用許可請求書(第九號様式甲)ヲ市長ニ提出シ許可ヲ受クヘシ  
市長ニ於テ前項ノ許可ヲ與ヘタルトキハ指令書(第九號様式乙)ヲ交付スルモノトス

第十三條 給水設備ノ材料検査手数料左ノ如シ  
一、水栓類 一ケニ付金貳拾錢  
二、鉛 管 一條長二十米迄 一條ニ付金五拾錢  
以上三米又ハ其端數毎ニ金拾錢

第十四條 水槽其他流末裝置ヲ爲サムトスル者ハ流末裝置承認請求書(第十一號様式甲)ヲ市長ニ提出シ承認ヲ受クヘシ  
市長ニ於テ前項ノ承認ヲ與ヘタルトキハ指令書(第十一號様式乙)ヲ交付スルモノトス

第十五條 給水栓ノ開閉ヲ請求セムトスル者ハ給水開閉請求書(第十二號様式甲)ヲ給水使用ノ目的變更ヲ請求セムトスル者ハ給水種別變更請求書(第十二號様式乙)ヲ市長ニ提出スヘシ

第十六條 給水栓ノ新設ヲ要スル者ハ給水設備請求書(第二號様式甲)ヲ増設、變更ヲ請求セムトスル者ハ增設、變更請求書(第二號様式乙)ヲ市長ニ提出スヘシ但シ専用栓ハ家屋内ニ限ル既設ノ専用給水栓ニシテ設置場所不適當ト認ムルトキハ位置替ヲ命スルコトアルヘシ

第十七條 給水設備ノ許可ヲ受ケタルトキハ私設共用給水組合ヲ設ケ總代人ヲ選ヒ市長ノ承認ヲ受クヘシ  
私設共用給水組合總代人ハ給水使用料及使用上ノ義務ニ關シ誓約書(第四號様式丙)ヲ市長ニ提出スヘシ

第十八條 給水設備ノ買渡ヲ爲サムトスル者ハ給水用具買渡承認請求書(第六號様式甲)ヲ當事者連署ノ上市長ニ届出テ承認ヲ受クヘシ但シ所有權ノ取得ヲ證スル書類ヲ提示スルトキハ舊所有者ノ連署ヲ要セス市長ニ於テ前項ノ承認ヲ與ヘタルトキハ指令書(第六號様式乙)ヲ交付スルモノトス給水設備所有者隱居又ハ死亡シ之カ權利ヲ繼承セムトスル者ハ給水用具相續届(第六號様式丙)ヲ市長ニ提出スヘシ

第十九條 給水設備ノ請求ヲ承認シタルトキハ給水工費概算書(第七號様式)ニ豫納金納入告示書ヲ添付シ請求者ニ交付ス  
請求者ニ於テ前項給水工費概算書ノ交付ヲ受ケタルトキハ該書ノ末尾ニ署名捺印ノ上市長ニ返付スヘシ

第二十條 給水栓ノ修繕ヲ請求セムトスル者ハ給水栓修繕請求書(第八號様式)ヲ市長ニ提出スヘシ但シ修繕ノ請求ニ就キテハ口頭ヲ以テ爲スコトヲ得

第二十一條 給水設備ノ材料検査手数料左ノ如シ  
一、水栓類 一ケニ付金貳拾錢  
二、鉛 管 一條長二十米迄 一條ニ付金五拾錢  
以上三米又ハ其端數毎ニ金拾錢

第二章 水道經營

第三十二條 水槽其他流末裝置ヲ爲サムトスル者ハ流末裝置承認請求書(第十一號様式甲)ヲ市長ニ提出シ承認ヲ受クヘシ  
市長ニ於テ前項ノ承認ヲ與ヘタルトキハ指令書(第十一號様式乙)ヲ交付スルモノトス

第三十三條 給水栓ノ開閉ヲ請求セムトスル者ハ給水開閉請求書(第十二號様式甲)ヲ給水使用ノ目的變更ヲ請求セムトスル者ハ給水種別變更請求書(第十二號様式乙)ヲ市長ニ提出スヘシ

第三十四條 給水栓ノ新設ヲ要スル者ハ給水設備請求書(第二號様式甲)ヲ増設、變更ヲ請求セムトスル者ハ增設、變更請求書(第二號様式乙)ヲ市長ニ提出スヘシ但シ専用栓ハ家屋内ニ限ル既設ノ専用給水栓ニシテ設置場所不適當ト認ムルトキハ位置替ヲ命スルコトアルヘシ

第三十五條 給水設備ノ許可ヲ受ケタルトキハ私設共用給水組合ヲ設ケ總代人ヲ選ヒ市長ノ承認ヲ受クヘシ  
私設共用給水組合總代人ハ給水使用料及使用上ノ義務ニ關シ誓約書(第四號様式丙)ヲ市長ニ提出スヘシ

第三十六條 給水設備ノ買渡ヲ爲サムトスル者ハ給水用具買渡承認請求書(第六號様式甲)ヲ當事者連署ノ上市長ニ届出テ承認ヲ受クヘシ但シ所有權ノ取得ヲ證スル書類ヲ提示スルトキハ舊所有者ノ連署ヲ要セス市長ニ於テ前項ノ承認ヲ與ヘタルトキハ指令書(第六號様式乙)ヲ交付スルモノトス給水設備所有者隱居又ハ死亡シ之カ權利ヲ繼承セムトスル者ハ給水用具相續届(第六號様式丙)ヲ市長ニ提出スヘシ

第三十七條 給水設備ノ請求ヲ承認シタルトキハ給水工費概算書(第七號様式)ニ豫納金納入告示書ヲ添付シ請求者ニ交付ス  
請求者ニ於テ前項給水工費概算書ノ交付ヲ受ケタルトキハ該書ノ末尾ニ署名捺印ノ上市長ニ返付スヘシ

第三十八條 給水栓ノ修繕ヲ請求セムトスル者ハ給水栓修繕請求書(第八號様式)ヲ市長ニ提出スヘシ但シ修繕ノ請求ニ就キテハ口頭ヲ以テ爲スコトヲ得



第十六條 給水使用者閉栓ヲ請求セスシテ退轉シタルトキハ市長ニ於テ閉栓シ給水閉栓通知書(第十三號様式)ニ依リ其旨給水設備所有者ニ通知ス

第十七條 條例第二十九條ニ依リ共用栓ノ使用許可ヲ受ケムトスル者ハ特別共用栓使用許可請求書(第十四號様式甲)ヲ市長ニ提出スヘシ

市長ニ於テ前項ノ許可ヲ與ヘタルトキハ指令書(第十四號様式乙)ヲ交付スルモノトス

第十八條 給水組合ヲ設ケ總代人ヲ選定シタルトキハ共用給水組合設定及總代人選定承認請求書(第十五號様式甲)ヲ市長ニ提出スヘシ

市長ニ於テ前項ノ承認ヲ與ヘタルトキハ指令書(第十五號様式乙)ヲ交付スルモノトス

總代人ヲ變更シタルトキハ共用給水組合總代人變更届(第十五號様式丙)ヲ市長ニ提出スヘシ

第十九條 新ニ組合ニ加入セムトスル者ハ共用給水組合加入請求書(第十六號様式甲)ヲ組合員ノ氏名其ノ他ニ異動ヲ生シタルトキハ異動届(第十六號様式乙)ヲ市長ニ提出スヘシ

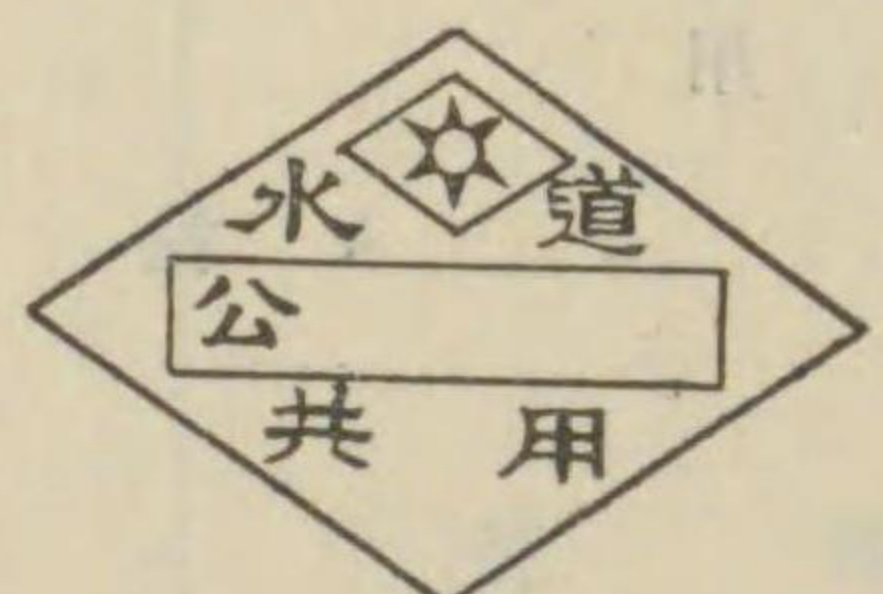
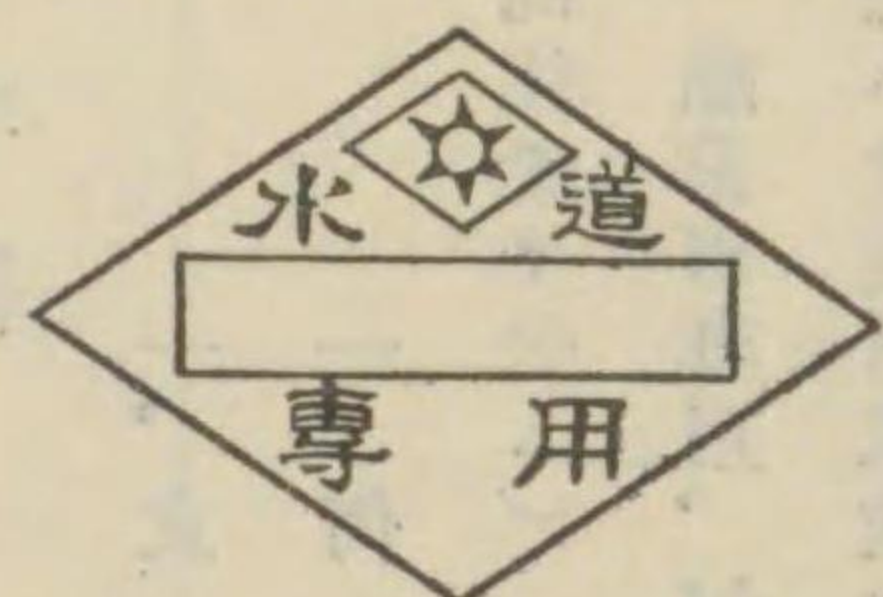
第二十條 條例第三十二條第二項ニ依リ届出ヲ爲サムトスルトキハ共用給水料滯納者届(第十七號様式甲)ヲ市長ニ提出スヘシ

共用給水組合員所在不明トナリタルトキハ總代人ヨリ無斷退出届(第十七號様式乙)ヲ市長ニ提出スベシ

第一號様式甲

一 給水使用者ノ門戸ニ掲グル標識雛形  
菱形徑三寸龜甲ハ此寸法ニ適應スル事

|    |    |
|----|----|
| 地  | 青色 |
| 龜甲 | 白色 |
| 紋章 | 白色 |
| 文字 | 白色 |
| 番號 | 黑色 |



私設ハ私ヲ冠ス

(第一號様式乙)

一、共用給水鑑札雛形

二寸五分

表  
第何號給水栓ノ「二」  
用共給水鑑札

分三寸一

ム

附 則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
大正九年三月告示第二十二號甲府市水道給水條例施行細則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第二十一條 共用栓使用者ニシテ貸與ノ鍵ヲ亡失毀損シタルトキハ共用栓鍵再貸附請求書(第十八號様式甲)ヲ鑑札ヲ亡失シタルトキハ共用栓鑑札再貸附請求書(第十八號様式乙)ヲ市長ニ提出スヘシ

亡失シタル鍵及鑑札ヲ發見シタルトキハ共用栓鍵 返納書(第十八號様式丙) 鍵、鑑札添付市長ニ返納スヘシ

第二十二條 共用栓ノ使用ヲ廢止セムトスルトキハ共用給水組合退出届(第十九號様式甲)ヲ轉居ノ場合ハ共用給水組合轉居届(第十九號様式乙)ヲ市長ニ提出スヘシ

第二十三條 條例第三十六條ニ依リ量水器ノ貸與ヲ受ケタルトキハ量水器保管證(第二十號様式)ヲ市長ニ提出スヘシ

第二十四條 條例第三十七條ニ依リ量水器ヲ點檢シタルトキハ量水器點檢表(第二十一號様式)ニ登記シ其ノ使用高ハ納額告知書ニ依リ之ヲ使用者ニ通知ス

第二十五條 量水器試驗ヲ請求セムトスルトキハ量水器試驗請求書(第二十二號様式)ニ依リ市長ニ請求スヘシ

前項量水器試驗手数料左ノ如シ  
一、二〇耗迄 一ケニ付金五拾錢  
二、四〇耗迄 同 金壹圓  
三、四〇耗以上 同 金貳圓

第二十六條 臨時用給水ノ使用ヲ請求セムトスル者又ハ設備ニ要スル材料ノ貸與ヲ受ケムトスル者ハ臨時用給水設備請求書(第二十三號様式)ヲ市長ニ提出スヘシ



裏  
甲府市役所

材料  
木種適宜トス

(第二號様式甲)

給水設備請求書

- 一、設備場所 何町何番地 一、支 栓 何ヶ所
- 一、使用者業務 商工業又ハ職業 一、何 請求上必要ナル事項
- 一、使用者人口 何人(雇人其他同住者ヲ含ム)
- 一、用途 家事用、營業用、慈善事業用、何々用

右新設工事施行相成度設計手数料金何程相添へ此段請求候也

昭和 年 月 日

甲府市 長宛

請求者 何  
甲府市何町何番地

某 印

(第二號様式乙)

變更請求書

- 一、給水栓所在 何町何番地
- 一、種別 何々給水
- 一、使用名義人 何 某
- 一、何々 請求ニ關スル必要事項

右「變更」「増設」工事施行相成度設計手数料金何程相添へ此段請求候也

昭和 年 月 日

甲府市 長宛

請求者 何  
甲府市何町何番地

請求者 何  
甲府市何町何番地

使用者 何

某 印  
某 印

(第三號様式甲)

給水設備許可申請書

- 一、設置場所 何町何番地
- 一、用途 何 業
- 一、從業者員數及釜數 何人 何釜
- 一、汽罐數及容積 何個 何立方米
- 一、一ヶ月給水所要量 何立方米

右給水設備許可相成度別紙仕様書及圖面相添へ申請候也

第二章 水道經營



昭和 年 月 日

甲府市何町何番地

請求者 何

某 印

甲府市長宛

(第三號様式乙)

甲府市指令水第何號

甲府市何町何番地

何

某

昭和 年 月

日付申請給水設備ノ件許可ス但シ左記事項ヲ遵守スヘシ

昭和 年 月 日

甲府市長 印

左記

一、工事設計ハ本市ニ於テ上水配給上相當ト認ムル程度ニ於テ施行ス

一、水槽其ノ他支栓ヲ私設セムトスルトキハ豫メ市長ノ許可ヲ受クヘシ但シ上水配給上支障アリト認ムルトキハ許可ヲ與ヘサルコトアルヘシ

一、一ヶ月ノ使用給水量ヲ何立方メートル定ム

一、盛夏季其ノ他ノ場合ニ於テ一般給水ニ不足ヲ告クルトキハ給水ノ時間又ハ使用給水量ヲ制限スルコトアルヘシ

一、右ノ外甲府市水道給水條例ヲ遵守スヘシ

以上

(第四號様式甲)

私設共用栓 設置許可申請書

私設消火栓

一、設置場所 何町何番地

一、請求者職業氏名 何業 何某

一、使用戸數 何 戸

一、個數 何 ケ

右設置許可相成度申請候也

昭和 年 月 日

甲府市何町何番地

請求者 何

某 印

甲府市長宛

(第四號様式乙)

甲府市指令水第何號

甲府市何町何番地

何

某

昭和 年 月

日付申請私設共用栓設置ノ件許可ス

昭和 年 月 日

甲府市長 印



(第四號様式丙)

誓 約 書

今般何町何番地へ私設共用栓設備御許可相成候ニ就テハ左記件々恪守仕候

- 一、請求者自ラ總代人トナリ給水料ハ總代人ニ於テ引受期日迄ニハ必ス納付スルコト
  - 一、給水ハ組合員ヲシテ亂用セシメサル様注意スルハ勿論聊カタリトモ他人ニ分與セシメサルコト
  - 一、組合区域内ノ居住者ハ必ス加入セシムルコト
  - 一、前三項其他條例違背行爲アリタルトキハ何時全部ノ停水又ハ共用栓ノ許可ヲ取消サル、モ異議ナキコト
- 右誓仍而如件

昭和 年 月 日

甲 府 市 長 宛

甲 府 市 町 番 地  
請 求 者 何

某 印

(第五號様式甲)

私設消火栓演習使用許可請求書

- 一、消火栓所在 何町何番地某所
- 一、使用時間 自 年 月 日何時 至 年 月 日何時 何時間

右演習ノ爲使用致度候間御許可相成度請求候也

昭和 年 月 日

甲 府 市 長 宛

甲 府 市 何 町 何 番 地  
私 設 消 火 栓 所 有 者 何

某 印

(第五號様式乙)

甲 府 市 指 令 水 第 何 號

甲 府 市 何 町 何 番 地

何

某

昭和 年 月 日 申 請 私 設 消 火 栓 演 習 使 用 ノ 件 許 可 ス

昭和 年 月 日

甲 府 市 長 宛

(第六號様式甲)

給水具 賣買 讓渡 承認請求書

- 一、給水栓所在 何町何番地
- 一、種 別 專 第 號

右賣買 讓渡 致候ニ付御承認相成度此段請求候也

昭和 年 月 日

甲 府 市 何 町 何 番 地

賣 渡 人 何

某 印

甲 府 市 何 町 何 番 地

讓 買 受 人 何

某 印

甲 府 市 長 宛

第二章 水道經營











甲府市長宛

甲府市何町何番地  
使用者 何

某

(第九號様式甲)

自己材料使用許可請求書

一、種類 何々  
一、數量 何々又ハ何本

右給水工事用材料トシテ使用致度候間御許可相成度検査手数料相添へ此段請求候也

昭和 年 月 日

甲府市何町何番地

某

甲府市長宛

(第九號様式乙)

甲府市指令水第何號

甲府市何町何番地

某

昭和 年 月 日付申請自己材料使用ノ件許可ス

甲府市長 匳

(第十號様式)

設計第 號

|         |     |       |     |               |     |               |     |       |     |
|---------|-----|-------|-----|---------------|-----|---------------|-----|-------|-----|
| 工 事 場 所 |     | 町 番 地 |     | 給 水 工 費 精 算 書 |     | 請 求 者 住 氏 名 所 |     | 町 番 地 |     |
| 設計昭和    | 年月日 | 着手昭和  | 年月日 | 竣工昭和          | 年月日 | 開始昭和          | 年月日 | 年月日   | 年月日 |
| 一金      | 工   | 精算額   | 一金  | 市費負擔額         | 差引金 | 還追付徵額         | 豫算額 |       |     |
| 外金      | 内   | 課     |     |               |     |               |     |       |     |
| 名 稱     | 寸 法 | 數 量   | 單 位 | 單 價           | 合 價 | 價 稿           | 要   |       |     |
| 鉛 管     |     | 耗     | 米   |               |     |               |     |       |     |
| 敷 砂     |     | 利     |     |               |     |               |     |       |     |
| 人 夫     |     |       | 人   |               |     |               |     |       |     |
| 計       |     |       |     |               |     |               |     |       |     |
| 鉛 管     |     | 耗     | 米   |               |     |               |     |       |     |



| 名 | 稱 | 寸 | 法 | 數 | 量 | 單位 | 單 | 價 | 合 | 價 | 摘 | 要 |
|---|---|---|---|---|---|----|---|---|---|---|---|---|
| 鉛 | 管 |   | 耗 |   |   | 米  |   |   |   |   |   |   |
| 給 | 水 |   | 耗 |   |   | 個  |   |   |   |   |   |   |
| 水 | 栓 |   |   |   |   | 本  |   |   |   |   |   |   |
| 分 | 水 |   | 耗 |   |   | 個  |   |   |   |   |   |   |
| 止 | 水 |   | 耗 |   |   | 個  |   |   |   |   |   |   |
| 同 | 上 |   |   |   |   | 個  |   |   |   |   |   |   |
| 及 | 附 |   |   |   |   | 個  |   |   |   |   |   |   |
| 接 | 合 |   | 耗 |   |   | 個  |   |   |   |   |   |   |
| 接 | 合 |   | 耗 |   |   | 個  |   |   |   |   |   |   |
| 職 | 工 |   |   |   |   | 人  |   |   |   |   |   |   |
| 人 | 夫 |   |   |   |   | 人  |   |   |   |   |   |   |
| 計 | 費 |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |

注意 精算金ヲ納期內ニ納付セサルトキハ給水ヲ停止セラレ若クハ給水用具ヲ撤去セラル、コトアルヘシ

右精算書ヲ交付ス

右精算了承候也

昭和 年 月 日

甲府市役所 印

昭和 年 月 日

甲府市長宛

請求者 何

某 印

(第十一號様式甲)

流末装置承認請求書

一、給水栓所在 何町何番地

一、給水栓番號 專第何號

右装置致度候間承認相成度別紙圖面及仕様書相添へ此段請求候也

昭和 年 月 日

使用者 何

某 印

甲府市長宛

(第十一號様式乙)

甲府市指令水第何號

甲府市何町何番地

何

某

昭和 年 月 日付申請流末装置ノ件承認ス

昭和 年 月 日

甲府市長 印



(第十二號樣式甲)

給水閉栓請求書

一 給水栓番號 第何號 一 給水栓所在地 何町何番地

一 給水種別 家事用營業用何用 一 栓 數 內譯本栓 支栓 ケケ

一 職業 商工業又ハ職名 一人 口 何人

一 牛 馬 何頭 一 浴槽ケ數 何ヶ所

一 開栓ノ時 昭和 年 月 日

一 開栓ノ理由 從前水道關係 閉栓ノ行先

右給水閉栓相成度此段及請求候也

昭和 年 月 日

甲府市何町何番地 水栓所有者 何

甲府市何町何番地 使用者 何

甲府市長宛

(第十二號樣式乙)

給水種別變更請求書

一、給水栓所在及番號 何町何番地第何號

一、變更記事

一、營業開廢業 人口

右種別變更相成度此段及請求候也

昭和 年 月 日

甲府市長宛

甲府市何町何番地 請求者 何

某

(第十三號樣式)

給水閉栓通知書

一、給水栓所在地 何町何番地

一、給水種別 專用栓

一、栓數 何ヶ

一、閉栓月日時 昭和 年 月 日

右通知ス

昭和 年 月 日

何町何番地

給水栓所有者 何

某宛

甲府市長宛